

# Rational™ RequisitePro

## ユーザーズ ガイド

バージョン: 2003.06.10

G126-5389-00

WINDOWS 版



## 法的通知

© 1998-2003, Rational Software Corporation. All rights reserved.

Rational の事前の文書による許可なく本著作物を複製または配布することは固く禁じられています。

バージョン番号: 2003.06.10

Rational、Rational Software Corporation、Rational のロゴ、Rational the e-development company、Rational Developer Network、ClearCase、ClearCase Attache、ClearCase MultiSite、ClearCase Online、ClearDDTS、ClearQuest、DDTS、Object Testing、Object-Oriented Recording、ObjecTime Design のロゴ、Objectory、PerformanceStudio、PureCoverage、PureDDTS、PureLink、Purify、Purify'd、Quantify、Rational Apex、Rational CRC、Rational Rose、Rational Suite、Rational Summit、Rational Visual Test、Requisite、RequisitePro、RUP、SiteCheck、SoDA、TestFactory、TestFoundation、TestMate、AnalystStudio、ClearGuide、ClearTrack、Connexis、e-Development Accelerators、ObjecTime、Rational Process Workbench、Rational Suite ContentStudio、Rational Unified Process、SiteLoad、TestStudio、VADS、Rational XDE は、米国内外における Rational Software Corporation の商標または登録商標です。その他の名前はすべて、識別の目的でのみ使用されているものであり、それぞれの会社の商標または登録商標です。

米国特許番号 5,193,180、5,335,344、5,535,329、5,574,898、5,649,200、5,675,802、5,754,760、5,835,701、6,049,666、6,126,329、6,167,534、6,206,584 の請求の範囲内の部分。このほかにも米国特許及び国際特許申請中。

## 米国政府の権利

米国政府に対して提供されている Rational のソフトウェアは全て、該当する使用許諾契約のもとに、商業的ソフトウェアとして提供され、使用許諾されています。1995 年 12 月 1 日前に発行された申込みの勧誘に基づき米国政府に対して提供されているそれら全てのソフトウェアは、FAR, 48 CFR 52.227-14 (1987 年 6 月) または、場合により、DFARS, 48 CFR 252.227-7013 (1988 年 10 月) に規定されている「制限された権利」とともに提供されています。

## 免責事項

本書および関連ソフトウェアは、ライセンス契約に基づいて使用することができます。そのような使用許諾契約書に別段の明示的な規定がある場合を除き、また、それぞれの国の法律により禁止または制限されている場合を除き Rational Software Corporation は、本メディア、ソフトウェア製品、およびその関連文書について、明示的にも暗黙的にも、商品性に関する保証、非権利侵害性に関する保証、特定目的への適合性に関する保証、取り扱い、使用、または取引行為に伴う保証、およびライセンシーによる静穏無事な製品使用に対する妨害がないことの保証について一切の責任を負いません。

## 第三者の通知、コード、使用許諾および確認

Portions Copyright © 1992-1999, Summit Software Company. All rights reserved.

Microsoft、Microsoft のロゴ、Microsoft Internet Explorer のロゴ、Microsoft Office Compatible のロゴ、Microsoft Press、MS-DOS、MSDN、NetMeeting、NetShow、Office のロゴ、Outlook、SourceSafe、Visual SourceSafe、Windows、Windows CE のロゴ、Windows のロゴ、Windows NT、Windows Start のロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Ultra、AnswerBook 2、medialib、OpenBoot、Solaris、Java、Java 3D、ShowMe TV、SunForum、SunVTS、SunFDDI、StarOffice、および SunPCi は、Sun Microsystems の米国および他の国における商標または登録商標です。

Purify は、Sun Microsystems, Inc. の米国特許番号 5,404,499 の下にライセンス供与されています。

Globetrotter ソフトウェア (FLEXIm ライブラリおよびユーティリティ) の本来の用途は、ソフトウェアライセンス管理であり、他の製品またはアプリケーションにこれらのソフトウェアを組み込むことは、ライセンスに含まれません。

BasicScript は、Summit Software Company の登録商標です。

デザイン パターン : Erich Gamma、Richard Helm、Ralph Johnson および John Vlissides による再使用可能なオブジェクト指向のソフトウェアのエレメント。Copyright © 1995 by Addison-Wesley Publishing Company, Inc. All rights reserved.

追加の法的通知は、お客様の Rational ソフトウェア インストレーションに含まれています。

# 目次

<b>まえがき</b> .....	<b>xv</b>
対象読者 .....	xv
その他の参照先 .....	xvi
参考文献 .....	xvii
Rational RequisitePro のマニュアル構成 .....	xviii
RequisitePro とほかの Rational 製品との統合 .....	xix
Rational カスタマ サポートの連絡先 .....	xx
<b>1 要求管理の概念</b> .....	<b>1</b>
Applying Requirements Management with Use Cases (ユース ケースを使用した要求管理法) .....	1
プロセス重視のソフトウェア/システム開発 .....	1
要求とは .....	2
要求管理の必要性 .....	2
要求管理とは .....	3
要求管理の問題点 .....	3
要求管理に必要なスキル .....	4
要求についての重要な概念 .....	8
要求管理の実際 .....	12
参考文献 .....	13
推奨文献 .....	14
<b>2 Rational RequisitePro の概念</b> .....	<b>15</b>
RequisitePro を使用する理由 .....	15
チームのコラボレーションとユーザーの満足 .....	15
Web コンポーネントの柔軟性 .....	16
変更管理 .....	16
包括的なプロセス サポート .....	17
RequisitePro の主要概念 .....	17
要求 .....	17
要求タイプ .....	17
要求の属性 .....	17
プロジェクト .....	18

プロジェクト データベース .....	18
プロジェクトのバージョン管理 .....	19
プロジェクト リスト .....	19
エクスプローラ .....	19
ビュー .....	21
ドキュメント .....	22
ドキュメント タイプ .....	22
階層関係 .....	23
追跡可能性関係 .....	24
サスペクト関係 .....	25
<b>3 Rational RequisitePro の基本操作 .....</b>	<b>27</b>
RequisitePro の起動 .....	27
RequisitePro での作業 .....	27
プロジェクトとプロジェクト パッケージの操作 .....	28
プロジェクト リストへの RequisitePro プロジェクトの追加 .....	28
プロジェクト リストからのプロジェクトの削除 .....	29
プロジェクトとプロジェクト ドキュメントを開く .....	30
プロジェクトとドキュメントを閉じる .....	32
保護プロジェクトへのアクセス .....	33
RequisitePro を閉じる .....	35
<b>4 ビューの操作 .....</b>	<b>37</b>
ビュー上でのコマンドの使用と要求間の移動 .....	38
現在のデータの表示 .....	38
ビュー内の追跡可能性 .....	38
ビュー内の階層 .....	39
属性マトリックス .....	40
要求 .....	40
属性 .....	41
テキスト ペイン .....	41
追跡可能性マトリックス .....	41
セル .....	42
テキスト ペイン .....	42
追跡可能性ツリー .....	43
ツリー ペイン .....	44
属性ペイン .....	45
テキスト ペイン .....	45

ビューの操作	45
ビューの作成	46
ビューの展開と折りたたみ	47
ビューの保存	47
ビューを開く / 閉じる	48
ビューの名前変更	48
ビューの印刷	48
ビューの削除	49
ビューのカスタマイズ	49
行の高さの調整	50
列の幅の調整	50
ビューのサイズ変更と整列	51
ビューを重ねて表示	51
ビューを並べて表示	52
アイコンの整列	52
ビュー プロパティの表示	52
ビュー プロパティのデフォルトとしての保存	53
<b>5 クエリーと検索</b>	<b>55</b>
クエリー ビューの作成と使用法	55
クエリーの概要	55
クエリーの操作	56
クエリーの作成と修正	57
プロジェクト内の要求成果物の検索	59
[ジャンプ] コマンドを使用した要求への移動	59
[検索] コマンドによるプロジェクトの検索	61
ほかのプロジェクトとの間に複数プロジェクト間の追跡可能性関係が設定された プロジェクトの参照	62
RequisitePro 拡張インターフェイス	64
Requirement Metrics	64
<b>6 ディスカッションについて</b>	<b>65</b>
ディスカッションの概要	65
ディスカッションの表示	65
ディスカッションへの応答	65
ディスカッション用の電子メールの設定	66
ディスカッションの作成	68
ディスカッションのプロパティの表示と修正	70

新規ディスカッションの参加者への通知 .....	71
ディスカッションの読み取り .....	71
ディスカッションへの応答 .....	72
RequisitePro でのディスカッションへの応答 .....	72
電子メールを使用したディスカッションへの応答 .....	73
ディスカッションの表示、フィルタ、ソート .....	75
1つの要求に関連付けられたディスカッションの表示 .....	75
ディスカッションのフィルタ .....	76
ディスカッションのソート .....	78
ディスカッションの印刷 .....	78
ディスカッションの修正 .....	78
ディスカッションの属性の表示と修正 .....	78
ディスカッションの参加者情報の作成と修正 .....	79
ディスカッションの要求情報の作成と修正 .....	81
要求のディスカッション情報の作成と修正 .....	83
ディスカッションを閉じて削除 .....	84
<b>7 ドキュメントについて .....</b>	<b>85</b>
RequisitePro ドキュメントの作成 .....	85
RequisitePro ドキュメントの保存 .....	87
プロジェクトを開いた後でドキュメントを開く .....	88
プロジェクト ドキュメントを閉じて保存 .....	89
ドキュメントを閉じる前の変更確認 .....	90
プロジェクトからのドキュメントの削除 .....	90
RequisitePro ドキュメントの保存場所の変更 .....	91
ドキュメント情報の変更 .....	92
新規ドキュメントへのテキストと要求の移動 .....	93
ドキュメントの保護 .....	94
Microsoft Word での作業 .....	94
RequisitePro ドキュメントの Word ドキュメントとしての保存 .....	94
Microsoft Word ドキュメントの管理 .....	95
Microsoft Word を閉じる .....	95
RequisitePro で Word を使用するためのヒント .....	95
オフラインでのドキュメント処理 .....	100
ドキュメントのオフライン化 .....	101
ドキュメントがオフラインかどうかの判断 .....	102
オフライン ドキュメントの変更 .....	103

オフライン ドキュメントでの要求の作成 .....	103
オフライン ドキュメントでの要求の削除 .....	104
オフライン ドキュメントをオンラインに戻す .....	104
変更を保存しないでドキュメントをオンラインに戻す .....	106
オフライン ドキュメントの読み取り .....	106
<b>8 要求について .....</b>	<b>109</b>
要求の作成 .....	110
エクスプローラでの要求の作成 .....	111
ドキュメントでの要求の作成 .....	111
ビュー内での要求の作成 .....	119
要求テキストとプロパティの更新 .....	121
[ 要求のプロパティ ] ダイアログ ボックスを開く .....	122
改訂情報へのアクセス .....	122
ドキュメント内での要求変更の記録 .....	123
属性値の変更 .....	124
要求名変換ウィザードの使用法 .....	125
要求への新しいタイプの関連付け .....	125
単一の要求と新規要求タイプの関連付け .....	126
複数の要求と新規要求タイプの関連付け .....	126
要求の移動 .....	127
ドキュメントからの切り取りまたはコピー .....	127
ビューでの切り取りまたはコピー .....	128
要求の移動に関する規則 .....	129
ドキュメントでの要求の色とスタイルの更新 .....	130
ドキュメントでの要求タグの再ビルド .....	131
要求テキストの更新 .....	131
要求の番号の付け直し .....	131
要求の削除 .....	133
ドキュメント内の要求のマーク解除と削除 .....	133
データベースからの要求の削除 .....	134
<b>9 階層について .....</b>	<b>135</b>
子要求の作成 .....	135
ビュー内での子要求の作成 .....	135
エクスプローラ内での子要求の作成 .....	136
ドキュメント内での子要求の作成 .....	136

ピア要求の作成 .....	137
ビュー内での兄弟要求の作成 .....	137
親要求の変更 .....	138
[ 要求のプロパティ ] ダイアログ ボックスでの親要求の割り当て .....	138
ビュー内での親要求の割り当て .....	140
複数の子要求をルート要求に変更 .....	141
階層要求の削除 .....	141
サスペクト関係 .....	143
サスペクトの階層関係の表示 .....	143
サスペクト関係の解除 .....	144
<b>10 追跡可能性について .....</b>	<b>145</b>
ドキュメントでの追跡可能性の作成 .....	145
要求ドキュメントでの追跡可能性関係の作成 .....	145
[ 要求 ] メニューを使用した追跡可能性の作成 .....	146
ビューでの追跡可能性の作成と削除 .....	147
属性マトリックスでの追跡可能性関係の作成と削除 .....	147
追跡可能性マトリックスでの追跡可能性の作成と削除 .....	148
追跡可能性ツリーでの追跡可能性関係の作成と削除 .....	149
複数選択の操作が正常に実行されなかった場合のトラブルシューティング .....	150
サスペクト関係 .....	151
サスペクトの追跡可能性関係の表示 .....	151
追跡可能性関係を手動でサスペクトとしてマーク/マーク解除する .....	152
<b>11 要求とドキュメントのインポート .....</b>	<b>153</b>
インポートの準備 .....	153
プロジェクトのセットアップ .....	153
ログのインポート .....	153
RequisitePro 形式について .....	154
プロジェクトのすべてのドキュメントを Word に変換 .....	154
Word からのインポート .....	156
Word ドキュメントと要求のインポート .....	157
CSV ファイルのインポート .....	162
要求番号 .....	162
インポート ウィザード用の CSV ファイルの準備 .....	163
インポート ウィザードによる CSV ファイルのインポート .....	165

要求のエクスポート .....	168
ビューを CSV ファイルとしてエクスポート .....	168
ビューを Word ドキュメントとしてエクスポート .....	169
<b>12 プロジェクトの作成 .....</b>	<b>171</b>
RequisitePro プロジェクトの作成 .....	171
RequisitePro プロジェクト テンプレート オプションについて .....	172
データベース タイプの決定 .....	173
プロジェクトの名前 .....	175
プロジェクトの作成 .....	175
プロジェクトを作成したときに実行される処理内容 .....	177
プロジェクト テンプレートの作成 .....	178
ベースラインからの RequisitePro プロジェクトの作成 .....	179
RequisitePro プロジェクトの最新バージョンへのアップグレード .....	180
<b>13 プロジェクトのセキュリティについて .....</b>	<b>183</b>
セキュリティの設定 .....	184
グループとユーザーの作成と変更 .....	184
新規セキュリティ グループの作成 .....	185
セキュリティ グループの削除 .....	186
セキュリティ グループへのユーザーの追加 .....	186
ユーザー情報の編集 .....	187
セキュリティ グループからのユーザーの削除 .....	187
別のセキュリティ グループへのユーザーの移動 .....	188
セキュリティ グループへの権限の割り当て .....	189
ドキュメント タイプ権限の割り当て .....	190
要求タイプと追跡可能性の権限の割り当て .....	191
属性権限の割り当て .....	193
属性値の権限の割り当て .....	194
<b>14 プロジェクトの管理 .....</b>	<b>195</b>
要求の番号の付け直し .....	195
プロジェクトの概要とレポートの印刷 .....	195
RequisitePro でのプロジェクトの概要の印刷 .....	195
RequisitePro での Rational SoDA の使用 .....	196
Requirement Metrics の使用 .....	196
メイン ウィンドウのクエリー ペイン .....	198
メイン ウィンドウのレポート ペイン .....	198

フィルタとクエリーの作成	199
レポートへのクエリーの追加	199
時間コントロール の設定	200
レポートの実行	200
レポートの保存	201
保存済みレポートを開く / 編集する	201
コマンド ラインからの実行	201
プロジェクトのアーカイブ	202
[アーカイブ] コマンドを使用したプロジェクトのアーカイブ	203
Rational ClearCase を使用したプロジェクトのアーカイブ	204
エンタープライズ データベースを使用するプロジェクトのアーカイブ	206
アーカイブからのプロジェクトの復元	209
プロジェクトに関する改訂情報の表示と入力	210
UCM によるプロジェクトのベースラインの作成	211
プロジェクト データベースからのドキュメントと要求の削除	212
プロジェクトの移動	213
プロジェクトのコピー	214
データベース間でのプロジェクトの移動	215
データ トランスポート ウィザードの起動	216
Oracle データベースへのプロジェクト データの移動	216
SQL Server データベースへのプロジェクト データの移動	217
RequisitePro のファイル タイプ	218

## 15 プロジェクト情報について 219

一般的なプロジェクト情報について	219
パッケージについて	220
ドキュメント情報について	222
ドキュメント情報の表示と変更	222
ドキュメント タイプについて	223
要求タイプについて	228
要求タイプの作成と変更	229
要求タイプの削除	230
要求の属性と属性値について	231
要求属性の作成と変更	232
要求属性の削除	234
属性値の変更	235
属性値の削除	235

複数プロジェクト間の追跡可能性の設定と変更 .....	237
複数プロジェクト間の追跡可能性で使用する要求タイプのマーク .....	237
プロジェクトの接続 .....	238
プロジェクトの切断 .....	240
Microsoft Access でのデータベースの表示 .....	241
<b>16 他製品との統合 .....</b>	<b>243</b>
RequisitePro での Rational XDE の使用法 .....	243
RequisitePro での Rational ClearQuest の使用 .....	244
統合の設定 .....	244
要求と ClearQuest レコードの関連付け .....	245
RequisitePro での Rational ClearCase の使用法 .....	246
Rational の UCM を使用したプロジェクト ベースラインの作成 .....	246
ClearCase を使用したプロジェクトのアーカイブ .....	246
RequisitePro での Rational Rose の使用法 .....	247
統合ユース ケース管理の使用法 .....	247
ドキュメントまたは要求と関連付けられた Rose ユース ケースの表示 .....	248
ドキュメントおよび要求と XDE 要素の関連付け .....	249
RequisitePro での Rational SoDA の使用法 .....	249
RequisitePro での Rational TestManager の使用法 .....	250
RequisitePro での Rational Unified Process の使用法 .....	250
RequisitePro での Microsoft Project の使用法 .....	251
Microsoft Project を RequisitePro と使用する場合のヒント .....	251
MSPT 要求タイプ .....	252
要求 .....	252
ウィザードの起動と MSPT 要求タイプの追加 .....	253
要求からのタスクの作成 .....	254
追跡可能性の追加または削除 .....	255
タスクからの MSPT 要求情報の更新 .....	257
MSPT 要求タイプの作業 .....	258
<b>17 トラブルシューティング .....</b>	<b>263</b>
要求の作成 .....	263
データベースの破損 .....	264
「ドキュメントが見つかりません。」メッセージ .....	265
Microsoft Word で開くには大きすぎるファイル .....	265
正常に実行されなかった複数選択の操作 .....	266

ページ レイアウト表示での一般保護違反 .....	266
自動バックアップ ドキュメントの回復 .....	267
[RequisitePro] メニューが正しく表示されない .....	267
無効な日時エラー .....	268
SQL Server 構文エラー .....	268
Word Automation サーバーのエラー メッセージ .....	268
<b>A キーボード ショートカットとマウスの操作 .....</b>	<b>271</b>
ダイアログ ボックスのショートカット .....	271
メニューのショートカット .....	271
RequisitePro での複数項目の選択 .....	271
ビューでのマウス操作とショートカット .....	272
属性マトリックスのマウス操作とキーボード ショートカット .....	272
追跡可能性マトリックスのマウス操作とキーボード ショートカット .....	276
追跡可能性ツリーのマウス操作とキーボード ショートカット .....	280
<b>B RequisitePro のカスタマイズ .....</b>	<b>283</b>
RequisitePro の設定 .....	283
ツールバーのメニューのカスタマイズ .....	285
メニュー ファイルの作成 .....	286
<b>用語集 .....</b>	<b>291</b>
<b>索引 .....</b>	<b>305</b>

# まえがき

本書では、Rational™ RequisitePro で使用できる機能とオプションの詳細を説明します。  
Rational RequisitePro は、パワフルなマルチユーザー要求データベース ツールと Windows 版 Microsoft Word の親しみやすい環境を統合した要求管理ツールです。このプログラムでは、要求データベースと要求ドキュメントで同時に作業できます。

## 対象読者

---

『Rational RequisitePro ユーザーズ ガイド』は、ユーザーのタイプによって異なるさまざまなニーズや責任を満たすように作成されています。ユーザーのロールは、どの RequisitePro プロジェクトにアクセスするかによって異なります。以下に示すロールはユーザーの一般的な働きについて示していますが、RequisitePro のセキュリティ グループと直接対応していないロールもあります。RequisitePro 管理者はセキュリティ グループをいくつでも作成できます。また、プロジェクト、ドキュメント、要求を、作成、更新、削除する権限をそれぞれのグループに割り当てることができます。

**要求参照者**は、ドキュメントを読んで要求データベースにクエリーを実行し、ディスカッション グループに参加します。これらの作業は、すべての RequisitePro ユーザーに共通するアクティビティです。

**要求提供者**は、要求参照者と共通のアクティビティを実行するだけでなく、要求の属性値を修正する権限も持っています。

**要求作成者**は、標準テンプレートを使用して要求ドキュメントの作成や更新を行います。また、プロジェクト データベースに対して要求の追加、削除、更新を行います。標準テンプレートはプロジェクト管理者が作成します。

**プロジェクト管理者**は、セキュリティ、ドキュメントタイプ、要求タイプなど、プロジェクトのすべての要素を作成および管理します。複数プロジェクト間の追跡可能性も設定します。

本書では、要求の表示とクエリーを実行するすべてのユーザーに共通のアクティビティについて説明します。次に、要求の作成と管理に必要なスキルについて、そして最後に、プロジェクト管理に必要な高度なスキルについて説明します。

以下の表に、さまざまなタイプの RequisitePro ユーザーに最も関連のある章を示します。

ユーザーの種類	推奨する章																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
要求参照者	✓	✓	✓	✓	✓	✓										✓	✓
要求提供者	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓								✓	✓
要求作成者	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓					✓	✓
プロジェクト管理者	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

「付録 A キーボードショートカットとマウスの操作」、「付録 B RequisitePro のカスタマイズ」、RequisitePro で使用する技術用語を定義した「用語集」を必ずお読みください。

## その他の参照先

- ヘルプ : RequisitePro のヘルプはいつでも表示できます。ヘルプの目次を表示するには、[ヘルプ] メニューの [目次とキーワード] をクリックするか、[F1] を押します。また、表示されているダイアログ ボックスのヘルプ ボタンをクリックしても表示できます。
- Let's Go RequisitePro : このヘルプ インターフェイスでは、RequisitePro のプロジェクトや、要求管理プロセスのセットアップに関する有用な情報に、すばやくアクセスできます。Let's Go RequisitePro は、ヘルプや、Rational RequisitePro チュートリアルとクイックツアーという 2 つのチュートリアルなど、RequisitePro のさまざまな「入門」情報を新しいユーザーに提供します。上級ユーザーにとっては、Rational Unified Process や Web リソースなど、より詳細な関連ドキュメントにアクセスするための手引きとなります。

Let's Go RequisitePro は、RequisitePro を起動すると自動的に表示されます。Let's Go RequisitePro が起動しないようにするには、[ツール] メニューの [オプション] ダイアログ ボックスのチェック ボックスをオフにするか、Let's Go RequisitePro の初期画面でチェック ボックスをオフにしてください。[ヘルプ] メニューの [Let's Go RequisitePro] をクリックすると、[ヘルプ] メニューからいつでも Let's Go RequisitePro を起動できます。

- 入門ツアー : Let's Go RequisitePro か、ヘルプの [目次] タブの [入門] から、次に示す 2 つのヘルプ ツアーにアクセスできます。[要求管理ツアー] は、RequisitePro を要求管理プロセスの一部として使用するための概要を示します。[プロジェクト管理のヒント] は、プロジェクトの設定と管理を行う RequisitePro プロジェクト管理者のためのガイドです。

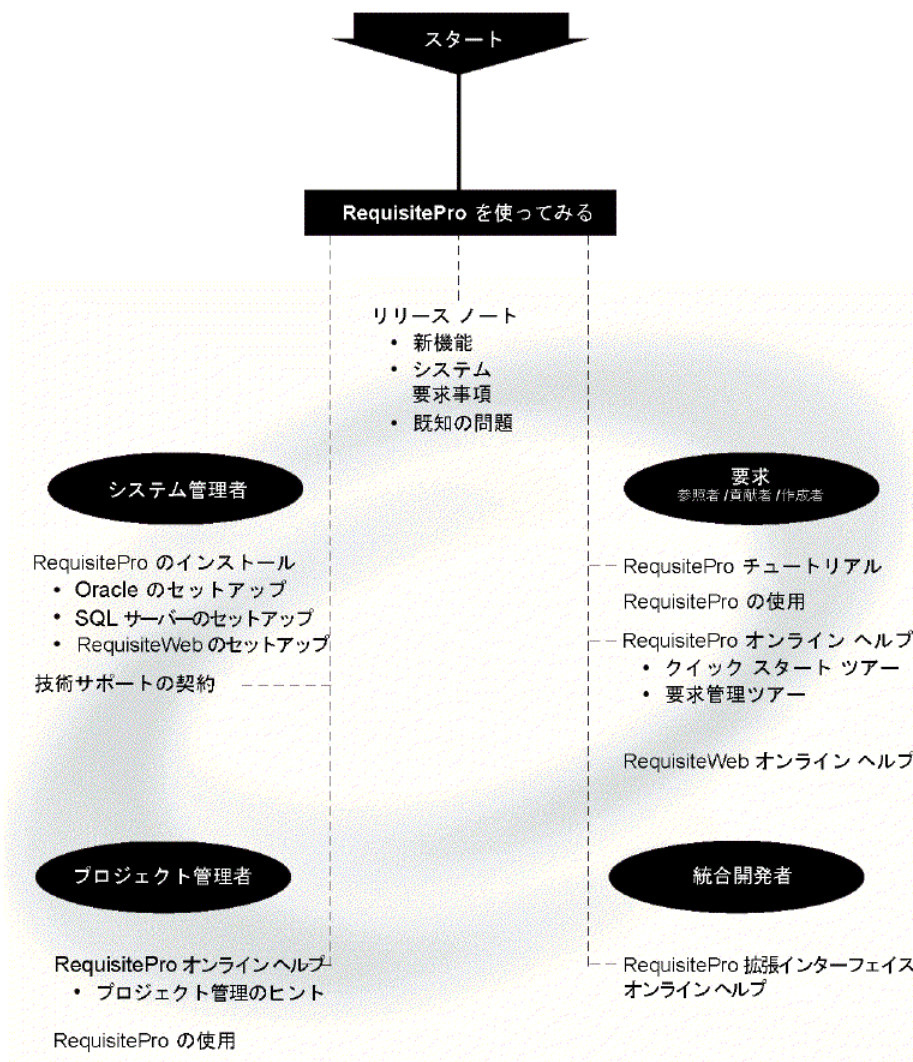
- **RequisitePro のチュートリアル** : RequisitePro には、Rational RequisitePro チュートリアルとクイック ツアーという、各自のペースで学習できる 2 つのチュートリアルが用意されているので、プログラムを簡単に使い始めることができます。どちらも、Let's Go RequisitePro のヘルプ画面 ([ヘルプ] メニューの [Let's Go RequisitePro] をクリック) または Windows の [スタート] メニュー ([RequisitePro] プログラム グループをクリック) から開くことができます。
- **Rational ドキュメント Web サイト** : Rational 製品のドキュメントは、[www.rational.com/documentation](http://www.rational.com/documentation) から注文できます。ただし、英語のみでのご利用となります。
- **ホワイト ペーパーとテクニカル ノート** : Rational では、要求管理の最新の傾向に関するホワイト ペーパーと、要求管理の法則を使用して開発目標の達成を考えるための推薦資料のリストを提供しています。これらの資料は、  
<http://www.rational.com/products/reqpro/whitepapers.jsp> から無料で入手できます。  
テクニカル ノートは、<http://solutions.rational.com/solutions> から入手できます。ただし、英語のみでのご利用となります。
- **Rational Developer Network** : Rational Developer Network では、Rational ツールと最善の実践原則に関する知識を深めるために必要なガイドラインを提供します。ここからは、ホワイト ペーパー、成果物、コード、ディスカッション、トレーニング、ドキュメント、自分のペースで学習できる Web ベースのトレーニングにすばやくアクセスできます。  
RequisitePro Knowledge Center と RequisitePro の入門ガイドもあります。詳細については、<http://www.Rational.net> を参照してください。ただし、英語のみでのご利用となります。  
  
RequisitePro から、[ヘルプ] メニューの [Rational 社の Web サイト] をポイントし、[Rational Developer Network] をクリックすると、Rational Developer Network が開きます。Rational Developer Network は、Let's Go RequisitePro から利用できます。
- **Rational トレーニング サービス** : ラショナルユニバーシティでは、RequisitePro ユーザーに対して、要求管理のクラスとツール トレーニングの各コースを提供しています。  
Rational の各製品を 1 時間で紹介する Single Learning Module も提供しています。トレーニング コースの詳細については、ラショナルユニバーシティの Web サイト  
<http://www.rational.co.jp/services/ru/> を参照してください。

## 参考文献

---

Dean Leffingwell/Don Widrig 著、『Managing Software Requirements: A Unified Approach』  
(2000 年 Addison Wesley 発行) には、要求管理についての情報が記載されています。

# Rational RequisitePro のマニュアル構成



## RequisitePro とほかの Rational 製品との統合

統合	説明	ドキュメント
RequisitePro と ClearQuest®	変更依頼の追跡と管理を行い、要求を拡張機能または障害レコードに関連付けることができます。	RequisitePro のヘルプ 『Rational Suite® AnalystStudio 入門』
RequisitePro と ClearCase®	ClearCase に RequisitePro プロジェクトをアーカイブできます。	『Rational RequisitePro ユーザーズ ガイド』 RequisitePro のヘルプ
RequisitePro と UCM (統一変更管理)	RequisitePro 管理者は UCM で RequisitePro プロジェクトのベースラインを作成し、ベースラインから RequisitePro プロジェクトを作成できます。	『Rational RequisitePro ユーザーズ ガイド』 RequisitePro のヘルプ 『Rational Suite 統一変更管理 (UCM) ユーザーズ ガイド』 『Rational Suite AnalystStudio 入門』
RequisitePro と Rose	RequisitePro の要求とドキュメントを Rose のユース ケースとモデルに関連付けることができます。	統合ユース ケース管理のヘルプ (Rose または RequisitePro のヘルプから利用可能) 『Rational Suite AnalystStudio 入門』
RequisitePro と Rational XDE™	XDE のモデル要素を RequisitePro の要求やドキュメントに関連付けることができます。	RequisitePro と XDE の統合についてのヘルプ (RequisitePro のヘルプと XDE のヘルプから利用可能)
RequisitePro と TestManager	TestManager から RequisitePro 要求を参照して、要求とテスト アセット間の追跡可能性を確保できます。	『Rational TestManager User's Guide』 Rational TestManager のヘルプ 『Rational Suite 管理ガイド』 RequisitePro のヘルプ
RequisitePro と SoDA	RequisitePro プロジェクトから情報を抽出したレポートを作成できます。	SoDA のヘルプ RequisitePro のヘルプ
RequisitePro と ProjectConsole	RequisitePro プロジェクトから情報を抽出したレポートを作成できます。	『Getting Started: Rational ProjectConsole』
RequisitePro と Rational Administrator	RequisitePro のプロジェクト管理者は、Rational Administrator を用いて UCM を使用できる Rational プロジェクトを作成します。これにより、チーム メンバーは RequisitePro プロジェクトのベースラインを作成して、RequisitePro と ClearQuest の統合機能を利用することができます。	RequisitePro のヘルプ 『Rational TestManager User's Guide』
RequisitePro と Rational Unified Process® (RUP)	RequisitePro の [ヘルプ] メニューから拡張ヘルプを起動できます。拡張ヘルプは RequisitePro の RUP ツール メンターを表示します。	RequisitePro のヘルプ

## Rational カスタマ サポートの連絡先

本製品のインストール、使用法、保守に関するご質問については、Rational カスタマ サポートまでお問い合わせください。

地域	お問い合わせ先	メモ
アジア太平洋 (日本を含む)	電話: +61-2-9419-0111 Fax: +61-2-9419-0123 メール: support@apac.rational.com (英語のみ対応) support@japan.rational.com (日本語対応可)	電子メール送信時のお願い 件名欄に製品名とリリース番号を入力してください。 既知の問題については、件名にその問題のID も追加してください
WWW	<a href="http://www.rational.co.jp/supports/">http://www.rational.co.jp/supports/</a>	[サポート] リンクの [サポートについて] をクリックしてください。

お問い合わせの際は、弊社のカスタマ サポート スタッフが質の高い顧客サービスを提供できるよう、できるだけ詳しい情報をお知らせください。顧客情報フォームが含まれている **techsupport.html** ファイルは、**RequisitePro** インストール ディレクトリにあります。また、[ヘルプ] メニューの [技術サポートへの連絡] をクリックして表示することもできます。このフォームに、問題点、質問事項、提案内容、お客様の会社とシステムに関する詳細情報を記入してください。このフォームは、電子メール メッセージにコピーすることもできます。

エラー メッセージが表示される場合は、**error.log** ファイル (**bin** フォルダの **RequisitePro** インストール ディレクトリにあります) を添付してください。そのほか、問題に関連すると思われるファイルや画面キャプチャなどがあれば、それらのファイルもお送りください。

この章は、Rational のホワイト ペーパー『Applying Requirements Management with Use Cases』(ユース ケースを使用した要求管理法) からの抜粋です。本書の全文は、Rational Developer Network<sup>SM</sup> (<http://www.rational.net>) でご覧いただけます。ただし、英語のみのご利用となります。

## Applying Requirements Management with Use Cases (ユース ケースを使用した要求管理法)

---

要求管理プロセスの向上に関心があれば、要求管理について詳しい知識をお持ちでなくても、この章の抜粋されたこのホワイト ペーパーを参考にして独自のアプローチを展開できます。

### プロセス重視のソフトウェア/システム開発

それまでの自由な時代とは対照的に、1990 年代に入ると、多くのソフトウェア/システム開発チームがプロセスに重点を置くようになりました。まず、ソフトウェア開発プロセスを評価し、その有効性を認定するためのさまざまな規格が導入され、一般に浸透しました。ソフトウェア開発プロセスに関する書籍や記事、ビジネス プロセス モデリングおよびリエンジニアリングについての関連資料が数多く出版、公開されると同時に、効果的なソフトウェア開発プロセスを定義し、それを適用するためのソフトウェア ツールも数多くリリースされました。グローバル経済のソフトウェアに対する依存度がこの 10 年間で急速に高まったことで、開発プロセスが注目され、システムの品質は確実に向上しています。

それにもかからわず、現在、非常に多くのソフトウェアプロジェクトが失敗に終わっているのはなぜでしょうか。ほとんどではないにしても、多くのソフトウェアプロジェクトが、スケジュールの遅れ、予算オーバー、品質の不備という問題を抱えています。ビジネス、国内経済、日常生活におけるシステムへの依存度が高まるなか、どうすれば、より高品質なシステムを構築できるのでしょうか。

その答えは、業務に携わる人材、ツール、およびプロセスにあります。ソフトウェア管理に伴う当面の問題の解決策として、要求管理が提案されることはよくありますが、実際的な管理プロセスの向上はあまり注目されていませんでした。

この章では、効果的な要求管理プロセスの要素と、導入時の障害要因について説明します。

要求管理は、ソフトウェアのみで構成されたプロジェクト、ソフトウェアが 1 つの構成要素にすぎないプロジェクト、ソフトウェアをまったく使用しないプロジェクトに、すべて同じように適用されます。便宜上、この章では、上記すべてのケースについてシステムという用語を使用します。ただし、要求管理が複雑になっている理由は、ソフトウェア開発が本質的に抽象的であるためです。この章では、単独で使用するか、ハードウェアと組み合わせて使用するかにかわらず、主にソフトウェア開発の要求管理について説明します。

## 要求とは

要求管理を理解するには、まず要求という言葉を定義しなければなりません。Rational では、要求を、「(構築する) システムが準拠しなければならない条件または機能」と定義しています。米国電気電子技術者協会 (以下、IEEE) でもほぼ同様の定義を使用しています。

要求エンジニアリングの創始者として著名な Merlin Dorfman 氏と Richard H. Thayer 氏は、ソフトウェアに関する要求を次のように明確に定義しています (ただし、これらの定義はソフトウェア以外にも適用できます)。

要求とは、システムが適合しなければならない条件または機能のことです。

ソフトウェア要求は、以下のように定義できます。

- ・ ユーザーが問題を解決し、目的を達成するために必要なソフトウェアの機能
- ・ 契約、仕様、規格、強制力を持つその他の公式文書に準拠するため、システムまたはシステム コンポーネントが備えていなければならないソフトウェアの機能<sup>1</sup>

## 要求管理の必要性

一言で言えば、システム開発チームが要求を管理するのは、プロジェクトを成功させるためです。プロジェクトの要求を満たすことが、成功の鍵です。要求管理がうまくいかなければ、プロジェクトの成功率も低くなります。

以下に示す最近の研究結果がこれを証明しています。

- ・ 1994、1997、2000 年に発表された Standish Group の CHAOS Reports では、プロジェクトが失敗する最大の原因は要求関連であることが実証されています。<sup>2</sup>
- ・ 1997 年 12 月、Computer Industry Daily が Sequent Computer Systems, Inc. を対象に実施した調査によると、米国および英国の IT 管理者 500 人のうち、回答者の 76 % がプロジェクトの完全な失敗を経験しています。その原因として最も多かったのが「ユーザー要求の変更」でした。<sup>3</sup>

プロジェクトの失敗を回避することが、要求を管理する理由です。要求管理は、プロジェクトの成功率を高めるだけでなく、そのほかさまざまな利益ももたらします。Standish Group の CHAOS レポートは、要求の適切な管理がプロジェクト成功への一番の近道であることを立証しています。

## 要求管理とは

要求とは、構築するシステムが満たさなければならない事柄であり、要求に準拠しているかどうかプロジェクトの成否を左右します。したがって、要求内容を明確にした上で、それを文書化し、系統立てる必要があります。また、要求に変更が生じた場合は、それに対応しなければなりません。

つまり、要求管理とは以下のようなものであると言えます。

- システムの要求を具体化し、系統立て、文書化するための体系的なアプローチ
- 顧客とプロジェクトチームとの間で、システムの要求変更に関する取り決めを作成し、それを管理するプロセス

この定義は、Dorfman 氏と Thayer 氏、および IEEE によるソフトウェア要求エンジニアリングの定義に類似しています。要求エンジニアリングは、ソフトウェア要求の具体化、分析、明確化、検証、管理で構成され、ソフトウェア要求管理によってこれらすべての関連作業を計画、調整します。<sup>4</sup> Rational が提唱し、ここで紹介する要求管理の定義には、これらすべてのプロセスが含まれています。主な違いは、エンジニアリングではなく、管理という用語を使用している点です。これは、必要なすべての作業を表現するのに管理の方が適切であると判断したためです。また、変更を追跡し、利害関係者とプロジェクトチームの認識を一致させることの重要性を強調するためでもあります。

## 要求管理の問題点

では、システムが期待に沿うようにするプロセスは、何が難しいのでしょうか。実際のプロジェクトに要求管理を適用すると、さまざまな問題点が明らかになります。

図 1 は、開発者、管理者、および品質保証担当者を対象にした 1996 年の調査結果です。この図は、要求に関する問題点と、それを経験した回答者の割合を示しています。

さらに、次のような問題点も報告されています。

- 要求が必ずしも明確でなく、またさまざまな関係者から出される。
- 要求内容を、必ずしも言葉で明確に表現できるとはかぎらない。
- さまざまなレベルで、さまざまな種類の要求を管理する必要がある。

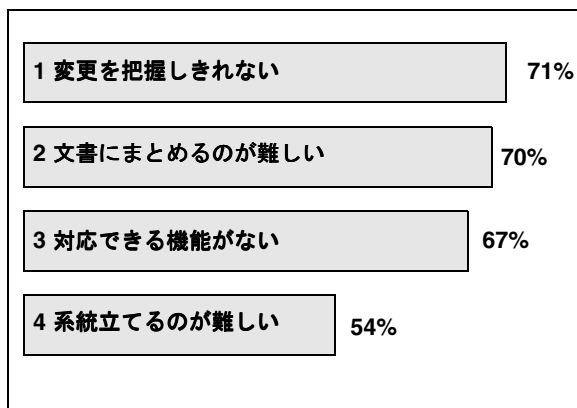


図 1: 要求管理に関する問題点

- 適切に管理しないと、要求数が増大して処理しきれなくなる。
- ほかの要求、または要求管理プロセスのその他の要素と複雑に関連している。
- すべての要求は、それぞれ固有のプロパティやプロパティ値を持っている。たとえば、重要度や難易度は要求によって異なる。
- 1つのプロジェクトに関係者および責任者が多数存在するため、複数の部署や部門が連携して要求を管理しなければならない。
- 要求が変化する。
- 要求は時間の影響を受けやすい。

上記のような問題点に加え、要求管理やプロセス スキルが不十分だったり、使いやすいツールがなかったりするために、多くの開発チームが要求管理を断念しています。Rational では、こうしたチームを対象に、要求管理に必要なスキルとプロセスを指導するためのノウハウを開発しています。Rational RequisitePro を使用することにより、効果的な要求管理を自動化することができます。

## 要求管理に必要なスキル

上記の問題を解決するため、Rational は主要スキルの向上をサポートしています。この後、各スキルを順番に紹介しますが、実際の要求管理プロセスでは、これらのスキルは状況に応じてさまざまな順序で適用します。ここでは、新規プロジェクトの最初の反復処理に要求管理スキルを取り入れる場合の順序で示します。

## 問題分析

問題分析とは、ビジネス上の問題点を把握し、利害関係者の当初のニーズを明示し、高度なソリューションを提案することです。このような論証と分析によって、「問題の背後にある問題」を見つけることができます。

問題分析では、文書化した問題点について合意に達し、利害関係者を特定します。次に、技術面とビジネス面の両方から、問題解決の当初の範囲と制約を定義します。必要であれば、そのプロジェクトのビジネス ケースに基づき、構築するシステムの投資利益率を分析します。

### 問題解析のステップ

ステップ 1 - 解決する問題について合意する

ステップ 2 - 利害関係者を洗い出す

ステップ 3 - システム境界を定義する

ステップ 4 - システムに課されている制約事項を洗い出す



図 2: 問題分析の手順

## 利害関係者のニーズの把握

要求は、さまざまなところから発生します。そのプロジェクトによって何らかの影響を受けるすべての関係者が要求の発生源となります。たとえば、顧客、提携会社、エンドユーザー、業界エキスパートが要求を出す場合もあれば、経営幹部、プロジェクトチームのメンバー、事業方針、規制機関などで要求を課する場合があります。

重要なのは、要求を聞くべき相手は誰なのか、それらの関係者とどのように接触し、どのように情報を引き出すのかを知ることです。要求の主な情報源となる個人、グループ、団体のことを、プロジェクトの「利害関係者」と呼びます。

社内で使用する情報システムを開発する場合、その開発チームには、エンドユーザーとしての経験とビジネスの専門知識を合わせ持った人材が必要です。通常は、議論をシステムレベルではなく、ビジネスモデルレベルで開始します。市場で販売する製品を開発する場合は、その市場の顧客のニーズに精通したマーケティング担当者が重要な存在となります。

要求は、インタビュー、ブレインストーミング、プロトタイプを作成、アンケート、競合分析などのアクティビティから具体化されます。具体化した要求内容のリストを文書または図表にまとめ、優先順位を付けます。

## システムの定義

システムの定義とは、利害関係者のニーズを理解し、そのニーズをこれから構築するシステムに沿った形で記述することです。システム定義の初期段階では、要求の構成要素、ドキュメントの形式、言語形式、要求レベル、依頼の優先順位と予想作業量、技術面と管理面でのリスク、範囲を決定します。利害関係者からの最も重要な依頼については、それを直接反映したプロトタイプと設計モデルをこの段階で早めに作成する場合があります。

**Rational** では、文書という用語が持つ限定的な意味合いを避けるために、説明書という用語を使用しています。この説明書には、文書、電子ファイル、図など、システム要求を伝えるためのあらゆる表現方法が含まれます。

システム定義の結果として作られるのは、自然言語と図表の両方でシステムを表した説明書です(図3を参照してください)。説明書の形式についてはこの後の項で説明します。

#### 原則 55

#### 正式なモデルを作成する前に自然言語で書く

正式なモデルを最初に作成すると、ソリューション システムではなく、そのモデルの説明を記述する傾向に陥ってしまいます。次の例を考慮してみてください。

図 3: 自然言語と正式な言語によるシステム定義

## プロジェクトの範囲の管理

プロジェクトの範囲は、そのプロジェクトに課せられた要求セットによって定義されます。使用可能なリソース(時間、人材、予算)に合わせてプロジェクトの範囲を管理することが、プロジェクト管理の成功の鍵となります。プロジェクトの範囲を管理するには、まず、全体を管理しやすい小さな単位に分割し、それをもとに段階的に範囲を広げていきます。

優先順位、作業量、リスクなど、要求の属性に基づいて要求を受け入れるかどうかを取り決めれば、プロジェクトの範囲を適切に管理できます。また、要求そのものではなく、要求の属性に焦点を置くことによって、議論になりがちな話し合いを冷静に進めることができます。

さらに、チーム リーダーが交渉術の教育を受けたり、組織内だけでなく、顧客側にも有力者を確保したりするのも効果的です。製品およびプロジェクトの有力者は、利用できるリソースを超える範囲の変更を却下するか、範囲に合わせてリソースを増やす権限を持っている必要があります。

## システム定義の改善

高レベルのシステム定義が同意に達し、プロジェクトの初期の範囲が適切に定められたら、システム定義の改善にリソースを投資することが可能かつ経済的です。システム定義の細分化には2つの作業が伴います。1つは、高レベルのシステム定義をより詳しい内容に分析すること、もう1つは、システムが利害関係者のニーズを満たし、説明どおりに動作するかどうかを検証することです。

多くの場合、説明書はプロジェクトチームにとって重要な参考資料です。説明書は、読み手を念頭に置いて作成します。一般的な間違いは、構築が複雑なシステムを、複雑な定義で表すことです。これは特に、同意に達するために必要な検討を、読み手ができない、またはする気がないときに問題になります。すると、プロジェクトチームの内外の関係者にシステムの目的を伝えるのが難しくなります。このような事態を避けるため、読み手ごとに異なる説明書を作成する必要があります。この章では、自然言語、フォーマルテキスト、および図表を使用した詳細な説明書の形式例をいくつか紹介します。説明書の形式が決まれば、プロジェクトのライフサイクル全体を通じてシステム定義を細分化できます。

## 変化する要求の管理

いかに注意深く定義しても、要求は変化します。実際、一部の要求の変更は望ましいことです。それは開発チームと利害関係者が密接に連携している証しだからです。要求変更に対応できるかどうかは、利害関係者の参加意識の高さとプロジェクトの柔軟性に左右されます。どちらも、プロジェクトの成功に欠かせない重要な要素です。問題は、変更そのものではなく、変更を管理できないことなのです。

要求に変更が発生した場合、多少の時間を費やしてそのための機能を実装しなければなりません。また、1つの要求を変更することにより、ほかの要求にも影響します。要求変更を管理するには、ベースラインを定めた上で、各要求の変更履歴を記録し、追跡対象となる要求間の依存関係を判断します。さらに、関連する項目間に追跡関係を設定し、バージョン管理を行います。

図 4 に示すように、変更管理と承認プロセスを確立し、提案されたすべての変更を特定のチームメンバーがレビューするようにします。一般に、この単一の変更管理組織は、変更管理委員会 (CCB) と呼ばれます。

## 変更管理の基本 すべての要求は 1 つの経路を通過する

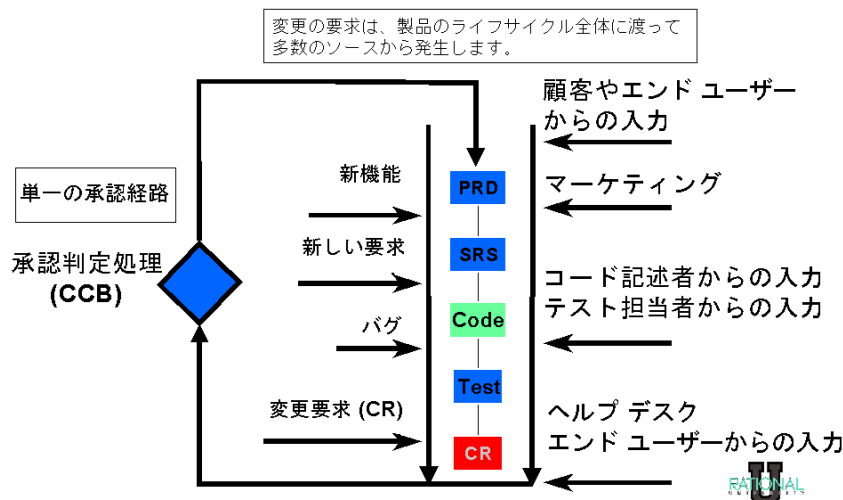


図 4: 効果的な変更管理手順：すべての要求を一元管理

### 要求についての重要な概念

要求管理スキルをプロジェクトに適用するには、プロジェクトに携わるすべての関係者が、以下の要求管理の重要な概念を理解しておく必要があります。

**要求タイプ：**要求タイプは、単なる要求の分類です。システムの規模が大きく複雑であるほど、要求タイプも多くなります。要求タイプを特定することによって、多数の要求を、わかりやすく管理の容易なグループにまとめることができます。プロジェクトでさまざまな要求タイプを設定すると、チームのメンバーは、それに基づいて変更依頼を分類し、より明確にコミュニケーションを図ることができます。

通常は、1 つの要求タイプをほかの複数の要求タイプに分割 (分解) できます。たとえば、ビジネス ルールや構想文書は高レベルの要求タイプです。チームは、これらの要求タイプから、ユーザーのニーズ、機能、製品の各要求タイプを導き出します。ユース ケースやその他のモデリング形式からは設計要求が生じます。これらの要求は、ソフトウェア要求に分解して、分析/設計モデルで表すことができます。ソフトウェア要求からはテスト要求が導き出され、特定のテストプロシージャに分解されます。プロジェクトの要求数がかなり多い場合は、要求をタイプ別に分類することによって、プロジェクトが管理しやすくなります。

**混成チーム**：テストやアプリケーション モデリングのように、1 つのビジネス グループ内で処理できるほかのプロセスと異なり、要求管理は、開発プロセスに知識や経験を提供するすべての関係者の協力が必要となります。要求管理には、顧客側と企業側の期待を提示するスタッフが必要です。開発管理者、製品管理者、アナリスト、システム エンジニア、さらには顧客の協力も欠かせません。エンジニア、アーキテクト、設計者、プログラマ、品質保証担当者、テクニカルライターなど、システム ソリューションの開発スタッフにも要求チームに参加してもらう必要があります(図 5 を参照してください)。

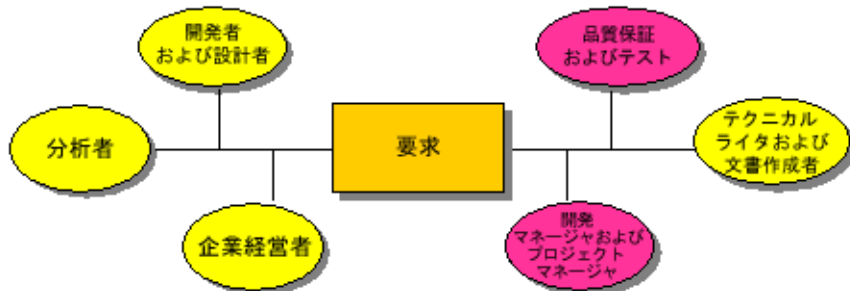


図 5: 要求管理に関わるチーム メンバー

通常、大規模なプロジェクトでは、部署や機能分野ごとに要求タイプを作成、管理します。このように、さまざまな部署や分野にかかわるという点が、要求管理を難しくしている要因の 1 つです。

**追跡可能性**：要求タイプの項で説明したように、すべての要求は必ず何かと関連しています。利害関係者の依頼は、それを満たすための製品の機能と結び付いています。製品の特徴には、その特徴を機能面および非機能面から詳細に定めた要求が反映されています。テスト ケースは、検証する要求と結び付いています(図 6 を参照してください)。要求は、ほかの要求に依存している場合もあれば、相互に排他的である場合もあります。

要求が変更された場合の影響を判断し、システムが期待に沿うようにするには、追跡可能性関係を把握し、文書化し、管理する必要があります。追跡可能性は、要求管理において実装が非常に難しい概念の 1 つですが、変更に対応するために不可欠な概念でもあります。明確な要求タイプを作成し、さまざまな部門の協力を得ることで、追跡可能性の実装と管理が容易になります。追跡可能性に関するさまざまな戦略については、ホワイト ペーパー『Traceability Strategies for Managing Requirements with Use Cases』(ユース ケースを使用した要求管理追跡法)<sup>5</sup>を参照してください。

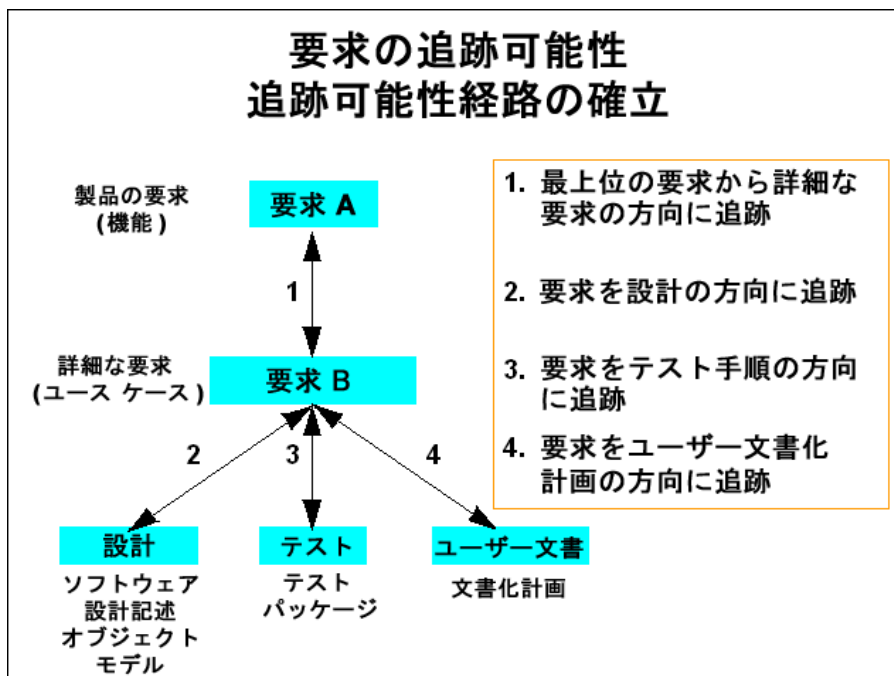


図 6: 要求間の追跡可能性パスの確立

**多次元属性:** 各要求タイプはそれぞれ属性を持ち、さらに個々の要求には固有の属性値があります。たとえば、要求は、優先順位を割り当てたり、要求元や理論的根拠で特定したり、部署内のサブチームに任せたり、難易度を指定したり、システムの特定の反復に関連付けたりできます。図 7 は、RequisitePro のサンプルプロジェクトで使用する

[Feature] 要求タイプの属性を示しています。画面のタイトルからわかるように、要求タイプと各要求タイプの属性はプロジェクト全体を対象に定義されているので、チーム

のすべてのメンバーが同じ要求タイプと属性を使用できます。

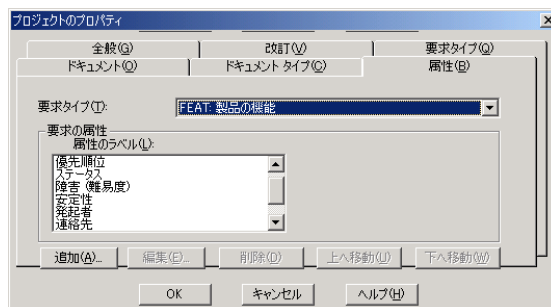


図 7: Feature 要求タイプの属性

図 8 には、RequisitePro 内のあるプロジェクトの機能要求が表示されています。要求の全文を表示しなくても、その属性値から各要求に関する多くのことがわかります。この図の場合、優先順位と難易度(それぞれを異なるチームメンバーが指定する場合もあります)を確認することに

要求	タイプ	優先順位	ス
FEAT16: ClassicsCD.com オンライン ショップ		要実装	提
FEAT16.1: 保護された支払方法	機能性	必須	組
FEAT16.2: 容易な閲覧	機能性	要実装	提
FEAT16.3: 複数の基準で検索		必須	承
FEAT16.4: 発注のステータスをチェックする機能	機能性	要実装	校
FEAT16.5: 電子メールによる新譜アルバム...	機能性	実装可能	提
FEAT16.1: 保護された支払方法			
保護された支払方法			

図 8: 機能要求の属性マトリックス

より、利害関係者の優先順位と、難易度から予想される作業量を考慮して、使用可能なリソースと時間に見合ったプロジェクト計画を立てられます。詳細な要求タイプでは、優先順位と作業量がより具体的な値(作業時間の見積もり、コードの行数など)で表されるので、プロジェクトの範囲をさらに正確に定義できます。このように、1つの要求が異なる複数の要求で構成され、それぞれが独自の属性を持つという多次元的な性質は、多数の要求をとりまとめ、プロジェクト全体を管理する上で重要な役割を果たしています。

**変更履歴:** 個々の要求も、複数の要求で構成された要求グループも、時間と共にしだいに変化します。環境の変化と技術の進歩に対応するためには、変更は避けられない、必要なものです。プロジェクト要求の各バージョンを記録しておくことによって、チーム リーダーは、新規のシステム リリースなど、プロジェクトの変更理由を把握することができます。要求の集合が、ソフトウェアの特定のバージョンに関連することを把握していれば、変更を段階的に管理できるので、リスクを低減し、目標達成の確率を高めることができます。個々の要求が変更された場合は、変更内容、変更理由、変更日時、変更責任者を履歴として記録しておくことが重要です。

## 要求管理の実際

要求管理では、前に示した主要スキルと概念を使用して問題点を特定し、解決します。

顧客のニーズを満たすシステムを構築するには、プロジェクトチームはまずそのシステムで解決する問題点を定義する必要があります。次に、ビジネス ニーズやユーザー ニーズを引き出す利害関係者を特定します。これらのニーズは、後に説明書にまとめ、優先順位を付けます。これらの高レベルの期待やニーズをもとに、製品やシステムの機能を決定します (図 9 を参照してください)。

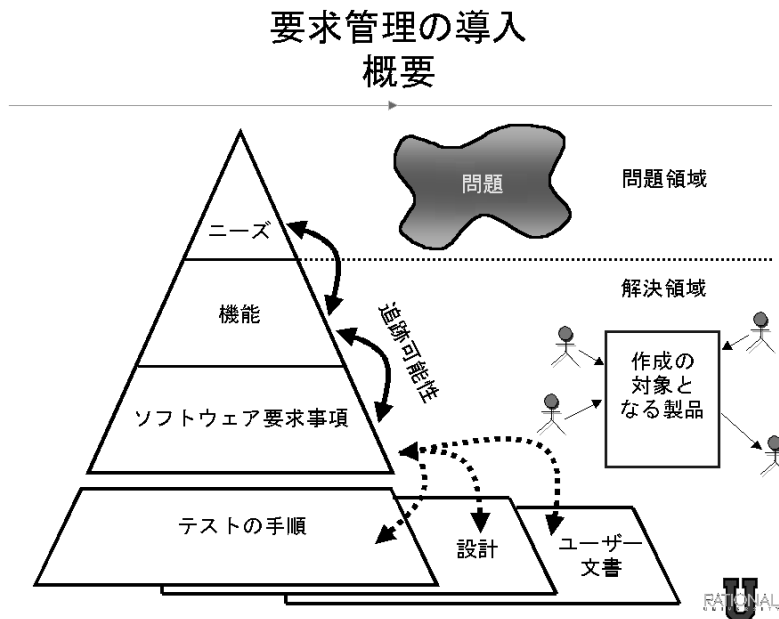


図 9: 要求管理の概要

詳細なソフトウェア要求は、顧客と開発チームの両方が理解できる形式で記述する必要があります。顧客が使用する言語でソフトウェア要求を記述すれば、それだけ顧客の理解と同意を得やすくなります。この詳細なソフトウェア要求に基づいて、システム的设计仕様や、実装と検証に必要なテスト計画とテストプロシージャを作成します。さらに、ソフトウェア要求に基づき、ユーザー向けマニュアルの初期の計画と設計も行います。

効果的な要求管理は、プロジェクトチームによる次の作業で構成されます。

- 1 プロジェクトで使用する共通の言語を規定します。
- 2 システムで解決する問題点、およびシステムの主要機能をまとめたシステム構想を作成します。
- 3 利害関係者のニーズを具体化します。少なくとも、機能性、使いやすさ、信頼性、性能、サポートのしやすさという5つの重要分野についてニーズを特定してください。
- 4 使用する要求タイプを決定します。
- 5 要求タイプごとに属性と属性値を選択します。
- 6 要求の記述形式を選択します。
- 7 チーム内で、1つまたは複数の要求タイプを作成するメンバー、変更するメンバー、参照するメンバーを特定します。
- 8 必要な追跡可能性を決定します。
- 9 要求変更を提案、レビュー、処理する手順を確立します。
- 10 要求の履歴を記録する方法を開発します。
- 11 チームのメンバーや管理者が参照する進行状況やステータスのレポートを作成します。

業界、開発方法、必要なツールにかかわらず、上記の要求管理作業は不可欠です。また、これらの作業は柔軟性があるため、条件が非常に厳しく、迅速性が要求されるアプリケーション開発環境でも、要求を効果的に管理できます。

#### 文書について

要求を文書化する場合は多少の配慮が必要です。書くという行為は、ほとんどの人にとってごく自然な伝達手段です。しかし、プロジェクトの目標はシステムを完成することであって、文書を作成することではありません。常識と経験から考えて、大切なのは要求を文書化するかどうかではなく、どのように文書化するかです。文書テンプレートを使用することにより、一貫した形式で要求を管理できます。**Rational RequisitePro** には、要求を管理するための文書テンプレートが用意されています。また、すべてのプロジェクト要求が保存されたデータベースと、文書内の要求とをリンクさせるための機能も追加されました。**RequisitePro** 独自のこの機能を使用することによって、要求を自動的に文書化すると同時に、データベースへのアクセス性と情報の管理しやすさが向上します。

## 参考文献

- 1 M. Dorfman/R. Thayer、『Software Engineering』、IEEE Computer Society Press、Los Alamitos, CA、1997年、79 ページ
- 2 CHAOS、The Standish Group International, Inc.、Dennis, MA、1994年、1997年、2000年
- 3 『Computer Industry Daily』1997年12月12日号

- 4 M. Dorfman/R. Thayer、『Software Engineering』、IEEE Computer Society Press、Los Alamitos, CA、1997 年、80 ページ
- 5 Ian Spense/Leslee Probasco、『Traceability Strategies for Managing Requirements with Use Cases』、ホワイト ペーパー、Rational Software Corporation™、1998 年。Rational Developer Network (<http://www.Rational.net>) からご利用になれます。ただし、英語のみのご利用となります。

## 推奨文献

---

Alan Davis、『201 Principles of Software Development』、New York: McGraw-Hill, Inc.、1995 年 (邦訳:『ソフトウェア開発 201 の鉄則』、松原 友夫 翻訳、日経 BP 社)

M. Dorfman/R. Thayer、『Standards, Guidelines and Examples of System and Software Requirements Engineering』、Los Alamitos, CA、IEEE Computer Society、1991 年 (ご注文先は次のとおりです。IEEE Customer Service, 445 Hoes Ln., P.O. Box 1331, Piscataway, NJ 08855-1331;800-678-4333)

Martin Fowler/Kendall Scott、『UML Distilled』、Reading, MA、Addison-Wesley Longman, Inc.、1997 年 (邦訳:『UML モデリングのエッセンス』、羽生田栄一 監訳、株式会社星雲社)

Donald C. Gause/Gerald M. Weinberg、『Exploring Requirements Quality Before Design』、Dorset House Publishing Co., Inc.、1989 年 (邦訳:『要求仕様の探検学 - 設計に先立つ品質の作り込み』、黒田 純一郎 監訳/柳川 志津子 翻訳、共立出版株式会社)

Ivar Jacobson、『Object-Oriented Software Engineering』、The ACM Press、Essex, England、Addison-Wesley Longman Limited、1992 年

Terry Quatrani、『Visual Modeling with Rational Rose and UML』、Reading, MA、Addison-Wesley Longman, Inc.、1997 年

この章では、主に Rational RequisitePro の概念について説明します。参照用の用語集は巻末にあります。

## RequisitePro を使用する理由

---

決められた期日内に決められた予算でプロジェクトの当初の目標を達成するには、要求の管理が最も重要な要素であるということが、複数の研究によって立証されています。RequisitePro を使用することによって、すべてのプロジェクト要求をチームで包括的に管理できるようになり、チーム内のコラボレーションとコミュニケーションが円滑になって、プロジェクトを成功させることができます。

RequisitePro は、ほかのアプローチと違い、ドキュメントとデータベースの両方を中心とした管理を行うツールです。Microsoft Word とマルチユーザー データベースを密接に統合することによって、関係を整理、順位付け、トレースします。また、要求に加えられた変更内容を容易に追跡することもできます。プログラム固有のアーキテクチャと動的リンクにより、データベース内の要求と Word ドキュメントの表示データの間に簡単に移動して作業できます。

## チームのコラボレーションとユーザーの満足

要求によりプロジェクトの全容が決まります。業界標準のほかのツールと RequisitePro を統合することによって、プロジェクト全体の要求データ フローが最適化され、要求データの整合性が助長されます。また、設計段階、テスト段階、文書化段階、納入段階のすべてにおいて、ユーザーのニーズを満たすことができます。RequisitePro とほかのライフサイクル ツールを細部まで統合することによって、再利用が促進され、情報の共有が容易になり、チーム内のコラボレーションがさらに円滑になります。

通常、製品開発チームは、ビジネス アナリスト、プロジェクト リーダー、製品マーケティング管理者、開発管理者、QA 管理者、開発者、テスト担当者など、多様なメンバーで構成されます。チームの各メンバーが重要な要求情報へのアクセス権を持ち、それらの要求を管理することができると、チームとしての効率性と能力が向上し、プロジェクトのリスクが減少します。

## Web コンポーネントの柔軟性

RequisitePro の Windows クライアント バージョンのほか、Rational RequisiteWeb では RequisitePro の Web クライアントを使用できます。RequisiteWeb を使用すると、イントラネット経由で RequisitePro の要求情報にアクセスできます。Requisite Web では、ブラウザ (Netscape Navigator か Microsoft Internet Explorer) を使用することでプロジェクトのドキュメントとデータにアクセスできる、シンクライアント ソリューションが提供されています。Rational アプリケーション固有のファイルをユーザーのコンピュータにインストールする必要はありません。

RequisiteWeb を使用すると、要求の名前、テキスト、属性をデータベース内で直接編集したり、ドキュメント内から修正できます。また、要求の作成、削除、クエリーや、要求に対する新しい親の割り当ても可能です。RequisitePro と同様に、すべての変更は自動的に追跡されます。Web による要求オーサリングでは、分散したチームやマルチプラットフォーム環境に対し、更に十分なサポートが得られます。

RequisiteWeb は、以下の機能をサポートしています。

- ドキュメントの表示
- ドキュメントまたはデータベース内の要求の修正
- データベース内の要求の作成
- 属性マトリックス ビューの作成と修正
- 追跡先または追跡元の追跡可能性ツリー ビューの作成と修正
- ユーザー パスワードの設定
- 階層関係の表示、修正、作成
- プロジェクト内外の追跡可能性のリンクの作成
- 要求のフィルタとソート
- ディスカッションの作成と応答

## 変更管理

変更は、ほぼすべての開発プロジェクトで発生するものです。しかし、そのためにプロジェクトリソースを費やしたり、プロジェクトの当初の計画を断念する必要はありません。不可欠の変更が発生した場合にも RequisitePro で管理することにより、要求の変化に合わせてチーム全体が常に最新の状態で対応することができます。RequisitePro の追跡可能性の機能を使用すると、異なる要求間の依存関係を確立し、維持できます。変更が発生すると、これらの追跡可能性の関係にはサスペクト状態を表すフラグが付けられます。これにより、変更がプロジェクト全体にどのような影響を及ぼすかを把握することができます。変更履歴は要求ごとに維持されるため、変更者、変更内容、変更日時、変更理由を確認できます。

## 包括的なプロセス サポート

IEEE、SEI CMM、統一モデリング言語 (UML) のいずれかを使用したユース ケース アプローチなどの厳密な要求管理プロセスをたどる場合でも、正式なプロセス定義を開始したばかりであっても、RequisitePro は、正確で高品質なソフトウェアを提供するという目標に向けて開発チームを全面的にサポートします。RequisitePro は、業界標準のプロジェクトテンプレートと属性を備えています。また、外部のドキュメントをインポートし、既存のプロジェクトに対応するようにカスタマイズする機能も搭載されています。

## RequisitePro の主要概念

---

ここでは、RequisitePro の概念について説明し、あらかじめ知っておくと役立つ用語をいくつか定義します。

### 要求

RequisitePro は、要求を体系化し、プロジェクトのライフサイクル全体での追跡可能性と変更管理を実現します。要求とは、システムが提供しなければならない条件や機能と定義されます。要求には、名前とテキストが含まれており、属性を限定し、詳細を指定することができます。要求は、ドキュメントかビューで作成できます。すべての要求情報はデータベース内に保存されます。

要求の詳細については、109 ページの「要求について」で説明します。

### 要求タイプ

要求タイプは、要求のアウトラインです。要求タイプを使用すると、類似する要求を分類して効率的に管理できます。要求タイプを定義するときは、一連の属性、表示スタイル、タグ番号付け情報を定義します。

プロジェクトに適した要求タイプを作成できます。詳細については、229 ページの「要求タイプの作成と変更」を参照してください。

### 要求の属性

RequisitePro では、要求はタイプ別と属性別に分類されます。属性の情報を使用して、要求を管理できます。属性は、分析や設計の段階からリリース段階に至るまで、チームがプロジェクトの作業について計画、連絡、監視するのに役立ちます。

次のような属性情報があります。

- 要求の相対的な利点
- 要求の実現にかかるコスト
- 要求の優先順位

- 要求に関連付けられた障害またはリスク
- 別の要求との関係

RequisitePro には、優先順位 (高、中、低)、ステータス (提案済み、承認済み、組み込み済み、検証済み)、コスト、障害などのデフォルトの要求属性があります。これらの属性は、推奨される属性です。必要に応じて属性を作成し、管理できます。RequisitePro では、使用する属性に関係なく、プロジェクト ドキュメントとデータベースを容易にカスタマイズできるため、組織のプロセスを定義、組織化、管理することができます。

属性を使用して、次のリリースで実装する要求を決定できます。たとえば、最初のリリースでは、リスクと障害の大きい要求のみを実装するとします。リスクと障害の属性値を各要求に割り当てておけば、これらの属性値をもとにクエリーを実行し、リスクと障害の大きいすべての要求を抽出することができます。

詳細については、232 ページの「要求属性の作成と変更」を参照してください。

## プロジェクト

RequisitePro プロジェクトは、要求データベースとその関連ドキュメントで構成されます。通常、プロジェクトはプロジェクト管理者によって作成されます。プロジェクト管理者は、プロジェクトの構造を決定し、プロジェクトのユーザーが使用するセキュリティ権限を設定します。

要求の表示とクエリーの実行や、ディスカッションへの参加はすべてのユーザーに許されていますが、プロジェクト内で要求の作成と管理を行えるのは一部のユーザー グループだけです。

プロジェクトの詳細については、171 ページの「プロジェクトの作成」、183 ページの「プロジェクトのセキュリティについて」、195 ページの「プロジェクトの管理」、219 ページの「プロジェクト情報について」を参照してください。

## プロジェクト データベース

プロジェクト データベースは、RequisitePro が管理する要求データベースです。RequisitePro を使用すると、Microsoft Access、Oracle、Microsoft SQL Server という 3 つの物理データベースのいずれかを使用して要求を保存できます。各 RequisitePro プロジェクトには、固有のデータベースがあり、プロジェクトに対するすべての要求が保存されています (Microsoft Access 以外のデータベースには、複数のプロジェクトを含めることができます)。

プロジェクト データベース内では、要求を追加、変更、削除できます。ドキュメント内の要求を変更すると、その変更がデータベースにも反映されます。

通常、プロジェクトには、製品要求ドキュメント、システム要求ドキュメント、ソフトウェアやハードウェアの仕様、ユーザー要求、品質保証手順、テストプランなど、さまざまな要求ドキュメントが含まれています。プロジェクト ドキュメントのすべての情報は、プロジェクト データベースに保存されます。データベースでは情報が一元化されるため、プロジェクト チームのメンバーは、要求の更新、優先順位やテスト計画の管理、プロジェクトの進捗状況の確認を 1 つの共有リポジトリで行うことができます。

## プロジェクトのバージョン管理

RequisitePro のバージョン管理では、プロジェクトをアーカイブすることで変更を追跡します。また、プロジェクトの複数のバージョンを管理できるので、体系的で一貫した方法で、アーカイブから改訂版を取り出し、修正し、再びアーカイブに戻すことが可能です。RequisitePro から、RequisitePro の [アーカイブ] コマンドまたは Rational ClearCase を使用できます。

チームで UCM (統一変更管理) を使用する場合、RequisitePro プロジェクト管理者は、Rational Administrator や ClearCase でタスクを実行したり、UCM モデルを実装することにより、RequisitePro プロジェクトのベースラインを作成できます。RequisitePro プロジェクトでベースラインが設定されている場合、そのベースラインを使用して RequisitePro で新規プロジェクトを作成できます。たとえば、プロジェクトの以前のリリースの設定が安定している場合、その設定に基づいて次のリリースを作成できます。

詳細については、202 ページの「プロジェクトのアーカイブ」と 211 ページの「UCM によるプロジェクトのベースラインの作成」を参照してください。

## プロジェクト リスト

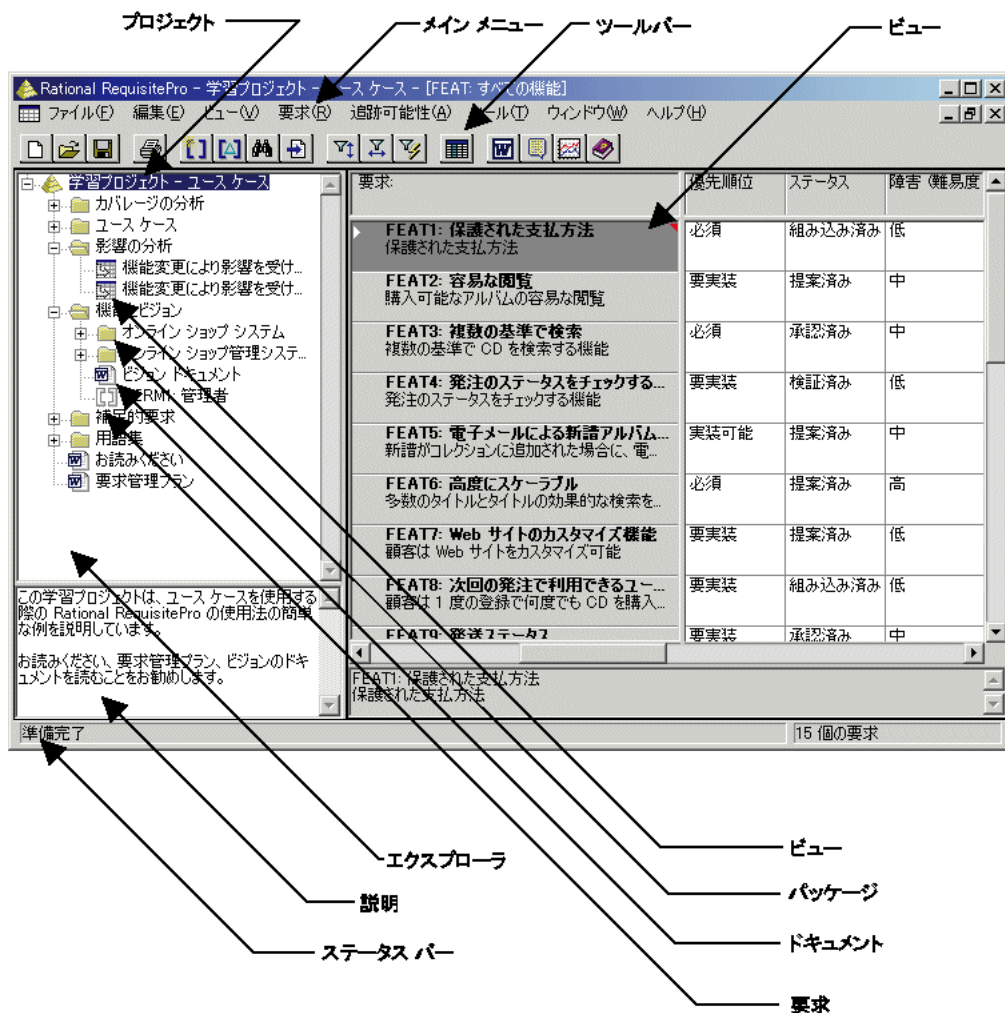
RequisitePro のプロジェクト リストは、各ユーザーがアクセスできる RequisitePro のプロジェクトのライブラリです。リストの内容はユーザーによって異なります。たとえば、この四半期に完了すべき全プロジェクトの進捗状況を監視しているプロジェクト管理者の場合は、それらすべてのプロジェクトが一覧表示されますが、一般のユーザーのリストには一度に 1 つのプロジェクトしか表示されません。

プロジェクト管理者は、ファイル システム (通常は RequisitePro Project ディレクトリ) に新規のプロジェクトを保存します。[プロジェクトとドキュメントを開く] ダイアログ ボックスで、必要に応じてプロジェクト リストにプロジェクトを追加したり、リストからプロジェクトを削除したりできます。詳細については、28 ページの「プロジェクト リストへの RequisitePro プロジェクトの追加」を参照してください。

## エクスプローラ

エクスプローラは、RequisitePro の主要なナビゲーション ウィンドウです。このウィンドウでは、プロジェクトの成果物 (ドキュメント、要求、ビュー、パッケージ) がツリー ブラウザ内に階層表示されます。プロジェクト情報はパッケージ単位で構成されます。パッケージとは、関連する成果物の構成単位です。プロジェクトのルート パッケージはプロジェクト ノードとして表示され、各ルート パッケージの内容がその下に表示されます。パッケージはカスタマイズ可能です。必要に応じて作成でき、名前の変更や並べ替えが行え、必要がなくなったときには削除することもできます。成果物を選択すると、その説明がエクスプローラの下ウィンドウに表示されます。

エクスプローラを使用して、プロジェクト構造や成果物を表示したり、プロジェクト情報を操作したりできます。たとえば、ビューまたはドキュメントをダブルクリックか右クリックして開く、要求を選択して編集する、パッケージ間で成果物をドラッグアンドドロップする、などの操作が行えます。開いたドキュメント、ビュー、要求に対して変更を加えると、エクスプローラの表示も変更されます。

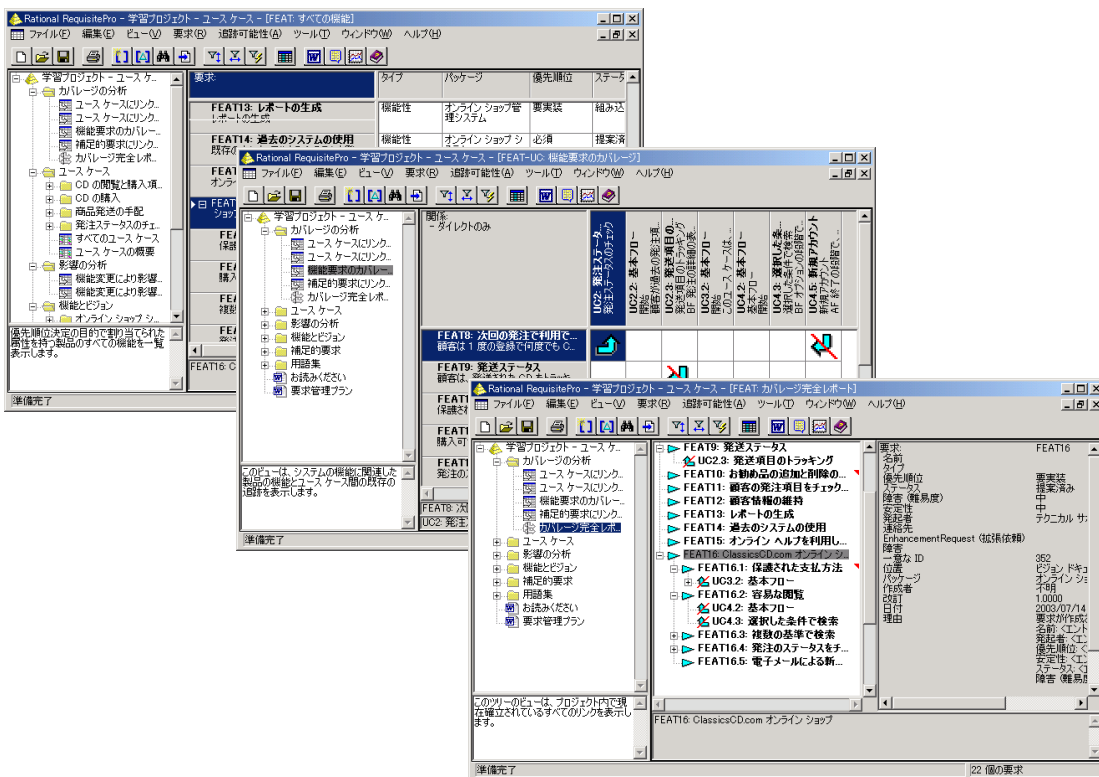


## ビュー

RequisitePro ビューは、データベースを表示するウィンドウです。プロジェクト、ドキュメント、要求についての情報は、表 (マトリックス) 形式かアウトライン ツリー形式でこのビューに表示されます。要求、要求の属性、要求の相互関係は、ビュー内で表示と管理を行います。RequisitePro には、ビュー内の要求とその属性に対してフィルタやソートするための強力なクエリー機能が実装されています (37 ページの「ビューの操作」を参照してください)。

次の 3 種類のビューを作成できます。

- 属性マトリックスには、指定したタイプのすべての要求が表示されます。各行に要求が表示され、各列にその属性が表示されます。
- 追跡可能性マトリックスには、2 種類の要求の相互関係 (追跡可能性) が表示されます。
- 追跡可能性ツリーには、特定のタイプの要求を追跡先または追跡元とする追跡可能性関係が表示されます。



これらは、同一要求を示した 3 種類のビューです。上から順に、属性マトリックス、追跡可能性マトリックス、追跡可能性ツリーです。

## ドキュメント

RequisitePro 内にドキュメントを作成するときには、RequisitePro Word を使用します。ドキュメントの外観は Word ドキュメントに似ていますが、ドキュメントに対するセキュリティ管理を RequisitePro で行えるように、いくつかの変更が加えられています。たとえば、RequisitePro Word ウィンドウでは、[ファイル] メニューの [名前を付けて保存] と [終了] のコマンドは無効になっています。これは、RequisitePro ドキュメントに対する処理の競合を避けるためです (Word ドキュメントを閉じるには、[ウィンドウ] メニューの [Word を閉じる] をクリックします)。[ツール] メニューの [テンプレートとアドイン] コマンドは無効になっています。これは、RequisitePro を正常に実行するために必要な RequisitePro テンプレートが削除されるのを防ぐためです。

要求ドキュメントは、要求を取り込み、プロジェクトの目的と最終目標を明確にし、製品開発に要する作業内容を連絡し合うための仕様書です。各要求ドキュメントには、以下で説明するドキュメント タイプが割り当てられます。

RequisitePro では、プロジェクト ドキュメント内で要求を直接管理します。作成された要求ドキュメントは、データベースに動的にリンクされます。これにより、ドキュメントとビューの間の情報更新が迅速に行われます。改訂版を保存すると、チーム メンバーやプロジェクトに関連するほかのメンバーもその改訂版を使用できるようになります。

RequisitePro でバージョンを追跡することで、要求、ドキュメント、プロジェクト全体の変更履歴を簡単に確認できます。

すべてのドキュメントが、要求ドキュメントであるとはかぎりません。プロジェクトには、要求を含まないドキュメントを含めることもできます。Word ドキュメントは、ファイル システム内の保存場所にかかわらずプロジェクトに関連付けることができ、プロジェクトを開くとドキュメントのリストに表示されます。詳細については、85 ページの「ドキュメントについて」を参照してください。

## ドキュメント タイプ

ドキュメント タイプは、ユース ケースやソフトウェア要求仕様などのドキュメントのタイプを識別するもので、同一タイプのドキュメント間で整合性を保つのに役立ちます。ドキュメント タイプは、ドキュメントに適用されるアウトラインです。アウトラインには、ドキュメントのデフォルト フォント、使用可能なヘッダーと段落スタイル、ドキュメントの要求のデフォルト タイプを設定できます。形式の規則や、要求情報を体系化するのに便利なアウトラインも設定できます。詳細については、223 ページの「ドキュメント タイプの作成と変更」を参照してください。

同じドキュメント タイプのすべてのドキュメントに、同じファイル拡張子 (たとえば、.prd など) が付きます。プロジェクトを作成または修正する場合は、ドキュメント タイプを決定しておきます。その後、ドキュメントを作成するときに、プロジェクト内で既に定義されているドキュメント タイプにドキュメントを関連付けることができます。新規のドキュメントは、ドキュメント タイプに関連付けられたスタイルと機能属性を継承するため、同じタイプのほかのドキュメントとの整合性が保たれます。

RequisitePro には、標準のドキュメント アウトラインが用意されています。これらのアウトラインは、そのまま使用することも、プロジェクトの仕様に合わせてカスタマイズすることもできます。ドキュメントの外観と表示する情報を定義すると、そのドキュメントを組織の標準ドキュメントとして使用できます。

標準ドキュメントには、次のような利点があります。

- アウトラインを使用すると、盛り込むべき情報のタイプを提示することができます。また、具体的な「作業」リストとしての役目を果たすので、必要な情報を見落とすことはありません。
- 見積りと手順が明確に表示されるので、新規のドキュメント作成者とチーム メンバーは短時間で必要な要求ドキュメントを作成できます。
- ドキュメント作成者は、アウトラインをよく理解することで、新規のドキュメントを短時間で作成できます。
- 読み手は、アウトラインをよく理解することで、必要な情報にすばやくアクセスして確認できます。

## 階層関係

階層要求関係は、同じタイプの要求間の 1 対 1、または 1 対多の親子関係です。階層関係を使用して、一般的な要求をより明示的な要求に分割します。

例：

親要求：

システムに顧客情報を表示します。

詳細を提供する子要求：

名前

住所

生年月日

階層関係を扱う場合は、次の点に注意してください。

- 子要求は親を 1 つしか持てませんが、いずれの要求も親と子の両方になることができます。
- 親要求と子要求は、同じ場所に配置する必要があります。ある親要求がドキュメントに含まれる場合、その子要求も同じドキュメントに含まれる必要があります。なお、すべての要求はデータベースに保存されます。

- ドキュメントかビューで階層関係を作成するには、[ 要求のプロパティ ] ダイアログボックスの [ 階層 ] タブを使用します ( ビューで [ 要求 ] メニューのコマンドを使用して階層関係を作成することもできます )。
- 親を削除する場合は、その子も削除するか、別の親に割り当てるかを選択できます。
- 親とその子の間には、追跡可能性関係を作成できません。
- 階層関係は、RequisitePro での変更管理された関係の 1 つです。要求を変更すると、子との関係はサスペクトになります。追跡可能性マトリックスか追跡可能性ツリーを使用して、サスペクト関係の表示と管理を行うことができます。

詳細については、135 ページの「階層について」を参照してください。

## 追跡可能性関係

ある要求を、同じタイプまたは異なるタイプの関連要求にリンクすることを追跡可能性といいます。RequisitePro の追跡可能性機能を使用することにより、開発サイクル全体を通じて、要求の変更を簡単に追跡できます。追跡可能性がない場合は、変更のたびにドキュメントを確認して、更新する必要があるのはどの要素かを調べる必要があります。

追跡可能性関係を扱う場合は、次の点に注意してください。

- 追跡可能性関係は、同じタイプまたは異なるタイプの要求の間に作成できます。
- 追跡可能性関係は、同一ドキュメント、別のドキュメント、またはプロジェクトデータベース内に存在する要求の間に作成できます。
- ドキュメントかビューを使用して、追跡可能性関係を作成、表示、操作します。
- 追跡可能性関係は、RequisitePro の変更管理された関係の 1 つです。関連付けられている 2 つの要求のどちらか一方を変更すると、その関係はサスペクトになります。ほかの要求の追跡先または追跡元となっている要求のテキストや属性を修正すると、それら 2 つの要求間の関係は「サスペクト」としてマークされます。
- 追跡可能性関係は循環参照できません。たとえば、ある要求とそれ自身の間に追跡可能性関係は存在しません。また、ある関係が、間接的に以前の追跡元ノードに戻るような関係も存在しません。追跡可能性関係を設定すると、RequisitePro によって循環参照がないかどうかチェックされます。

**メモ：** 親とその子の間には追跡可能性関係を作成できませんが、親要求と、別の親要求の子との間には追跡可能性関係を作成できます。

詳細については、145 ページの「追跡可能性について」を参照してください。

## 追跡先/追跡元関係

追跡先/追跡元の状態は、2つの要求間での両方向の依存関係を表します。追跡先/追跡元の状態とは、2つの要求間に関係を作成したとき、追跡可能性マトリックスまたは追跡可能性ツリーで生じる状態のことです。

たとえば、アプリケーションの特定メニューに追加する新しいコマンドを要求する機能要求 (要求 A) を作成します。さらに、別の要求ドキュメントで、そのメニュー項目に関連付けられたユース ケース要求 (要求 B) を作成するとします。このような場合、ユース ケース要求 (B) が機能要求 (A) の追跡先となる追跡可能性関係が作成されます。

2つの要求の間に存在できる追跡可能性関係は1つだけです。関係を追跡先と呼ぶか、追跡元と呼ぶかは、どちらの観点から見るかによって異なります。この例は、以下の2とおりに表現できます。

- A は B の追跡元である
- B は A の追跡先である

## 直接のおよび間接的な追跡可能性関係

追跡可能性関係は、直接的な場合と間接的な場合があります。

直接的な追跡可能性関係では、要求は別の要求の物理的な追跡元または追跡先となります。たとえば、要求 A が要求 B の追跡元であり、要求 B が要求 C の追跡元である場合、要求 A と要求 B、要求 B と要求 C は直接的な関係にあります。要求 A と要求 C は間接的な関係にあります。間接的な関係は RequisitePro によって管理されるため、ユーザーは直接修正できません。

直接のおよび間接的な追跡可能性関係は、追跡可能性ビュー内の矢印で表されます。直接的な関係は普通の矢印で、間接的な関係は色の薄い点線の矢印で表されます。

## サスペクト関係

RequisitePro によって要求の変更が検出されると、要求間の階層関係または追跡可能性関係はサスペクトとなります。要求を修正すると、要求の直接的なすべての子関係と、その要求を追跡先または追跡元とする直接的なすべての関係がサスペクトになります。

要求を変更すると、追跡可能性マトリックスまたは追跡可能性ツリーにサスペクト状態が表示されます。変更内容には、要求名、要求テキスト、要求タイプ、属性に対して行われた変更が含まれます。

サスペクトとしてマークされた親子関係と追跡可能性関係については、143 ページの「サスペクト関係」と 151 ページの「サスペクト関係」を参照してください。



# Rational RequisitePro の 基本操作

# 3

この章では、RequisitePro を開き、RequisitePro のプロジェクトにアクセスするための基本的な操作について説明します。

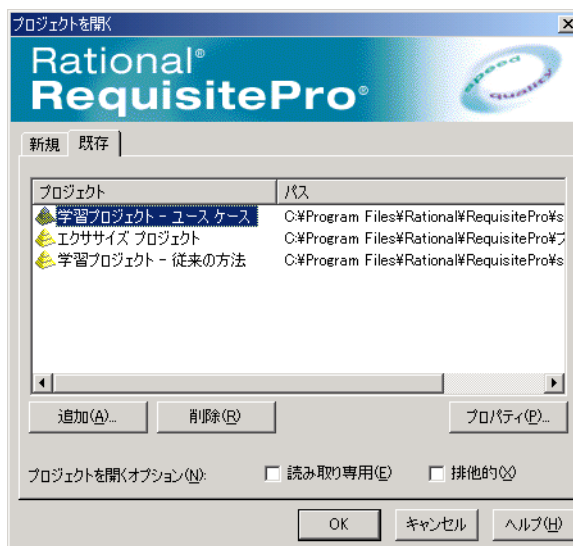
## RequisitePro の起動

RequisitePro は、次のいずれかの方法で起動できます。

- Windows の [ スタート ] メニューの [ プログラム ] をクリックします。インストールされている Rational Windows Suite か RequisitePro をクリックしてから、[Rational RequisitePro] をクリックします。
- Windows エクスプローラで、.rqs という拡張子の付いたファイル名をダブルクリックします。

## RequisitePro での作業

RequisitePro を起動すると、[プロジェクトを開く] ダイアログボックスが開きます。このダイアログで、操作するプロジェクトを選択するか、新規プロジェクトを作成します。プロジェクトリストからプロジェクトを選択する場合は [既存] タブを、プロジェクトを作成する場合は [新規] タブをクリックします。



RequisitePro にはエクスプローラ ウィンドウ (ツリー ブラウザ) と説明ウィンドウがあります。エクスプローラは、RequisitePro の主要なナビゲーション ウィンドウです。エクスプローラには、開いているプロジェクトの要求の成果物 (要求、ビュー、ドキュメント、その他のパッケージ) が、パッケージごとに表示されます。成果物を選択すると、その説明がエクスプローラの下側のウィンドウに表示されます。ビューはエクスプローラの右側に表示されます。RequisitePro のドキュメントは、これらのものとは別に Microsoft Word に表示されます。

RequisitePro のツールバーとメニューには RequisitePro のコマンドが表示されます。これらを使用して、プロジェクト情報、要求情報、ビューにアクセスできます。ツールバーのボタンにカーソルを合わせると、ボタンの機能を説明するツールチップが表示されます。

## プロジェクトとプロジェクト パッケージの操作

RequisitePro を起動すると、[プロジェクトを開く] ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログで、操作するプロジェクトを選択するか、新規プロジェクトを作成します。[既存] タブには、アクセス可能なすべての RequisitePro プロジェクトが表示されます。必要に応じて、リストにプロジェクトを追加したり、リストからプロジェクトを削除したりできます。

[プロジェクトを開く] ダイアログ ボックスには、最近の使用状況に従ってプロジェクトが表示されます。つまり、最後に開いたプロジェクトがリストの一番上に表示されます。プロジェクトを選択して [OK] をクリックすると、そのプロジェクトはエクスプローラ内に表示され、その前には [RequisitePro] アイコンが表示されます。プロジェクト名の前のプラス記号は、プロジェクトに成果物があることを表します。プラス記号をクリックすると、リストが展開して非表示のオブジェクトが表示されます。

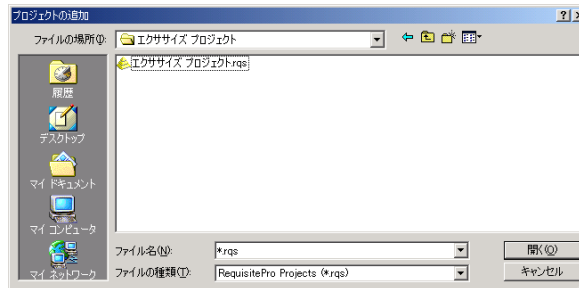
各プロジェクト内には、要求の成果物がパッケージ単位で表示されます。パッケージとは、要求ドキュメント、要求、ビュー、その他のパッケージが入るコンテナです。関連する成果物を 1 つのパッケージに入れることができるので、関連する成果物の表示やデータの操作が簡単に行えます。必要に応じてパッケージを設定して、作業の効率化を図ることができます。1 つの成果物を複数のパッケージ内に表示することはできませんが、別のパッケージに移動することはできます。パッケージ内に別のパッケージを作成することができます。プロジェクトのすべてのパッケージを、すべてのプロジェクト ユーザーで共有できます。

パッケージ内で成果物が表示される順序は、ドキュメント (名前のアルファベット順)、ビュー (タイプ順。タイプ内ではアルファベット順)、要求 (タイプ順。タイプ内ではタグ順) の順です。

## プロジェクト リストへの RequisitePro プロジェクトの追加

RequisitePro プロジェクトにアクセスするには、プロジェクト リストにそのプロジェクトを追加しておく必要があります。プロジェクトを作成すると、そのプロジェクトはプロジェクト リストに自動的に追加されます。

- 1 [ファイル]メニューの[プロジェクトを開く]をクリックします。[プロジェクトを開く]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [追加]をクリックします。[プロジェクトの追加]ダイアログボックスが表示されます。



- 3 リストに追加するプロジェクトファイルを選択します。プロジェクトファイルの拡張子は、.rqs です。
- 4 [開く]をクリックします。プロジェクトはプロジェクトリストに追加され、[既存]タブにほかのプロジェクトと共に表示されます。これで、このプロジェクトを開き、要求やドキュメントを使用して作業できるようになりました。

**ヒント:** [プロパティ] ボタンをクリックして、選択したプロジェクトのデータベース プロパティを表示または変更します。

- 5 [OK] をクリックし、変更を保存します。

**メモ:** フロッピー ディスクに保存されているプロジェクトをプロジェクト リストに追加するには、Windows エクスプローラを使用して、プロジェクトをローカル ドライブかネットワーク ドライブに移動またはコピーしてから、プロジェクト リストに追加します。

## プロジェクト リストからのプロジェクトの削除

システムからファイルを削除せずに、プロジェクト リストから RequisitePro プロジェクトを削除できます。

プロジェクト リストからプロジェクトを削除するには

- 1 [ファイル]メニューの[プロジェクトを開く]をクリックします。  
[プロジェクトを開く]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 削除するプロジェクトを選択し、[削除]をクリックします。プロジェクトが削除されます。
- 3 [OK] をクリックし、変更を保存します。

**メモ:** 削除したプロジェクトを復元するには、[追加] をクリックします。詳細については、前の項を参照してください。

## プロジェクトとプロジェクト ドキュメントを開く

RequisitePro プロジェクトを開くと、プロジェクトはエクスプローラ内に表示されます。プロジェクトの成果物は、プラス記号をクリックするまでは非表示になっている場合があります。28 ページの「プロジェクトとプロジェクト パッケージの操作」で説明したように、成果物はパッケージ内にあります。成果物を開くには、エクスプローラ内で成果物を選択し、ダブルクリックするか、右クリックして [開く] をクリックします。

バージョン 4.0 以上の RequisitePro で作成したプロジェクトは更新する必要があります。更新が必要なプロジェクトを開こうとすると、データベース アップグレード ウィザードが表示されます。このウィザードを使用すると、プロジェクト管理者は既存のデータベース構造やプロジェクト データを RequisitePro の最新のリリースの状態へアップグレードするプロセスを実行できます。パッケージ単位で構成されていないプロジェクトのアップグレードの詳細については、180 ページの「RequisitePro プロジェクトの最新バージョンへのアップグレード」を参照してください。

4.0 より前の RequisitePro で作成されたプロジェクトの場合は、データベース アップグレード ウィザードを使用する前に、プロジェクトをバージョン 4.0 にアップグレードする必要があります。詳細については、カスタマ サポートにお問い合わせください。

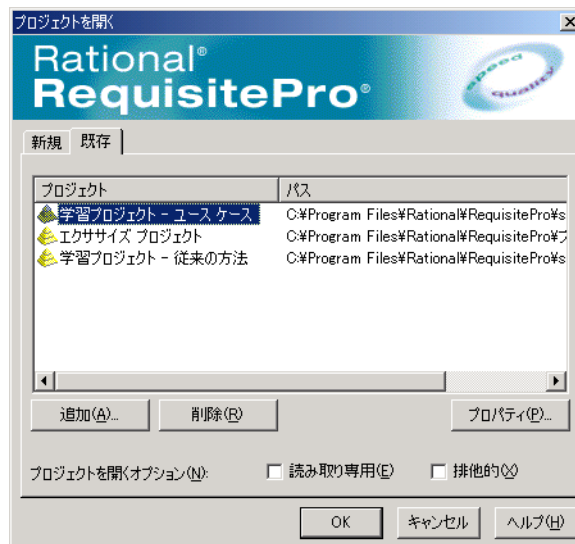
**メモ：**UCM (統一変更管理) でベースラインを作成しているプロジェクト、または ClearCase に追加中のプロジェクトは開かないでください。

プロジェクトを開くには



- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクトを開く] をクリックします (または、[プロジェクト] ボタンをクリックします)。

[プロジェクトを開く] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 2** 開くプロジェクトを選択し、[プロジェクトを開くオプション] チェック ボックスでいずれかのオプションを選択します。プロジェクトを変更する権限を自分だけが持つようにする場合は、[排他的] チェック ボックスをオンにします。プロジェクトとそのドキュメントを読み取り専用モードで開くには、[読み取り専用] チェック ボックスをオンにします。[OK] をクリックします。

プロジェクトのセキュリティ設定に応じて、次のいずれかのダイアログ ボックスが表示されます。

- プロジェクトにセキュリティが設定されている場合は、33 ページの「保護プロジェクトへのアクセス」を参照してください。
- プロジェクトにセキュリティが設定されておらず、そのプロジェクトに自分のユーザー名が登録されていない場合は、[プロジェクト ログオン] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 3** 次のいずれかを実行します。

- 表示された名前をそのまま使用します。
- リストからユーザー名を選択します。
- プロジェクトに追加する新規のユーザー名を入力します。

- 4** [OK] をクリックします。プロジェクトがエクスプローラに表示されます。そのプロジェクトが排他的権限を持つユーザーによって既に開かれている場合は、読み取り専用アクセスになります。

次の方法のいずれかにより、開いた Rational RequisitePro プロジェクト内で、1 つまたは複数の要求ドキュメントを開くことができます。

- エクスプローラ内で、1 つまたは複数のドキュメントをダブルクリックします。
- [ウィンドウ] メニューの [Word の表示] をクリックします。Word で、[RequisitePro] の [ドキュメント] をポイントし、[開く] をクリックします。[ドキュメントを開きます。] ダイアログ ボックスが表示されます。1 つまたは複数のドキュメントを選択し、[OK] をクリックします。

**メモ:** ドキュメントを開いているときに、途中で [ESC] を押さないでください。ドキュメントを変更しないで表示するだけの場合は、ドキュメントをエクスプローラで右クリックして、[読み取り専用で開く] をクリックします。

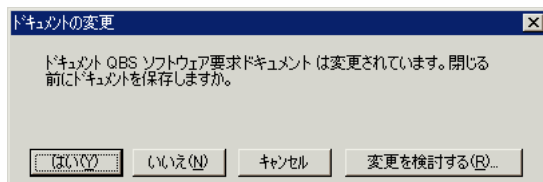
## プロジェクトとドキュメントを閉じる

[閉じる] コマンドを使用すると、プロジェクト、プロジェクトのドキュメント、開いているすべてのビューが閉じます。

- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクトを閉じる] をクリックします。

何も変更していない場合は、[プロジェクトを閉じる] ダイアログ ボックスが表示されます。プロジェクトとそのドキュメントを閉じるか、開いたままにしておくかを選択します。プロジェクトとそのドキュメントを閉じる場合は、[はい] をクリックします。

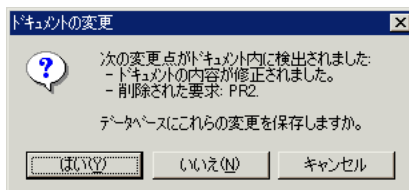
ドキュメントを変更した後、変更内容を保存していない場合は、[ドキュメントの変更] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 2 次のいずれかを実行します。

- ドキュメントの変更内容を保存するには、[はい] をクリックします。要求テキストを変更した場合は [変更の説明] ダイアログ ボックスが表示されます。保存する前に、このダイアログ ボックスに変更理由を入力してください。
- ドキュメントの変更内容を保存せずにプロジェクトを閉じるには、[いいえ] をクリックします。
- プロジェクトを閉じるのをキャンセルするには、[キャンセル] をクリックします。
- ドキュメントの変更内容を確認するには、[変更を検討する] をクリックします。要求テキストを変更した場合は [変更の説明] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスに変更理由を入力してください。

[ドキュメントの変更] ダイアログ ボックスに、ドキュメントの変更内容が一覧表示されます。



3 次のいずれかを実行します。

- ドキュメントの変更内容を保存するには、[はい] をクリックします。
- ドキュメントの変更内容を保存せずにプロジェクトを閉じるには、[いいえ] をクリックします。
- プロジェクトを閉じるのをキャンセルするには、[キャンセル] をクリックします。

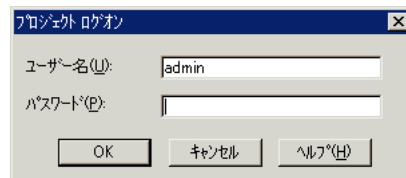
## 保護プロジェクトへのアクセス

プロジェクト管理者は、プロジェクトにセキュリティを設定できます。プロジェクトにセキュリティが設定されている場合、ユーザーはログオン時にパスワードを入力しなければなりません。セキュリティを設定し、チームの各メンバーにユーザー名とパスワードを割り当てる作業は、プロジェクト管理者が行います。

## RequisitePro へのログオン

保護 RequisitePro プロジェクトへのログオンとアクセスを行うには

- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクトを開く] をクリックします。[プロジェクトを開く] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 リストから、開くプロジェクトを選択し、[OK] をクリックします。選択したプロジェクトにセキュリティが設定されている場合は、[プロジェクト ログオン] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 3 [ユーザー名] ボックスにユーザー名を入力します。ユーザー名は最大 20 文字で、大文字と小文字は区別されません。
- 4 パスワードを入力します。パスワードは、プロジェクトの管理者が設定します。パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。たとえば、Mycomputer、MYCOMPUTER、mycomputer は別のパスワードです。
- 5 [OK] をクリックします。これで、プロジェクトを使用できるようになりました。

## パスワード、ユーザー名、電子メールアドレスの変更

プロジェクトにログインすると、パスワード、ユーザー名、電子メールアドレスを変更できます。RequisitePro 管理者と、プロジェクトのセキュリティ権限を持つグループのメンバーは、ほかのユーザーのパスワード、ユーザー名、電子メールアドレスを変更することもできます。187 ページの「ユーザー情報の編集」を参照してください。

RequisitePro ディスカッション メッセージを電子メールで受け取るには、有効な電子メールアドレスが必要です。詳細については、66 ページの「ディスカッション用の電子メールの設定」を参照してください。

- 1 プロジェクトを開き、ログオンします。
- 2 [ファイル] メニューの [プロジェクト管理] をポイントし、[セキュリティ] をクリックします。[プロジェクトセキュリティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 [このプロジェクトのセキュリティを有効にする] チェック ボックスをオンにします。ユーザー グループとユーザー名を選択し、[編集] ボタンをクリックします。  
[ユーザーの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。

パスワードを変更するには

- 1 ダイアログ ボックス内の [古いパスワード] ボックスに、パスワードを入力します。  
この手順は、プロジェクト セキュリティ権限を所有しないユーザーにのみ適用されます。
- 2 [新規パスワード] ボックスに新しいパスワードを入力します。パスワードは半角英数字 14 文字までで、大文字と小文字が区別されます。
- 3 正しく入力されているかどうか確認するため、[確認入力] ボックスに新しいパスワードをもう一度入力します。
- 4 [OK] をクリックします。新しいパスワードが保存され、使用できるようになります。

自分のユーザー名を変更するには  
(プロジェクトのセキュリティ権限を持っているユーザーの場合)

- 1 [ユーザー名] で、現在の名前を選択します。
- 2 新しいユーザー名を入力します。ユーザー名は半角英数字 20 文字までで、大文字と小文字は区別されません。
- 3 [OK] をクリックします。新しいユーザー名が保存され、使用できるようになります。

電子メールアドレスを変更するには

- 1 [電子メールアドレス] ボックスで現在の電子メールアドレスを選択します。
- 2 新しい電子メールアドレスを入力します。
- 3 [OK] をクリックします。新しい電子メールアドレスが保存され、使用できるようになります。

## RequisitePro を閉じる

---

プロジェクトとプロジェクトのドキュメントを閉じます (32 ページの「プロジェクトとドキュメントを閉じる」を参照してください)。[ファイル] メニューの [終了] をクリックします。



RequisitePro のビューでは、要求とその属性や、異なるタイプの要求間の追跡可能性関係を表とアウトライン ツリーによって表示します。RequisitePro には、要求とその属性をビュー内でフィルタしてソートするための強力なクエリー機能が備わっています。

ビューは、要求の分析と印刷を行う環境です。一度に複数のビューを開いたり、スクロールして表やツリー内のすべての要求と属性を表示したりできます。現在のビューに含まれる要求の数は、ビュー ウィンドウの右下隅に表示されます。

以下の 3 種類のビューを作成できます。

- 属性マトリックス ビューには、指定したタイプの要求とその属性がすべて表示されます。
- 追跡可能性マトリックス ビューには、2 つのタイプの要求間の関係が表示されます。
- 追跡可能性ツリー ビューには、プロジェクトの要求全体の追跡可能性関係が表示されます。追跡可能性ツリーは、指定したタイプの要求の**追跡元**、または指定したタイプの要求の**追跡先**のいずれかで設定できます。

ビューでは、次の操作が行えます。

- 要求名、要求テキスト、要求属性、追跡可能性関係の作成と修正
- ビュー情報のソートとフィルタ
- ビューのクエリーの保存と設定の表示
- 別の形式でのビュー情報の保存
- ビューの印刷

## ビュー上でのコマンドの使用と要求間の移動

---

すべてのビュー コマンドはツールバーから使用できます。ビュー内をすばやく移動するには、矢印、[PageUp]、[PageDown]、[Home]、[End] のキーを押します。マウスの右ボタンは、要求や属性に固有のコマンドへのショートカットとして使用できます。要求と属性のラベルにマウスカーソルを置いて右クリックすると、ショートカット メニューが表示されます。詳細については、272 ページの「ビューでのマウス操作とショートカット」を参照してください。

マトリックスかツリーで要求を選択すると、選択した要求のフル ネームとテキストが、ビューの一番下のテキスト ペインに表示されます ( マウス カーソルを上部の境界線上に置いて上方にドラッグすることで、テキスト ペインのサイズを変更できます)。エクスプローラで要求を選択すると、エクスプローラ ペインの下の説明ウィンドウに要求名が表示されます。

## 現在のデータの表示

---

ビューが開いている間に、ほかのユーザーが要求を追加したり、ビューに表示されている要求を削除または変更したりする可能性があります。これらの操作は、開いているビューまたはエクスプローラには自動的に反映されません。



ビューやエクスプローラに表示されたデータに、ほかのユーザーが修正した要求を反映するには、ビューまたはエクスプローラをクリックし、[ビュー] メニューの[更新] (または[ビューの更新] ボタン) をクリックします。[更新] コマンドによって、表示内容が更新されます。

## ビュー内の追跡可能性

---

追跡可能性マトリックス ビューと追跡可能性ツリー ビューには、追跡可能性関係が表示されます。属性マトリックスには、[追跡先] または [追跡元] の属性が表示されます。要求を変更すると、追跡可能性関係がサスペクトとして表示されます。要求間の追跡可能性関係については、145 ページの「追跡可能性について」を参照してください。

- 追跡可能性マトリックス ビューと追跡可能性ツリー ビューで、追跡可能性の直接的な関係は矢印で表されます。矢印が A から B に向いている場合、A は B の追跡元であり、B は A の追跡先であることを意味します。



- 追跡可能性ツリー ビューと追跡可能性マトリックス ビューでは、サスペクトの追跡可能性関係は斜線の入った矢印で表されます。属性マトリックスでは、サスペクトの追跡可能性関係は、[追跡先] または [追跡元] の列の要求タグの後に (s) が表示されます。
- ほかの要求関係を経て導き出される関係を、間接的な関係といいます。追跡可能性ツリーと追跡可能性マトリックスでは、間接的な追跡可能性関係は、直接的な関係よりも薄い色の点線矢印で表されます。

## ビュー内の階層

---

すべてのビューには階層関係が表示されます。追跡可能性マトリックスと追跡可能性ツリーを使用して、サスペクトとしてマークされた階層関係を表示できます。要求間の階層関係については、135 ページの「階層について」を参照してください。

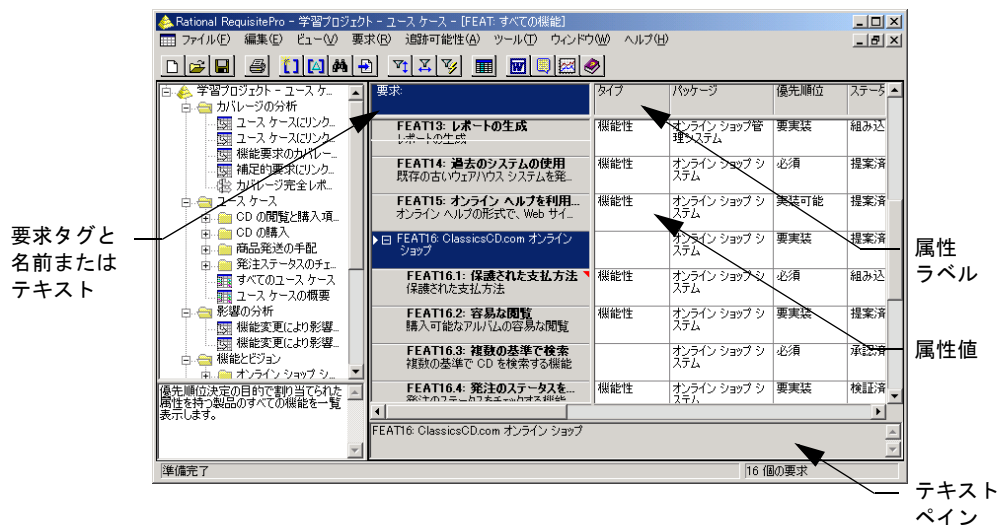
- ビューで階層関係を作成するには、[要求] メニューのコマンドを使用するか、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスの [階層] タブで要求のプロパティを編集します。
- 親要求を変更すると、その親と直接つながっているすべての子要求との関係がサスペクトとしてマークされます。
- 子要求を変更しても、その親との関係はサスペクトとしてマークされません。
- 子要求に新しい親を割り当てると、新しい親とその直接の子との関係は自動的にサスペクトとしてマークされます。子とその子の関係は、サスペクトとしてマークされません。
- 追跡可能性ツリーでは、ユーザーが自分で階層関係をサスペクトとしてマークしたり、サスペクト関係を解除したりできます。

ビューやエクスプローラに表示する子要求のレベルを設定できます。

- 1 [ビュー] メニューの [表示レベル] をクリックします。[レベルの表示] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 行に表示するレベル数を設定します。[1] を選択すると、ルート成果物のみが表示されます。[2] を選択すると、ルート成果物より 1 レベル下まで表示されます。[すべて] を選択すると、すべてのレベルが表示されます。追跡可能性マトリックスで、列に表示するレベル数を設定します。
- 3 これらのレベルをビューのデフォルトとして保存するには、[ビュー] メニューの [プロパティ] をポイントし、[デフォルト値として保存] をクリックします。現在選択されているペイン サイズ、ウィンドウ サイズ、表示レベル、すべてのビューのプロパティがデフォルト設定として保存されます。

## 属性マトリックス

属性マトリックスはスプレッドシートの表示画面に似ており、特定の要求タイプの要求とその属性が一覧表示されます。要求は各行にタグ番号別に一覧表示され、その後に要求名(要求に名前が割り当てられていない場合は要求テキスト)が表示されます。属性は列に表示されます。属性マトリックスにはすべての要求が表示されます。このビューを使用して、データベース内に要求を作成できます。



## 要求

属性マトリックスでは、要求は 1 行に表示されます。要求タグの後には、要求名が続きます。要求に名前が割り当てられていない場合は、要求テキストが続きます。要求テキストが行幅よりも長い場合は、テキストの最後に、さらにテキストが続くことを示す省略記号 (...) が表示されます。行の先頭の矢印は、その行が選択されていることを示します。

マトリックスの一番下の空白行には、先頭にアスタリスク (\*) が付いて「ここをクリックして要求を作成」と表示されます。この行に、新規要求を入力できます。行の先頭の鉛筆アイコンは、入力中の要求情報が保存されていないことを示します。

表示されている要求名や要求テキストの行数を変更するには、[ビュー]メニューの[行/列のサイズ設定]をクリックし、行または列のサイズに、それぞれの値を選択します。

## 属性

属性ラベルは、列の一番上に表示されます。対応する属性値は、属性レベルの下に表示されます。クエリー情報もここに表示されます。

[ビュー]メニューの[表示する属性]をクリックすると、ビューに表示する属性を選択できます。属性マトリックスの[追跡先]列と[追跡元]列には、内部と外部のすべての追跡可能性関係が表示されます。サスペクトの追跡可能性関係は、該当する列に(s)が表示されます。属性列のサイズは変更できます。

## テキスト ペイン

属性マトリックスの一番下のテキスト ペインに、要求のタグ、名前、テキストが表示されます。複数の要求を選択した場合には、「複数の要求が選択されました。」と表示されます。このフィールドは、読み取り専用です。要求テキスト内のグラフィック オブジェクトと OLE オブジェクトは、小さな矩形記号として表示されます。要求テキストに含まれる Word とリンクされたファイルの場合は、リンクされたファイルのパスとタイム スタンプが表示されます。テキスト ペインのデフォルトのサイズは2行ですが、境界線をドラッグしてサイズを大きくすることができます。

## 追跡可能性マトリックス

---

追跡可能性マトリックスには、2つのタイプの要求間での関係が表示され、両者の関係を操作できます。要求は、同じ種類の場合も異なる種類の場合もあり、内部的と外部的にマップされたすべての要求が含まれます。このビューを使用して、追跡可能性関係を作成、変更、または削除し、間接的な関係を表示します。追跡可能性マトリックスには、サスペクトとしてマークされた追跡可能性関係も表示されます。同じタイプの要求の追跡可能性マトリックスを表示すると、サスペクトとしてマークされた階層関係が示されます。

このビューでは、一方の要求がもう一方の要求の**追跡先**または**追跡元**になります。たとえば、要求 B が要求 A から直接的または間接的に追跡されている場合、要求 B は要求 A の追跡先です。要求 A がほかの複数の要求の基礎になっている場合、要求 A はその要求の追跡元になります。

ある要求から別の要求に向いている矢印は、それらの要求の間に直接的な追跡可能性関係が存在することを示します。点線の矢印は、間接的な関係を示します。

行と列のサイズは変更できます。行と列の交わる部分をセルといいます。

表示される要求名や要求テキストの行数を変更するには、[ビュー]メニューの[行/列のサイズ設定]をクリックし、行や列のサイズを入力します。

**メモ:** 要求名が割り当てられている場合は、各行または各列の最初の行または列に、その名前が表示されます。名前とテキストの両方を表示するには、行または列のサイズを大きくしてください。

## セル

- セルが空白の場合は、関係は存在しません。
- 矢印が上向きに列の要求を指している場合、その行要求は、矢印が指している列要求の追跡元となります。
- 矢印が下向きに列の要求を指している場合、その行要求は、矢印が指している列要求の追跡先となります。
- 点線矢印が表示されている場合、間接的な関係が存在します。
- 赤い斜線の入った矢印が表示されている場合、追跡可能性関係はサスペクトです。
- 赤い斜線の入った三角形が表示されている場合、階層関係はサスペクトです。



追跡先矢印



追跡元矢印



間接的な関係



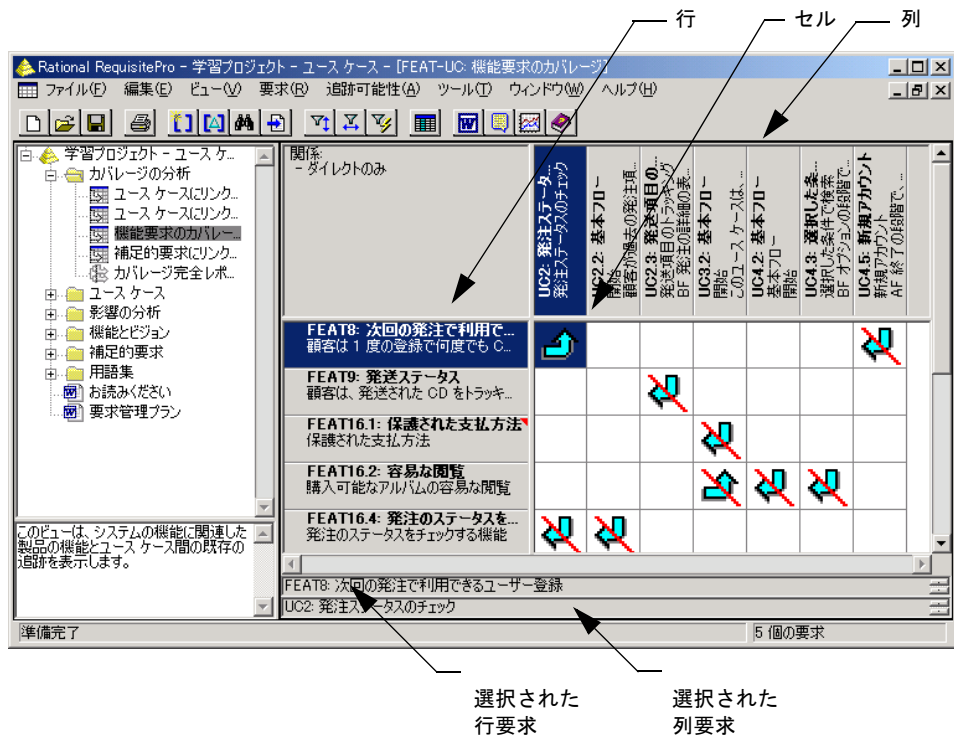
サスペクト関係



サスペクト関係

## テキスト ペイン

追跡可能性マトリックスでは、ウィンドウ下部に 2 つのテキスト ペインが表示されます。テキスト ペインには各領域内の要求を表示できるため、追跡可能性関係の作成、変更、削除を簡単に行うことができます。各ペインのデフォルト サイズは 1 行に設定されていますが、サイズは変更できます。上のテキスト ペインには、現在選択されている行要求の名前 (またはテキスト) が表示され、下のペインには、現在選択されている列要求の名前 (またはテキスト) が表示されます。これらのフィールドは、読み取り専用です。選択した要求の名前が割り当てられている場合は、テキスト ペインにその名前が表示されます。名前がない場合は、要求テキストがテキスト ペインに表示されます。複数の行または列が選択されている場合、対応するテキスト ペインには、「複数の要求が選択されました。」と表示されます。要求テキスト内のグラフィックオブジェクトと OLE オブジェクトは、小さな矩形記号として表示されます。要求テキストに含まれる Word とリンクされたファイルの場合は、リンクされたファイルのパスとタイム スタンプが表示されます。

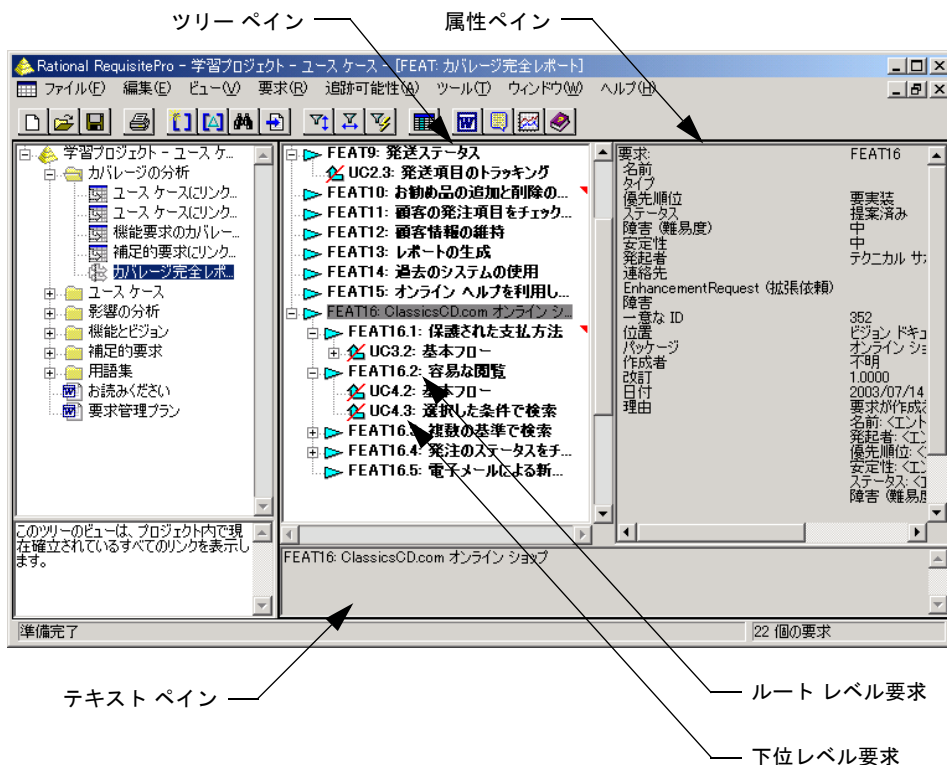


## 追跡可能性ツリー

追跡可能性ツリーには、ここで指定した要求タイプの (内部と外部) 要求間の関係 (直接的な関係、間接的な関係、サスペクトの追跡可能性関係) がグラフィカルに表示されます。直接的な関係とサスペクト関係はこのビューで変更できますが、間接的な関係は読み取り専用のアクセスのみ可能です。

また、追跡可能性ツリーには階層関係が表示され、サスペクトとしてマークされた親子関係が示されます。

選択した要求のタグ、名前、属性が属性ペインに表示されます。







追跡可能性ツリーを作成する場合、すべての要求が表示されるツリーのルートには、要求の追跡先を配置するのか追跡元を配置するのか選択できます。

## ツリー ペイン



ルートレベル要求の追跡可能性関係がインデントして表示され、先頭に矢印が付きます。子要求は、親要求の下にインデントして表示され、先頭に三角形が付きます。ツリーの下テキストペインには、ツリー内で選択した要求の名前とテキストが表示されます。ビューの右側のペインには、強調表示された要求の要求属性が表示されます。

**メモ：** ツリーペインのサイズを変更するには、ツリーペインと属性ペインの境界線をクリックします。マウスの左ボタンを押しながら左右にドラッグすると、サイズを調整できます。これは、[行/列のサイズ設定] ダイアログボックスで設定した行の長さには影響を与えません。

-  ルート要求からの矢印が下位要求を指している場合、その下位要求は、ルート要求から追跡されます。これは、追跡可能性ツリーの追跡元でのみ表示されます。
-  下位要求からの矢印がルート要求を指している場合、その下位要求は、ルート要求に追跡されます。これは、追跡可能性ツリーの追跡先でのみ表示されます。
-  赤い斜線の入った矢印が表示されている場合、追跡可能性関係はサスペクトです。
-  赤い斜線の入った三角形が表示されている場合、階層関係はサスペクトです。

## 属性ペイン

追跡可能性ツリーの右側にある属性ペインに、現在選択している要求のタグ、名前、属性が表示されます。特定の要求の属性を表示するには、ツリー ペインで目的の要求をクリックします。属性は読み取り専用なので、編集できません。

複数の要求を選択した場合は、最初に選択した要求の属性が表示されます。

## テキスト ペイン

追跡可能性ツリーの一番下のテキスト ペインに、要求の名前とテキストが表示されます。このフィールドは、読み取り専用です。特定の要求のフル ネームとテキストをすべて表示するには、ツリー ペインで要求をクリックします。ペインの高さを調整するには、上部の境界線をクリックし、ペインをドラッグして希望のサイズにします。

要求が選択されていない場合、テキスト ペインは空白です。複数の要求が選択されている場合、テキスト ペインには、「複数の要求が選択されました。」と表示されます。要求テキスト内のグラフィック オブジェクトと OLE オブジェクトは、小さな矩形記号として表示されます。要求テキストに含まれる Word とリンクされたファイルの場合は、リンクされたファイルのパスとタイムスタンプが表示されます。

## ビューの操作

---

ここでは、ビューでの基本的な操作について説明します。

- ビューの作成
- ビューの展開と折りたたみ
- ビューの保存
- ビューを開く / 閉じる
- ビューの名前変更
- ビューの印刷
- ビューの削除

## ビューの作成



- 1 新規ビューを作成するパッケージを選択して、[ファイル]メニューの[新規作成]をポイントし、[ビュー]をクリックします。[ビュープロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

- 2 次の手順を実行します。

- [名前] ボックスに、エクスプローラに表示するビューの名前を入力します。  
[説明] ボックスはオプションです。

**メモ:** [パッケージ] ボックスには、手順 1 で選択したパッケージの名前が表示されます。変更する場合は [参照] ボタンをクリックします。

- ビュータイプと要求タイプを選択します。ユーザー定義の要求タイプも表示されます。追跡可能性マトリックスには、2つの要求タイプ(行と列)、属性マトリックスには、1つの要求タイプ、追跡可能性ツリーには、ルートレベルの1つの要求タイプがそれぞれ表示されます。選択した要求タイプに関連付けられている要求のみがビューに表示されます。
- 自分だけがそのビューを開けるようにするには、[プライベート] チェックボックスをオンにします。

**メモ:** [作成者]、[日付]、[時間]の各ボックスは読み取り専用で、変更できません。

- 3 [OK] をクリックします。ビューが開いて、エクスプローラに表示されます。手順 1 で選択したパッケージ内に、名前のアルファベット順に表示されます。
- 4 [ファイル]メニューの[ビューの保存]をクリックして、ビューをプロジェクトデータベースに保存します。

## ビューの展開と折りたたみ

すべてのビュー内とエクスプローラ内の階層関係と、追跡可能性ツリー内の追跡可能性関係を展開したり、折りたたんだりできます。展開したビューには、ルート要求とそのサブレベルのすべての要求が表示されます。ビューを折りたたむと、ルートレベルの要求のみが表示されます。

[すべて展開] をクリックすると、ビュー内のすべての関係が展開されます。追跡可能性ツリーでこのコマンドをクリックすると、ルート要求と追跡可能性関係を持つ要求が、ルート要求の下位要求として表示されます。また、このコマンドを使用すると、すべてのビューのすべての親要求が展開され、すべての子要求が表示されます。

[すべて折りたたむ] をクリックすると、ビュー内のすべての関係が折りたたまれます。追跡可能性ツリーでこのコマンドを使用すると、ルート要求と追跡可能性関係を持つ要求が表示されなくなります。また、このコマンドを使用すると、すべてのビューのすべての親要求が折りたたまれ、すべての子要求が非表示になります。

親要求の横のプラス記号をクリックするか、親を選択して [Shift] を押しながら [+] をクリックするか、親を選択して [ビュー] メニューの [展開] をクリックすると、親要求を展開できます。親要求の横のマイナス記号をクリックするか、親を選択してマイナス (-) キーを押すか、親を選択して [ビュー] メニューの [折りたたむ] をクリックすると、親要求を折りたためます。ビュー内のすべての階層関係 (追跡ツリー関係) を展開するには、[すべて展開] コマンドを使用します。ビュー内のすべての階層関係 (追跡ツリー関係) を折りたたむには、[すべて折りたたむ] コマンドを使用します。

## ビューの保存

ビューを保存すると、ビューのレイアウトとクエリー基準も保存されます。ビュー内のデータはビューの一部ではなく、データベースの一部として保存されます。したがって、保存されたビューを開くと、画面には保存されたビュー形式で現在の情報が表示されます。

**メモ:** 保存済みビューは、特定日付の要求情報のスナップショットではありません。クエリーの結果を保存するには、ビューを印刷する必要があります。クエリーの詳細については、55 ページの「クエリーと検索」を参照してください。

複数のビューを開いているときにビューを保存する場合は、保存するビューがアクティブになっていることを確認してください。開いているビューをアクティブにするには、タイトルバーをクリックします。

ビューを保存するには

- 1 保存するビューを開きます。



- 2 [ファイル] メニューの [ビューの保存] をクリックします。または、[名前を付けてビューを保存] ボタンをクリックします。

エクスプローラでは、ビューはビュータイプ別に表示されます。保存したビューは、そのビュータイプのパッケージ内に、タイトルのアルファベット順に表示されます。

## ビューを開く / 閉じる

保存したビューを開くと、RequisitePro には指定したレイアウトに従ってビューが表示され、現在のプロジェクト データベースにクエリー基準が再度適用されます。このため、保存されたビュー形式で現在の情報が表示されます。ビューを開くには、エクスプローラでダブルクリックします。

ビューを閉じるには、画面の右上隅 (タイトル バーにある一番上の [X] の下) にある [X] をクリックします。

## ビューの名前変更

開いているビュー ウィンドウの名前を変更することができます。ビューを印刷する前に、ビューの内容を説明したわかりやすい名前を付けておけば、印刷ページにその新しい名前を表示することができます。名前を変更しても、元のファイル名のままファイル システムに保持できます。ビューの名前を変更しても、ビューを保存しないかぎり、名前変更されたビューはデータベースに保存されません。

- 1 エクスプローラで、名前を変更するビューを選択して [ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックするか、ビューを開いて [ビュー] メニューの [名前を付けてビューを保存] をクリックします。

[ビュー プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 2 [名前] ボックスにビューの新しい名前を入力し、[OK] をクリックします。
- 3 [ファイル] メニューの [ビューの保存] をクリックして、名前が変更されたビューをデータベースに保存します。

**メモ:** [ビュー] メニューの [更新] をクリックすると、ビューはエクスプローラ内で新しい名前のアルファベット順に並びます。

## ビューの印刷

アクティブなビューを印刷できます。マトリックス全体を印刷することも、選択した項目を印刷することもできます。

開いているビューを印刷するには

- 1 選択した要求または関係のみを印刷するには、マトリックス内の要求または関係をクリックします (複数の要求または関係を選択するには、複数選択の操作を行います)。
- 2 [ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。[印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 選択した要求または関係を印刷する場合は、[選択した部分] をクリックします。

4 [印刷] ダイアログ ボックスで必要な変更を行い、[OK] をクリックします。



**メモ：**デフォルトのプリンタに直接印刷するには、ツールバーにある [印刷] ボタンをクリックします。デフォルトのプリンタ設定で、ビュー全体が印刷されます。ビューをカンマ区切り (CSV) 形式のファイルにエクスポートして Excel などのアプリケーションでファイルを開き、データを整列して印刷することもできます。詳細については、168 ページの「ビューを CSV ファイルとしてエクスポート」を参照してください。

ビューと共に印刷するヘッダーとフッターの情報を指定できます。開いているビューで、[ファイル] メニューの [ページ設定] をクリックします。[ページ設定] ダイアログ ボックスで表示する情報を選択し、[印刷] をクリックします。

## ビューの削除

パーソナル ビューは、その作成者しか削除できません。プロジェクト全体のビューは、ビューの作成者と管理者グループのメンバーのみが削除できます。

- 1 エクスプローラで、削除するビューを選択します。
- 2 [編集] メニューの [削除] をクリックします。

## ビューのカスタマイズ

---

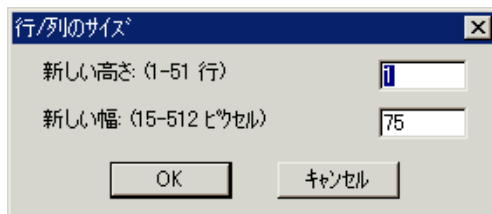
作成したすべてのビューの表示と内容をカスタマイズできます。実行できる操作は次のとおりです。

- 行と列のサイズを調整できます。
- クエリー基準に基づいてデータのフィルタをソートを行い、クエリー基準と合致する要求だけを表示できます。
- 固有のビュー プロパティを選択して表示できます。ボタン、要求名と要求テキスト、行、イメージ、ルート イメージ、[追跡先] ボタン、[追跡元] ボタンなどを選択します。
- 定義したビューを今後も使用するために保存できます。ビューを保存すると、そのビューのクエリー基準とレイアウトが保存されます。要求データは保存されません。

## 行の高さの調整

行の高さを変更すると、ビュー内のすべての行に対して適用されます。

- 1 [ビュー] メニューの [行/列のサイズ設定] をクリックします。  
[行/列のサイズ] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 2 各要求の表示行数を入力します。指定できる行数は、モニターの表示解像度によって異なります。
- 3 [OK] をクリックします。指定内容に応じてビューが変更されます。

ショートカットを使用して行を調整することもできます。要求領域の境界線上でマウスをクリックし、そのまま上下にドラッグしてサイズを調整します。行の高さが既に 1 行に設定されている場合、行の境界を上方向にドラッグして 1 行未満にすることはできません。追跡可能性ツリーでは、このようなショートカットを使用できません。

## 列の幅の調整

- 1 [ビュー] メニューの [行/列のサイズ設定] をクリックします。前に示したような [行/列のサイズ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 各要求または属性を表示するピクセル数 (属性マトリックスの場合)、または行数 (追跡可能性マトリックスの場合) を入力します。各ビューでの列幅のパラメータは以下のとおりです。
  - 属性マトリックス: 列ごとに異なる幅を設定するには、列をドラッグして目的の幅にします。すべての列を同じ幅に設定するには、[行/列のサイズ設定] ダイアログ ボックスを使用します。画面の最大の高さは、画面の解像度によって異なります。
  - 追跡可能性マトリックス: 最大幅は画面の解像度によって決まります。
  - 追跡可能性ツリー: 列の幅は、インデント幅またはそれぞれの ブランチによって表されます。要求ペインの幅とビューのサイズに応じて、これらの列を表示できる最大ピクセル数が動的に変化します。列幅を変更すると、ビュー内のすべての列に対して適用されます。

3 [OK] をクリックして、これらの変更を反映させます。

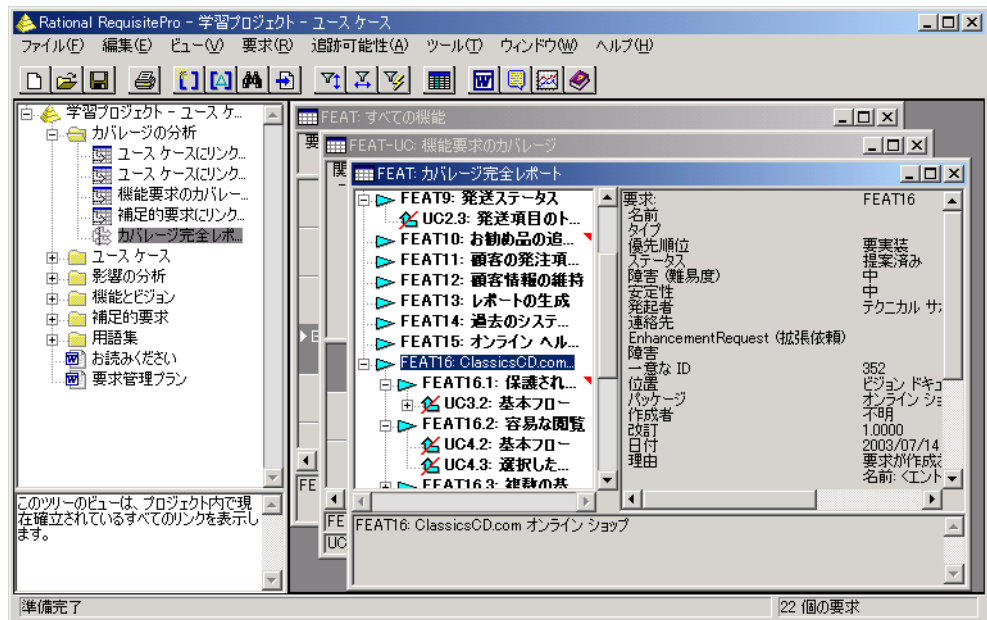
ショートカットを使用して行を調整することもできます。属性マトリックスまたは追跡可能性マトリックスで、属性ラベル領域または要求領域 (各列の一番上にある灰色の領域) の境界線をマウスでクリックします。マウス ボタンを押したまま、境界線を左右にドラッグして幅を調整します。追跡可能性ツリーでは、このようなショートカットを使用できません。

## ビューのサイズ変更と整列

### ビューを重ねて表示

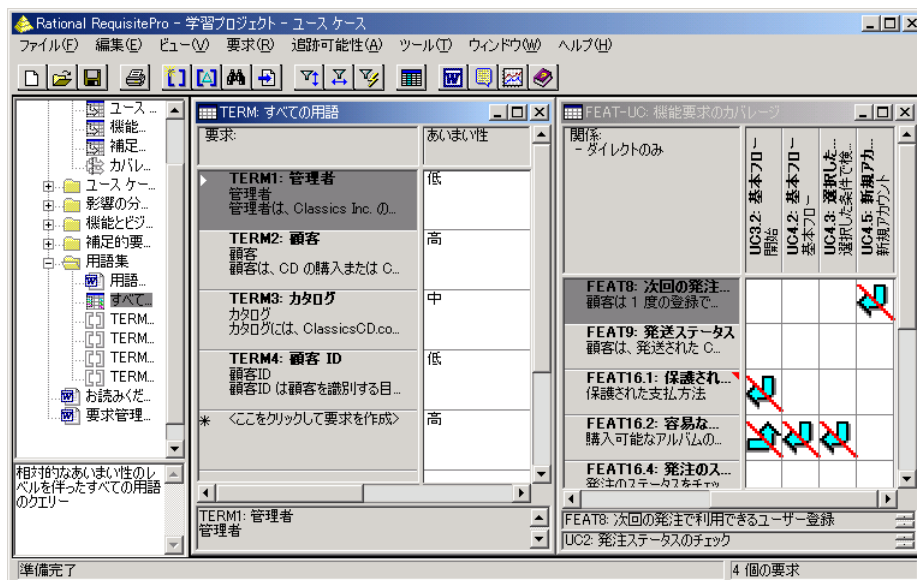
ビューを重ねて表示すると、各ビューは直前のビューの少し右下にずれて表示されます。多数のビューを開いている場合は、開いているすべてのビューを表示できるように、ビューの最初の重なりに 2 番目の重なりがさらに重なって配置されます。

[ウィンドウ] メニューの [重ねて表示] をクリックします。ビューが重なって表示されます。



## ビューを並べて表示

並べて表示すると、開いているビューがほかのビューと重ならずに表示されます。ビューを並べて表示するには、[ウィンドウ]メニューの[並べて表示]をクリックします。



## アイコンの整列

この機能では、ビューを最小化したすべてのアイコンが、ビューの左下隅から右方向に並んで表示されます。最小化したビューを整列するには、[ウィンドウ]メニューの[アイコンの整列]をクリックします。

## ビュー プロパティの表示

アクティブなビューに関連付けられたプロパティを表示するには、[プロパティ]コマンドを使用します。各ビューには固有のプロパティが表示されます。これらのプロパティは、ビューの外観には影響しますが、ビューに含まれる情報自体には影響を与えません。

[ビュー]メニューの[プロパティ]をクリックします。8個のメニューコマンドが表示されます。ただし、アクティブなビューのタイプによっては、使用できないものもあります(たとえば、属性マトリックスがアクティブな場合、[追跡先を表示]は使用できません)。これらのプロパティが[ビュー]メニューでオンになっている場合、そのプロパティはアクティブなビューに表示されます。

- [デフォルト値として保存] は、現在のビューの設定を、新規ビューのデフォルト設定として保存します。
- [デフォルトにリセット] は、ビューのプロパティを、保存済みのデフォルト設定にリセットします。
- [名前の表示] では要求名を表示します。[ビュー] メニューの [行/列のサイズ設定] を使用すると、表示する行数を定義できます。
- [テキストの表示] に、要求テキストが表示されます。[ビュー] メニューの [行/列のサイズ設定] を使用すると、表示する行数を定義できます。
- [追跡先を表示] または [追跡元を表示] を選択すると、ユーザーの指定に応じて、追跡先または追跡元の関係を表す矢印が表示されます (属性マトリックスがアクティブな場合、これらのオプションは使用できません)。
- [間接的に表示] を選択すると、直接的な追跡可能性関係と間接的な追跡可能性関係の両方が表示されます (追跡可能性マトリックスがアクティブな場合にのみ、このオプションを使用できます)。
- [展開インジケータを表示] では、折りたたんだ要求の子要求に追跡可能性関係が含まれる場合、セルに+が表示されます (追跡可能性マトリックスがアクティブな場合にのみ、このオプションを使用できます)。

## ビュー プロパティのデフォルトとしての保存

[デフォルト値として保存] を使用して、ビューのレイアウトと、そのタイプのビューを開いたときにデフォルトとして表示されるプロパティを保存します。このコマンドは、すべてのビュータイプで使用できます。ビューと現在表示されているプロパティをそのタイプのビューのデフォルトとして保存するには、[ビュー] メニューの [プロパティ] をポイントし、[デフォルト値として保存] をクリックします。ビュー、レイアウト、そのタイプのビューのプロパティが保存されます。

**メモ:** 変更したビュー プロパティを現在保存されているデフォルト設定に戻すには、[デフォルトにリセット] を使用します。



## クエリー ビューの作成と使用法

---

ビューを作成した後、そのまま保存することも、クエリー機能 (フィルタとソート) を実行してビューの情報をさらに絞り込むこともできます。

ビュー内の要求をフィルタするには、属性の値や追跡可能性を制限します。クエリーを実行できるのは、属性マトリックスや追跡可能性マトリックスの行に表示された要求、追跡可能性マトリックスの列に表示された要求、追跡可能性ツリーのルート要求に対してです。

### クエリーの概要

フィルタとは、表示される情報を制限する機能です。ソートとは、情報の表示順序を決定する機能です。たとえば、属性マトリックスでは、要求情報を優先順位の高い順に並べ替えたり (ソート基準)、自分に割り当てられた要求のみを表示したり (フィルタ基準) することができます。

要求のフィルタやソートを実行するには、属性にクエリー基準を適用します。この基準によって、属性の値と追跡可能性関係を制限します。属性ごとのクエリーを作成できるので、それぞれのクエリー基準の結果を表示できます。また、複数の属性に対してフィルタとソートを同時に行うクエリーを作成することもできます。ビューを保存すると、クエリー基準も保存されます。

属性マトリックスでは、要求を一時的に属性値でソートできます。属性ラベルを右クリックし、ショートカットメニューで [昇順でソート] か [降順でソート] をクリックしてください。ビューを保存しても、このソートは保存されません。

デフォルトでは、ビューは要求タグの昇順でソートされます。複数の基準を含むクエリーを作成するときは、基準をソートして、要求をビュー内に表示する順序を決定できます。クエリーを作成した後でソート順序を変更することもできます。たとえば、優先順位で要求をソートし、同じ優先順位内で日付順、場所順にソートするとします。この場合、要求は、ドキュメント内で発生する日付順に表示されます。

特定のパッケージ内の要求に関するクエリーは、そのクエリーに合致するそのパッケージ内の要求を返します。選択したパッケージ内のネストされたパッケージに保存されている要求は、クエリー結果に含まれません。

階層関係がサスペクトの場合、それらの要求に対してはクエリーを実行できません。ソートやフィルタが実行されていないビューでは、親要求と子要求が自動的にグループ化されます。

Rational RequisitePro では、クエリーは自動的に更新されません。クエリーの要求情報を更新するには、[ビュー] メニューの [更新] をクリックします。ビュー自体に対する変更 (別のユーザーが保存したクエリーに対する変更を含む) を更新するには、エクスプローラでビューを選択して、ショートカット メニューの [更新] をクリックします。表示内容の更新は、別のユーザーが同じデータベースを操作している場合に特に必要です。

複数プロジェクト間の追跡可能性関係で要求のクエリーを実行する場合、ユーザーとドキュメントの情報に関連付けられたクエリーには、開いているプロジェクトのデータだけが含まれます。外部プロジェクトからのデータは、要求テキスト、改訂番号、改訂日など、システム属性に関するクエリーには含まれますが、ユーザーとドキュメントの情報に関するクエリーには含まれません。ユーザーまたはドキュメントの情報に基づいてクエリーを実行するには、外部プロジェクトを開く必要があります。

エンタープライズ データベースを使用する複数プロジェクトに対して要求のクエリーを実行する場合、**追跡先**または**追跡元**の属性を使用する複数プロジェクト間の追跡可能性のクエリーは、同じデータベース タイプのプロジェクト間でのみサポートされることに注意してください。SQL Server プロジェクト間でクエリーを実行する場合、それらのプロジェクトは同じスキーム内にある必要があります。Oracle プロジェクトの場合、そのようなクエリーが可能なリモートデータベースへのリンクを作成できます。『Oracle データベースの構成』(OracleSetup.html) の「リモート データベースへのデータベース リンクの作成」の項を参照してください。

## クエリーの操作

クエリーを使用すると、データベースからデータを抽出して表示し、3 つのビューのいずれかで使用できます。クエリーが実行されたビューに対しては、保存、開く、編集、印刷、エクスポートなどの操作を実行できます。

クエリーを実行したビューには、単純なものも複雑なものもあります。ビュー内のほとんどの属性に対してクエリーを実行する場合は、一度に 1 つの要求タイプを選択します。**追跡先**または**追跡元**属性を基準にしてクエリーを実行する場合は、複数の要求タイプを対象にすることができます。



クエリーは、自分で制御できます。自分が開いているデータベースに、ほかのユーザーもアクセスしている可能性があります。クエリーを実行する前にビュー内の情報を最新の状態にするには、データベースを新しいデータで更新 ([ビュー] メニューの [更新] をクリック) し、クエリー基準を再度適用してください。

- デフォルトでは、属性マトリックス ビューには、ある要求タイプのすべての属性と、その要求タイプのすべての要求が表示されます。このビューでクエリーを実行すれば、必要な属性だけを表示できます。
- 追跡可能性マトリックス ビューには、2 つの要求タイプと、それらの相互関係が表示されます。

- 追跡可能性ツリー ビューには、1つのタイプ（ルート）のすべての要求と、それらの要求と依存関係にあるすべての要求が表示されます。

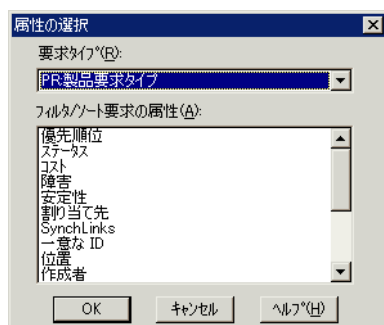
**メモ：**属性マトリックス ビューや追跡可能性マトリックス ビューでクエリーを実行すると、ビューの行と列に表示されている要求にフィルタやソートが適用されます。追跡可能性ツリービューでクエリーを実行すると、フィルタ基準とソート基準はビューのルート要求に適用されます。

## クエリーの作成と修正

ビュー内の要求をフィルタするには、属性の値または追跡可能性を制限します。クエリーが可能なのは、行、列、ルート要求、外部要求タイプです。

- 1 エクスプローラでビューを選択して、[ファイル]メニューの[プロパティ]をクリックします。[ビュー プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [クエリー]をクリックします。

[行要求のクエリー]、[列要求のクエリー]、[ルート要求のクエリー]のいずれかのダイアログ ボックスが表示されます。まだクエリー基準を追加していない場合は、[属性の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。



- 3 クエリーに使用する属性値を選択して、[OK]をクリックします。

追跡先か追跡元の 属性でクエリーを実行中である場合と、クエリーを修正するためにこのダイアログ ボックスに戻った場合を除き、[属性の選択]ダイアログ ボックスで利用できる要求タイプは1つだけです。

[クエリーの要求]ダイアログ ボックスが表示されます。表示されるダイアログ ボックスは、属性がリスト タイプか入力タイプかによって異なります。

- 4 属性がリスト タイプの場合は、属性をフィルタするのに使用する1つまたは複数の属性値を選択します。リストタイプの属性では、論理演算子 OR があるものとみなされます。属性が入力タイプの場合は、演算子 ([含む]、[等しい]) を選択して値を指定します。

**ヒント：**日付でクエリーを実行する場合は、Microsoft Windows の[コントロール パネル]の[地域のオプション]で指定したものと同一形式で日付を入力してください。

- 5 ソート順 ([ なし ]、[ 昇順 ]、[ 降順 ]) を選択します。[ 場所 ] 属性でクエリーを実行する場合、[ ドキュメントの場所別にソート ] チェック ボックスをオンにして、要求が含まれるドキュメントと同じ順序でビュー内の要求をソートできます。
- 6 必要に応じて [ 追跡時 ] 基準を入力します。ただし、[ 追跡時 ] を使用できるのは、追跡先または追跡元属性でクエリーを実行する場合だけです。階層要求の場合、子要求に追跡可能性関係が設定されていると、追跡可能性クエリーによって自動的に親が組み込まれます。サスペクトの階層関係に対してはクエリーを実行できません。また、2 つの外部要求に対する追跡可能性クエリーは作成できません。
- 7 [OK] をクリックします。[ 行要求のクエリー ]、[ 列要求のクエリー ]、[ ルート要求のクエリー ] のいずれかのダイアログ ボックスが再び表示されます。
- 8 ほかのクエリー基準を追加するには、[ 追加 ] をクリックし、手順 3 ～ 7 を繰り返します。  
複数の属性を指定すると、論理演算子 AND があるものとみなされます。
- 9 クエリーに指定したフィルタ基準に親要求が一致しない場合でも、フィルタされた子要求の親をビューに表示するには、[ 階層的表示を保持 ] チェック ボックスをオンにします。  
要求の親子関係については、135 ページの「階層について」を参照してください。
- 10 [OK] をクリックします。

## クエリーのソート順の作成と修正

デフォルトでは、ビューは要求タグの昇順でソートされます。複数のクエリー基準を含むクエリーを作成する場合、基準をソートすることにより、アクティブなビューをクエリーするときの要求のソート順を決定できます。クエリーを作成した後でソート順序を変更することもできます。

- 1 属性マトリックス、追跡可能性マトリックス、追跡可能性ツリーのいずれかを開きます。
- 2 [ ビュー ] メニューの [ 行要求のクエリー ]、[ 列要求のクエリー ]、[ ルート要求のクエリー ] のいずれかをクリックします (手順 1 で選択したビュー タイプにより、[ ビュー ] メニューに表示されるコマンドが変わります)。  
[ 行要求のクエリー ]、[ 列要求のクエリー ]、[ ルート要求のクエリー ] のいずれかのダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 リスト内で基準を上へ移動するには、基準を選択して [ 上へ移動 ] をクリックします。  
リストの一番上にある基準は、最初に適用されます。リスト内で基準を下へ移動するには、基準を選択して [ 下へ移動 ] をクリックします。リストの一番下にある基準は、最後に適用されます。
- 4 [OK] をクリックします。  
属性マトリックスでは、要求を一時的に属性値でソートできます。属性ラベルを右クリックし、ショートカット メニューで [ 昇順でソート ] か [ 降順でソート ] をクリックしてください。  
ビューを保存しても、このソートは保存されません。

## クエリーの削除

ビューのクエリーは削除できます。クエリーを削除しても、データベースから要求が削除されるわけではありません。そのクエリー基準に基づいた要求のフィルタやソートが行えなくなるだけです。

- 1 ビューを開いて、[ビュー] メニューの[行要求のクエリー]、[列要求のクエリー]、[ルート要求のクエリー]のいずれかをクリックします。表示しているビューに応じて[行要求のクエリー]、[列要求のクエリー]、[ルート要求のクエリー]のいずれかのダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [クエリー基準] リストで、削除するクエリー基準を選択します。  
**メモ:** このリストの順序によって、基準をフィルタまたはソートする順序が決まります。リストからクエリーを削除すると、以降のクエリー結果に影響する場合があります。
- 3 [削除] をクリックします。

## プロジェクト内の要求成果物の検索

---

RequisitePro には、次の 2 つの要求検索方法があります。

- [ジャンプ] コマンドを使用すると、データベース全体が検索されます。要求は即座に検索され、見つかった場所 (ドキュメントかビュー) に表示されます。
- [検索] コマンドを使用すると、アクティブなビューまたはアクティブなドキュメント内で要求の検索が実行されます。

### [ジャンプ] コマンドを使用した要求への移動

[ジャンプ] を使用して、プロジェクト内の要求の場所を検索できます。ドキュメントを開き、そのコマンドを使用すると、ドキュメント内の要求へすぐに移動できます。

### ビューから要求への移動

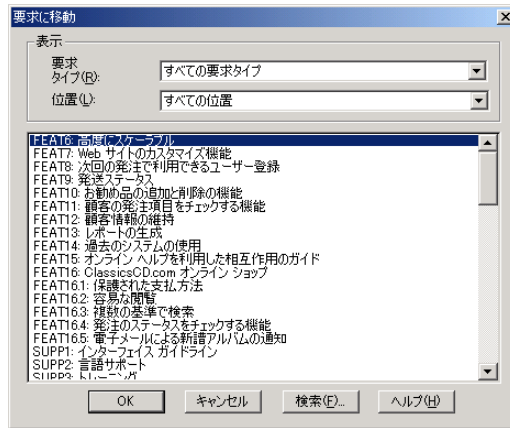
- 1 ビューかエクスプローラで要求を選択します。
- 2 [要求] メニューの[ジャンプ] をクリックします。

要求がドキュメント内にある場合は、その要求が存在するドキュメントが、要求が選択された状態で開きます。要求がビュー内にある場合は、選択した要求の名前、テキスト、属性値、関係、ディスカッションを表示した[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが開きます。

## ドキュメントから要求への移動

- 1 開いているドキュメントで、[RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[ジャンプ] をクリックします。

[要求に移動] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 2 [要求のタイプ] リストから要求タイプを選択します。要求タイプがわからない場合は、[すべての要求タイプ] を選択してください。
- 3 要求の保存場所を [位置] リストから選択します。[すべての位置] または [データベースのみ] を選択するか、リストから特定のドキュメントを 1 つ選択します。

**メモ:** [検索] ボタンをクリックすると、[検索] ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログ ボックスでは、特定のタグ番号、要求名、テキストを検索できます。

- 4 要求を選択し、[OK] をクリックします。RequisitePro によって、次のいずれかの処理が実行されます。
  - 開いていないドキュメントに要求がある場合は、そのドキュメントが開き、要求が選択されます。
  - 開いているドキュメントに要求がある場合は、ドキュメントがアクティブなウィンドウに表示され、要求が選択されます。
  - 要求がドキュメントに存在しない場合は、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示され、要求の名前、テキスト、属性値、追跡可能性関係を検証または修正できます。

## [検索] コマンドによるプロジェクトの検索

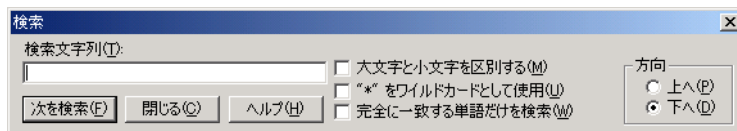
[検索] ダイアログ ボックスでは、要求の名前、テキスト、タグに基づいて成果物を検索することができます。以下のいずれかの場所で、[検索]をクリックすると、ダイアログ ボックスが表示されます。

- [編集] メニューの [検索]



- [RequisitePro] メニューの [要求] の [検索]
- [検索] ボタン
- [要求に移動] ダイアログ ボックス
- [親の要求のブラウザ] ダイアログ ボックス
- [要求の選択] ダイアログ ボックス

どの方法でも [検索] ダイアログ ボックスの使用手順は変わりません。



- 1 [検索文字列] ボックスで、要求の名前、テキスト、タグを検索するために使用する文字列を入力します。
- 2 大文字と小文字も正確に一致する要求のみを検索するには、[大文字と小文字を区別する] チェック ボックスをオンにします。たとえば、このチェック ボックスをオンにして menu という文字列を入力した場合、RequisitePro では、menu を含む要求は検索されますが、Menu を含む要求は検索されません。
- 3 ワイルドカード文字 \* (アスタリスク) で検索文字列の 1 つ以上の文字を表し、要求を検索する場合は、["\*" をワイルドカードとして使用] チェック ボックスをオンにします。たとえば、このチェック ボックスをオンにし、\*document\* という文字列を入力した場合、document、documents、documented、undocumented などを含む要求が検索されます。
- 4 入力された検索文字列と完全に一致する単語のみを検索するには、[完全に一致する単語だけを検索] チェック ボックスをオンにします。たとえば、このチェック ボックスをオンにして menu という文字列を入力した場合、RequisitePro では、menu を含む要求は検索されますが、menus を含む要求は検索されません。このチェック ボックスは、[検索文字列] に複数の単語を入力した場合は使用できません。
- 5 次のいずれかを実行します。
  - カーソルを戻しながらドキュメントを検索するには、[上へ]をクリックします。
  - カーソルを次に進めながらドキュメントを検索するには、[下へ]をクリックします。

- 6 検索基準を満たす次の要求を検索するには、[次を検索]をクリックします。

**メモ：**ビューでは、現在ビューに表示されていない子要求も含めて、親要求に含まれるすべての子要求が検索されます。検索基準と一致している子要求が検出された場合に、その子要求が折りたたまれているときは、ビューが展開されて表示されます。

- ・ 検出された要求は、強調表示されてコンテキスト内に表示されます。
- ・ 展開されていない要求がビュー内にある状態でビューでの検索を実行すると、ビュー内の要求が展開されて検索結果が表示されます。
- ・ 一致する要求が検出されない場合は、検索が開始された要求に戻ります。

## ほかのプロジェクトとの間に複数プロジェクト間の追跡可能性関係が設定されたプロジェクトの参照

あるプロジェクトを開くと、RequisitePro が外部プロジェクトに接続し、両方のプロジェクトから要求が表示されることがあります。この場合、これら 2 つのプロジェクトは互いに接続されており、複数プロジェクト間の追跡可能性関係にあります。両方のプロジェクトの要求とこれらのプロジェクトの変更管理された関係は、ビューで確認できます。

複数プロジェクト間の追跡可能性機能によって、別々のプロジェクトの要求間に追跡可能性関係が作成されます。この機能によって、サブプロジェクトに分割されたプロジェクト、相互に関連するプロジェクト、一連の要求を共有するプロジェクトの間に接続が確立されるので、チームメンバーがプロジェクト全体で共通の要求を再利用することが容易になります。複数プロジェクト間の追跡可能性の詳細については、237 ページの「複数プロジェクト間の追跡可能性の設定と変更」と、ヘルプの「ヒント 3: RequisitePro のプロジェクト編成方法の決定」を参照してください。

## 複数プロジェクト間の追跡可能性の結果

複数プロジェクト間の追跡可能性関係が設定されると、次の処理ができるようになります。

- ・ 外部要求タイプに対してクエリーを実行し、ビューに表示できます。
- ・ あるプロジェクトの要求が別のプロジェクトの要求の追跡元になっている場合、追跡元の要求を削除すると、追跡先のプロジェクトが変更され、内容が反映されます。外部プロジェクト内の追跡可能性関係を削除できない場合、その関係は、プロジェクト間の接続が確立されたときに更新されます。
- ・ 要求の変更によって関係がサスペクトになり、その要求がほかのプロジェクトの要求の追跡元または追跡先になっている場合、外部プロジェクトが更新され、サスペクトリンクが反映されます。外部プロジェクト内の追跡可能性関係を変更できない場合、その関係は、プロジェクト間の接続が確立されたときに更新されます。

- 内部要求と外部要求の間のリンクがサスペクトとしてマークされた場合、サスペクトが解除された場合、またはユーザーによって作成または削除された場合、内部プロジェクトと外部プロジェクトの両方が更新されて変更が反映されます。
- 外部関係を作成すると、循環性がないかどうかチェックされます。循環性チェックでは、内部プロジェクト内の要求と、外部プロジェクト内の第 1 レベルの要求が参照されます。

## 外部要求の表示

現在のプロジェクトの要求と外部プロジェクトの要求は、プロジェクトのプレフィックスによって区別されます。外部要求は、以下のように表示されます。

- [要求のプロパティ] ダイアログ ボックス内の [追跡可能性] タブには、現在のプロジェクトに関連した関係のみが表示されます。[全般] タブには、外部要求情報が読み取り専用として表示されます。
- [検索] ダイアログ ボックスには、現在のプロジェクトと、それに関連付けられている外部プロジェクトの要求タイプが一覧表示されます。
- [ビュー プロパティ] ダイアログ ボックスには、現在のプロジェクトと外部プロジェクトの要求タイプが表示されます。属性マトリックス ビューを選択している場合、内部要求タイプのみが選択可能になります。外部要求の属性マトリックス ビューは、パフォーマンスを考慮するために完全には表示されません。
- 属性マトリックスでは、[追跡先] 列と [追跡元] 列に、内部と外部のすべての追跡可能性関係が表示されます。
- 追跡可能性マトリックスでは、行と列に、内部的または外部的に関連付けられた同じ要求タイプの要求が表示されます。
- 追跡可能性ツリーには、要求の追跡先か追跡元になっているすべての内部要求と外部要求が表示されます。複数プロジェクト間の第 1 レベルの追跡可能性関係が表示されます。したがって、内部要求が外部要求の追跡元であれば、その外部要求がツリー内に表示されます。その外部要求を追跡元とするほかの要求は表示されません。

## エクスポートされたビューでの要求関係の表示

エクスポートされたビュー内の、複数プロジェクト間の追跡可能性を持つ要求は、次のように表示されます。

- エクスポートされた CSV ファイルは、追跡先または追跡元の要求がビューに表示されている状態で存在していることを示します。
- エクスポートされた Microsoft Word ファイルは、追跡先または追跡元の要求がビューに表示されている状態で存在していることを示します。

エクスポートされたビューの詳細については、168 ページの「要求のエクスポート」を参照してください。

## RequisitePro 拡張インターフェイス

---

RequisitePro 拡張インターフェイスは、高度なクエリー機能を実現するため完全にドキュメント化された COM ベースの API を提供します。この API を使用すると、顧客やサードパーティのソリューション プロバイダが要求データに直接アクセスできるようになります。

拡張インターフェイスには、RequisitePro クエリー エンジンとそれに関連付けられたクエリー言語の構文のすべてのドキュメントが含まれています。クエリー エンジンには、プログラム可能なインターフェイスが実装されており、要求とディスカッションに関する RequisitePro プロジェクト データを取得するオブジェクトが使用されています。ユーザーは、クエリーを最適化して必要な情報だけをロードできるので、アプリケーションのパフォーマンスが向上します。

RequisitePro 拡張インターフェイスのドキュメントを開くには、[ヘルプ] メニューの [拡張インターフェイス参照] をクリックしてください。

## Requirement Metrics

---

Requirement Metrics を使用すると、プロジェクト管理者や製品アナリストは、RequisitePro の要求の名前、テキスト、属性、関係、改訂の統計をレポートできます。これらのレポート結果は、Microsoft Excel に表示したり、Excel のグラフ作成性能を使用して操作できます。

まず、フィルタを作成します。フィルタとは、要求情報を抽出する基準を指定するものです。たとえば、属性カウント フィルタを使用して、そのプロジェクト内で優先度が [高] に設定されている要求の数を確認できます。次に、作成されたフィルタを結合してクエリーを生成します。クエリーで複数フィルタの基準を結合し、要求を分析します。クエリーを構成するフィルタは、AND 文で結合されます。最後に、クエリーを結合して、レポートを作成します。

Requirement Metrics では、次の 2 種類のレポートが使用できます。

- **スタティック** レポートは、スタティック フィルタ を使用して、現時点でのプロジェクトの結果を表示します。
- **傾向分析** レポートは、時間関連のフィルタを使用し、要求テキスト、属性、追跡可能性、階層関係の変更を分析します。傾向分析レポートでは、改訂を表示するためのインクリメントを指定する必要があります。

Requirement Metrics のメイン ウィンドウは、このアプリケーションの主要ユーザー インターフェイスです。このウィンドウでは、レポートの要求タイプを選択し、フィルタとフィルタ基準を指定してクエリーを作成した後、作成したクエリーをレポートに追加できます。クエリーにフィルタを追加する場合、レポートの要求をフィルタ基準に合致する要求に制限します。



Requirement Metrics にアクセスするには、[ツール] メニューの [Metrics] をクリックするか、ツールバーの [Metrics] ボタンをクリックします。詳細については、196 ページの「Requirement Metrics の使用」を参照してください。

ディスカッションは、参加グループに対して、要求に関するコメント、問題点、質問事項を発信するための機能です。ディスカッションの内容は、1 つまたは複数の要求に関連付けたり、プロジェクト全体を対象にすることもできます。ディスカッション項目は、最初に発信されたディスカッション トピック、または応答です。参加者は、最初のディスカッション テキスト、またはほかの応答に対して応答できます。

## ディスカッションの概要

---

### ディスカッションの表示

Rational RequisitePro プロジェクトのユーザーは全員、ディスカッションの参加者に指定されていなくてもディスカッション項目を読むことができます。ディスカッション グループの参加者は、ディスカッションを作成して、それらのディスカッションに応答することができます。ユーザー情報の中に電子メールアドレスを指定している参加者は、電子メールでディスカッション項目を読むことができます。



ユーザーが、未読のディスカッションやそのディスカッションに関連付けられた応答を含むプロジェクトを開くと、ツールバーのディスカッション アイコンが強調表示され、[すべてのディスカッションを表示] ボタンをポイントすると、ツールチップが表示されます。ビューでは、ディスカッションに関連付けられた要求の横にアイコンが表示されます。

### ディスカッションへの応答

ユーザーがディスカッションに応答すると、その応答が、項目として RequisitePro プロジェクトに追加されます。また、その応答は、ユーザー情報の中に電子メールアドレスが指定されている参加者全員に送られます。

ディスカッション作成者とプロジェクト管理者は、ディスカッションのメンバーを参加者のみに限定できます。この場合、プロジェクト ユーザーは誰でもディスカッション項目を読むことができますが、応答できるのは参加者のみです。

## ディスカッション用の電子メールの設定

RequisitePro は、個々の要求またはプロジェクト全体に関するコメント、問題点、質問事項をディスカッションの参加者の間でやり取りする機能を備えています。電子メールを使用できる場合、入力されたディスカッション項目（新規ディスカッションまたは応答）のコピーが自動的に作成され、有効な電子メール アドレスを持つすべてのディスカッションの参加者に送信されます。電子メールを使用できない場合、ユーザーには RequisitePro のみから通知されます。

ディスカッション用の電子メールを設定するには、次のいずれかを実行します。

- [ファイル] メニューの [プロジェクト管理] をポイントし、[セキュリティ] をクリックして、[プロジェクト セキュリティ] ダイアログ ボックスに電子メール アドレスを入力します。このエントリは、RequisitePro の各ユーザーのユーザー情報を示します。
- [ツール] メニューの [電子メールの設定] をクリックして、通知電子メール サービスを設定します。
- Rational E-mail Reader アプリケーションを使用して、電子メール アドレスを持つすべてのユーザーに対して、参加者の電子メールと通知電子メールを設定します。

### [プロジェクト セキュリティ] での電子メール アドレスの入力

すべての RequisitePro ユーザーは、RequisitePro 内で自分の電子メール アドレスを追加したり編集できます。ただし、ほかのユーザーの情報を追加または編集できるのは、管理者権限を持つプロジェクト管理者だけです。

自分の電子メール アドレスを [プロジェクト セキュリティ] ダイアログ ボックスに入力する方法については、34 ページの「パスワード、ユーザー名、電子メール アドレスの変更」を参照してください。管理者は同じ手順を使用して、すべてのユーザーの電子メール アドレスを入力または変更できます。

## ディスカッション用電子メール通知システムの設定

ほかのディスカッションの参加者に対する通知電子メールの送信設定を行うには、[電子メールの設定] コマンドを使用します。RequisitePro を使用すると、[ディスカッション] ダイアログ ボックス内からディスカッション項目を発信したり、別のディスカッション項目に応答した場合、RequisitePro のユーザー情報に有効な電子メール アドレスが指定されているすべての参加者とプロジェクト データベースに対して、ディスカッション項目のコピーが自動的に送信されます。

**メモ：**システム管理者が Rational E-mail Reader を使用して参加者の電子メールと通知電子メールの設定を行っている場合は、この設定のオプションは必要ありません。Rational E-mail Reader アプリケーションを使用すると、ディスカッションの参加者は、ディスカッション項目に対して、電子メールを使用して応答したり、RequisitePro から応答できます。

通知電子メールの送信設定を行うには

- 1 [ツール] メニューの [電子メールの設定] をクリックします。  
[電子メール設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [電子メールによる通知を有効にする] チェック ボックスをオンにします。これによって、RequisitePro でディスカッション項目を作成したり、ディスカッション項目に応答した場合、通知電子メール (ディスカッション グループのほかの参加者へのメッセージ) が自動的に作成されます。通知電子メール メッセージを送信しない場合は、このチェック ボックスをオフにします。
- 3 ネットワークで使用されている [電子メール プロトコル] オプション (SMTP/POP3 または MAPI) を選択します。
  - SMTP/POP3 を選択した場合は、SMTP サーバー名、電子メール アドレス (たとえば、「yourname@yourcompany.com」)、ディスカッション グループへのメッセージ内に表示する自分の名前を入力します。
  - MAPI を選択した場合は、自分の MAPI プロファイルを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

## Rational E-mail Reader を使用した電子メールの設定

Rational E-mail Reader は、電子メール ハンドラを各 RequisitePro プロジェクトに関連付けることで、RequisitePro との完全な電子メール統合を提供するツールです。Rational E-mail Reader アプリケーションを使用すると、ディスカッションの参加者は、ディスカッション項目に対して、電子メールを使用して応答したり、RequisitePro から応答できます。最初のディスカッション項目とその応答は、RequisitePro データベースに自動的に保存され、電子メールを介してディスカッションの参加者に送信されます。

ディスカッションの参加者がディスカッション関連の電子メールを受信するには、RequisitePro ユーザー情報の中に電子メール アドレスを指定しておく必要があります。

Rational E-mail Reader を使用して電子メールを設定する方法については、『Rational Software デスクトップ製品インストレーション ガイド』の「ディスカッション用の電子メールの設定」を参照してください。通常、この設定はシステム管理者によって行われます。この設定は、RequisiteWeb を電子メール システムで使用するために必要です。

RequisitePro を使用して Rational E-mail Reader を設使用するようにしてください。MAPI はサポートされていません。

## ディスカッションの作成

ディスカッションは、いつでも作成することができます。

1 次のいずれかを実行します。

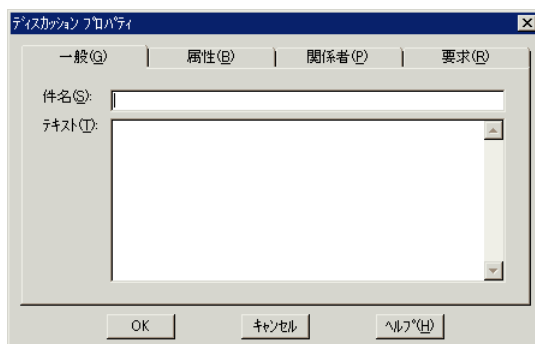


- [ツール] メニューの [ディスカッション] (または [すべてのディスカッションを表示] ボタン) をクリックします。
- エクスプローラまたはビューで、1 つまたは複数の要求を選択して、[要求] メニューの [ディスカッション] をクリックします。
- ドキュメント内の要求を選択して、[RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[ディスカッション] をクリックします。

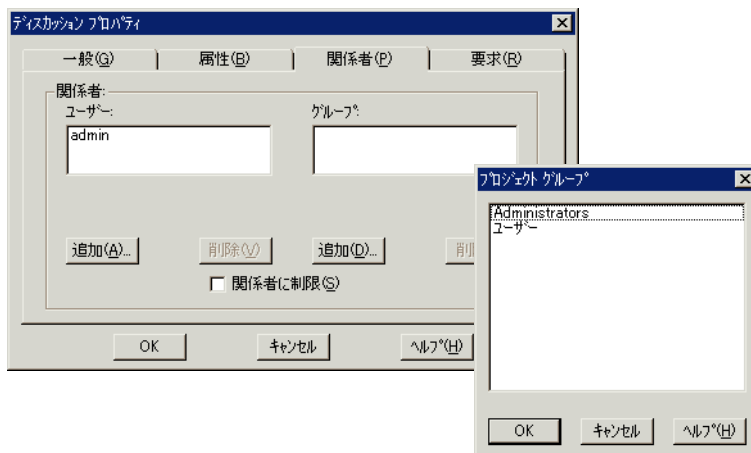
[ディスカッション] ダイアログ ボックスが表示されます。



2 [作成] をクリックします。[ディスカッション プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 3 [一般] タブをクリックして件名 (必須) とテキストを入力します。件名は簡潔に、かつほかのユーザーがディスカッションの内容を十分に把握できる内容にしてください。[テキスト] ボックスに入力したテキストは、ディスカッションの最初の項目になります。問題点、コメント、質問事項などを提起することで、ディスカッションを開きます。
- 4 [参加者] タブをクリックします。ユーザーとグループを追加します (79 ページの「ディスカッションの参加者情報の作成と修正」を参照してください)。



- 5 [要求] タブをクリックし、要求を追加します (81 ページの「ディスカッションの要求情報の作成と修正」を参照してください)。



**メモ：** フィルタ処理を行って、特定の要求に関連付けられているディスカッションのみを表示した場合、[要求] タブには、該当する要求のみが自動的に一覧表示されます (75 ページの「ディスカッションの表示、フィルタ、ソート」を参照してください)。

- 6 [OK] をクリックして [要求の選択] ダイアログ ボックスを閉じ、[OK] をクリックして [ディスカッション プロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。
- 7 [閉じる] をクリックして [ディスカッション] ダイアログ ボックスを閉じます。
- 電子メールがディスカッション用に設定されている場合は、ディスカッションが開いて、ユーザー情報に電子メール アドレスが指定されている参加者全員にメッセージが送信されます。ツールバーに表示されるアイコンによって、プロジェクトやその要求に関連付けられた新規ディスカッションが存在することも確認できます。プロジェクトを開くと、(ディスカッションの参加者であるかどうかにかかわらず) すべてのユーザーに対して強調表示されたアイコンが表示されます。



電子メールの場合と同様、いったん送信したディスカッション応答は変更できません。この制限によって、元のテキストがディスカッション応答で引用されている場合の矛盾を防ぐことができます。自分が発信したメッセージに説明を付け加えるには、ディスカッションに対する応答を作成します。

開かれたドキュメント内に、保留タグの番号が付いた要求がある場合、ディスカッションを作成しようとする、ディスカッションと保留中の要求を関連付けることができないことを示すメッセージが表示されます。その要求のドキュメントを保存して、再度試みてください。

## ディスカッションのプロパティの表示と修正

ディスカッションのプロパティを表示するには



- 1 [ツール] メニューの [ディスカッション] (または [すべてのディスカッションを表示] ボタン) をクリックします。[ディスカッション] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 2 ディスカッションを選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。

**メモ:** ディスカッションの作成者と管理者のみがディスカッションのプロパティを変更できます。

[ディスカッション プロパティ] の各タブを使用して、以下の操作が行えます。

- [一般] タブには、ディスカッションの件名とテキストが表示されます。新規ディスカッションを作成するときは、このタブを使用して件名とテキストを入力します。
- [属性] タブには、ディスカッションの作成者、ディスカッションの作成日時、ディスカッションの現在の優先順位とステータスが表示されます。優先順位とステータスのみを変更できます。
- [参加者] タブには、ディスカッションの参加者のリスト (ユーザー名とグループ名別) が表示されます。ディスカッションを参加者のみに限定したり、ほかのユーザーが使用できるように設定できます。
- [要求] タブでは、どの要求をディスカッションに関連付けるかを指定します。ディスカッションは、必ずしも特定の要求に関連している必要はありません。ただし、特定の要求を対象とする場合は、このタブを使用して関連付ける必要があります。

## 新規ディスカッションの参加者への通知

新規ディスカッションを作成するとき、[ディスカッション プロパティ] ダイアログ ボックスで次のように設定されている場合、ディスカッションのすべての参加者に自動的にディスカッションの通知が送られます。

- [全般] タブに件名とトピックが入力されている。
- [参加者] タブに参加者が指定されている。

新規ディスカッションでは、ディスカッションの作成者は、自動的に参加者に含まれます。

ダイアログ ボックスで上記 2 つの作業を行った後、[OK] をクリックすると、ディスカッションがプロジェクトに追加され、ユーザー情報に電子メールアドレスが指定されている参加者に対して電子メール メッセージが送信されます。このメッセージには、[一般] タブで入力した件名とテキストが含まれています。



参加者は、ディスカッションとその応答を RequisitePro で読むことができます。ユーザーがプロジェクトを開くと、ツールバーのディスカッション ボタンが強調表示され、ボタンをポイントすると、新規ディスカッションまたは応答がそのプロジェクトや要求に関連付けられていることを示すツールチップが表示されます。

## ディスカッションの読み取り

[ディスカッション] ダイアログ ボックスでは、ディスカッション項目が既読と未読のどちらであるかを確認できます。未読のディスカッション項目は、太字で表示されます。既読の項目は、通常の文字で表示されます。



- 1 [ツール] メニューの [ディスカッション] (または [すべてのディスカッションを表示] ボタン) をクリックします。



- 2 [ディスカッション] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 2 ディスカッションのリストで、ディスカッションをクリックします。

応答の付いているディスカッションには、その左側に展開インジケータが表示されます。

- 3 項目を読むには、文字をクリックします。ダイアログ ボックスの下半分に、項目のテキストが表示されます。

約 5 秒後に、項目の表示が太字から標準の文字に変わり、既読になったことが示されます。5 秒経過する前に別の項目を選択した場合は、前の項目は太字のまま、未読扱いになります。

- 4 [閉じる] をクリックして [ディスカッション] ダイアログ ボックスを閉じます。

**メモ:** 項目を未読または既読として手動でマークするには、項目を右クリックし、ショートカット メニューの [開封済みにする] または [未読にする] をクリックします。

## ディスカッションへの応答

ディスカッションへは、RequisitePro または電子メール アプリケーションから応答できます。

ディスカッションの参加者でないユーザーは、[ディスカッション プロパティ] ダイアログ ボックスの [参加者] タブにある [参加者に制限] チェック ボックスがオフになっている場合のみ、ディスカッションに応答できます。このオプションを変更できるのは、ディスカッションの作成者と管理者グループのメンバーだけです。

### RequisitePro でのディスカッションへの応答

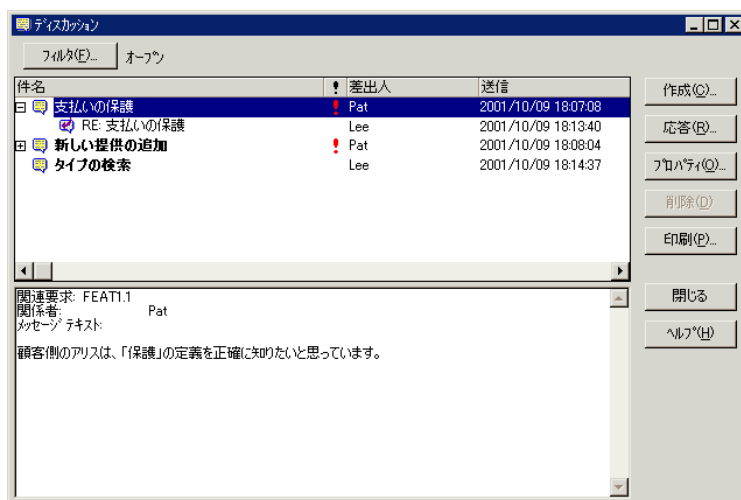
RequisitePro で [ディスカッション] ダイアログ ボックスを使用してディスカッションに応答するには



- 1 [ツール] メニューの [ディスカッション] (または [すべてのディスカッションを表示] ボタン) をクリックします。

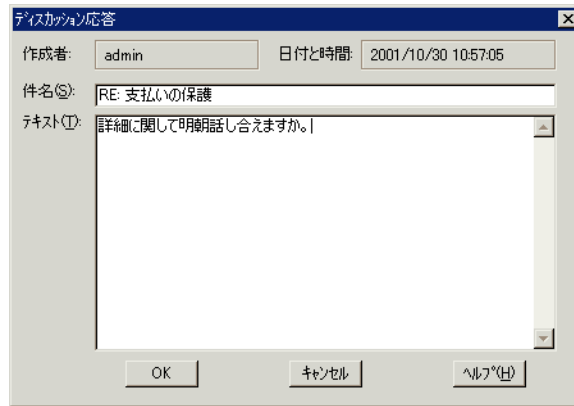


[ディスカッション] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 2 ディスカッション リストで、ディスカッションまたはディスカッションに対する応答をクリックします。[ディスカッション] ダイアログ ボックスの下半分に、ディスカッションのテキストが表示されます。
- 3 [応答] をクリックします。

[ディスカッション応答] ダイアログ ボックスが表示されます。



デフォルトの件名は、「RE: (前のディスカッション項目の件名)」になっています。この件名は変更できます。

#### 4 応答を入力します。

入力したテキストは、行末で自動的に折り返されます。別のアプリケーションやドキュメントのテキストをコピーするには、[CTRL] を押しながら [C] を押します。コピーしたテキストを応答のテキスト ボックスに貼り付けるには、[CTRL] を押しながら [V] を押します。太字や下線などの書式は、[ディスカッション応答] ダイアログ ボックスでは使用できません。応答にはファイルを添付できません。

- 5 [OK] をクリックします。[ディスカッション] ダイアログ ボックスが再び表示されます。関連付けられているプロジェクトと要求が更新され、ユーザー情報に電子メールアドレスが指定されているすべての参加者に応答が送信されます。

## 電子メールを使用したディスカッションへの応答

電子メール アプリケーションを使用して、ディスカッションに応答できます。システム管理者が Rational E-mail Reader を使用して参加者の電子メールを有効にしているかどうかに応じて、次のいずれかが適用されます。

- 参加者の電子メールが有効になっている場合は、ディスカッションの参加者全員に応答が送信され、RequisitePro データベースに保存されます。この時点で、RequisitePro から応答へアクセスできるようになります。
- 参加者の電子メールが設定されていない場合、応答は選択した相手には送信されますが、RequisitePro データベースには保存されません。

電子メール アプリケーションを使用してディスカッションに回答するには

- 1 電子メール アプリケーションで、回答するディスカッション項目が含まれているメッセージを開きます。
- 2 回答のオプションを選択します。
- 3 表示されたデフォルトの受信者を使用します。

**メモ：**参加者の電子メールが有効な場合、メッセージは、RequisitePro の各プロジェクトの電子メール ハンドラから送信されます。この場合は、送信者に直接回答してください。参加者の電子メールが無効な場合は、すべての受信者に対して回答を発信できます。ただし、この場合、メッセージは RequisitePro ディスカッションに保存されません。いずれの場合でも、受信者を追加できます。

- 4 表示されたデフォルトの件名を使用します。件名は変更しないでください。
- 5 回答を入力します。[この行より下にあるテキストは、ディスカッション回答に含まれません。] の行より下には入力しないでください。また、この行とその下にあるテキストは削除しないでください。

この行は、回答のテキストと、ディスカッション内に既に含まれているテキストを区別するために使用します。この行を削除した場合は、新しく入力したテキストと削除した行の下にあるすべてのテキストが回答に含まれます。

ディスカッションでは、添付機能はサポートされていません。添付内容は、RequisitePro データベースのディスカッションには追加されません。

- 6 電子メール メッセージを送信します。メッセージは RequisitePro に送信され、関連するプロジェクトとディスカッションが更新され、電子メールを使用しているすべての参加者に回答が送信されます。

いったん送信したディスカッション回答は、変更できません。これによって、回答のテキストが別の回答で引用されている場合の矛盾を防ぐことができます。メッセージに関して説明を付け加えるには、ほかの回答を作成します。


## ディスカッションの表示、フィルタ、ソート

---

### 1 つの要求に関連付けられたディスカッションの表示

[ディスカッション] ダイアログ ボックスを開いて、特定の要求に関連付けられたディスカッションのみを表示するか、開いているすべてのディスカッションを表示することができます。

特定の要求に関連付けられたディスカッションのみを表示するには

- 1 エクスプローラ、ビュー、ドキュメントのいずれかで要求を選択します。
- 2 [ディスカッション] ダイアログ ボックスを開きます。エクスプローラまたは開いているビューで、次のいずれかを実行します。
  - [要求] メニューの [ディスカッション] をクリックします。
  - [ツール] メニューの [ディスカッション] をクリックします。
  - 要求の右側にある [ディスカッション] アイコン  をクリックします。

開いているドキュメントで [RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[ディスカッション] をクリックします。

[ディスカッション] ダイアログ ボックスが開き、指定した要求に関連付けられているディスカッションだけが表示されます。

すべてのディスカッションを表示するには、次のいずれかを実行します。

- [フィルタ] をクリックし、[要求] チェック ボックスをオフにし、[OK] をクリックします。
- ダイアログ ボックスを閉じて、[ツール] メニューの [ディスカッション] をクリックします。

## ディスカッションのフィルタ

[ディスカッション] ダイアログ ボックスに表示するディスカッションを、テキスト、要求、ユーザー、優先順位、ステータスに基づいて指定できます。

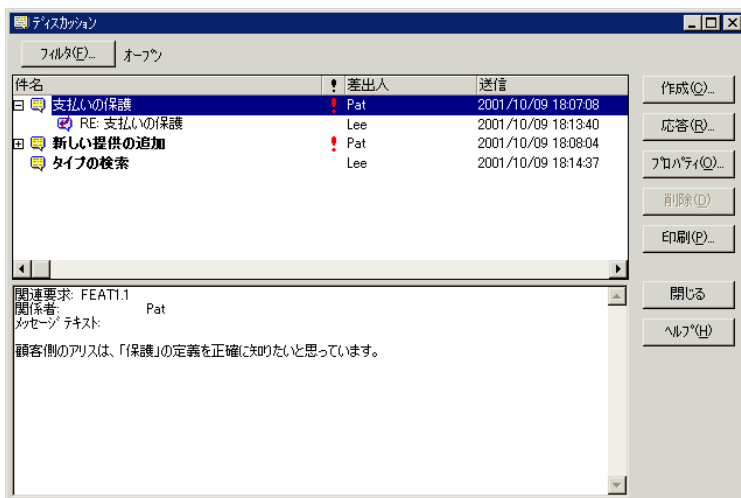


ディスカッションをフィルタするには

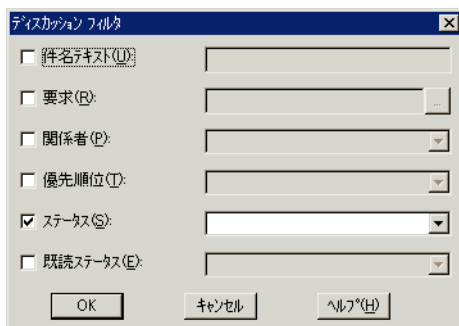


- 1 [ツール] メニューの [ディスカッション] (または [すべてのディスカッションを表示] ボタン) をクリックします。

[ディスカッション] ダイアログ ボックスが開き、開いているすべてのディスカッションが表示されます。



- 2 [フィルタ] をクリックします。[ディスカッション フィルタ] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 3 件名の中に特定のテキストが含まれているディスカッションを表示するには、[件名テキスト] チェック ボックスをオンにして、テキストを入力します。

任意の文字と文字数を指定するには、検索テキスト内でワイルドカード文字 % を使用します。たとえば、このチェック ボックスをオンにし、「%document%」という文字列を入力した場合には、document、documents、documented、undocumented などの文字列を含むディスカッションが検索されます。

- 4 1 つまたは複数の要求に関連付けられたディスカッションを表示するには、[要求] チェック ボックスをオンにし、フィルタする要求を (カンマで区切って) ボックスに入力します。たとえば、要求 PR1、SR22、または TST114 が関連付けられているすべてのディスカッションを表示するには、それぞれ「PR1」、「SR22」、または「TST114」と入力します。

[...] ボタンをクリックして [要求の選択] ダイアログ ボックスを表示し、要求を名前で選択することもできます。

- 5 参加者に特定のユーザーが含まれているディスカッションを表示するには、[参加者] チェック ボックスをオンにして、リストからユーザー名を選択します。

グループ メンバーであるユーザーの名前を選択できます。その場合、選択したユーザーを含むグループ メンバーによるディスカッションが検索されます。

- 6 特定の優先順位が設定されているディスカッションを表示するには、[優先順位] チェック ボックスをオンにして、リストから [高]、[中]、[低] のいずれかを選択します。

- 7 開いているディスカッション、または閉じているディスカッションを表示するには、[ステータス] チェック ボックスをオンにし、リストから [オープン] または [クローズド] を選択します。

- 8 既読または未読のディスカッションを表示するには、[既読ステータス] チェック ボックスをオンにして、リストから [既読] または [未読] を選択します。

- 9 手順 3 ~ 7 を繰り返して、複数のオプションによるフィルタを行い、[OK] をクリックします。

[ディスカッション] ダイアログ ボックスが再び開き、設定したフィルタと一致するディスカッションのみが表示されます。このダイアログ ボックスの [フィルタ] の横に、フィルタ設定が表示されます。

**メモ:** ディスカッション リストを更新するには、[F5] を押します。これには、自分で行ったディスカッションの優先順位とステータスの更新と、RequisitePro と RequisiteWeb を使用するほかのチーム メンバーによる変更が含まれます。

## ディスカッションのソート

[ディスカッション] ダイアログ ボックスでは、表示するディスカッションのソート順序を変更できます。



1 [ツール] メニューの [ディスカッション] (または [すべてのディスカッションを表示] ボタン) をクリックします。[ディスカッション] ダイアログ ボックスが表示されます。



2 ディスカッションのリストで、ディスカッションのソート基準となる列見出しをクリックします。

たとえば、ディスカッションを件名のアルファベット順にソートするには、列見出し [件名] をクリックします。

3 ソート順序を逆にするには、列見出しを再度クリックします。

## ディスカッションの印刷

---

ディスカッション項目は印刷することができます。ディスカッション項目の件名、テキスト、作成者、作成日時が印刷されます。同時に、ディスカッションの優先順位、ステータス、要求、参加者など、ディスカッションに関連のある情報も印刷されます。



1 [ツール] メニューの [ディスカッション] (または [すべてのディスカッションを表示] ボタン) をクリックします。[ディスカッション] ダイアログ ボックスが表示されます。



2 ディスカッションのリストで、1 つまたは複数のディスカッション項目をクリックします。複数の項目を選択するには、複数選択の操作を行います。

3 [印刷] をクリックします。

4 Windows の [印刷] ダイアログ ボックスで必要なオプションを選択して、印刷します。

## ディスカッションの修正

---

### ディスカッションの属性の表示と修正

[ディスカッション プロパティ] ダイアログ ボックスの [属性] タブには、ディスカッションの作成者、作成日時、現在の優先順位とステータスが表示されます。ディスカッションの作成者とプロジェクト管理者のみがプロパティを変更できます。

ディスカッションの属性を変更するには



1 [ツール] メニューの [ディスカッション] (または [すべてのディスカッションを表示] ボタン) をクリックします。[ディスカッション] ダイアログ ボックスが表示されます。



2 ディスカッションを選択し、[プロパティ] をクリックします。[作成] をクリックしても、新規ディスカッションを作成できます。

3 [属性] タブをクリックします。

4 リストから [優先順位] を選択します。

**メモ:** ディスカッションが開いている場合のみ、ディスカッションの優先順位を変更できます。

5 ディスカッションを変更するには、[ステータス] を [オープン] または [クローズド] に変更します。新規ディスカッションのステータスは変更できません。

ディスカッションは、優先順位またはステータスを修正した後、表示のフィルタ基準に一致しない場合でも、[ディスカッション] リストに表示されます。自分やほかのチーム メンバーが優先順位やステータスを変更した後で [ディスカッション] リストを更新するには、[F5] を押します。

## ディスカッションの参加者情報の作成と修正

[ディスカッション プロパティ] ダイアログ ボックスの [参加者] タブを使用して、ディスカッションに参加するユーザーとグループを指定し、ディスカッションを参加者のみに限定するかどうかを設定できます。

すべてのユーザーが [参加者] タブを表示できますが、オプションを変更できるのはディスカッション作成者とプロジェクト管理者だけです。ただし、次の場合は例外です。

- [参加者に制限] チェック ボックスがオフになっている場合は、自分自身を [ユーザー] リストに追加できます。
- 自分自身を [ユーザー] リストから削除することは常に可能です。

ただし、ディスカッションに参加しているグループのメンバーは、ディスカッション参加者から自分自身を削除できません。グループからの削除は、RequisitePro 管理者が行う必要があります。

このダイアログ ボックスのオプションは、ディスカッションが開いている場合にかぎり変更できます。

参加者情報を変更するには

- 1 [ツール] メニューの [ディスカッション] (または [すべてのディスカッションを表示] ボタン) をクリックします。[ディスカッション] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 ディスカッションのリストで、開いているディスカッションをクリックし、[プロパティ] をクリックします。または、[作成] をクリックして新規ディスカッションを作成します。[ディスカッション プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

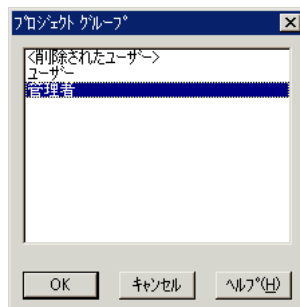


- 3 [参加者] タブをクリックします。
- 4 ユーザーを追加するには、[ユーザー] リストの下にある [追加] をクリックします。[プロジェクト ユーザー] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 5 リストからユーザーを選択し、[OK] をクリックします。複数のユーザーを選択するには、複数選択の操作を行います。新規ディスカッションでは、ディスカッションの作成者は、自動的に参加者のグループに含まれます。

- 6 グループを追加するには、[グループ] リストの下にある [追加] をクリックします。  
[プロジェクト グループ] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 7 リストからグループを選択し、[OK] をクリックします。複数のグループを選択するには、複数選択の操作を行います。[グループ] リストにグループを追加した場合、そのグループの個別のユーザー名を [ユーザー] リストに追加する必要はありません。
- 8 ユーザーを削除するには、[ユーザー] リストでユーザー名をクリックし、[ユーザー] リストの下にある [削除] をクリックします。グループを削除するには、[グループ] リストでグループ名をクリックし、リストの下にある [削除] をクリックします。
- 9 ディスカッションを参加者のみに限定するには、[参加者に制限] チェック ボックスをオンにします。ディスカッションに回答できるのは参加者のみですが、すべてのユーザーが RequisitePro でディスカッションを読むことができます。
- 10 [OK] をクリックし、ダイアログ ボックスを閉じます。

## ディスカッションの要求情報の作成と修正

[ディスカッション プロパティ] ダイアログ ボックスの [要求] タブを使用して、ディスカッションを特定の要求に関連付けることができます。ディスカッションは、必ずしも特定の要求に関連している必要はありません。しかし、特定の要求を指定する場合は、このタブを使用してディスカッションと関連付ける必要があります。

すべてのユーザーが [要求] タブを表示できますが、このオプションを変更できるのはディスカッション作成者と管理者グループのメンバーのみです。このダイアログ ボックスのオプションは、ディスカッションが開いている場合にかぎり変更できます。

ディスカッションの要求情報を変更するには



1 [ツール] メニューの [ディスカッション] (または [すべてのディスカッションを表示] ボタン) をクリックします。[ディスカッション] ダイアログ ボックスが表示されます。

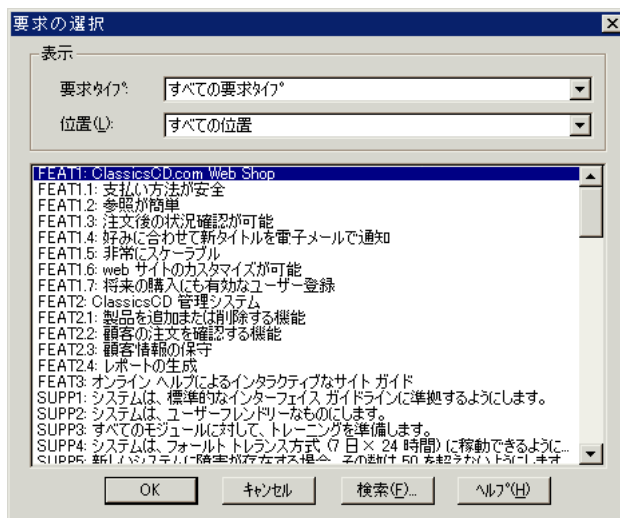


2 ディスカッションのリストで、開いているディスカッションを選択して、[プロパティ] をクリックします。または、[作成] をクリックしてディスカッションを新しく作成します。[ディスカッションプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

3 [要求] タブをクリックします。

4 選択したディスカッションに要求を関連付けるには、[追加] をクリックします。

[要求の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。



5 [要求のタイプ] リストから要求のタイプを、[位置] リストから位置を、要求リストから要求を選択します。複数の要求を選択するには、複数選択の操作を行います。特定の要求を検索するには、[検索] をクリックします。[検索] ダイアログ ボックスを使用して、特定のタグ番号、要求の名前、テキストを検索できます。

**メモ:** 保留中の要求はディスカッションに関連付けることができないので、保留タグの番号の付いた要求は、このリストに表示されません。

6 要求の選択が終わったら、[OK] をクリックします。

[ディスカッション プロパティ] ダイアログ ボックスが再度表示され、指定した要求が [関連要求] リストに表示されます。



**メモ:** [関連要求] リストから要求を選択し、[削除] をクリックして要求を削除できます。

7 要求のプロパティを表示するには、[プロパティ] をクリックします。

[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが開き、選択した要求のプロパティが表示されます。

8 [OK] をクリックし、ダイアログ ボックスを閉じます。

## 要求のディスカッション情報の作成と修正

[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスの [ディスカッション] タブで、ディスカッションの表示と作成を実行できます。

1 次のいずれかの操作を行って、ダイアログ ボックスを開きます。

- 開いたドキュメント内で要求を選択し、[RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[プロパティ] をクリックします。
- エクスプローラまたはビュー内で要求を選択し、[要求] メニューの [プロパティ] をクリックします。

2 [ディスカッション] タブをクリックします。要求に関連付けられているすべてのディスカッションが一覧表示されます。

3 この要求に関連付けるディスカッションを新しく作成するには、[作成] をクリックします。

4 ディスカッション項目を読むには、ディスカッションを選択して [ビュー] をクリックします。

- 5 選択したディスカッションのプロパティを表示するには、ディスカッションを選択して [プロパティ] をクリックします。

要求がデータベースに保存されていない場合は、[作成]、[ビュー]、[プロパティ] ボタンを使用できません。要求に関連する新規ディスカッションを作成したり、ディスカッション項目を読み取ったり、選択したディスカッションのプロパティを表示するには、その要求を含むドキュメントを保存した後、ダイアログ ボックスをもう一度開きます。

## ディスカッションを閉じて削除

---

ディスカッションの作成者または RequisitePro 管理者は、不要になったディスカッションを閉じることができます。デフォルトでは、閉じたディスカッションは [ディスカッション] ダイアログ ボックスに表示されません。ディスカッションは、削除する前に閉じる必要があります。ただし、入っているレコードが必要な場合に備えて、閉じるディスカッションを保存しておく便利です。



- 1 [ツール] メニューの [ディスカッション] (または [すべてのディスカッションを表示] ボタン) をクリックします。[ディスカッション] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 2 ディスカッションのリストで、開いているディスカッションをクリックします。
- 3 [プロパティ] をクリックします。[ディスカッション プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 4 [属性] タブで、[ステータス] リストから [クローズド] を選択します。
- 5 [OK] をクリックします。[ディスカッション] ダイアログ ボックスが再び開き、閉じたディスカッションの [作成者] 列の横に X が付きます。

ディスカッションの作成者とプロジェクト管理者は、閉じたディスカッションを削除できます。

- 1 [ツール] メニューの [ディスカッション] (または [すべてのディスカッションを表示] ボタン) をクリックします。[ディスカッション] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 ディスカッションのリストで、閉じているディスカッションをクリックします。閉じているディスカッションの [差出人] 列の横には X が付いています。[削除] をクリックします。
- 3 削除するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[はい] をクリックします。

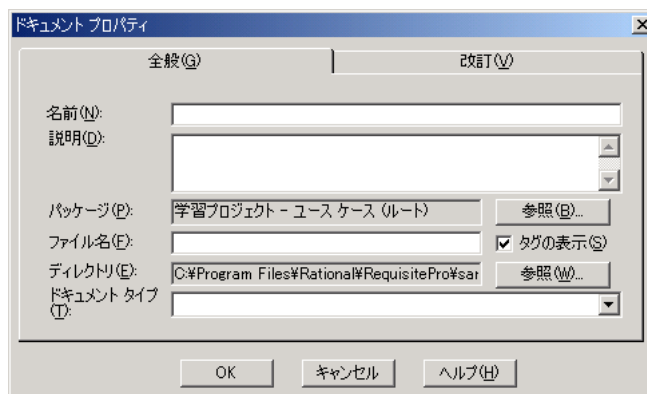
Rational RequisitePro の要求ドキュメントは、RequisitePro で作成された Microsoft Word ファイルであり、プロジェクト データベースに統合されています。プロジェクト ドキュメントの外部で作成した要求を、ドキュメントにインポートまたはコピーできます。

新規のプロジェクト ドキュメントを作成すると、そのドキュメントは、開いているプロジェクトに関連付けられます。この関連付けによって、データベースが更新され、プロジェクトとドキュメントに同じ改訂番号が付けられます。ドキュメントの名前、保存場所、ドキュメント タイプ、改訂情報は、プロジェクト データベースに保存されます。プロジェクト データベースには、要求、その属性値、追跡可能性関係も保存されます。

## RequisitePro ドキュメントの作成

RequisitePro プロジェクト内でドキュメントを作成するには

- 1 新規ドキュメントに関連付けるプロジェクトを開き、エクスプローラで、新規ドキュメントを保存するパッケージを選択します。
- 2 次のいずれかを実行します。
  - [ファイル] メニューの [新規作成] をポイントし、[ドキュメント] をクリックします。
  - Word で、[RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[新規作成] をクリックします。[ドキュメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 3 [全般] タブで、[名前] ボックスにドキュメント名 (半角 64 文字以内) を、[説明] ボックスにドキュメントの目的または内容についての短い説明 (半角 255 文字以内) を入力します。

[パッケージ] ボックスに、ドキュメントの入っている場所 (手順 1 で選択したパッケージ名) が表示されます。隣にある [参照] をクリックすると、[パッケージ ブラウザ] ダイアログ ボックスが開き、ドキュメントを入れる別のパッケージを選択することができます。

- 4 [ファイル名] ボックスで、ドキュメント名を入力、変更、または表示します。デフォルトでは、[名前] ボックスに入力したファイル名が表示されます。オペレーティング システムで長いファイル名がサポートされていない場合、ファイル名は 8 文字以内に制限されます。長いファイル名がサポートされている場合は、64 文字まで使用できます。オンライン ヘルプの「RequisitePro のファイル名」を参照してください。拡張子を指定する必要はありません。選択したドキュメント タイプに応じて、拡張子が自動的に割り当てられます。
- 5 新規ドキュメントに要求タグを表示するには、[タグの表示] チェック ボックスをオンにします。タグを非表示にするには、このチェック ボックスをオフにします。このチェック ボックスをオンにすると、画面上と印刷したドキュメントの両方に要求タグが表示されるよう、Microsoft Word のオプションが設定されます。Microsoft Word の [オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] メニューの [オプション] をクリック) にある [表示] タブと [印刷] タブの両方で、[隠し文字] チェック ボックスがデフォルトでオンになります。
- 6 [ディレクトリ] にファイルの保存場所を入力するか、[参照] をクリックしてディレクトリを選択します。

ドキュメントはデフォルトではプロジェクト ディレクトリに置かれますが、システムのどの場所にも保存できます。このテキスト ボックスにディレクトリ名を入力できます。共有ドライブを使用してネットワーク環境で作業する場合、サーバー上で共有ディレクトリを指定するには、「¥¥Servername¥Sharename」などの汎用命名規則名 (UNC) を入力します。ドライブ名で場所を入力する場合は、デフォルトでこのようになります。

- 7 新規ドキュメントに割り当てるドキュメント タイプを選択します。アウトラインがドキュメント タイプに関連付けられると、RequisitePro はこのアウトラインを使用して、新規ドキュメントの書式を設定します。ドキュメントを保存した後は、ドキュメント タイプを変更できません。
- 8 [OK] をクリックします。新規ドキュメントが開き、編集が可能になります。

**メモ:** 要求の内容をデータベースに反映させるには、ドキュメントを保存する必要があります。

## RequisitePro ドキュメントの保存

ドキュメントを保存すると、RequisitePro では、ドキュメント名、改訂番号、ラベル、変更の説明などの、すべてのドキュメントの変更がプロジェクトのデータベースに保存されます。

RequisitePro では、ドキュメントのディレクトリ内の各ドキュメント ファイル用にバックアップ ファイルが自動的に作成され、ドキュメントを保存するたびに、そのバックアップ ファイルが更新されます。また、ドキュメント内の新規要求と修正された要求のすべてがデータベースに反映され、ドキュメントから削除した要求はすべて、データベースから削除されます。保留タグ番号付きの要求は、要求タグを割り当てられます。

[RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[保存] をクリックして、アクティブな要求ドキュメントを保存します。Microsoft Word の [ファイル] メニューの [保存] コマンドを使用した場合、ドキュメントは保存されますが、ドキュメントと要求情報は RequisitePro データベース内では更新されません。

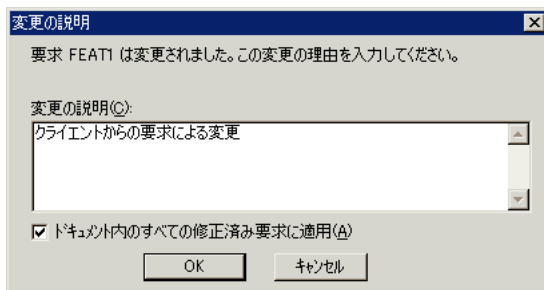
デフォルトでは、ドキュメントはプロジェクト ディレクトリに格納されます。また、別の任意の場所に格納することもできます。

RequisitePro プロジェクト内で要求ドキュメントを保存するには



- 1 [現在のドキュメントを保存] をクリックするか、[RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[保存] をクリックします。

ドキュメント内の要求を変更した場合は、変更理由の入力を要求する [変更の説明] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 2 [変更の説明] ボックスに、変更に関する説明を入力します。
- 3 変更に関する説明を、このドキュメント内で変更したすべての要求に適用する場合は、[ドキュメント内のすべての修正済み要求に適用] チェック ボックスをオンにします。

**メモ :** Microsoft Word とリンクされたファイルを含む要求がドキュメント内にある場合、リンクされたファイルの場所が見つからないことを示すメッセージが表示されることがあります。この場合の理由としては、コンピュータがネットワークから切断されている、コンピュータが指定の

ドライブにマッピングされていない、リムーバブルドライブが空、指定のドライブを読み取る権限がない、などが考えられます。要求またはドキュメントへの変更を保存することはできませんが、外部ドキュメントへのリンクは更新されません。[OK] をクリックします。

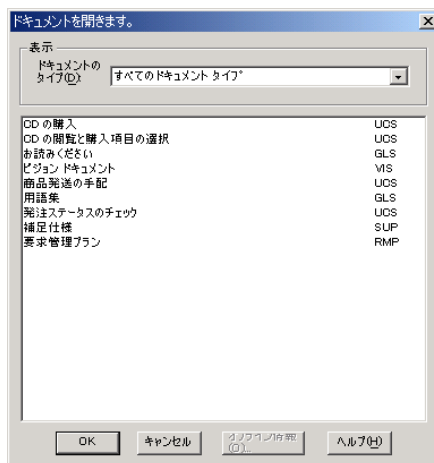
- 4 [OK] をクリックし、ドキュメントと要求を保存します。プロセス全体を終了するには、[キャンセル] をクリックします。

RequisitePro によって自動的に要求に追加される標準的なブックマークとスタイルを使用せずにドキュメントを保存する場合、該当するオプションをオフにすることができます。ブックマークなしでドキュメントを保存するには、Microsoft Word の [ツール] メニューの [オプション] をクリックし、[表示] タブで [ブックマーク] チェック ボックスをオフにします。要求タグなしでドキュメントを保存する場合、[ツール] メニューの [オプション] をクリックし、[印刷] タブの [隠し文字] チェック ボックスをオフにします。プロジェクトへの排他アクセス権があり、色付きテキストなしでドキュメントを保存する場合、RequisitePro の [プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスで要求スタイルを編集できます。

## プロジェクトを開いた後でドキュメントを開く

次のいずれかの方法でドキュメントを開くことができます。

- エクスプローラでドキュメントをダブルクリックします。ドキュメントが Microsoft Word に表示されます。
- Microsoft Word で、[RequisitePro] の [ドキュメント] を選択し、[開く] をクリックします。  
[ドキュメントを開きます。] ダイアログ ボックスが表示されます。



[ドキュメントを開きます。] ダイアログ ボックスに、開いているプロジェクトに関連付けられたドキュメントが表示されます。このリストには、要求が記述されているかどうかにかかわらず、プロジェクトで作成したドキュメントと、プロジェクトにインポートしたドキュメントがすべて表示されます。すべてのドキュメントを一覧表示したり、表示するドキュメントのタイプを選択したりできます。選択したタイプのドキュメントが、[ドキュメントのタイプ] リストの下にあるリストに表示されます。

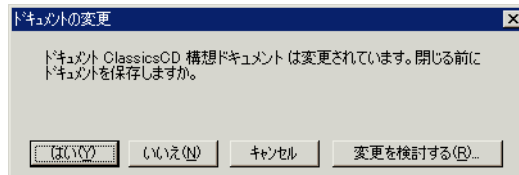
- 開くドキュメントを選択し、[OK] をクリックします。ドキュメントが Microsoft Word ウィンドウに表示されます。ドキュメントを開いているときに、途中で [ESC] を押さないでください。

**メモ：**プロジェクトとドキュメントが開いている間、別のユーザーからのアクセスを制御するオプションについては、184 ページの「セキュリティの設定」を参照してください。ドキュメントを変更しないで表示するだけの場合は、エクスプローラでドキュメントを右クリックし、[読み取り専用で開く] をクリックします。

## プロジェクト ドキュメントを閉じて保存

プロジェクト ドキュメントを閉じるには

- [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[閉じる] をクリックします。ドキュメントの変更内容を保存していない場合は、[ドキュメントの変更] ダイアログ ボックスが表示されます。



1 次のいずれかを実行します。

- ドキュメントに対する変更を保存するには、[はい] をクリックします。
- ドキュメントに対する変更を保存しない場合は、[いいえ] をクリックします。
- ドキュメントを閉じないで、作業を続行する場合は、[キャンセル] をクリックします。
- ドキュメントに対する変更を確認するには、[変更を検討する] をクリックします。  
[ドキュメントの変更] ダイアログ ボックスに、以下で説明するような変更が一覧表示されます。

**メモ：**上記の [はい] と [変更を検討する] のどちらを選択した場合でも、ドキュメント内の要求を変更すると [変更の説明] ダイアログ ボックスが表示されます。必要に応じて、要求の変更理由を入力します。

## ドキュメントを閉じる前の変更確認

変更箇所があるドキュメントを閉じると、[ドキュメントの変更] ダイアログ ボックスに、変更を確認するためのオプションが表示されます。

ドキュメントに対する変更を確認するには

- 1 上記の手順 1 と 2 を実行し、[変更を検討する] をクリックします。ドキュメント内で要求を変更している場合は、[変更の説明] ダイアログ ボックスが表示されます。必要に応じて、要求の変更理由を入力します。

[ドキュメントの変更] ダイアログ ボックスに、ドキュメントに対するすべての変更が一覧表示されます。

- 2 確認済みの変更を保存するには、[OK] をクリックします。

## プロジェクトからのドキュメントの削除

---

ドキュメントで書式設定されている要求を削除し、プロジェクト データベースから要求とドキュメント自体を削除するには、[削除] コマンドを使用します。このコマンドを使用するには、プロジェクトに排他モードでアクセスする必要があります。

このコマンドでは、要求として選択したドキュメントやテキストは削除されません。ドキュメントは、Microsoft Word ドキュメントとしてプロジェクト ディレクトリに保存されます。

ドキュメントをプロジェクトに戻すには、開いている要求ドキュメントにそのドキュメントをインポートし、要求を再度作成してください。

- 1 エクスプローラでドキュメントを選択し、[編集] メニューの [削除] をクリックします。

削除するかどうかを確認するダイアログ ボックスが表示されます。

**メモ：**ドキュメントを削除する前に、ドキュメント内の要求がほかのパッケージに割り当てられている可能性があることに注意してください。ドキュメントを削除すると、すべての要求も削除されます。そのドキュメント内の要求の要求タイプに対する属性マトリクスビューを作成することをお勧めします。それらの要求が入っているドキュメントを特定するには [場所] 属性をチェックし、要求がほかのパッケージに関連付けられているかどうかを調べるには [パッケージ] 属性をチェックします。

- 2 [はい] をクリックします。

RequisitePro では、次のような変更処理が行われます。

- 要求の書式設定がドキュメントから削除されます。
- 要求がプロジェクト データベースから削除されます。
- テキストはすべてドキュメント内に残ります。

- RequisitePro で、ドキュメントが閉じます。
- ドキュメントを Microsoft Word で開いたり、RequisitePro で Word ドキュメントとして開くことはできますが、RequisitePro の要求ドキュメントとしては開けなくなります。

## RequisitePro ドキュメントの保存場所の変更

新規ドキュメントは、デフォルトではプロジェクトディレクトリに保存されます。ドキュメントは、ファイル システムの任意のディレクトリに、作成または移動できます。プロジェクトに関連付けられているすべてのドキュメントは、保存先に関係なく、プロジェクト リストに表示されます。

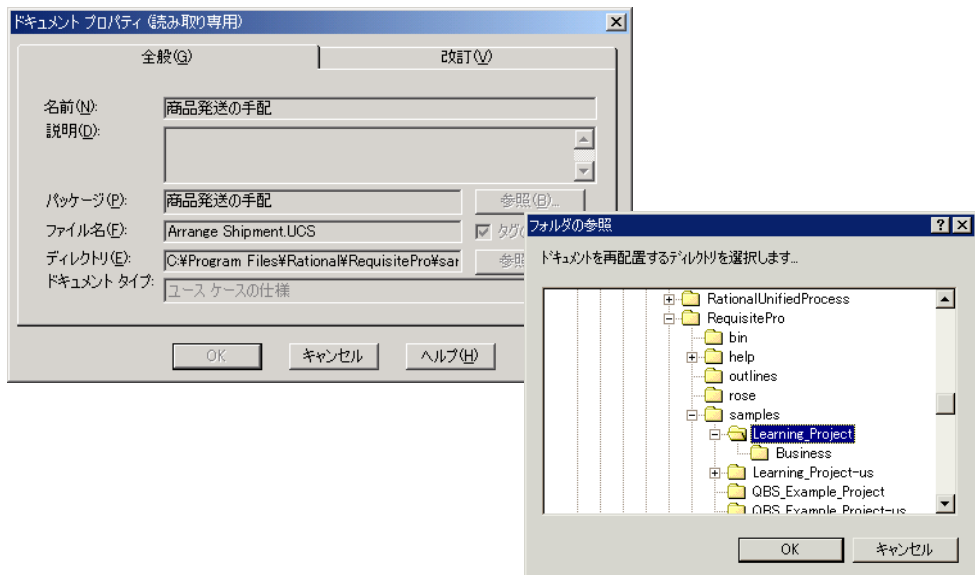
プロジェクト ドキュメントの保存場所を変更するには

### 1 次のいずれかを実行します。

- エクスプローラでドキュメントを選択して、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。
- 開いているドキュメントで、[RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[プロパティ] をクリックします。

[ドキュメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。[全般] タブの [ディレクトリ] ボックスに、ドキュメントのファイル名と場所が表示されます。

### 2 ファイルの保存場所を変更するには、[参照] をクリックします。[フォルダの参照] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 3 ドキュメントの保存場所を選択します。フォルダをクリックして開きます。
- 4 [OK] をクリックし、ダイアログ ボックスを閉じます。

## ドキュメント情報の変更

---

開いているドキュメントの情報を変更するには

- 1 以下のいずれかの方法で、[ドキュメント プロパティ] ダイアログ ボックスを開きます。
  - エクスプローラでドキュメントを選択して、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。
  - Microsoft Word で、[RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 ドキュメント情報を変更します。
  - [全般] タブで、ドキュメントの名前、説明、保存先ディレクトリを変更できます。ドキュメントの論理名やドキュメント タイプは変更できません。しかし、新規ドキュメントを作成して、Microsoft Word の [切り取り] コマンドと [貼り付け] コマンドを使用することで、既存のドキュメントのテキストや要求をその新規ドキュメントに移動することはできます。[パッケージ] ボックスに、ドキュメントが入っているパッケージが表示されます。[参照] をクリックして [パッケージ ブラウザ] ダイアログ ボックスを開き、別のパッケージを選択することもできます。
  - [改訂] タブには、改訂番号に関連付けるラベル (20 文字以内) と変更の説明 (半角 2,048 文字以内) を入力することができます。この機能は、新規ドキュメントの場合 (かつ [全般] タブで情報を設定した場合)、またはドキュメントを変更して、変更内容を保存していない場合のみ使用できます。[履歴] をクリックすると、ドキュメントの変更履歴の詳細が表示されます。
- 3 [OK] をクリックし、[ドキュメント プロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。
- 4 [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[保存] をクリックして、変更をドキュメントに保存します。

## 新規ドキュメントへのテキストと要求の移動

---

要求ドキュメントが壊れた場合、Microsoft Word の [切り取り] と [貼り付け] コマンドを使用して、ドキュメントのすべての内容 (要求を含む) を別のドキュメントに移動することができます。この方法は、ドキュメント全体の内容を新しいファイル名の新規ドキュメントに移動する場合にも便利です。

**メモ：** 個々の要求をドキュメント間で移動するには、Microsoft Word の [編集] メニューではなく、[RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[切り取り] と [貼り付け] のコマンドを使用します。

すべてのテキストと要求を移動するには

- 1 既存の RequisitePro ドキュメントを開きます。
- 2 次のいずれかの方法で新規ドキュメントを作成します。
  - [ファイル] メニューの [新規作成] をポイントし、[ドキュメント] をクリックします。
  - Word で、[RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[新規作成] をクリックします。
- 3 新規ドキュメントの名前とファイル名を入力して、ドキュメント タイプを選択し、[OK] をクリックします。
- 4 Word で、以下の操作を実行します。
  - [ウィンドウ] メニューで、既存のファイル名をクリックします。
  - [編集] メニューの [すべて選択] をクリックします。
  - [編集] メニューの [切り取り] をクリックします。
  - [ウィンドウ] メニューで、新規ドキュメントのファイル名をクリックします。
  - [編集] メニューの [貼り付け] をクリックします。
- 5 [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[保存] をクリックします。

ダイアログ ボックスが表示され、新規ドキュメントに貼り付けられた各要求をどのように扱うかを確認するメッセージが表示されます。
- 6 デフォルト オプションの [要求の位置を変更する] をオンにしたままで、[OK] をクリックします。

## ドキュメントの保護

---

改訂に対してドキュメントを保護するには、ドキュメントを電子的に配布するか、共有ディレクトリを用意してレビュー担当者が変更を提案するようにします。複数の改訂版は1つのドキュメントにマージすることができます。

Microsoft Word の [ ツール ] メニューのコマンドを使用して、RequisitePro ドキュメントの変更を追跡し、ドキュメントを保護します。ドキュメントを保護するには、RequisitePro のオフライン オーサリング機能を使用して、RequisitePro 外部の Word でドキュメントを編集します。または、[名前を付けて保存] コマンドを使用して、要求ドキュメントのコピーを作成します ([RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[名前を付けて保存] をクリック)。次の項と 100 ページの「オフラインでのドキュメント処理」を参照してください。

## Microsoft Word での作業

---

### RequisitePro ドキュメントの Word ドキュメントとしての保存

RequisitePro には、プロジェクト ドキュメントをプロジェクトから独立した Microsoft Word ドキュメントとして保存するためのオプションが用意されています。このオプションを使用して、ドキュメントを電子メールに添付したり、ワーク グループ外の人とドキュメントを共有することができます。

このオプションを選択すると、アクティブな要求ドキュメントのコピーが作成され、Word ファイルとして保存されます。作成された Word ドキュメントは、元の要求ドキュメントと同じ外観を持っています。さらに、RequisitePro が要求を識別するためのブックマークやタグも含まれています。

プロジェクト ドキュメントを Word ドキュメントとして保存するには

- 1 RequisitePro ドキュメントを開きます。
- 2 [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[名前を付けて保存] をクリックします。  
[ドキュメントに名前を付けて保存] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 ドキュメントのコピー先を指定します。
- 4 [ファイル名] ボックスに表示されるデフォルト名をそのまま使用するか、別のファイル名を入力します。ただし、.doc 拡張子に変更しないでください。

- 5 [保存] をクリックします。元の RequisitePro ドキュメントが閉じ、新しい .doc ファイルが Word で開きます。

**メモ：**Microsoft Word のデフォルトでは、ブックマークと隠し文字の機能はオフになっているため、ドキュメントを RequisitePro の外部で開くと、要求の要求タグやブックマークは表示されません。RequisitePro 外部で Word ドキュメントの要求テキストを編集する前に、[ブックマーク] と [隠し文字] をオンにして、これらが表示されるようにすることをお勧めします。Microsoft Word で、[ツール] メニューの [オプション] をクリックして、[表示] タブをクリックします。

## Microsoft Word ドキュメントの管理

RequisitePro での作業中、RequisitePro から独立した Word ドキュメントを作成し、その Word ドキュメントを開き、内容を修正して保存し、閉じることができます。標準の [ファイル] メニューを使用して、Word ドキュメントを管理します。[名前を付けて保存] と [終了] は無効になっています。これは、RequisitePro ドキュメントの処理での競合を避けるためです。

RequisitePro ドキュメントはプロジェクトに関連付けられています。このドキュメントは [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] にあるコマンドで管理し、デフォルトでは RequisitePro 形式で保存されます。

## Microsoft Word を閉じる

RequisitePro を閉じずに Word を閉じるには、ツールバーで、[ウィンドウ] メニューの [Word を閉じる] をクリックします。

## RequisitePro で Word を使用するためのヒント

### 使用してはいけない機

Microsoft Word の [ファイル] メニューの [版の管理] 機能は使用しないでください。基本バージョンと以降の改訂版を同一のものとみなす Word のロジックは、RequisitePro のドキュメントの改訂履歴機能と競合します。Word でのバージョン変更は、RequisitePro の要求データベースと競合する可能性があります。また、複数のバージョンを使用することによって、ドキュメントファイルのサイズが大幅に増加します。

Microsoft Word の [切り取り] コマンドを使用して、要求テキストを切り取らないでください。Word の [切り取り] コマンドを使用すると、プロジェクトから要求が削除される可能性があります。また、Word の [切り取り] コマンドを使用してドキュメントから要求を切り取った場合は、プロジェクト データベースに要求を貼り付けることはできません。

Word の [高速保存] オプションは使用しないでください。Microsoft Word の [オプション] ダイアログ ボックスで、[高速保存] チェック ボックスをオフにしてください。

要求テキストで Microsoft Word の隠し文字を使用しないでください。この文字はドキュメントのブックマークとして表示されます。隠し文字は RequisitePro データベースには保存されません。

RequisitePro ドキュメントで [ツール] メニューの [変更内容の組み込み] コマンドを使用しないでください。

テキスト文字列の先頭に Wingdings フォントなどの特殊文字を含むテキストから要求を作成しないでください。

## 注意が必要な操作

要求ドキュメントの要求テキストで、Word の段落番号の自動振り直し機能 ([書式] メニューの [箇条書きと段落番号] をクリック) を使用できますが、予想外の結果となることがあるので注意してください。段落の削除または追加によって番号の自動振り直しに変更が生じた場合、ドキュメント内で番号が割り当てられているすべての要求について、その番号をユーザーが確認する必要があります。また、この処理により、各要求に改訂履歴エントリが追加されるため、改訂履歴リストは複雑になります。番号の自動振り直しの変更は、要求タグの番号付けにも影響を与えます。

Word 2000 の [セキュリティ] ダイアログ ボックス ([ツール] メニューの [マクロ] をポイントし、[セキュリティ] をクリック) で [すべての組み込み済みのアドインとテンプレートを信頼する] チェック ボックスをオフにしている場合、RequisitePro でドキュメントを開くたびに、Microsoft Word のメッセージ ボックスで [マクロを有効にする] をクリックする必要があります。

Word の [変更履歴の作成] 機能を誤って使用すると、パフォーマンスの問題が発生したり、データベースが壊れることがあります。ブックマークが要求テキストを切り捨てたり、要求タグが隠し文字として表示されなかったり、要求の番号割り当てが変更される場合があります。これらの変更がデータベースにコピーされると、データが失われる場合や、すべての要求を手動で修復しなければならない場合があります。この機能を使用する場合には、99 ページの「Word の変更履歴の作成機能の使用法」で説明する手順に従ってください。

## Word のパフォーマンスの向上

RequisitePro ドキュメントに対する Microsoft Word のパフォーマンスを向上させるには、以下のヒントを参考にしてください。

- RequisitePro ドキュメントのサイズをできるだけ小さくします。サイズの大きいドキュメントは、開閉や操作にかなり時間がかかるため、5 MB (約 50 ページ) 未満のドキュメントサイズが最適です。画像やその他のリソースを多量に消費するオブジェクトを含むドキュメントは、50 ページ未満にしてください。
- ドキュメントは標準モードで表示します。ページ レイアウト モードでは、ドキュメントは常に改ページされて表示されます。
- 必要なドキュメントのみを開きます。一度に多くの Word ドキュメントを開くと、パフォーマンスが低下します。

- 各ドキュメントは、ドキュメントの最初の作成者が接続しているサーバーに保存します。複数サイトで RequisitePro プロジェクトの作業を行っている場合には、最初の作成者が接続しているサーバー上にドキュメントを保存することによって、RequisitePro ドキュメントを開くとき、保存するとき、閉じるときの Word のパフォーマンスを向上させることができます。

## Word スタイルについて

ドキュメントに表示されたマーク付きの要求の後ろで [ENTER] を押すと、その要求のスタイル（二重下線など）と色が次の行にも適用されます。入力する前に [CTRL] を押しながら [SPACE] を押すと、Word スタイルは標準に戻ります。

## Word を使用したドキュメントの書式設定

作業中のドキュメントの 1 つまたは複数の表示スタイルを変更し、同一タイプのほかのドキュメントを変更しない場合は、Word の書式設定機能を使用します。RequisitePro では、Word の書式設定機能を使用して、ドキュメント内の要求が強調表示されます。要求の書式を直接設定したり、要求のベースとなるテンプレートのスタイルを変更するなど、異なる書式を要求に適用した場合は、要求テキストが変更されたり、完全に消失することがあります。この問題は [要求の更新] コマンドで解決できます。

## Word のグループ文書の使用法

Microsoft Word のグループ文書機能は、サイズの小さなサブ文書を 1 つのドキュメントとして表示したり、出力したりするときに便利です。グループ文書内のすべてのサブ文書に一続きのページ番号を付けて出力できます。グループ文書は、Microsoft Word の機能です。RequisitePro の中では、グループ文書の作成、インポート、管理を行わないでください。

グループ文書を使用する場合は、以下のガイドラインに従ってください。

- サブ文書を作成する前に、プロジェクトをアーカイブします。プロジェクトのアーカイブについては、202 ページの「プロジェクトのアーカイブ」を参照してください。
- グループ文書を RequisitePro のドキュメントにしないでください。サブ文書は、RequisitePro ドキュメントでもかまいません。これによって、冗長な要求と、追跡可能性リンクが壊れるのを防ぐことができます。
- サブ文書内の要求テキストを RequisitePro の外部で編集しないでください。
- Microsoft Word にグループ文書を表示しているとき、RequisitePro でサブ文書を編集しないでください。

サブ文書として使用する RequisitePro ドキュメントを用意するには、ドキュメントを Word 形式で保存します。

- 1 エクスプローラでプロジェクトを選択して、[ファイル]メニューの[プロパティ]をクリックします。
- 2 [プロジェクトのプロパティ]ダイアログボックスの[ドキュメント]タブで、[ドキュメントを RequisitePro 形式で保存する]チェックボックスをオフにします。

**メモ:** この操作を行うと、要求ドキュメントからすべてのプロジェクトセキュリティが削除され、RequisitePro の外部で要求ドキュメントを変更できるようになります。したがって、Microsoft Word のグループ文書から表示または出力するためにサブ文書を準備するときのみ、チェックボックスをオフにします。

- 3 サブ文書として使用するプロジェクト内のドキュメントを開き、保存します。

**重要:** Microsoft Word でグループ文書を表示、出力した後、[プロジェクトのプロパティ]ダイアログボックスを再度開き、[ドキュメントを RequisitePro 形式で保存する]チェックボックスをオンにしてください。サブ文書を開いて保存します。これで、これらのドキュメントのプロジェクトセキュリティが再び確立されます。

グループ文書とサブ文書については、Microsoft Word のマニュアルを参照してください。

## 要求を「非表示」にするための Word オプションの使用法

RequisitePro のドキュメント内に要求をどのように表示するかは、Microsoft Word の[オプション]ダイアログボックス([ツール]メニューの[オプション]をクリック)で設定できます。

- [ブックマーク]チェックボックスをオフにすると、RequisitePro ドキュメント内の要求にブックマークが表示されません。
- Microsoft Word では、RequisitePro ドキュメントの要求タグは隠し文字になります。  
[隠し文字]チェックボックスをオフにすると、RequisitePro ドキュメントの要求テキストにタグが表示されません。

**メモ:** RequisitePro ドキュメントをオフラインで編集した場合や、Microsoft Word ドキュメントとして保存した場合、Microsoft Word のブックマーク機能と隠し文字機能がデフォルトでオフになります。オフラインドキュメントの要求テキストを編集する前に、[ブックマーク]と[隠し文字]チェックボックスをオンにすることをお勧めします。Microsoft Word で、[ツール]メニューの[オプション]をクリックして、[表示]タブをクリックします。

要求の色とスタイルの設定については、229 ページの「要求タイプの作成と変更」を参照してください。

## Word の変更履歴の作成機能の使用法

Word の変更履歴の作成機能を使用して、要求テキストを編集できます。変更を追跡していることがわかるように、Word の [変更箇所の表示] ダイアログ ボックス ([ツール] メニューの [変更履歴の作成] をポイントし、[変更箇所の表示] をクリック) で [変更箇所を画面に表示する] と [編集中に変更箇所を記録する] の両方をオンにします。

ビュー内の編集された要求を確認するには、[ビュー] メニューの [プロパティ] をクリックします。[名前の表示] がオンになっていて、[テキストの表示] がオフになっていることを確認します。オプションをこのように設定した場合、ビューを開くと、要求は名前だけが表示され、要求テキストは表示されません。この表示設定は、変更履歴の作成機能を使用している場合に便利です。というのは、ビューでは、Word ドキュメントと異なり、追加されたテキストと、削除するものとしてマークされたテキストが区別されないからです。そのため、ビューで要求テキストを読み取る場合、混乱することがあります。

RequisitePro ドキュメントで変更履歴の作成機能を使用すると、パフォーマンスの問題や Word のエラー (要求テキスト エラーやデータベースの破損) が発生する可能性があるので注意してください。次のような場合にのみ使用してください。

- ドキュメントの完成が近いことが確実な場合のみ、変更履歴の作成機能を使用します。この条件は重要です。変更履歴の作成機能を使用して Word ドキュメントを編集すると、ドキュメントのサイズが大きくなり、Word のパフォーマンスに影響を与えるからです。変更内容を確認するときにドキュメントをオフラインにし、変更履歴の作成機能を使用して、編集内容をオフライン ドキュメントに組み込み、ドキュメントをオンラインに戻します。
- [変更の履歴] ダイアログ ボックスの [削除された箇所] で、[隠し文字] を選択しないでください。
- RequisitePro ドキュメントに対して、[ツール] メニューの [変更内容の組み込み] コマンドを使用しないでください。

## RequisitePro の外部での要求ドキュメントの編集

RequisitePro の外部で Word を使用してドキュメントを編集した後、そのドキュメントをマージするには、[名前を付けて保存] コマンドではなく、RequisitePro のオフライン オーサリング機能を使用します。

## RequisitePro の要求ドキュメントから Word ドキュメントを作成

要求ドキュメントのコピーを .doc のファイル拡張子で保存するには、[RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[名前を付けて保存] をクリックします。作成した Word ドキュメントは、プロジェクトのドキュメントのリストには表示されません。

## 外部で作成した Word ドキュメントの管理

RequisitePro のプロジェクトに含まれない Microsoft Word ドキュメントを管理するには、Microsoft Word の [ファイル] メニューのコマンドを使用します。このコマンドを使用しても、データベース内で RequisitePro ドキュメントや要求情報を作成したり、開いたり、保存したりはできません。また、要求以外のドキュメントを要求ドキュメントに変換することもできません。しかし、Word ドキュメントの一部を切り取りまたはコピーして、要求ドキュメントに貼り付けることができます。

## Word への RequisitePro ツールバーの表示

RequisitePro ドキュメントを開くと、Word に RequisitePro ツールバーが表示されます。これは、Word ウィンドウのフローティング ツールバーにもドッキング ツールバーにもできます。ツールバーが表示されない場合は、Microsoft Word で次の操作を行うと表示できます。[ツール] メニューの [ユーザー設定] をクリックし、[ユーザー設定] ダイアログ ボックスの [ツールバー] タブで、[Rational RequisitePro] をクリックして [閉じる] をクリックします。

## 無効な Word コマンド

[ファイル] メニューの [名前を付けて保存] と [終了] は無効になっています。これは、RequisitePro ドキュメントの処理での競合を避けるためです。Word ドキュメントを閉じるには、RequisitePro のツールバーで、[ウィンドウ] メニューの [Word を閉じる] をクリックします。

[ツール] メニューの [テンプレートとアドイン] コマンドは無効になっています。これは、RequisitePro を正常に実行するために必要な RequisitePro テンプレートが削除されるのを防ぐためです。

## オフラインでのドキュメント処理

---

オフライン オーサリングでは、要求の作成者とプロジェクト管理者は、RequisitePro の外部 (つまりオフライン) でドキュメントを使用できます。

ドキュメントをオフラインにすると、RequisitePro はそのドキュメントのコピーを指定ディレクトリに作成します。元のドキュメントは RequisitePro に格納されたままですが、読み取り専用のドキュメントになります。読み取り専用のドキュメントは、RequisitePro で表示できますが、オンラインに戻るまで編集はできません。

ドキュメントをオフラインにしたとき、ドキュメントには Microsoft Word マクロが含まれます。このマクロを使用して、オフライン ドキュメントに対して要求を追加または削除できます。

**メモ：** Word 2000 の場合、オフライン オーサリングで [新規作成] と [削除] コマンド ([要求] メニュー) を使用するには、マクロのセキュリティ レベルの調整が必要ことがあります。Word 2000 では、マクロのセキュリティがデフォルトで [高] レベルに設定されています。この設定では、RequisitePro のオフライン オーサリング マクロを有効化できません。Word 2000 で、

[セキュリティ] ダイアログ ボックスのマクロのセキュリティを [中] に設定し直してください。このダイアログ ボックスは、[ツール] メニューの [マクロ] をポイントし、[セキュリティ] をクリックすると表示されます。

ドキュメントがオフラインのときに、ドキュメントの名前を変更しないでください。RequisitePro でオフライン ドキュメントを確認するには、元のファイル名が必要です。ドキュメントをオンラインに戻すと、読み取り専用ドキュメントが変更済みドキュメントに置換されます。また、オフラインでの作業はキャンセルもできます。キャンセルすると、オリジナルのドキュメントが復元され、読み取り専用状態が解除されます。これによって、要求の作成者と管理者グループのメンバーは、RequisitePro でドキュメントを編集できるようになります。

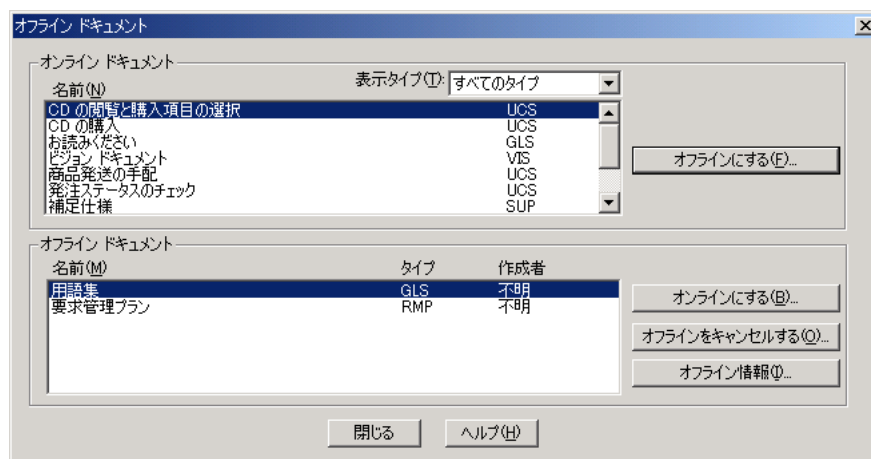
## ドキュメントのオフライン化

ドキュメントをオフラインにする前に、ドキュメントの外部 ( 属性マトリックスまたは RequisiteWeb など ) で行った要求テキストに対するすべての変更をドキュメントに保存する必要があります。

1 ドキュメントをオフラインにするには、次のいずれかを実行します。

- Word で、[RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[オフライン ドキュメント] をクリックします。
- [ツール] メニューの [ドキュメントをオフラインにする] をクリックします。

[オフライン ドキュメント] ダイアログ ボックスが表示されます。

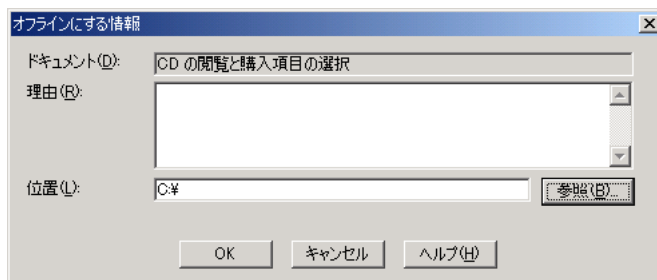


2 [表示タイプ] リストからドキュメント タイプを選択します。

3 オフラインにするドキュメントをクリックします。複数のドキュメントを選択するには、複数選択の操作を行います。

4 [オフラインにする] をクリックします。

[オフラインにする情報] ダイアログ ボックスが表示されます。



5 [理由] ボックスに、ドキュメントをオフラインにした理由を入力します。

6 [OK] をクリックします。

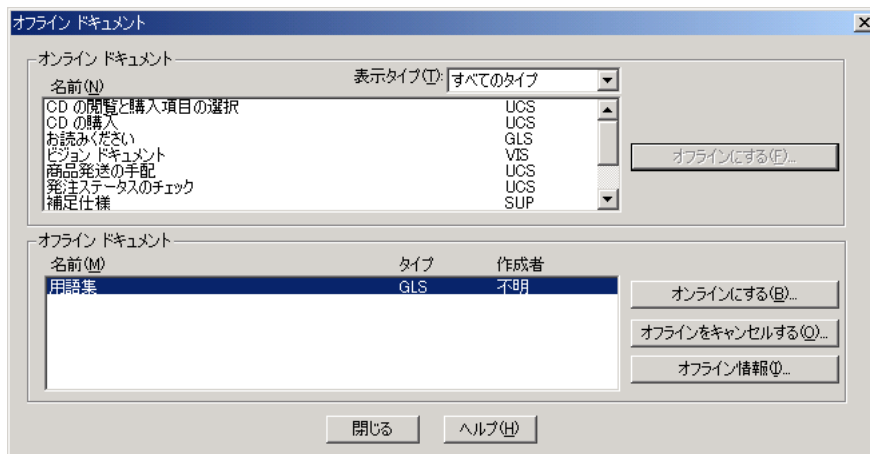
## ドキュメントがオフラインかどうかの判断

ドキュメントがオフラインかどうかをチェックするには

1 次のいずれかを実行します。

- [ツール] メニューの [オフライン ドキュメント] をクリックします。
- 開いているドキュメントで [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[ドキュメントをオフラインにする] をクリックします。

[オフライン ドキュメント] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 2 目的のドキュメントが [オフライン ドキュメント] リストに表示されている場合には、選択して [オフライン情報] をクリックします。

[オフライン情報] ダイアログ ボックスが表示されます。ここで、ドキュメント名、ドキュメントをオフラインにしたユーザー、オフラインにした日時、場所、理由について確認できます。

## オフライン ドキュメントの変更

オフライン ドキュメントは、ほかの Microsoft Word ドキュメントと同じ方法で変更します。RequisitePro のオフライン ドキュメントを編集するときは、Word のすべての機能とオプションを使用できます。さらに、オフライン ドキュメントに対して、RequisitePro の要求を追加または削除できます。

Word でオフライン ドキュメントを開くときは、Word のマクロを有効にしてください。このマクロを使用して、オフライン ドキュメントに対して要求を追加または削除できます。

オフライン ドキュメント内の要求テキストを変更できます。ドキュメントをオンラインに戻し、RequisitePro で開くと、要求テキストの変更理由を入力するよう要求されます。

Microsoft Word のブックマークと隠し文字の機能は、デフォルトではオフになっています。オフライン ドキュメントの要求テキストを編集する前に、隠し文字とブックマークを表示することをお勧めします。Microsoft Word で、[ツール] メニューの [オプション] をクリックし、[オプション] ダイアログ ボックスを開きます。次に、[表示] タブの [隠し文字] と [ブックマーク] チェック ボックスをオンにします。

ドキュメントがオフラインのときに、ドキュメントの名前を変更しないでください。RequisitePro でオフライン ドキュメントを確認するには、元のファイル名が必要です。

## オフライン ドキュメントでの要求の作成

オンライン ドキュメントと同じ方法で、オフライン ドキュメント内のテキストを要求としてマークすることができます。

- 1 要求を定義する情報を選択します。
- 2 [RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[新規作成] をクリックします。

RequisitePro のマクロによって、要求テキストに要求が作成されたことを示す二重下線が引かれます。ドキュメントをオンラインに戻すと、要求に対して要求番号とデフォルトの属性が与えられます。[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスで要求を修正できます。

## オフライン ドキュメントでの要求の削除

オフライン ドキュメント内の要求の削除は、オンライン ドキュメントの場合と同じように実行できます。[削除 - マーク解除] コマンドを使用した場合、要求テキストはドキュメント内にそのまま残りますが、要求としては認識されなくなります。要求の色とスタイルの設定が削除され、ドキュメントの標準スタイルに置換されます。オフライン ドキュメントでは、一度に 1 つずつ要求を削除できます。

オフライン ドキュメントでの [削除 - マーク解除] コマンドの使用方法は、Microsoft Word のマクロによって異なります。オフライン マクロを有効にする方法の詳細については、ヘルプを参照してください。

オフライン ドキュメントの要求を削除、マーク解除するには

- 1 オフライン ドキュメントで、要求をクリックします。
- 2 [RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[削除 - マーク解除] をクリックします。

削除した要求を元に戻すには、[編集] メニューの [元に戻す] をクリックします。要求が完全に復元されるまで、[元に戻す] をクリックします。

ドキュメントをオンラインに戻すと、要求が削除されたことが通知され、オンライン ドキュメントに変更内容を反映させるかどうかを確認するメッセージが表示されます。更新をキャンセルした場合は、ドキュメントはオンラインになりません。

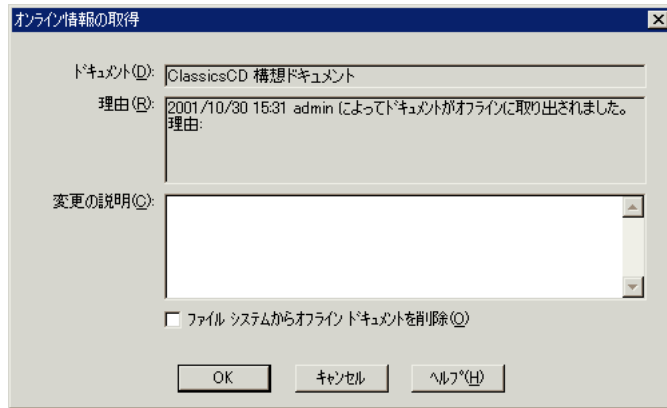
## オフライン ドキュメントをオンラインに戻す

オフライン ドキュメントの作成者または管理者は、オフライン ドキュメントをオンラインに戻すことができます。

- 1 次のいずれかを実行します。
  - [ツール] メニューの [オフライン ドキュメント] をクリックします。
  - 開いているドキュメントで [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[ドキュメントをオフラインにする] をクリックします。

[オフライン ドキュメント] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [オフライン ドキュメント] リストから、オンラインに戻すドキュメントを選択します。  
複数のドキュメントを選択するには、複数選択の操作を行います。
- 3 [オンラインにする] をクリックします。

[オンラインにする情報] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 4 現在選択しているドキュメントに対してオフライン中に加えた変更内容の説明を、[ 変更の説明 ] ボックスに入力します。複数のドキュメントをオンラインに戻し、変更を以降のすべてのドキュメントに適用する場合は、[ すべてに適用 ] チェック ボックスをオンにします。チェック ボックスをオフにした場合は、このセッションで以降のドキュメントをオンラインに戻すたびに [ オンラインにする情報 ] ダイアログ ボックスが表示されるので、すべてのドキュメントに対して変更内容を入力する必要があります。[ すべてに適用 ] は、そのセッションでオンラインに戻すすべてのドキュメントを対象としています。したがって、このチェック ボックスをオンにすると、変更内容が以降のすべてのドキュメントに適用されます。たとえば、Doc 1、Doc 2、Doc 3、Doc 4 の4つのドキュメントをオンラインに戻すとします。[ すべてに適用 ] をオフにして Doc 1 に情報を入力し、その後、[ すべてに適用 ] をオンにして Doc 2 に情報を入力すると、Doc 3 と Doc 4 に対しては [ オンラインにする情報 ] ダイアログ ボックスが表示されません。
- 5 [OK] をクリックします。

オンラインに戻すドキュメントにマクロが含まれていることを示す Microsoft Word の警告メッセージが表示されます。[マクロを有効にする] をクリックします。

オフライン ドキュメントで要求を削除した場合は、削除した要求の数が通知され、オンライン ドキュメントに変更内容を反映させるかどうかを確認するメッセージが表示されます。

- 6 ドキュメントを更新する場合は [はい] をクリックし、更新しない場合は [いいえ] をクリックします。ドキュメントを更新しない場合、ドキュメントはオンラインに戻りません。

## 変更を保存しないでドキュメントをオンラインに戻す

オフライン ドキュメントの作成者と管理者グループのメンバーは、ドキュメントをオフラインにしている間に行った変更を保存しないで、ドキュメントをオンラインに戻すことができます。

- 1 次のいずれかを実行します。
  - [ツール] メニューの [オフライン ドキュメント] をクリックします。
  - 開いているドキュメントで [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[ドキュメントをオフラインにする] をクリックします。[オフライン ドキュメント] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [オフライン ドキュメント] リストから、オフライン時の変更を保存しないでオンラインに戻すドキュメントを選択します。複数のドキュメントを選択するには、複数選択の操作を行います。
- 3 [オフラインをキャンセルする] をクリックします。オフライン時の変更の削除を確認するメッセージが表示されます。複数のドキュメントをオンラインに戻す場合、このメッセージは、すべてのドキュメントに対して一度だけ表示されます。
- 4 保存先のディレクトリからオフライン ドキュメントを削除するには、[ファイル システムからオフライン ドキュメントを削除] チェック ボックスをオンにします。
- 5 [はい] をクリックします。ドキュメントのオンライン バージョンが復元されます。

## オフライン ドキュメントの読み取り

ほかのユーザーがオフラインにしているドキュメントを読むことができます。ドキュメントは読み取り専用モードで、ほかのユーザーがオフラインにする前の状態で表示されます。

ドキュメントの作成者または管理者グループのメンバーは、**RequisitePro** でオフライン ドキュメントを開く場合、オフライン ドキュメントをオンラインに戻すか、オフラインにする前の状態で開くかを選択できます。

- 1 [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[開く] をクリックします。
- 2 [ドキュメントを開きます。] ダイアログ ボックスが開き、すべてのプロジェクト ドキュメントが一覧表示されます。オフラインのドキュメントは、その旨表示されます。
- 3 開くオフライン ドキュメントを選択して、[OK] をクリックします。[オフライン ドキュメントを開く] ダイアログ ボックスが開き、ドキュメントをオフラインにしたユーザーが示されます。

**4** 次のいずれかを実行します。

- オフライン作成者またはプロジェクトの管理者である場合、[オンラインにする]をクリックしてドキュメントをオンラインに戻すか、[読み取り専用で開く]をクリックしてオフラインにする前の状態でドキュメントを開くことができます。オフラインドキュメントの作成者または管理者でない場合、[オンラインにする]は使用できません。
- 別のユーザーがオフラインにしているドキュメントを開くには、[読み取り専用で開く]をクリックします。



要求は、システムが提供する必要のある条件や機能についての記述です。つまり、ユーザーからの直接の要求または契約、規格、仕様、強制力を持つそのほかの公式文書に基づいています。要求の例としては、システムへの入力、システムからの出力、システムとシステム環境の属性と機能などがあります。

要求は、FURPS モデルで説明できます。FURPS モデルは、主要タイプの要求を以下のように分類します。

- **機能要求 (Functional requirements):** 機能、能力、セキュリティ。
- **使いやすさに関する要求 (Usability requirements):** 人間に関する要因、外観、ユーザー インターフェイスの統一性、状況依存のヘルプ、ウィザードとエージェント、ユーザー用マニュアル、トレーニング用教材。
- **信頼性に関する要求 (Reliability requirements):** 障害の頻度と重大性、回復性、予測性、正確性、平均障害間隔。
- **性能要求 (Performance requirements):** 機能に関する要求に課せられた条件。
- **サポートに関する要求 (Supportability requirements):** 追跡可能性、拡張性、適応性、保守性、互換性、構成、サービス、インストール、ローカライゼーションに関する能力。

Rational RequisitePro の要求には名前とテキストが含まれており、属性で修飾できます。属性は、コスト、優先順位、ステータスなどの、ユーザー定義の特性やプロパティによって要求の特徴を決定します。

ビューまたは要求ドキュメントで要求を作成できます。RequisitePro で作成したすべての要求は、プロジェクトのデータベースに保存されます。要求を作成すると、次の操作が可能になります。

- 要求をドキュメントやビューに移動またはコピーする
- 属性を割り当てることにより、要求を修飾する
- 要求をほかの要求の追跡先や追跡元にする

階層関係を使用して、大まかな要求を更に具体的な要求に分割できます。子要求は、その親要求の詳細を追加します。

要求の名前、テキスト、属性、関係は、ビューまたはドキュメント内で変更できます。前後関係を見ながら情報を読むことができ、要求をサポートし正当化する情報を追加できます。

ビュー内編集機能を使用すると、属性マトリックス ビュー内で要求の編集と作成を直接行うことができます。ビューで選択した始めることができます (ダイアログ ボックスを開かずに、ビュー内で直接要求を作成することもできます)。[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスを使用して、追跡可能性ツリー ビューと追跡可能性マトリックス ビューから要求を作成することもできます。

ドキュメントで要求を作成すると、要求のタグを保持するための隠し文字が記述の先頭に置かれます。隠し文字には、点線で下線が引かれます。このタグ領域に入力した情報は隠し文字になり、Microsoft Word の [隠し文字] チェック ボックスがオンになっている ([ツール] メニューの [オプション] をポイントし、[表示] タブの [隠し文字] をオンにします) 場合にのみ表示されます。隠し文字を通常の文字にするには、Word の [フォント] 機能を使用します ([書式] メニューから使用可能)。要求のテキストには、必ず通常の文字を使用してください。要求テキストは、テキスト、グラフィック要素、OLE オブジェクト、または Word にリンクされたファイルとして表現できます。

ドキュメントの拡張編集機能 ([プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [ドキュメント] タブ) によって、ビュー、RequisiteWeb、RequisitePro 拡張インターフェイス、統合ツールなどから、ドキュメントの外部で要求テキストを変更できます。ドキュメントを開かずに要求テキストを更新できます。これにより、1 つのドキュメント内の要求を複数のユーザーが同時に編集できます。変更はすべて、データベース内で追跡されます。

埋め込み要素検出ウィザードを使用すると、グラフィック、番号付きのリスト、書式設定、Microsoft Word にリンクされたファイル、OLE ファイルなどの非テキスト要素がないか、プロジェクト ドキュメント内にあるすべての要求テキストを検索できます。そのため、拡張編集を使用したときに非テキスト要素が失われません。これらのテキスト以外の要素は、拡張編集を有効にしてもドキュメント以外からは編集できません。このオプションをオンにすることで、ドキュメント内の要求テキストや埋め込まれた非テキスト要素が、データベースのテキストで上書きされるのを防ぐことができます。

このウィザードは、RequisitePro バージョン 4.5 以下で作成された要求を検索する場合に必要です。それより後のバージョンでは、要求の埋め込みオブジェクトは自動的にチェックされます。このウィザードの詳細については、ヘルプを参照してください。

## 要求の作成

---

RequisitePro で作成したすべての要求は、プロジェクトのデータベースに保存されます。要求は作成後、プロジェクト内で修正、移動、コピーでき、同じプロジェクトまたはほかのプロジェクトにある、ほかの要求の追跡元や追跡先にすることができます。

要求を作成すると、以下の情報がデータベースに保存されます。

- 要求名。要求のユーザー定義タイトル (最大 128 文字)。タグやテキスト属性のように、名前は要求の参照に使用します。すべての RequisitePro ビュー内に、この名前がデフォルトで表示されます。すべての要求には名前かテキスト、またはその両方が必要です。要求がドキュメント内にある場合はテキストが必要です。名前は一意にする必要はなく、自分で作成した要求の場合や、更新アクセス権を持つグループに属する場合には、いつでも変更できます。
- 要求テキスト。要求のすべてのテキストの内容です。最大 16,000 文字です。要求がドキュメント内にある場合、要求テキストには、埋め込みオブジェクトやリンク オブジェクト (グラフィック、テーブル、Microsoft Word ファイルなど) を含めることができます。
- 属性値。

## エクスプローラでの要求の作成

- 1 要求を入れるパッケージを選択して、[ファイル] メニューの [新規作成] をポイントし、[要求] をクリックします。  
[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [全般] タブで、[タイプ] リストからタイプを選択し、名前と短いテキストを入力します。
- 3 [OK] をクリックします。

新規要求が選択したパッケージに作成され、その要求に次に利用可能なタグが割り当てられます。エクスプローラで作成された要求の [場所] 属性は、[データベース] として表示されます。

## ドキュメントでの要求の作成

ドキュメントで要求を作成すると、RequisitePro によって以下のことが行われます。

- 選択した要求テキスト情報がブックマークで囲まれます。
- 以下の情報が新規要求と関連付けられます。
  - 要求タグ識別子。要求タグは、プレフィックスと番号で構成されます。
  - 色とスタイルの形式。要求タイプに色とスタイルが設定されている場合、新規要求は、その設定を使用してフォーマットされます。
  - 要求属性。新規要求は、要求タイプに設定された属性と関連付けられます。属性は、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスで表示できます。
- 階層関係では、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスの [階層] タブで選択した親に基づいて、要求に親が割り当てられます。要求の親子関係については、135 ページの「階層について」を参照してください。

**メモ：** 要求とその属性値は、ドキュメントを保存するまでは、プロジェクト データベースに保存されません。

テキストのほかに、要求には次の要素を含めることができます。

- OLE オブジェクト (埋め込みオブジェクト、リンク オブジェクト)
- フィールド (作成者、タイトル、題名など)
- 図 (インラインとフローティング)
- 表
- 注釈 (コメント、脚注、ブックマーク、ハイパーリンク)
- サブドキュメント
- 複数の項目を含むリスト (箇条書きや番号付き見出し、またはその他のスタイルなど)

要求にこれらの要素が含まれている場合は、拡張編集機能を使用しても、ドキュメントの外部で要求テキストを編集することはできません。

RequisitePro バージョン 4.5 以下で作成された要求の要求テキストを、ドキュメントの外部で編集した場合、埋め込み要素検出ウィザードを実行して、グラフィック、番号付きのリスト、書式設定、OLE ファイルなどの非テキスト要素がないか、プロジェクト ドキュメント内にあるすべての要求テキストを検索できます。バージョン 4.5 より後の RequisitePro で作成されたドキュメント要求の埋め込み要素は、自動的にチェックされます。このウィザードを実行してチェックする必要はありません。この検索を使用すると、拡張編集を選択した場合にテキスト以外の要素を失わずに済みます。このオプションをオンにすることで、ドキュメント内の要求テキストや埋め込まれた非テキスト要素が、データベースのテキストで上書きされるのを防ぐことができます。

検索時間は、プロジェクト ドキュメントの要求数によって決まります。最初の検索が終了すると、影響を受けるドキュメントのリストが表示されます。検索中にエラーが発生した場合は、後でウィザードに戻ることができます。その場合、正常に処理されなかったドキュメントだけが検索されます。

**メモ：**ウィザードを起動する前に、[ドキュメント プロパティ] ダイアログ ボックスのドキュメント パスを参照して、すべてのパスがアクセス可能かどうか確認してください。

## 要求の作成

- 1 ドキュメントで、要求に含める情報 (テキスト、グラフィック、OLE オブジェクト) を選択します。テキストを選択しなかった場合は、要求に関するテキストの入力を求められます。

**メモ：**要求テキストに画像やオブジェクトがある場合は、[書式] メニューの [図] または [オブジェクト] をクリックすると表示されるダイアログ ボックスの [レイアウト] タブで [行内] オプションを使用してください。要求テキストに Word にリンクされたファイルを含める場合についての詳細は、116 ページの「Microsoft Word にリンクされたファイルを

要求に挿入」を参照してください。要求ドキュメントを Microsoft Project と共に使用する  
場合、要求の説明テキストは半角で最大 255 文字に制限されます。これは、Microsoft  
Project のタスク説明の長さの制限に対応します。



- 2 [RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[新規作成] をクリックするか、[要求の  
作成] ボタンをクリックします。

[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

要求のプロパティ: UC保留 1

全般(G) | 改訂(M) | 属性(B) | 追跡可能性(T) | 階層(E) | ディスカッション(D)

タイプ(U): UC: ユースケース

名前(N):

テキスト(O): 事前条件

パッケージ  
位置: CD の閲覧と購入項目の選択

参照(R)...

OK キャンセル ヘルプ(H)

- 3 [全般] タブをクリックします。

- [タイプ] ボックスで、要求に関連付ける要求タイプを選択します。
- [名前] ボックスに要求名 (128 文字以内) を入力します。[テキスト] ボックスにデータ  
がある場合には、必ずしも要求に名前を割り当てる必要はありませんが、[名前] と  
[テキスト] の両ボックスを空白にすることはできません。[テキスト] ボックスには、  
要求の一部として含まれるテキスト、グラフィック、オブジェクトが入っています。  
これらはこのボックスに表示されます。要求テキストは最大 16,000 文字です。
- 新規要求を入れる別のパッケージを選択する場合は、[パッケージ] ボックスの横にある  
[参照] ボタンをクリックします。

- 4 [OK] をクリックします。

- 5 変更を保存するには、[RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[保存] を  
クリックします。ドキュメントの保存とデータベースの更新が行われ、要求に対して (保留  
タグの代わりに) 要求番号が割り当てられます。要求の [場所] 属性は、ドキュメントの名前  
として表示されます。

**メモ:** マークの付いた要求の後ろで [ENTER] を押すと、その要求のスタイル (二重下線など)  
と色が次の行にも適用されます。入力する前に [CTRL] を押しながら [SPACE] を押すと、  
Word スタイルは標準に戻ります。

## テキスト範囲からの複数の要求の作成

ドキュメント内で選択したテキスト範囲から複数の要求を作成するには、[RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[新規ウィザード] をクリックします。このコマンドを選択すると、新規要求の作成ウィザードが表示されます。要求のキーワードを指定し、要求が文と段落のどちらにあるかを示します。

選択したテキスト範囲内の個々の要求は、次の 3 つの方法によって区別されます。

- キーワード: ユーザーの指定によって異なりますが、shall (デフォルト) など、指定した単語が文または段落から検索されます。
- テキスト区切り文字: <>, { }, [ ], beginReq endReq など、特定のテキスト区切り文字で囲まれたテキストが検索されます。選択した区切り文字でテキストを囲むことで、そのテキストを要求として使用するよう指定できます。開きカッコと閉じカッコ ([ ]) のように、始めと終わりが明確な記号を使用してください。
- Word スタイル: 「見出し 1」や「本文」など、特定のスタイルが設定されているテキスト、または選択されているテキストが検索されます。現在のドキュメント アウトラインのスタイルが、[スタイル] ボックスにロードされます。

テキスト範囲から複数の要求を作成するには

- 1 ドキュメント内で、要求として指定するテキストを選択します。
- 2 [RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[新規ウィザード] をクリックします。新規要求の作成ウィザードが表示されます。
- 3 要求に適用する要求タイプを選択します。
- 4 [デフォルトに設定] をクリックして、[要件のデフォルトを設定] ダイアログ ボックスを開きます。ここで、作成する要求のデフォルト属性、階層、追跡可能性、変更の説明を入力できます。次に [OK] をクリックします。
- 5 新規要求の作成ウィザードで、テキスト範囲内の各要求の識別方法を指示するオプションを 1 つ選択します。
  - **キーワード:** [キーワード] ボックスにキーワードを入力し、[追加] をクリックして、そのキーワードを要求の条件フィールドに追加します。入力したテキストとキーワードの大文字と小文字が一致するようにするには、[大文字と小文字を区別する] チェック ボックスをオンにします。[キーワード] ボックスで \* をワイルドカード文字として使用する場合は、["\*"] をワイルドカードとして使用] チェック ボックスをオンにします。キーワードに基づいて分析せずに、文または段落ごとに選択したテキストから要求を作成する場合は、["\*"] のみを入力して、["\*"] をワイルドカードとして使用] チェック ボックスをオンにします。各文に要求を 1 つだけ作成するには、[文] をクリックします。各段落に要求を 1 つだけ作成するには、[段落] をクリックします。

- **テキスト区切り文字:** 指示されたフィールドに開始区切り文字と終了区切り文字を入力し、[追加]をクリックします。
- **Word スタイル:** スタイル リストからスタイルを選択し、[追加]をクリックします。

複数の基準を使用して個々の要求を区別できます。検索リストにキーワード、テキスト区切り文字、Word スタイルを追加するには、該当するボタンを順にクリックします。要求の識別方法を選択するたびに、選択内容に対応するオプションがダイアログ ボックスに表示されます。

- 6 要求の基準を追加したら、[作成]をクリックします。

選択されたテキストが指定した条件に従ってチェックされ、条件と一致するテキストが[要求が検出されました。]ダイアログ ボックスに表示されます。

- 表示された要求をそのまま使用する場合は、[はい]をクリックします。
- 表示された要求を使用しない場合は、[いいえ]をクリックします。
- 表示されたすべての要求を使用する場合は、[すべてはい]をクリックします。

- 7 表示されたすべての要求が作成されたら、新規要求の作成ウィザードの[閉じる]をクリックします。

**メモ:** ドキュメントが保存されるまで、新規要求はデータベースに反映されません。

## 表からの要求の作成

Word の表の 1 つのセルに含まれるテキストから要求を作成するには

- 1 テキストを選択します。
- 2 [RequisitePro] メニューの[要求]をポイントし、[新規作成]をクリックします。
- 3 [要求のプロパティ]ダイアログ ボックスで要求に関する情報を入力して、[OK]をクリックします。

表の複数のセル内のテキストを含む 1 つの要求を作成するには、Word で表をテキストに変換し、要求を作成してから、要求を含むテキストを表に再変換します。

複数のセル内のテキストから複数の要求を作成するには、表をテキストに変換し、新規要求の作成ウィザードを使用して複数の要求を作成してから、テキストを表に再変換します。

- 1 ドキュメント内で、修正するテキストを選択します。
- 2 Word で[罫線]メニューの[変換]をポイントし、[表の解除]をクリックします。
- 3 [RequisitePro] メニューの[要求]をポイントし、[新規ウィザード]をクリックします。
- 4 選択したテキスト範囲から要求を作成します。
- 5 新規に作成した要求を選択します。
- 6 Word で[罫線]メニューの[変換]をポイントし、[文字列を表にする]をクリックします。

## Microsoft Word にリンクされたファイルを要求に挿入

Microsoft Word にリンクされたファイルを、要求テキストの一部として挿入できます。リンクされたファイルを変更すると、要求の任意の追跡可能性または階層関係がサスペクトとしてマークされます。

Microsoft PowerPoint ファイル、Word ドキュメント、Excel スプレッドシート、ビットマップファイル、その他のファイルへのリンクを作成できます。RequisitePro ドキュメントには、リンクを作成しないでください。ほかの OLE オブジェクトを要求テキストに挿入することもできますが、ファイルを変更しても、追跡可能性や階層関係はサスペクトとしてマークされません。テキストに、リンクされたファイル、OLE オブジェクト、または埋め込みオブジェクトが含まれている場合、ドキュメントから要求テキストを編集する必要があります。詳細については、ヘルプの「要求のビュー内編集と拡張編集」を参照してください。

Microsoft Word で [挿入] メニューのコマンドを使用して、ファイルを RequisitePro 要求テキストにリンクすることができます。Word の [編集] メニューの [形式を選択して貼り付け] や [挿入] メニューの [フィールド] を使用することもできます。[挿入] メニューの [フィールド] をクリックした場合、Microsoft Word の [リンクと参照] では以下のものがサポートされています。

- Link (リンク)
- IncludeText (文書ファイルの読み込み)
- IncludePicture (グラフィック ファイルの読み込み)

[フィールド] ダイアログ ボックスの [リンクと参照] カテゴリを選択して、[フィールド] の名前を選択します。上記の Word コマンドの使用法についての詳細は、Microsoft Word のヘルプを参照してください。

Microsoft Word にリンクされたファイルを要求テキストに挿入するには

- 1 RequisitePro ドキュメントを開き、ファイルを挿入する場所をクリックします。この場所は、既存の要求のテキスト内、または新規要求を追加する、ドキュメント内の任意の場所です。
- 2 Microsoft Word メニューから、以下のいずれかをクリックします。
  - [挿入] メニューの [ファイル]
  - [挿入] メニューの [図] の [ファイルから]
  - [挿入] メニューの [オブジェクト]
- 3 表示されるダイアログ ボックスで、挿入するファイルがある場所に移動し、以下のいずれかの操作を行います。
  - ファイルを挿入するには、挿入するファイルを選択して、[リンク] の [リンクとして挿入] をクリックします。
  - 図を挿入するには、挿入する図を選択して、[挿入] の [ファイルにリンク] をクリックします。

- オブジェクトを挿入するには、[オブジェクトの挿入] ダイアログ ボックスの [ファイル から] タブを選択し、ファイルの名前を入力します ([参照] ボタンをクリックして、挿入するファイルに移動し、選択することもできます)。[挿入] をクリックします。[オブジェクト] ダイアログ ボックスで、[リンク] チェック ボックスをオンにして、[OK] をクリックします。

**メモ：**ほかの RequisitePro ドキュメントは挿入しないでください。

#### 4 要求を作成する場合、以下の操作を行います。

- 新規要求に要求テキストとして挿入するテキストを選択します。リンクされたファイルを選択に含めます。
- [RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[新規作成] をクリックします。  
[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- [名前] ボックスに、要求の名前を入力します。[テキスト] ボックスには、挿入されたオブジェクトのパスが含まれます。[OK] をクリックします。

#### 5 [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[保存] をクリックして、Word にリンクされたファイルを要求テキストの一部として保存します。

ビュー、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックス、すべての統合ダイアログ ボックスに表示される要求テキストに、リンクされたファイルのパスと、最後に修正された日時が含まれます。

```
<rp.link file="path" ts="dd-MM-yyyy hh:mm:ss SGMT"/>
```

**メモ：**要求テキストのリンクされたファイルが表示されない場合、[F9] を押して、Word の表示を更新します。それでもリンクされたファイルのパスが要求テキストに表示されない場合は、リンクされたファイルではなくオブジェクトが挿入されています。

### Microsoft 数式の要求への挿入

RequisitePro のサスペクト リンク機能を Microsoft 数式と併用する場合、Word ドキュメントに数式を挿入し、そのドキュメントを要求テキストに挿入する必要があります。数式を Word にリンクされたファイルではなくオブジェクトとして挿入した場合、数式を変更してもサスペクト リンクにはなりません。

Microsoft 数式を RequisitePro 要求に挿入するには

- 1 数式を含む Microsoft Word ドキュメントを作成します。各数式の変更を個別に検出する場合、数式ごとにドキュメントを作成する必要があります。
- 2 以下の操作を行い、数式を含む Word ドキュメントを、RequisitePro 要求テキストに挿入します。
  - RequisitePro ドキュメントを開きます。
  - [挿入] メニューの [ファイル] をクリックします。

- 表示されるダイアログ ボックスで、数式を含む Word ドキュメントがある場所に移動します。
  - ドキュメントを選択し、[挿入] の [リンクとして挿入] をクリックします。
- 3** 以下の操作を行い、Word にリンクされたファイルを含む要求を作成します。
- リンクされたファイルを選択します。任意のテキストを選択して、新規要求に要求テキストとして挿入することもできます。
  - [RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[新規作成] をクリックします。  
[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
  - [名前] ボックスに、要求の名前を入力します。[テキスト] ボックスには、挿入されたオブジェクトのパスが含まれます。[OK] をクリックします。
- 4** [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[保存] をクリックして、Word にリンクされたファイルを要求テキストの一部として保存します。

### ドキュメント外部でのリンクされたファイルの表示

ビュー、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックス、すべての統合ダイアログ ボックスに表示される要求テキストに、リンクされたファイルのパスと、最後に修正された日時が含まれます。

```
<rp.link file:="path" ts:="dd-MM-yyyy hh:mm:ss GMT"/>
```

ほかの RequisitePro ユーザーとドキュメントを共有している場合、汎用名前付け規則に従ったパス名を使用することをお勧めします。

### 追跡可能性

リンクされたファイルを含む要求の間で追跡可能性関係または階層関係を確立すると、リンク元のファイルへの変更について警告されます。リンクされたファイルは、RequisitePro 外部でいつでも編集できます。RequisitePro ドキュメントを保存するとリンクされたファイルへの変更が確認され、関係は、ドキュメントが保存された後で初めてサスペクトとしてマークされます。存在しないディレクトリまたはファイルがリンクの参照先になっている場合、関係がサスペクトとしてマークされます。ただし、そのディレクトリが検出できない場合は、関係はサスペクトとしてマークされません。

## ドキュメント内での要求の作成時のトラブルシューティング

プロジェクト ドキュメントで要求を作成しているときに問題が発生した場合は、以下の手順で調査を行い、問題の特定と解決を図るようにしてください。

- 選択したブロックの先頭または末尾に隠し文字が含まれていないことを確認します。  
RequisitePro では、隠し文字を使用して要求を識別するため、先頭または末尾に隠し文字を持つ要求の作成は禁止されています。
- 選択したブロックがほかの要求に含まれていたり、重複していないことを確認します。  
要求は、ネストしたり重複させることはできません。

## ビュー内での要求の作成

いずれのビューでも、要求を作成できます。追跡可能性マトリックスや追跡可能性ツリーの場合、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスにデータを入力できます。属性マトリックスの場合、新規要求を直接マトリックスに入力し、要求の名前、テキスト、属性を設定してから保存します。

データベースで要求を作成すると、RequisitePro によって以下のことが行われます。

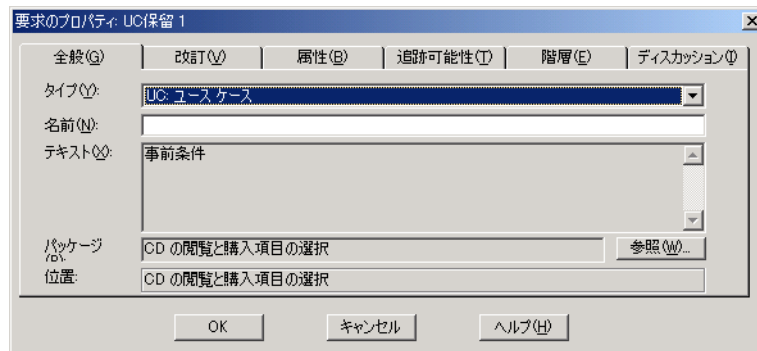
- 以下の情報が新規要求と関連付けられます。
  - 要求タグ識別子。要求タグは、プレフィックスと番号で構成されます。
  - 要求名。
  - 要求テキスト。
  - 要求属性。新規要求は、要求タイプに設定された属性と関連付けられます。
- ビューで [要求] メニューの [新規作成] をクリックすると、親を持たないルート レベルの要求が作成されます。子要求または兄弟要求の作成については、135 ページの「ビュー内での子要求の作成」と 137 ページの「ピア要求の作成」を参照してください。

## 追跡可能性ツリーまたは追跡可能性マトリックスでの要求の作成

追跡可能性ツリーまたは追跡可能性マトリックスで要求を作成するには、[要求] メニューの [新規作成] をクリックし、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスにデータを入力します。

- 1 作成する要求の要求タイプに基づいて、追跡可能性ツリーか追跡可能性マトリックスを開きます。
- 2 次のいずれかを実行します。
  - [要求] メニューの [新規作成] をクリックします。
  - ビュー内で要求を右クリックして、ショートカット メニューの [新規作成] をクリックします。
  - エクスプローラ内で要求をクリックして、[要求] メニューの [新規作成] をクリックします。

[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。



[タイプ]、[パッケージ]、[場所] ボックスには、RequisitePro によってデータが入力されています。

- 新規要求は、ビューに表示されている要求タイプと同じです。要求タイプを変更するには、[タイプ] リストから別の要求タイプを選択します。
- [場所] ボックスは、要求をデータベースにのみ保存し、ドキュメントには作成しないことを示しています。

**3** 新規要求の [名前] と [テキスト] を入力して [OK] をクリックします。

要求タイプのプレフィックスに基づいて、要求タグが作成されます。その要求タイプに割り当てられた番号付けスキーマに基づいて、要求に連番が割り当てられます。追跡可能性マトリックスでは、新規要求はデフォルト エントリの前の最終行エントリになります。追跡可能性ビューでは、新規要求ツリーが一番下に表示されます。

## 属性マトリックスでの要求の作成

属性マトリックスに要求を直接挿入することで、データベースに要求を作成できます。

- 1** 作成する要求に使用する要求タイプの属性マトリックスを開きます。
- 2** 次のいずれかを実行して、マトリックスで要求を作成します。
  - 最後の行 (<ここをクリックして要求を作成> と表示されている行) をダブルクリックするか、この行を選択して [SPACE] を押します。
  - [要求] メニューの [新規作成] をクリックします。
  - [INSERT] を押します。

[名前] リストと [テキスト] リストが表示されます。

**メモ:** [要求] メニューの [新規作成] をクリックし、[INSERT] を押して、[テキスト] ボックスのマトリックスで直接要求を作成する場合は、ツールバーで [ツール] メニューの [オプション] をクリックして、[ビュー内に要求を直接作成する (ダイアログ ボックスなし)] チェック ボックスをオンにしてください。このチェック ボックスがオフになっている場合は、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。詳細については、前の項を参照してください。

- 3 要求名を入力し、[TAB] を押して下のボックスに移動して、要求を説明するテキストを入力します。

**メモ:** このプロジェクトを Microsoft Project と共に使用する場合、要求の説明テキストは半角で最大 255 文字に制限されます。これは、Microsoft Project のタスク説明の長さの制限に対応します。

- 4 次のいずれかを実行し、情報を保存します。

- [TAB] を押します。
- 別のセルをクリックします。
- [ENTER] を押します。

**メモ:** [オプション] ダイアログ ボックスの設定を確認してください。[ENTER] を押して属性マトリックスの要求情報を保存する場合は、[ENTER キーで新しい行を挿入する] チェック ボックスをオフにする必要があります。

編集中的行の下に新しい空の行 (\* と <ここをクリックして要求を作成>が表示されている行) が作成されます。挿入する新規要求の最初の属性セルに、カーソルが移動します。行の先頭に表示される鉛筆アイコンは、要求が編集モードにあり、まだ変更が保存されていないことを示します。

- 5 属性を選択または入力し、[TAB] を押してほかの属性列に移動して、デフォルトの属性値を変更します。
- 6 新規要求に関する情報の設定を終了したら、[TAB] を押して次の行に移動するか、行の外側をクリックします。新規要求が作成され、その要求に次に利用可能なタグが割り当てられます。ビューで作成された要求の [場所] 属性は、[データベース] として表示されます。


## 要求テキストとプロパティの更新

---

属性値、追跡可能性関係、階層関係、ディスカッション、変更の説明などの要求情報を表示または変更するには、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスを使用します。属性マトリックスでは、ビュー内で直接名前、テキスト、属性を変更できます。詳細については、65 ページの「ディスカッションについて」、135 ページの「階層について」、145 ページの「追跡可能性について」を参照してください。

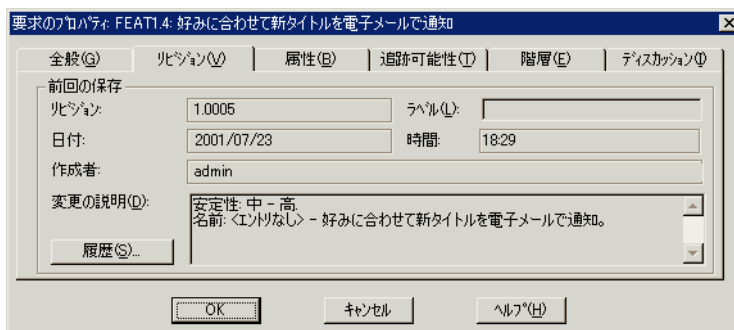
## [要求のプロパティ] ダイアログ ボックスを開く

次のいずれかの操作を行って、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスを開きます。

- エクスプローラで要求を選択し、要求を右クリックして [プロパティ] をクリックします。または、要求を選択して [ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。
- ビューで要求を選択し、要求を右クリックして [プロパティ] をクリックします。または、要求を選択して [要求] メニューの [プロパティ] をクリックします。
- 開いているドキュメントで要求を選択し、要求を右クリックして [要求のプロパティ] をクリックします。または、要求を選択して [RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[プロパティ] をクリックします。
-  ドキュメントまたはビューで要求を選択して、[プロパティを表示する] ボタンをクリックします。

## 改訂情報へのアクセス

要求に関する改訂情報の記録と監視を行うには、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスの [改訂] タブを使用します。



- 要求を変更して保存すると、要求の内部改訂番号が [改訂] ボックスに自動的に表示されます。このボックスは、読み取り専用です。名前、テキスト、属性を変更すると、改訂番号が変更されます。RequisitePro ビューで変更を加えると、そのたびに各要求の改訂番号が繰り上がります。ドキュメントを変更すると、ドキュメントを保存するたびに要求に対する改訂番号が繰り上がります。
- 論理名を改訂番号に関連付けるには、[ラベル] ボックスをクリックします。[ラベル] ボックスは、要求が新規の場合や、属性値を変更した場合にのみ使用できます。このボックスは、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスの [全般] タブでテキストを変更した場合や [階層] タブで階層を変更した場合にも使用できます。この手順はオプションです。このテキストボックスを使用して、すべての改訂版に名前を付けることができます。最大 20 文字までの

半角英数字を組み合わせ、たとえば **Beta Release** のような名前を付けることができます。このラベルは、要求の変更履歴に追加されます。一度付けた名前は、変更も削除もできません。

- 要求に対する変更を記録するには、[変更の説明] ボックスを使用します。このテキストボックスには、半角で最大 **2,048** 文字まで入力できます。この手順はオプションです。
- [日付]、[時間]、[作成者] ボックスには **RequisitePro** によってデータが自動的に入力されます。ユーザーによる変更はできません。[パッケージ] ボックスにもデフォルトでデータが入力されますが、要求を格納する別のパッケージを参照して指定することもできます。
- 要求の変更履歴を表示するには、[履歴] をクリックします。
- 要求に対して行った変更は、ドキュメントを保存するまでは保留状態になります。要求をデータベースに反映した時点で、そのステータスが [提案された変更] から [最終保存] に変更されます。

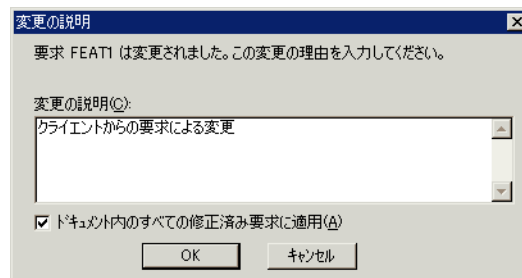
## ドキュメント内での要求変更の記録

ドキュメント内で要求の説明を変更する場合は、変更理由を記述できます。カーソルが要求の説明の中にあるかどうかを確認し、以下の操作を実行します。

- 1 [RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[変更に注釈を付ける] をクリックします。  
[変更の説明] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 要求テキストを変更した理由を入力します。
- 3 [OK] をクリックします。

ドキュメントを保存すると、ここで入力した説明がデータベースに反映されます。

要求に注釈を付けずに、要求を変更したドキュメントを閉じようとすると、[変更の説明] ダイアログ ボックスが表示され、さらにその要求までスクロールして、変更理由を記録するように要求するメッセージが表示されます。



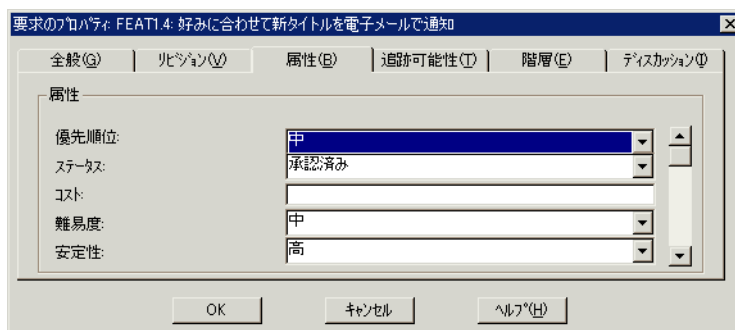
## 属性値の変更

属性とそのデフォルト値は、要求の要求タイプによって定義されます。要求の属性に値を割り当てるには、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスの [属性] タブを使用します。

値を要求属性に割り当てるには

- 1 122 ページのいずれかの方法で、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスを開きます。
- 2 [属性] タブをクリックします。

要求の属性が表示されます。



- 3 属性値を入力します。
  - リスト タイプの属性の場合、リストから値を選択します。
  - 入力タイプの属性の場合、ボックスに値を入力します。

**メモ:** フィールド間を移動するには、スクロール バーか [TAB] キーを使用します。
- 4 [OK] をクリックします。

属性マトリックスの属性値、要求名、要求テキストを変更するときは、ショートカットを使用できます。

属性マトリックスから属性値を変更するには

- 1 属性マトリックスで、次のいずれかを実行します。
  - 属性値か要求テキストをダブルクリックします。

**メモ:** 属性マトリックスでこのオプションを直接編集する場合は、[オプション] ダイアログ ボックスの [ダブルクリックしてソースに移動する] チェック ボックスをオフにしてください。[ダブルクリックしてソースに移動する] チェック ボックスがオンになっている場合、属性値か属性テキストをダブルクリックすると、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。その要求がドキュメントに記述されている場合は、ドキュメントが表示されます。

- 要求の名前、テキスト、または属性をクリックし、[SPACE] を押します。
- 2 リストタイプの属性の場合、リストから値を選択します。複数値のリストタイプの属性の場合、リストから1つまたは複数の値を選択します。入力タイプの属性、または要求の名前とテキストの場合、テキストボックスにデータを入力します。  
  
ドキュメント内の要求テキストを変更するには、[プロジェクトのプロパティ] ダイアログボックスの [ドキュメント] タブにある [ドキュメントの拡張編集を有効にする] チェックボックスをオンにする必要があります。
- 3 編集可能なほかの行に移動するには、[TAB] を押します。
- 4 変更を確定するには、セルの外側をクリックするか、[ENTER] を押します。変更を保存せずに編集内容をキャンセルするには、[ESC] を押します。

属性マトリックスで、複数選択の操作を行って複数の属性値を選択した後で、右クリックして、ショートカットメニューの [値の設定] をクリックすることもできます。[値の設定] ダイアログボックスが表示され、選択したすべての要求に対して使用する値を選択できます。

## 要求名変換ウィザードの使用方法

---

プロジェクト内の要求に付ける名前またはラベルとしてユーザー定義の属性を使用してきた場合 (バージョン 2001.03.00 より前の Rational RequisitePro)、要求名にそのデータを追加できます。要求名変換ウィザードでは、このようなデータをコピーします。

**メモ:** プロジェクトが保護されている場合は、管理者グループのメンバーのみがこの変換機能を実行できます。

要求名は、最高 128 文字まで入力できます。要求名にコピーした属性値が 128 文字より長い場合は、省略されます。

ウィザードを開始するには

Windows エクスプローラで、要求名変換ウィザードを開きます。実行可能ファイル `rqreqnameconvwiz.exe` は `Rational¥RequisitePro¥bin¥` ディレクトリにあります。

## 要求への新しいタイプの関連付け

---

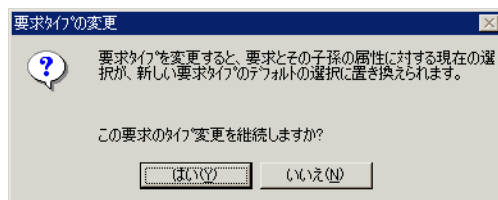
要求タイプを変更した場合、次のような処理が行われます。

- 要求に関連付けられている属性値が、新規要求タイプのデフォルトの属性値に変更されます。
- 要求が親の場合は、すべての子要求の要求タイプも同時に変更されます。
- 要求が子の場合は、要求は新規要求タイプのルートに移動し、親を持たなくなります。

親要求と子要求については、135 ページの「階層について」を参照してください。

## 単一の要求と新規要求タイプの関連付け

- 1 122 ページの「[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスを開く」のいずれかの方法で [要求のプロパティ] ダイアログ ボックスを開きます。
  - 2 [全般] タブをクリックします。
  - 3 [タイプ] リストから新規要求タイプを選択します。
- 変更プロセスを説明する [要求タイプの変更] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 4 [はい] をクリックします。[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスで要求タイプが変更されます。
- 5 [OK] をクリックし、変更を保存します。

## 複数の要求と新規要求タイプの関連付け

要求タイプを変更した場合、次のような処理が行われます。

- 要求に関連付けられている属性値が、新規要求タイプのデフォルトの属性値に変更されます。
- 要求が親の場合は、すべての子要求の要求タイプも同時に変更されます。
- 要求が子の場合は、要求は新規要求タイプのルートに移動し、親を持たなくなります。

**メモ：** 要求タイプを変更してドキュメントを保存した後、属性値をリセットする処理が別途必要になります。

- 1 属性マトリックスを開き、複数選択の操作を行って、複数の要求を選択します。ドキュメント内の要求の場合には、RequisitePro でドキュメントを開いてから、次の手順に進んでください。
- 2 [要求] メニューの [タイプの変更] をクリックします。変更プロセスを説明するダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 [はい] をクリックします。[要求タイプの変更] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 4 [新規の要求タイプ] で、新規要求タイプを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

要求とその子要求が、属性マトリックスから削除されます。新規要求タイプのマトリックスを表示すると、デフォルトでは、要求とその子要求がマトリックスの最後に追加されます。

ドキュメント内の要求の場合、開いたドキュメントを保存することで、データベースに要求を反映させる必要があります。

## 要求の移動

---

1 つの要求ドキュメント内、複数のドキュメントの間、またはドキュメントとデータベースの間で、要求を移動またはコピーできます。要求を移動するには、**RequisitePro** の [ 切り取り ]、[ コピー ]、[ 貼り付け ] コマンドを使用します。

要求の切り取り、コピー、貼り付けを行うと、名前、テキスト、属性、追跡可能性関係にも、その操作が反映されます。

**RequisitePro** の [ 切り取り ] コマンドを使用して切り取った要求は、**RequisitePro** 専用のバッファに格納されます。要求がバッファに格納されている状態で、別の要求を切り取ったり、コピーしたりすると、最初にあった要求がデータベースから削除されます。**RequisitePro** で使用されるバッファは、**Windows** のクリップボードではありません。**RequisitePro** データベースで要求を切り取っても、**Windows** クリップボードに現在保存されている情報はそのまま残ります。

プロジェクトでセキュリティが設定されている場合、ある要求タイプの要求を切り取るには、そのタイプに対する削除権限が必要です。

**注意:** **Microsoft Word** の [ 切り取り ]、[ コピー ]、[ 貼り付け ] コマンドは使用しないでください。**Word** の [ 切り取り ] コマンドを使用すると、プロジェクトから要求が削除される可能性があります。また、**Word** の [ 切り取り ] コマンドを使用してドキュメントから要求を切り取った場合は、プロジェクトデータベースに要求を貼り付けることはできません。

**メモ:** **RequisitePro** の [ 切り取り ] と [ 貼り付け ] では、元の要求を移動します。[ コピー ] と [ 貼り付け ] では、新規要求を作成します。要求をドキュメントに貼り付けると、新しい保留中の要求が挿入されます。要求をデータベースに貼り付けると、新規要求がデータベース内に作成されます。

### ドキュメントからの切り取りまたはコピー

ドキュメントから要求を切り取る、またはコピーするには

- 1 要求テキストをクリックします。
- 2 [ **RequisitePro** ] メニューの [ 要求 ] をポイントし、[ 切り取り ] または [ コピー ] をクリックします。

要求ドキュメントから、要求 ( とその子要求 ) が切り取りまたはコピーされます。

現在のドキュメント内の別の場所、または現在のドキュメントとは別の要求ドキュメントに、要求を移動またはコピーします。

ドキュメントに要求を貼り付けるには

- 1 貼り付け先のドキュメントを開くをクリックし、要求を貼り付ける場所にカーソルを置きます。
- 2 [RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[貼り付け] をクリックします。  
要求 (とその子要求) が指定した場所に挿入されます。

要求をドキュメントから削除し、データベース内のみに置くことができます。属性マトリックスビューが、切り取った要求と同じ要求タイプに基づいている場合は、属性マトリックスビューに要求を貼り付けることができます。追跡可能性マトリックスまたは追跡可能性ツリービューには要求を貼り付けることができません。

OLE オブジェクトを含む要求をドキュメントからプロジェクト データベースに貼り付けると、リンクされたファイルにアクセスできなくなります。

切り取った要求をデータベースに貼り付けるには

- 1 切り取った要求と同じ要求タイプに基づく属性マトリックスビューを開くか、作成します。
- 2 [編集] メニューの [貼り付け] をクリックします。データベース内に要求が貼り付けられます。

**メモ:** データベースに貼り付ける要求に OLE オブジェクトが含まれている場合、オブジェクトは失われます。オブジェクトが見つからその要求に関連するすべての追跡可能性関係がサスペクトとしてマークされます。サスペクトになった関係をリセットするには、[追跡可能性] メニューの [サスペクトの解除] をクリックします。

## ビューでの切り取りまたはコピー

データベースの要求をドキュメントに移動するには、属性マトリックスから要求を切り取って、要求ドキュメントに貼り付けます。

- 要求をそのすべての関係と共にドキュメントに移動するには、[編集] メニューの [切り取り] をクリックします。
- データベース要求をコピーし、ドキュメントに貼り付けるには、[RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[コピー] をクリックします。この方法では、要求ドキュメントを保存したときに新規要求が作成されます。要求をコピーすると、テキストと属性はコピーされますが、追跡可能性関係はコピーされません。階層要求では、要求は、親/子階層の同一レベルにピア要求としてコピーされます。詳細については、135 ページの「階層について」を参照してください。

データベースから要求を切り取る、またはコピーするには

- 1 要求を含む属性マトリックスを開きます。
- 2 マトリックスの最も左側の列にある要求の名前/テキストセルを選択します。複数の要求を選択するには、複数選択の操作を行います。

3 [編集]メニューの[切り取り]か[コピー]をクリックします。

同じ RequisitePro プロジェクト内の要求ドキュメントまたは同じ要求タイプの別の属性マトリックスに要求を貼り付けるには

1 要求ドキュメントか属性マトリックスを開き、要求を貼り付ける場所をクリックします。

2 次のいずれかを実行します。

- ドキュメントに要求を貼り付けるには、[RequisitePro]メニューの[要求]をポイントし、[貼り付け]をクリックします。
- ビューに要求を貼り付けるには、[編集]メニューの[貼り付け]をクリックします。

要求(とその子要求)がドキュメント内の指定した場所に挿入されます。ビューの場合は、要求はマトリックスの最後に追加されます。コピーした要求には、「...のコピー」という文字列が付きます。

## 要求の移動に関する規則

RequisitePro の[切り取り]、[コピー]、[貼り付け]コマンドを使用して要求を移動する場合は、以下の規則を考慮して操作を行ってください。

要求の保存場所	機能	要求の移動先	
		データベースへの貼り付け	ドキュメントへの貼り付け
ドキュメント	切り取り	ドキュメントから要求を削除します。ただし、データベースには要求が保存されます。 <sup>1</sup>	要求内でドキュメントを移動します。 <sup>2</sup>
	コピー	データベースに新規要求を作成します。	ドキュメントに新規要求を作成します。
データベース	切り取り	適用外	要求内でドキュメントを移動します。 <sup>3</sup>
	コピー	データベースに新規要求を作成します。	ドキュメントに新規要求を作成します。 <sup>3</sup>

<sup>1</sup> ドキュメントから切り取った要求をデータベースに貼り付けない場合、その要求は、ドキュメントを保存した時点で、ドキュメントとデータベースの両方から削除されます。

<sup>2</sup> 親子の要求階層では、同一のドキュメント内に貼り付ける場合は、ルート要求またはリーフ(最下位の子要求)のみを切り取って貼り付けることができます。あるドキュメントから別のドキュメントに貼り付ける場合は、ルート要求とすべての子要求を移動できます。親子の要求については、135 ページの「階層について」を参照してください。

<sup>3</sup> 親子の要求階層では、ルート要求のみ、データベースからドキュメントへ移動できます。親子の要求については、135 ページの「階層について」を参照してください。

- Microsoft Word の [ 切り取り ] と [ 貼り付け ] コマンドは使用しないでください。要求テキストを切り取るとき、Word の [ 切り取り ] コマンドを使用しないことをお勧めします。それには理由が 2 つあります。1 つは、Word では、( ブックマークとタグを含む ) 要求全体の獲得に失敗し、プロジェクトデータベースから要求が誤って削除される危険性が大きくなるためです。もう 1 つの理由は、Word の [ 切り取り ] コマンドでは、ドキュメントの要求をプロジェクトデータベースに移動できなくなるためです。
- RequisitePro の [ 切り取り ] コマンドによるバッファの使用には注意してください。RequisitePro の [ 切り取り ] コマンドを使用して切り取った要求は、専用の切り取りバッファに移動します。別の要求の切り取りまたはコピーをする前に、新しい保存場所にバッファ内の要求を貼り付けてください。要求がバッファに格納されている状態で別の要求の切り取りやコピーをすると、最初の要求がデータベースの元の場所に戻されます。複数の要求の切り取りやコピーは、属性マトリックス内にかぎり実行できます。

**メモ :** RequisitePro で使用されるバッファは、Windows のクリップボードではありません。Windows のクリップボードに保存されている情報は、RequisitePro 内で要求を切り取りまたはコピーした場合にもそのまま残ります。

## ドキュメントでの要求の色とスタイルの更新

---

特定の要求タイプに属する要求を、特定の色とスタイルで区別できます。たとえば、機能という要求タイプに属するすべての要求を深緑色と二重下線スタイルを使用してマークするとします。このマークによって、保存場所にかかわらず、機能に関するすべての要求を簡単に識別できます。要求の色とスタイルの更新は、色とスタイルが誤って上書きされたときに、要求を適切な状態に復元するのに役立ちます。

要求ドキュメントで要求の色とスタイルを更新するには

- 1 更新する要求を選択します。
- 2 [RequisitePro] メニューの [ ドキュメント ] をポイントし、[ 要求の更新 ] をクリックします。

ドキュメントの要求の色とスタイルがチェックされ、必要があれば、適切な設定にリセットされます。

**メモ :** 要求の色とスタイルを削除して通常のテキストに戻す方法については、133 ページの「ドキュメント内の要求のマーク解除と削除」を参照してください。

## ドキュメントでの要求タグの再ビルド

---

ドキュメントで要求を作成すると、要求情報はブックマークで囲まれ、要求タグが割り当てられます。要求タグが確実に画面に表示され、印刷されるようにするには、[ドキュメントのプロパティ] ダイアログ ボックスの [タグの表示] チェック ボックスをオンにします。

要求ドキュメントを編集している間に、誤ってタグを壊したり、削除したりすることがあります。部分的または完全に壊れてしまったり、削除してしまった要求タグを再ビルドするには、[タグの再ビルド] コマンドを使用します。問題のあるタグが再ビルドされ、再ビルドされた要求タグのリストが提示されます。

[タグの再ビルド] コマンドを使用しても、テキスト、グラフィック、OLE オブジェクトなどの削除または破損した要求情報は復元されません。ドキュメントを読み取り専用モードで開いた場合は、タグを再ビルドできません。このコマンドを使用するには、更新の権限が必要です。

ドキュメントで要求タグを再ビルドするには

- 1 再ビルドする要求タグを選択します。
- 2 [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[タグの再ビルド] をクリックします。

ドキュメント内のすべての要求タグが再ビルドされ、要求タグのリストが表示されます。

## 要求テキストの更新

---

RequisitePro では、ユーザー (またはほかの RequisitePro ユーザー) による修正内容と、変更を加えた箇所に応じて、随時表示が更新されます。

ドキュメント内の要求テキストを修正した場合は、ドキュメントを保存するときに要求が更新されます。書き込み権限や読み取り専用の権限でドキュメントを開くと、ドキュメントは前回保存したときの状態で Microsoft Word に表示されます。

ビューには、データベースの現在の状態が表示されます。保存されていない新規要求と変更された要求は、ビューには反映されません。[ビュー] メニューの [更新] をクリックして、ビュー内の要求を随時更新することができます。データベース内のすべての要求情報が更新されます。

## 要求の番号の付け直し

---

プロジェクト内の特定タイプに属するすべての要求の番号を再設定するには、[要求の番号を付け直す] コマンドを使用します。要求を削除または移動した結果、番号が連続しなくなった場合に、この機能を使用すると便利です。1 回の操作で、1 つまたは複数の要求タイプの番号を付け直すことができます。データベースと要求ドキュメントで、要求の番号が付け直されます。また、番号を付け直す要求タイプとドキュメントの処理順序を選択できます。ドキュメント内の要求は、ドキュメント内で表示される順番で番号が付け直されます。

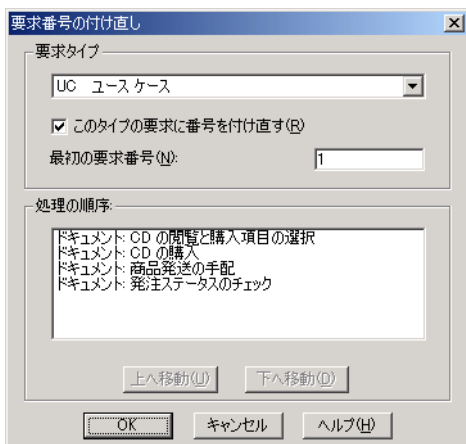
プロジェクトにセキュリティが設定されている場合、要求の番号を付け直すには、プロジェクト構造のアクセス権限が必要です。このコマンドを使用するには、プロジェクトを排他モードで開く必要があります。ドキュメント内の要求の番号を付け直すには、指定したタイプの要求を含むすべてのドキュメントを開く必要があります。

プロジェクト内のすべての要求の番号を付け直すには

- 1 [ファイル]メニューの[プロジェクト管理]をポイントし、[要求の番号を付け直す]をクリックします。

ドキュメントが保存されていない場合、要求の番号を付け直す前にすべてのドキュメントを保存するかどうか確認するメッセージが表示されます。[はい]をクリックして、処理を続けます。

[要求番号の付け直し] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 2 [要求タイプ] リストから、番号を付け直す要求タイプを選択します。
- 3 [このタイプの要求に番号を付け直す] チェック ボックスをオンにします。  
**メモ:** 複数の要求タイプに番号を付け直すには、手順 2 と 3 を繰り返します。
- 4 [最初の要求番号] ボックスに、設定する最初の要求番号を入力します。デフォルトは 1 です。
- 5 データベースの要求とドキュメントの番号の付け直し順序を変更するには、[データベース] またはドキュメント名を選択します。データベースとドキュメントの処理順序を変更するには、[上へ移動] と [下へ移動] をクリックします。リストの先頭にある項目 (データベース またはドキュメント) 内の要求から番号が付けられ、次の項目に含まれる要求へと続きます。  
**メモ:** [処理の順序] リストには、選択したタイプの要求が含まれるドキュメントのみが表示されます。
- 6 [OK] をクリックします。

## 要求の削除

---

通常は、プロジェクトをアーカイブした後で、要求を削除しないようにしてください。要求を削除すると、その要求に関連する情報が、履歴も含めてすべて削除されてしまいます。

RequisitePro には、このツールに慣れたユーザーを想定して、プロジェクトをアーカイブする前にのみ使用できる [要求の削除] 機能があります。プロジェクトをアーカイブした後で要求を削除するには、要求属性 (非アクティブ、使用しない、無効など) を使用して、その要求が無効であることを示します。

ほかのプロジェクトの要求とリンクされた要求を削除すると、ほかのプロジェクトが更新され、削除された要求との関連が削除されます。

**メモ:** 要求を削除すると、その履歴と追跡可能性関係がプロジェクト データベースから完全に削除されます。

### ドキュメント内の要求のマーク解除と削除

要求を削除するとき、テキストをドキュメントに残すようにすることができます。テキスト自体はそのまま残して、テキストから要求のスタイルを削除するには、[削除 - マーク解除] コマンドを使用します。要求テキスト、グラフィック、OLE オブジェクトはドキュメント内にそのまま残りますが、要求として認識されなくなります。要求の色とスタイルの設定は削除され、ドキュメントのデフォルト スタイルに置換されます。

[削除 - 除去] コマンドを使用すると、要求ドキュメントから要求テキストが削除され、データベースからも削除されます。

ドキュメントで要求をマーク解除または削除するには

- 1 要求ドキュメントで、要求テキストをクリックするか、複数の要求を含むテキスト範囲を選択します。
- 2 次のいずれかを実行します。
  - テキストをそのまま残し、要求として認識されないようにするには、[RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[削除 - マーク解除] をクリックします。
  - ドキュメントから要求テキストを削除し、データベースからも要求テキストを削除するには、[RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[削除 - 除去] をクリックします。削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 3 [はい] をクリックします。RequisitePro の書式設定は削除され、要求テキストはデフォルトのテキスト スタイルに変換されます。

**メモ:** 親要求を選択して、[RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[削除 - マーク解除] または [削除 - 除去] をクリックすると、残りの子要求の処理方法を確認する [要求の削除] ダイアログ ボックスが表示されます。[キャンセル] をクリックすると、削除プロセス全体がキャンセルされます。

ドキュメントを保存する前であれば、マーク解除操作を元に戻すことができます。スタイル、ブックマーク、タグが再表示されるまで、Word の [編集] メニューの [元に戻す] を繰り返しクリックしてください。

- 4 [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[保存] をクリックします。

データベースから要求が削除されます。

## データベースからの要求の削除

要求がドキュメント内に存在しない場合にかぎり、開いているビューでデータベースから要求を削除できます。属性マトリックスで [場所] 属性をオンにすると、要求の格納場所は、「データベース」として表示されるか、要求ドキュメントのファイル名として表示されます。

ほかのプロジェクトの要求とリンクされた要求を削除すると、ほかのプロジェクトが更新され、削除された要求との関係が削除されます。切り取られた要求の場合は、RequisitePro で貼り付けに使用できるようにバッファに保管されますが、削除された要求は、その履歴と追跡可能性関係と共にデータベースから完全に削除されます。

- 1 要求が含まれる属性マトリックスを開きます。
- 2 マトリックスから要求を選択します。複数の要求を選択するには、複数選択の操作を行います。
- 3 [編集] メニューの [削除] をクリックします。削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 4 [はい] をクリックします。要求は削除されます。

階層要求の関係は、同じタイプの要求間の直接的な依存性を反映する親子関係です。さらに、これらの関連付けは、変更を管理するための強力なツールとなります。要求を階層化することにより、親要求を確立し、その親に対する子要求を作成できるので、多数のサブ要求を持つ要求をサポートできるようになります。

追跡可能性関係 (145 ページの「追跡可能性について」を参照) と同様、階層関係も RequisitePro の変更管理された関係の 1 つです。要求の名前、テキスト、要求タイプ、属性が変更された場合、その子との関係はサスペクトになります。追跡可能性マトリックス ビューか追跡可能性ツリービューを使用して、サスペクト関係を表示したり管理したりできます。

## 子要求の作成

---

子要求とは、親を持つ要求のことで、子要求は親を 1 つしか持てませんが、いずれの要求も親と子の両方になることができます。

階層関係は、要求ドキュメントかビュー内で作成します。親要求がドキュメント内にある場合は、子要求も同じドキュメント内になければなりません。親要求とそのすべての子要求は、同じ要求タイプである必要があります。

親子関係は次のいずれかの方法で作成します。[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスの [階層] タブを使用するか、[RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[新規作成] をクリックして要求ドキュメント内に直接作成するか、[要求] メニューの [新規作成] をクリックして属性マトリックスに挿入します。

階層的な要求では、アウトライン番号を割り当てるスタイルが使用され、それぞれの子レベルはピリオドで示されます。たとえば、要求タグが PRD108 の場合、その直接の子には PRD108.1 と PRD108.2 の番号が割り当てられます。さらにその直接の子には、PRD108.1.1 と PRD108.2.1 の番号が割り当てられます。

## ビュー内での子要求の作成

ビュー内で子要求を作成するには、現在選択中の要求 (親になる要求) がドキュメント内に置かれていないことを確認してください。

- 1 親にする要求が含まれるビューを開きます。
- 2 要求をクリックします。一度に修正できる要求は 1 つだけです。

- 3 [ファイル]メニューの[新規作成]をポイントし、[子の要求]をクリックします。
  - 属性マトリックスでは、選択した親の最後の要求の直後に新しい行が表示され、名前/テキストを編集するボックスが開き、情報を追加できます。詳細については、120 ページの「属性マトリックスでの要求の作成」を参照してください。
  - 追跡可能性マトリックスと追跡可能性ツリーの場合、[要求のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。子要求を定義するためには[全般]、[改訂]、[属性]、[追跡可能性]、[ディスカッション] タブをクリックした後、適切な情報を入力します。
- [階層] タブで、親要求は、手順 2 で選択した要求として事前に定義していることを確認してください (必要に応じて、親を変更できます)。
- 4 [TAB] を押して次の行に移動するか、属性マトリックスで行の外側をクリックします。または [要求のプロパティ] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックします。

RequisitePro では、データベース内に子要求を作成し、親要求の番号に基づいて、子要求の要求タグを作成します。

子要求を作成した後、保存したビューをチェックして、子要求と親要求が両方とも表示されていることを確認してください。保存したビューのクエリーを修正し、[階層的表示を保持] チェック ボックスをオンにすることで、階層要求をビューに含めることができます。次に、ビューを再び保存することで、これらの変更内容を保存します。57 ページの「クエリーの作成と修正」を参照してください。


## エクスプローラ内での子要求の作成

- 1 親にする要求を選択して、[要求]メニューの[新規作成]をポイントし、[要求]をクリックします。

[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [TAB] を押して情報を入力し、要求を定義します。
- 3 [OK] をクリックします。新しい子要求が作成され、エクスプローラで選択した親要求の下にインデントして表示されます。

## ドキュメント内での子要求の作成

親を割り当てることによって、要求ドキュメント内に子要求を作成できます。この割り当ては、ドキュメントをデータベースに反映した時点で保存されます。

- 1 要求ドキュメント内で、子要求にする要求を選択します。
-  2 [RequisitePro] メニューの[要求]をポイントして[プロパティ]をクリックするか、[要求のプロパティ] ボタンをクリックします。

[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 [全般] タブをクリックして適切な情報を入力することで、要求を定義します。

- 4 [階層] タブをクリックします。
- 5 [親] リストから親を選択します。デフォルトは、そのドキュメント内で最後に選択した親です。リストで親が選択されていない場合は、[<親を選択...>] をクリックし、[親の要求のブラウザ] ダイアログ ボックスに表示されたリストから親を選択します。
- 6 [OK] をクリックし、ダイアログ ボックスを閉じます。
- 7 [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[保存] をクリックして、新しい親子関係をデータベースに保存します。

親要求の番号に基づいて、子要求の要求タグが生成されます。

子要求を作成した後、保存したビューをチェックして、子要求と親要求が両方とも表示されていることを確認してください。保存したビューのクエリーを修正し、[階層的表示を保持] チェック ボックスをオンにすることで、階層要求をビューに含めることができます。次に、ビューを再び保存することで、これらの変更内容を保存します。57 ページの「クエリーの作成と修正」を参照してください。

## ピア要求の作成

---

要求階層内で同一レベルにある複数の要求は、ピア関係にあります。たとえば、ある 2 つの要求が同じ親要求の子である場合、それらは互いにピア要求となります。ルート レベルにあるすべての要求は、お互いのピア要求です。

ドキュメント内に要求を作成すると、その要求は、その上にある要求と同じレベルに自動的に配置されます。111 ページの「ドキュメントでの要求の作成」を参照してください。

## ビュー内での兄弟要求の作成

ビュー内で作成した要求は、自動的にルート レベルに置かれます。119 ページの「ビュー内での要求の作成」を参照してください。親を持つ要求に対してピア要求を作成するには、[兄弟の作成] コマンドを使用します。

兄弟要求を作成するには

- 1 兄弟として設定する要求を含むビューを開きます。
- 2 要求を選択します。
- 3 [ファイル] メニューの [新規作成] をポイントし、[要求] をクリックします。

**メモ：** 兄弟の親がドキュメントに含まれている場合は、ビューで兄弟要求を作成できません。

- 属性マトリックスでは、同じ親の最後の要求の直後に新しい行が表示され、名前/テキストを編集するボックスが開き、情報を追加できます。詳細については、120 ページの「属性マトリックスでの要求の作成」を参照してください。

- 追跡可能性マトリックスと追跡可能性ツリーの場合、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。[全般]、[改訂]、[属性]、[追跡可能性]、[ディスカッション] の各タブをクリックして子要求を定義し、適切な情報を入力します。

[階層] タブでは、親要求が、手順 2 で選択した要求の親としてあらかじめ定義されていることに注意してください (必要に応じて親は変更できます)。

- 4 属性マトリックスで [TAB] を押して次の行に移動するか、行の外部をクリックします。または、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックします。

RequisitePro はデータベース内に兄弟要求を作成し、親要求の番号に基づいて、新規要求の要求タグを作成します。

**メモ：** 兄弟要求を作成した後、保存したビューをチェックして、子要求と親要求が両方とも表示されていることを確認してください。保存したビューのクエリーを修正し、[階層的表示を保持] チェック ボックスをオンにすることで、階層要求をビューに含めることができます。次に、ビューを再び保存することで、これらの変更内容を保存します。57 ページの「クエリーの作成と修正」を参照してください。

## 親要求の変更

---

階層要求に同じ要求タイプの新しい親を割り当てることができます。要求に新しい親を割り当てると、子のサブツリー全体も新しい親に移動します。要求には、新しい親に対して要求を作成した場合と同じように番号が付けられます。

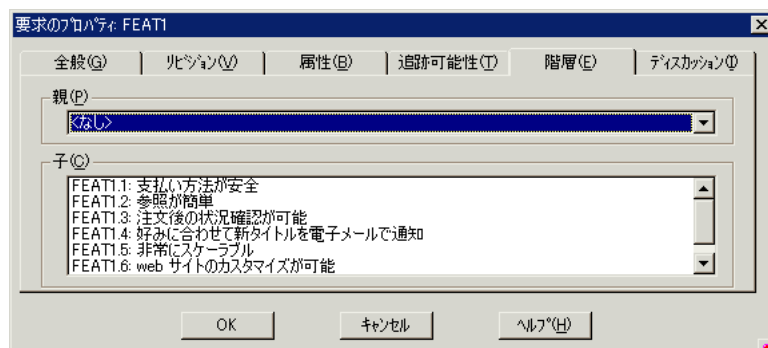
子を別の親に割り当てると、新しい親とその直接の子の階層関係がサスペクトとしてマークされます。ただし、子とその子の関係は、サスペクトとしてマークされません。151 ページの「サスペクト関係」も参照してください。

**メモ：** 新しい子要求を作成した後、保存したビューをチェックして、子要求と親要求が両方とも表示されていることを確認してください。保存したビューのクエリーを修正し、[階層的表示を保持] チェック ボックスをオンにすることで、階層要求をビューに含めることができます。次に、ビューを再び保存することで、これらの変更内容を保存します。57 ページの「クエリーの作成と修正」を参照してください。

### [要求のプロパティ] ダイアログ ボックスでの親要求の割り当て

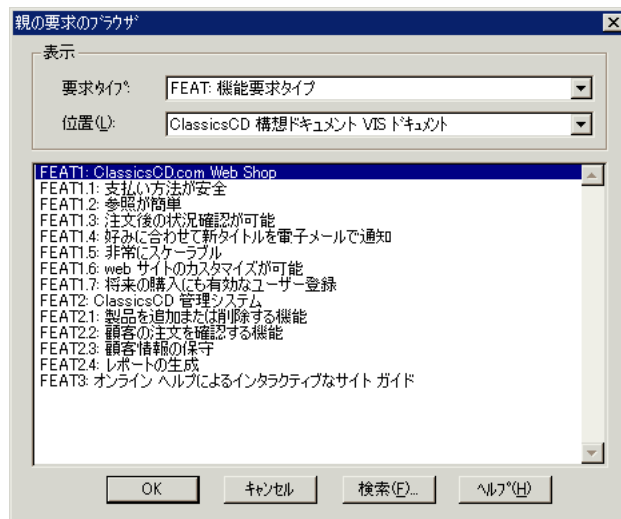
- 1 以下のいずれかの方法で、[ドキュメント プロパティ] ダイアログ ボックスを開きます。
  - エクスプローラまたはビューで要求を選択し、[要求] メニューの [プロパティ] をクリックします。
  - ドキュメントで、要求テキストの任意の場所をクリックします。[RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[プロパティ] をクリックします。

2 [階層] タブをクリックします。



3 [親] リストから新しい親要求を選択します。リストに親が表示されない場合は、[<親を選択 ...>] をクリックします。

[親の要求のブラウザ] ダイアログ ボックスが表示されます。



4 リストから親要求を選択します。要求を検索するには、[検索] ボタンをクリックします。

5 親要求を選択した後、[OK] をクリックします。

- 6 [要求のプロパティ] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリックします。

要求は、選択した親の子要求になります。新しい親要求の番号に基づいて、子要求と子のサブツリーに対して新しい要求タグが作成されます。

**メモ:** ドキュメント内の要求の場合、開いたドキュメントを保存することで、データベースに要求を反映させる必要があります。新しい子要求を作成した後、保存したビューをチェックして、子要求と親要求が両方とも表示されていることを確認してください。保存したビューのクエリーを修正し、[階層的表示を保持] チェック ボックスをオンにすることで、階層要求をビューに含めることができます。次に、ビューを再び保存することで、これらの変更内容を保存します。

## ビュー内での親要求の割り当て

ビューまたはエクスプローラでは、複数の階層要求に、同じ要求タイプの新しい親を割り当てることができます。選択したすべての要求に対して、同じ新しい親が割り当てられます。要求に新しい親を割り当てると、子のサブツリー全体もその新しい親に移動します。要求には、新しい親に対して要求を新規作成した場合と同じように番号が付けられます。

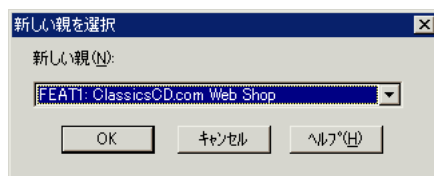
新しい親に要求を割り当てた場合は、新しい親とその直接の子のすべての階層関係がサスペクトとしてマークされます。子とその子の関係は、サスペクトとしてマークされません。

**メモ:** 変更する要求がドキュメント内にある場合は、以下の手順に進む前に、ドキュメントを開く必要があります (また、それを編集する権限を持っている必要があります)。

複数の要求に新しい親を割り当てするには

- 1 エクスプローラまたはビュー内で要求を選択します。複数の要求を選択するには、複数選択の操作を行います。
- 2 [要求] メニューの [親の変更] をクリックします。

[新しい親を選択] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 3 [新しい親] リストで、新しい親を選択します。リストに親が表示されない場合は、[<親を選択...>] をクリックします。

[親の要求のブラウザ] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 4 リストから親要求を選択します。要求を検索するには、[検索] ボタンをクリックします。

5 親要求を選択した後、[OK] をクリックします。

6 [新しい親を選択] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリックします。

要求は、選択した親の子要求になります。新しい親要求の番号に基づいて、子要求と子のそのサブツリーに対して新しい要求タグが作成されます。

**メモ：**ドキュメント内の要求の場合、開いたドキュメントを保存することで、データベースに要求を反映させる必要があります。新しい子要求を作成した後、保存した変更内容をチェックして、子要求と親要求が両方とも表示されていることを確認してください。保存したビューのクエリーを修正し、[階層的表示を保持] チェック ボックスをオンにすることで、階層要求をビューに含めることができます。次に、ビューを再び保存することで、これらの変更内容を保存します。

## 複数の子要求をルート要求に変更

属性マトリックスで、選択した複数の子要求をルート要求に変更するには

1 属性マトリックスを開き、子要求を選択します。要求がドキュメント内にある場合は、ドキュメントを開く必要があります。

2 [要求] メニューの [親の変更] をクリックします。

[新しい親を選択] ダイアログ ボックスが表示されます。

3 [新規の親] リストから [<なし>] を選択します。

4 [OK] をクリックします。

要求は、同じ要求タイプを持つルート要求として表示されます。子要求には、この要求タイプで次に利用可能な番号が付きます。

## 階層要求の削除

---

通常は、プロジェクトをアーカイブした後で、要求を削除しないようにしてください。要求を削除すると、その要求に関連する情報が、履歴も含めてすべて削除されてしまいます。詳細については、133 ページの「要求の削除」を参照してください。プロジェクトをアーカイブした後で要求の削除が不要になった場合は、要求属性 (非アクティブ、使用しない、無効など) を使用して、その要求を無効にしてください。

ドキュメント内に保存されている要求を削除するには、ドキュメントに移動します。データベースにのみ格納されている要求を削除するには、属性マトリックスに移動します。

ほかのプロジェクトの要求の追跡元/追跡先となっている要求を削除すると、その外部プロジェクトが更新され、削除された要求との関係が削除されます。

切り取られた要求の場合は、RequisitePro で貼り付けに使用できるようにバッファに保管されますが、削除された要求は、その履歴と追跡可能性関係と共にデータベースから完全に削除されます。

階層要求を削除するには

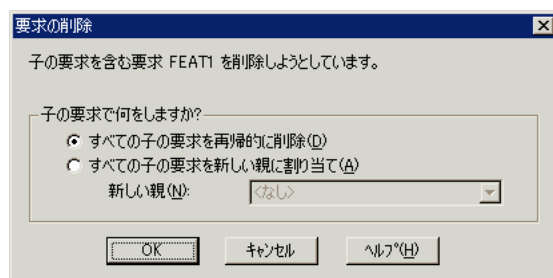
1 次のいずれかを実行します。

- 属性マトリックスを開いて、削除する要求をクリックします。複数の要求を選択するには、複数選択の操作を行います。[編集]メニューの[削除]をクリックします。
- ドキュメントを開いて、削除する要求を選択し、[RequisitePro]メニューの[要求]をポイントし、[削除 - マーク解除]をクリックします。

削除するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

2 要求を削除するには、[はい]をクリックします。

要求に子がある場合は、[要求の削除]ダイアログボックスが表示されます。



**メモ：**属性マトリックス内で複数の要求を削除する場合は、親要求ごとに[要求の削除]ダイアログボックスが表示されます。

3 次のいずれかを実行します。

- 要求とそのすべての子を削除するには、[すべての子の要求を再帰的に削除]チェックボックスをオンにします。このオプションをオンにすると、すべての追跡可能性と階層関係が削除されます。
- 要求を削除して子を保存するには、[すべての子の要求を新しい親に割り当て]チェックボックスをオンにします。このオプションをオンにすると、要求のリストから選択した新しい親にすべての子が再割り当てされます。子を再割り当てすると、新しい親とそのすべての直接の子の階層関係が、サスペクトとしてマークされます。

4 [OK]をクリックします。

ビューで作業している場合、[削除]をクリックすると、要求が直ちに削除されます。要求ドキュメントで作業している場合は、要求ドキュメントを保存することで、削除をデータベースに反映します。

ドキュメントから要求を削除した後であっても、ドキュメントを保存する前であれば削除操作を取り消すことができます。Wordで、要求が完全に元どおりになるまで[編集]メニューの[元に戻す]をクリックしてください。

## サスペクト関係

RequisitePro で、要求の名前、テキスト、要求タイプ、属性の変更が検出された場合、要求間の関係は疑わしい状態、つまりサスペクトになります。ビューでは、手動で階層関係をサスペクトとしてマークしたり、サスペクト関係を解除したりできます。

- 親要求を修正すると、親とそのすべての直接の子との関係が、サスペクトとしてマークされます。
- 子要求を変更した場合、その子と親との関係はサスペクトとしてマークされませんが、子のほかの要求との関係はサスペクトとしてマークされます。
- 子を別の親に割り当てると、新しい親とその直接の子の階層関係が自動的にサスペクトとしてマークされます。子とその子との関係は、サスペクトとしてマークされません。

### サスペクトの階層関係の表示



追跡可能性マトリックス ビューと追跡可能性ツリー ビューを使用して、サスペクトの階層関係を表示できます。ビューでは、サスペクト関係は、要求アイコンに引かれた赤い斜線で示されます。

[自動サスペクト] コマンドは、要求の変更履歴を監視し、要求が変更された場合にサスペクト信号を表示します。[ツール] メニューの [自動サスペクト] をクリックすることで、プロジェクト内の要求間の追跡可能性または階層関係に影響する変更の自動チェック機能を、有効または無効にすることができます。

[自動サスペクト] を無効にすると、要求が変更されたかどうか監視されないため、関係がサスペクトとしてマークされません。ただし、[自動サスペクト] を無効にしたほうがよい場合もあります。たとえば、ドキュメントのスペル ミスを訂正するときに、スペルの訂正によって関係がサスペクトとみなされるのを避けたい場合などです。

[自動サスペクト] を有効にすると、RequisitePro によって要求が常に監視され、追跡可能性や階層関係に影響を与えるような変更がないかどうかを検査されます。要求に変更があると、要求の関係は自動的にサスペクトに変わります。複数プロジェクト間の追跡可能性を設定している場合、外部プロジェクトの要求も監視されます。

自動サスペクトは、デフォルトで有効になっています。自動サスペクトを無効にしても、次にプロジェクトを開くと、自動的に有効になります。[ツール] メニューの [自動サスペクト] コマンドをクリックし、[自動サスペクトを有効にする] をクリックして有効にすることもできます。

## サスペクト関係の解除

サスペクトとしてマークされた親子関係は、追跡可能性マトリックスか追跡可能性ツリーで手動で解除できます。

追跡可能性マトリックスで、追跡可能性リンクが作成されている交点 (複数可) を選択します。[追跡可能性] メニューの [サスペクトの解除] をクリックするか、[編集] メニューの [値の設定] をクリックしてリストから [サスペクトの解除] を選択します。

追跡可能性ツリーで、変更する要求 (複数可) を選択します。[追跡可能性] メニューの [サスペクトの解除] をクリックします。

Rational RequisitePro では、追跡可能性は 2 つの要求間の依存関係となります。追跡可能性は、相互に関連する要求をリンクして変更を管理する手法です。

階層関係 (135 ページの「階層について」を参照) と同様、追跡可能性関係は RequisitePro の変更管理された関係です。関連付けられている 2 つの要求のどちらか一方を変更すると、その関係はサスペクトになります。

RequisitePro では、開発サイクルを通して要求の変更を簡単に追跡できるため、すべてのドキュメントを個々に確認して、どの要素の更新が必要かを調べる必要はありません。追跡可能性マトリックス ビューか追跡可能性ツリー ビューを使用して、サスペクト関係を表示したり管理したりできます。

この章では、同一プロジェクト内の要求間の追跡可能性について説明します。複数プロジェクト間の追跡可能性については、237 ページの「複数プロジェクト間の追跡可能性の設定と変更」を参照してください。

## ドキュメントでの追跡可能性の作成

---

ドキュメント内のほかの要求への追跡状態、またはほかの要求からの追跡状態を管理するには、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスを使用します ([RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[プロパティ] をクリックします)。一般的な追跡可能性関係は、ある要求が別の要求から導き出される関係です。

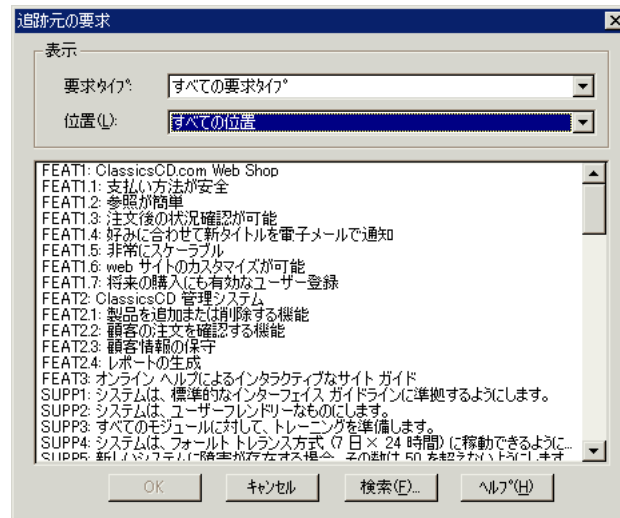
### 要求ドキュメントでの追跡可能性関係の作成

要求ドキュメントで追跡可能性関係を作成するには

- 1 カーソルを要求に移動します。
- 2 [RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[プロパティ] をクリックします。  
[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 [追跡可能性] タブをクリックします。

[追跡元] ボックスに、選択した要求の追跡元の要求が一覧表示されます。[追跡先] ボックスに、選択した要求の追跡先の要求が一覧表示されます。要求タグの後の (s) は、その関係がサスペクトであることを表します。要求をダブルクリックすると、読み取り専用のダイアログ ボックスが表示されます。

- 4 [追跡先] または [追跡元] ボックスの横の [追加] ボタンをクリックします。  
[追跡先の要求] または [追跡元の要求] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 5 ボックスで追跡先か追跡元の要求を選択し、[OK] をクリックします。[追跡可能性] タブの [追跡先] または [追跡元] ボックスに、この要求が追加されます。

## [要求] メニューを使用した追跡可能性の作成

[RequisitePro] メニューの [要求] を使用して追跡可能性を作成するには

- 1 要求ドキュメントで、カーソルを要求テキストに移動します。
- 2 [RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[追跡先] か [追跡元] をクリックします。  
[追跡先の要求] ダイアログ ボックスか [追跡元の要求] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 [要求のタイプ] ボックスから、要求を関連付ける要求タイプを選択します。

**メモ:** [検索] をクリックすると、[検索] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスでは、特定のタグ番号か、要求名と要求テキスト、またはその両方を検索できます。

- 4 要求の保存場所 (ドキュメントかデータベース) を [位置] リストから選択します。要求の保存場所がわからない場合は、[すべての位置] を選択してください。
- 5 ボックスで追跡先か追跡元の要求を選択し、[OK] をクリックします。2 つの要求間に追跡可能性関係が作成されます。

## ビューでの追跡可能性の作成と削除

追跡可能性関係の作成や削除は、属性マトリックス、追跡可能性マトリックス、追跡可能性ツリーで行います。ビューでの移動方法については、45 ページの「ビューの操作」を参照してください。

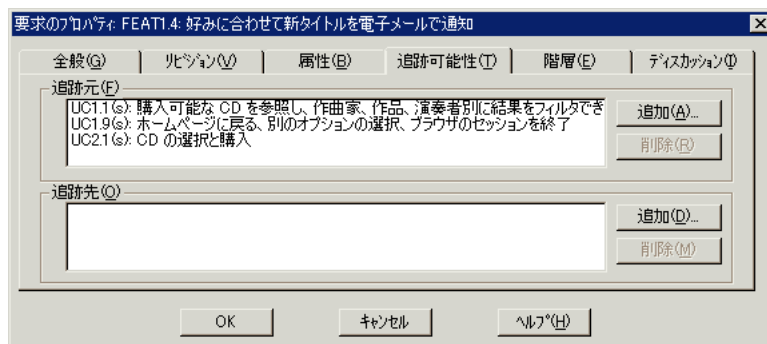
### 属性マトリックスでの追跡可能性関係の作成と削除

追跡可能性関係を作成するには

- 1 属性マトリックスを開いて、要求を選択します。[ 要求 ] メニューの [ プロパティ ] をクリックします。

[ 要求のプロパティ ] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 2 [ 追跡可能性 ] タブをクリックします。



- 3 [ 追跡先 ] または [ 追跡元 ] ボックスの横の [ 追加 ] ボタンをクリックします。

[ 追跡先の要求 ] ダイアログボックスか [ 追跡元の要求 ] ダイアログボックスが表示されます。

- 4 [ 要求のタイプ ] リストから、要求を関連付ける要求タイプを選択します。

**メモ:** [ 検索 ] をクリックすると、[ 検索 ] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、特定のタグ番号か、要求名と要求テキストを検索できます。

- 5 要求の保存場所 (ドキュメントかデータベース) を [ 位置 ] リストから選択します。要求の保存場所がわからない場合は、[ すべての位置 ] を選択してください。

- 6 リストで追跡先または追跡元の要求を選択し、[ OK ] をクリックします。[ 追跡可能性 ] タブの [ 追跡先 ] または [ 追跡元 ] ボックスに、この要求が追加されます。

- 7 [ OK ] をクリックします。

追跡可能性関係を削除するには

- 1 要求を選択し、[要求]メニューの[プロパティ]をクリックします。
- 2 [追跡可能性]タブをクリックします。
- 3 [追跡先]または[追跡元]リストで、削除する追跡可能性関係がある要求を選択します。
- 4 [削除]ボタンをクリックします。  
削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 5 [はい]をクリックした後、[OK]をクリックします。

## 追跡可能性マトリックスでの追跡可能性の作成と削除

追跡可能性関係を作成するには

- 1 追跡可能性マトリックスを開き、追跡可能性関係を作成する2つの要求が交差するセルを選択します。複数のセル、行、列を選択するには、複数選択の操作を行います。
- 2 次のいずれかの方法で追跡可能性を確立します。



追跡先



追跡元

- [追跡可能性]メニューの[追跡先]か[追跡元]をクリックします。
- [編集]メニューの[値の設定]をクリックし、[追跡可能性関数]をクリックして、[OK]をクリックします。
- 交点のセルを右クリックして、[追跡先]か[追跡元]をクリックします。  
セルに矢印が表示され、関係が示されます。

追跡可能性関係を削除するには

- 1 追跡可能性マトリックスのセルで、削除する矢印を選択します。複数のセルを選択するには、複数選択の操作を行います。
- 2 次のいずれかを実行します。
  - [追跡可能性]メニューの[追跡を削除]をクリックします。
  - 右クリックして、[追跡を削除]をクリックします。
  - [編集]メニューの[値の設定]をクリックし、[追跡可能性関数]リストから[追跡の削除]を選択して、[OK]をクリックします。
  - キーボードの[DELETE]を押します。

削除するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

- 3 [はい]をクリックします。

## 追跡可能性ツリーでの追跡可能性関係の作成と削除

追跡可能性ツリーで追跡可能性を作成するには次の 2 とおりの方法があります。

- ドラッグ アンド ドロップ
- [追跡可能性] コマンド

### ドラッグ アンド ドロップ

- 1 追跡可能性ツリーを開き、追跡可能性関係を作成する追跡元または追跡先の要求 (タグで表示) を選択します。複数の要求を選択するには、複数選択の操作を行います。
- 2 マウスの右ボタンを押しながら、追跡可能性ツリー内を上か下にドラッグし、選択した要求との追跡可能性関係を作成する要求までカーソルを移動します。マウス ボタンを離します。ショートカット メニューが表示されます。
- 3 次のいずれかを実行します。
  - 選択した要求とほかの要求との現在の追跡可能性関係を削除し、マウス ボタンを離したときのカーソル位置にある要求との間に追跡可能性関係を作成するには、[この位置へ移動] をクリックします。
  - 選択した要求とほかの要求との現在の追跡可能性関係を維持し、マウス ボタンを離したときのカーソル位置にある要求との間にも追跡可能性関係を作成するには、[この位置へコピー] をクリックします。
  - 操作をキャンセルするには、[キャンセル] をクリックします。

**ヒント:** 追跡可能性関係をコピーまたは移動するには、[CTRL] (コピーの場合) または [ALT] (移動の場合) を押し、マウスの左ボタンを押しながら、追跡可能性ツリーを上か下にドラッグする方法もあります。目的の要求までカーソルを移動したら、マウス ボタンを離します。この方法を使用して追跡可能性関係をコピーする場合、操作を途中でキャンセルすることはできません。この方法を使用して追跡可能性関係を移動する場合は、操作を途中でキャンセルできます。

### [追跡可能性] コマンド

- 1 追跡可能性関係を作成する追跡元か追跡先の要求 (タグで表示) を選択します。複数の要求を選択するには、複数選択の操作を行います。
- 2 次のいずれかを実行します。
  - [追跡可能性] メニューの [追跡先] か [追跡元] をクリックします。
  - 右クリックして、ショートカット メニューの [追跡先] か [追跡元] をクリックします。追跡可能性ツリーでは、使用できるコマンドはツリーのタイプ (つまり、ツリーがその要求タイプの追跡先か追跡元か) によって異なります。[追跡先の要求] ダイアログ ボックスか [追跡元の要求] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 3 リストから要求を選択します。複数の要求を選択するには、複数選択の操作を行います。
- 4 [OK] をクリックします。

## 追跡可能性ツリーでの追跡可能性の削除

- 1 削除する追跡可能性関係の要求タグを選択します。複数の要求タグを選択するには、複数選択の操作を行います。
- 2 次のいずれかを実行します。
  - [追跡可能性] メニューの [追跡を削除] をクリックします。
  - 右クリックして、ショートカット メニューの [追跡を削除] をクリックします。削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 3 [はい] をクリックします。  
ツリーから関係が削除されます。

## 複数選択の操作が正常に実行されなかった場合のトラブルシューティング

複数の要求または関係をビューで選択し、(追跡可能性の作成や削除の場合など) 複数選択の操作を実行する際、1 つまたは複数の要求や関係に対して操作が失敗する可能性があります。

たとえば、要求や関係に対して操作を実行する権限を持っていない場合、または要求の一部がドキュメント内に記述されており、データベース内の要求に対してのみ操作が許可されている場合、操作が正しく実行されないことがあります。

このような失敗は例外ログ (エラー ログ ファイルとは別) で通知され、そのログでは、操作が正常に実行されなかった要求や関係と、その原因が確認できます。

- 1 ビュー内で、選択したグループ (要求または関係) に対して希望の操作を実行します。
  - 操作が正常に行われると、ビューに変更が表示され、ダイアログ ボックスは表示されません。
  - 1 つ以上の要求や関係について操作が正常に実行されなかった場合、または操作が完了する前に [ESC] を押して操作を停止した場合は、例外レポートのダイアログ ボックスが開き、操作が正常に実行されなかった要求または関係の番号が表示されます。
- 2 失敗した操作の詳しい情報が必要な場合は、[詳細] をクリックします。ダイアログ ボックスが拡張され、失敗原因が表示されます。
- 3 テキスト ボックス内のテキストをコピーするには、テキストを選択し、[CTRL] を押しながら [C] を押します。これでコピーしたテキストをテキスト ドキュメントに貼り付けることができます。
- 4 [閉じる] をクリックします。

## サスペクト関係

RequisitePro で、要求の名前、テキスト、要求タイプ、属性の変更が検出された場合、要求間の関係は疑わしい状態、つまりサスペクトになります。したがって、その要求との間にあるすべての直接的な関係がサスペクトとなります。

どの属性を変更したときに追跡可能性関係をサスペクトにするかを指定できます。ビューで、要求関係を手動でサスペクトとしてマークすることもできます。

### サスペクトの追跡可能性関係の表示



サスペクト状態は、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスとビューに反映されます。追跡可能性ツリー ビューと追跡可能性マトリックス ビューでは、サスペクトの追跡可能性関係は斜線の入った矢印で表されます。属性マトリックスの [追跡先] と [追跡元] の列では、要求タグの後に (s) が表示されます。

[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスの [追跡可能性] タブでは、[追跡先] ボックスと [追跡元] ボックスの要求タグの後に表示されている (s) がサスペクト関係を表します。ビューでは、サスペクト関係は、追跡可能性の矢印に引かれた赤い斜線で示されます。

[自動サスペクト] コマンドは、要求の変更履歴を監視し、要求が変更された場合にサスペクト信号を表示します。[ツール] メニューの [自動サスペクト] をクリックすることで、プロジェクト内の要求間の追跡可能性または階層関係に影響する変更の自動チェック機能を、有効または無効にすることができます。

[自動サスペクト] を無効にすると、要求が変更されたかどうか監視されないため、関係がサスペクトとしてマークされません。ただし、[自動サスペクト] を無効にする必要がある場合もあります。たとえば、ドキュメントのスペル ミスを訂正するときに、スペルの訂正によって関係がサスペクトとみなされるのを避けたい場合などです。

[自動サスペクト] を有効にすると、RequisitePro によって要求が常に監視され、追跡可能性や階層関係に影響を与えるような変更がないかどうか検査されます。要求に変更があると、要求の関係は自動的にサスペクトに変わります。複数プロジェクト間の追跡可能性を設定している場合、外部プロジェクトの要求も監視されます。

自動サスペクトは、デフォルトで有効になっています。自動サスペクトを無効にしても、[ツール] メニューの [自動サスペクト] をクリックして、後で自動サスペクトを有効にできます。次にプロジェクトを開くと、自動的に有効になります。

## 追跡可能性関係を手動でサスペクトとしてマーク/マーク解除する

手動で要求関係をサスペクトとしてマークしたり、サスペクト状態を解除したりできます。サスペクト状態を解除すると、関係は前の状態 ( 追跡先 または追跡元 ) にリセットされます。サスペクト関係は、追跡可能性マトリックスか追跡可能性ツリーで設定または解除できます。

1 つまたは複数の関係をサスペクトとしてマーク/マーク解除するには

- 1 追跡可能性マトリックスで、追跡可能性リンクが作成されている 1 つまたは複数の交点を選択します。追跡可能性ツリーでは、変更する 1 つまたは複数の要求を選択します。
- 2 次のいずれかを実行します。
  - [追跡可能性] メニューの [サスペクトの設定] か [サスペクトの解除] をクリックします。
  - 選択したセルのいずれかを右クリックして、[サスペクトの設定] か [サスペクトの解除] をクリックします。
  - [編集] メニューの [値の設定] をクリックして、[サスペクトの設定] か [サスペクトの解除] をクリックします。このコマンドは追跡可能性ツリーでは使用できません。

# 要求とドキュメントの インポート

# 11

インポート ウィザードを使用して、Microsoft Word ドキュメントまたは CSV (カンマ区切り形式) ファイルから要求を Rational RequisitePro プロジェクトにインポートできます。

以下のような場合にインポートを行います。

- 非プロジェクト ドキュメントをアクティブなプロジェクトにインポートする場合
- 新規要求を既存プロジェクトにインポートする場合
- 既存の要求の属性を新しい情報で更新する場合

インポート ウィザードでは、要求と属性を次のものからプロジェクトにインポートできます。

- ほかの RequisitePro プロジェクトで作成した要求ドキュメント
- RequisitePro 外部で作成された Microsoft Word ドキュメント
- Microsoft SQL Server、Oracle、Microsoft Excel、Microsoft Access など、CSV 形式によるデータのエクスポートをサポートするデータベース

## インポートの準備

---

### プロジェクトのセットアップ

外部ドキュメントか CSV ファイルを RequisitePro のプロジェクトにインポートし、希望のパッケージ内に保存します。プロジェクト管理者がプロジェクトをまだ設定していない場合は、インポートする前にプロジェクトを作成する必要があります (171 ページの「プロジェクトの作成」を参照してください)。プロジェクトには、要求タイプとドキュメント タイプを最低 1 つずつ含める必要があります。

### ログのインポート

RequisitePro では、ファイルをインポートするたびにログ ファイルが作成されます。ログ ファイルには、インポート プロセスが記録されます。ログ ファイルには、要求タイプの照合、競合の解決方法、属性マッピング、検索基準の成否、キャンセルされた操作、値エラー、インポートが正常に終了したかどうかなどの処理内容が記録されます。ログ ファイルは、プロジェクトが格納されているディレクトリに、import#.log というファイル名で保存されます。# は作成された順番を表す番号です。ログ ファイルが削除されると、次に作成されたログ ファイルが古い番号を受け取り、空きを埋めます。

## RequisitePro 形式について

RequisitePro のドキュメントをあるプロジェクトから別のプロジェクトにインポートするには、まず、Microsoft Word 形式でドキュメントを保存する必要があります。作成した Word ドキュメントは、RequisitePro で使用したブックマークやタグを含め、元の要求ドキュメントの外観を保持しています。

[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [ドキュメント] タブにある [ドキュメントを RequisitePro 形式で保存する] チェック ボックスがオンになっている場合、プロジェクト内にあるすべてのドキュメントが RequisitePro 形式で保存されます。

RequisitePro 形式で保存されたドキュメントは、RequisitePro 外部の Word で変更や保存を行うことはできません。これによって、RequisitePro のプロジェクトの安全性を維持することができます。

このオプションがオフになっている場合、ドキュメントは Word 形式で保存されます。Word 形式で保存されているドキュメントは、RequisitePro 外部の Word でも変更できますが、安全性は維持できません。

ドキュメントが新規プロジェクトにインポートされてからも、再び RequisitePro によって制御されるようになっているかどうかを確認するには、そのプロジェクトの [プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [ドキュメントを RequisitePro 形式で保存する] チェック ボックスをオンにします。プロジェクトでセキュリティを特に問題にしない場合は、チェック ボックスをオフにしてもかまいません。

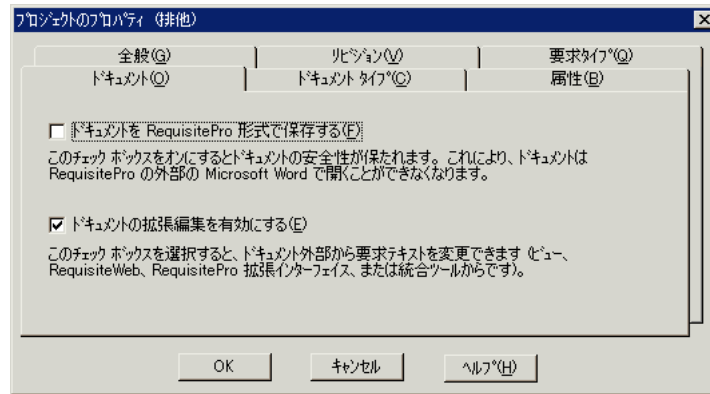
## プロジェクトのすべてのドキュメントを Word に変換

あるプロジェクトから別のプロジェクトへすべてのドキュメントをインポートする場合は、一括して Microsoft Word 形式に変換できます。

すべてのドキュメントを一括して Word に変換するには

- 1 プロジェクトを開きます。
- 2 エクスプローラでプロジェクトを選択し、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 3 [ドキュメント] タブの [ドキュメントを RequisitePro 形式で保存する] チェック ボックスをオフにします。



- 4 [OK] をクリックします。プロジェクトを閉じると、すべてのドキュメントが Word 形式に変換された上で RequisitePro システム内に残ります。ドキュメントの拡張子は RequisitePro 拡張子のままです。

新しい形式になったドキュメントは、別のプロジェクトにインポートする準備ができています。156 ページの「Word からのインポート」を参照してください。

## 個々のドキュメントを Word に変換

1 つの RequisitePro ドキュメントを Word 形式に変更するには

- 1 変換するドキュメントを開きます。

[プロジェクトを開く] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 2 [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[名前を付けて保存] をクリックします。[ドキュメントに名前を付けて保存] ダイアログ ボックスに、拡張子が .doc に変更されたファイル名が表示されます。

- 3 [保存] をクリックします。ドキュメントが、RequisitePro 形式から Word 形式に変換されます。

新規の Word ドキュメント (\*.doc) は、ファイル管理システムによって自動的にプロジェクトと同じフォルダに保存されます。

新規の Word ドキュメントは、別のプロジェクトにインポートする準備ができています。

156 ページの「Word からのインポート」の説明を参照してください。

## ブックマークの保存と削除

RequisitePro ドキュメントのブックマークは要求インジケータです。これは、Microsoft Word で通常表示される角カッコと区別するために、太字の角カッコで表示されます。RequisitePro ドキュメントで要求を作成すると、要求のテキストを囲んで指定するブックマークが自動的に挿入されます。

ドキュメントがインポートされると、インポート ウィザードはドキュメント内のテキスト文字列を検索し (ウィザードがドキュメントを解析し)、それを要求としてプロジェクトにインポートします。インポート プロセスでは、インポート ウィザードがテキストの解析に使用する基準を定義します。基準には、キーワード、テキスト区切り文字、Word のスタイルを使用できます。

インポートしたドキュメントでブックマークが検出されると、[ブックマークの削除] ダイアログボックスが表示されます (このダイアログボックスは、Word でのインポートの最初の段階で [ドキュメント プロパティ] ダイアログボックスに応答した場合に表示されます)。

- ブックマークを削除し、ドキュメントのすべてのテキストを解析プロセスに含めるには、[はい] をクリックします。
- ブックマークをそのまま残しておくには、[いいえ] をクリックします。RequisitePro では、以前 RequisitePro のドキュメントで作成されたブックマークが認識され、そのテキストが新規要求として新規ドキュメントにエクスポートされます。ブックマークの付いたテキストは解析プロセスで無視されます。

## Word からのインポート

---

インポート ウィザードを使用して、Microsoft Word ドキュメントの要求を RequisitePro ドキュメントにインポートしたり、Microsoft Word ドキュメント全体を RequisitePro のプロジェクトにインポートします。

インポートするドキュメントは、Word 形式である必要があります。ドキュメントが Word 以外のアプリケーションで作成されている場合は、Microsoft Word のマニュアルを参照して、ファイルを Word 形式で保存してください。

Word ドキュメントをインポートする前に、Word の [オプション] ダイアログボックス内の [スペルチェック]、[文書校正]、[バックグラウンドで改ページ位置を自動修正する] のオプションをオフにします。

**メモ：** インポートする Word ドキュメントが Word の normal.dot テンプレートや既存の RequisitePro アウトライン以外のテンプレートを使用している場合、ドキュメントをインポートする前にそのテンプレートを RequisitePro アウトラインとして設定する必要があります。RequisitePro で認識できない書式設定がある場合、normal.dot の書式設定で上書きされます。Word ドキュメントの書式をカスタマイズしている場合は、ドキュメントを Word テンプレートとして保存し、それを RequisitePro のアウトラインディレクトリにコピーする必要があります。

次に、ドキュメントのインポート先にするプロジェクトのアウトラインに基づいてドキュメントタイプを作成します。そうすると、Word のスタイルは RequisitePro ドキュメントに残ります。Word テンプレートの作成方法については、227 ページの「独自のアウトラインの作成」と Microsoft Word のマニュアルを参照してください。

## Word ドキュメントと要求のインポート

インポート ウィザードを使用して Word ドキュメントをインポートするには

- 1 Word ドキュメントをインポートするプロジェクトを開きます。
- 2 エクスプローラでプロジェクトを選択し、[ファイル]メニューの[インポート]をクリックします。インポート ウィザードが開き、[ソースの選択]画面が表示されます。
- 3 [Microsoft Word 文書ファイル]を選択します。
- 4 インポートする Word ドキュメントのパスと名前を入力するか、[参照]をクリックしてファイルを選択します。  
[参照]コマンドを実行すると、[開く]ダイアログボックスが表示されます。ドキュメントを選択し、[開く]をクリックしてください。(ドキュメントがリストにない場合は、ファイルタイプを[すべてのファイル]に変更します)。  
[開く]ダイアログボックスが閉じ、選択したドキュメントがインポート ウィザードにロードされます。
- 5 [次へ]をクリックして、次へ進みます。[インポート内容の選択]画面が開きます。
- 6 適切なオプション([要求とドキュメント]、[要求のみ]、[ドキュメントのみ]のいずれか)をクリックして、インポートの対象を指定します。

ここでの選択内容によって、ここから先の手順が異なります。次の表に、それぞれのインポート オプションの特徴を示します。

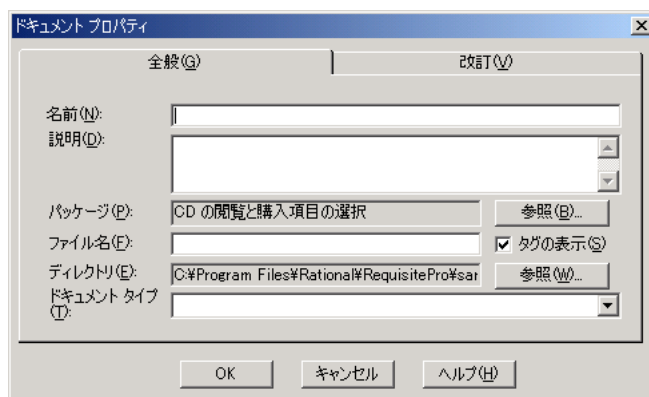
	要求とドキュメント	要求のみ	ドキュメントのみ
要求の定義	自動	自動	手動
要求のインポート先	新規ドキュメント	データベース、 新規ドキュメント、 既存のドキュメントの いずれか	新規ドキュメント

## 要求とドキュメントのインポート

[インポート内容の選択] 画面で [要求とドキュメント] を選択すると、テキストが解析され、作成した要求とドキュメントがすべてインポートされます。Word ドキュメントは、RequisitePro の新規要求ドキュメントにインポートされ、新規ドキュメントに要求が自動的に生成されます。適切に定義された要求構造が既に含まれている場合は、[要求とドキュメント] のオプションが最適です。インポート ウィザードでは、キーワード、テキスト区切り記号、または Word スタイルに基づき、ドキュメントに要求があるかどうか解析されます。

- 1 [インポート内容の選択] 画面で、[要求とドキュメント] を選択し、[次へ] をクリックします。

[ドキュメント プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 2 以下の情報を入力します。

- ドキュメント名 (半角 64 文字以内) を入力します。
- デフォルトのパッケージ割り当てを受け入れるか、[参照] をクリックして、インポートしたドキュメントを保存するパッケージを選択します。
- ファイル名を入力します。選択したドキュメント タイプに応じて、拡張子が自動的に割り当てられます。
- ドキュメントに要求タグを表示する場合は、[タグの表示] チェック ボックスをオンにします。
- リストからドキュメント タイプを選択します。
- [改訂] タブをクリックして、変更の説明を入力するか、ユーザー定義のラベルを作成します (オプション)。改訂番号、日付、時間、作成者はシステムによって生成されるため、ここで編集することはできません。

**3** [OK] をクリックして、次へ進みます。

選択したドキュメント タイプに書式設定が含まれている場合、インポートしたドキュメントの書式設定を保持するか、選択したドキュメント タイプ アウトラインの書式で上書きするかを選択できます。

[インポートする要求] 画面が開きます。

**4** [要求タイプ] リストで、新規要求のタイプを選択します。ウィザードでは、選択されたドキュメント タイプに一致する要求タイプがデフォルトとして表示されます。

1 つのドキュメントに複数の要求タイプを含める必要がある場合があります。たとえば、**shall** という言葉を含む文章を製品要求にして、**will** という言葉を含む文章をソフトウェア要求にする場合などです。以下の手順でこのような基準を作成する場合、[要求タイプ] リストを使用して、適用する要求タイプを選択できます。

**5** [デフォルトに設定] ボタンをクリックして、[要件のデフォルトを設定] ダイアログ ボックスを開きます。ここで、作成する要求のデフォルト属性、階層、追跡可能性、変更の説明を入力できます。

**6** **Word** ドキュメントを区別または解析する 3 つの方法のうち 1 つをオンにします。インポートウィザードで **Word** ドキュメント内のテキスト文字列が検索され、それが要求としてプロジェクトにインポートされます。

- キーワード: インポート ウィザードによる **Word** ドキュメントの検索には、**shall** (デフォルト) などの特定のキーワードが使用できます。[キーワード] ボックスにキーワードを入力し、[追加] をクリックして、そのキーワードを要求の基準フィールドに追加します。[キーワード] ボックスに入力するキーワードの大文字と小文字を区別するには、[大文字と小文字を区別する] チェック ボックスをオンにします。[キーワード] ボックスでワイルドカードとして \* を使用する場合は、["\*"] をワイルドカードとして使用] チェック ボックスをオンにします。キーワードを入力し、[追加] をクリックします。

文ごと、または段落ごとにキーワードに基づく分析をしないで、選択したテキストから要求を選択する場合は、["\*"] のみを入力して、["\*"] をワイルドカードとして使用] チェック ボックスをオンにします。

- テキスト区切り文字: インポート ウィザードによる **Word** ドキュメントの検索には、テキスト区切り文字 (<>, {}, [] など) で囲まれたテキストが使用できます。開始と終了の両方の区切り文字を入力してから、[追加] をクリックします。
- **Word** スタイル: インポート ウィザードによる **Word** ドキュメントの検索には、特定のスタイル設定 (「見出し 1」、「本文」、強調表示された文字など) が使用できます。適切なスタイルを選択し、[追加] をクリックします。

検索基準は 1 つしか使用できないわけではありません。キーワード、テキスト区切り文字、**Word** スタイルの各ボタンを順に押して、検索リストに追加できます。検索リストから基準を削除するには、[削除] を使用します。

- 7 [次へ] をクリックして、次へ進みます。選択した区別方法を使用して、ドキュメントが解析されます。要求が見つかり、[要求が検出されました。] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 8 検出したテキストが有効な要求かどうか、[はい] か [いいえ] をクリックして答えます。ドキュメントで検出されたすべての要求を自動的に受け入れるには、[すべてはい] を選択します。各要求が、インポート ウィザードの画面にある [インポートする要求] ボックスに追加されます。各新規要求は、保留タグとそれに続く要求の最初のテキストから始まります。  
選択が正しければ、[次へ] をクリックして、次へ進みます。最後の [ステータス] 画面が表示されます。
- 9 インポートを受け入れるには、[コミット] をクリックします。インポートを取り消すには、[キャンセル] をクリックします。

## 要求のみのインポート

ほかのテキストをインポートしないで、ドキュメントから要求だけを抽出する場合は、[インポート内容の選択] 画面で [要求のみ] を選択します。ドキュメントにキーワード、スタイル、区切り記号などの、適切に定義された要求構造が含まれている場合は、このオプションを使用すると、インポート プロセスで自動的に要求が作成されます。インポート ウィザードでは、キーワード、テキスト区切り記号、または Word スタイルに基づき、ドキュメントに要求があるかどうか解析されます。検索したテキストから要求を作成し、残りのドキュメントはそのままにしておきます。このオプションでは、新規要求を柔軟に作成できます。現在のプロジェクト (データベースに直接作成)、RequisitePro の既存のドキュメント、新規ドキュメントのいずれかに要求を作成できます。

- 1 [インポート内容の選択] 画面で [要求のみ] を選択し、[次へ] をクリックします。  
[インポート先の選択] 画面が表示されます。
- 2 インポートした要求について、次のいずれかのインポート先を選択します。
  - [現在のプロジェクト データベース] を選択し、要求を開いているプロジェクトのデータベースにインポートします。
  - 新規ドキュメントを定義して、そこに要求をインポートするには、[新規の RequisitePro ドキュメント] を選択します。[ドキュメント プロパティ] ダイアログ ボックスが開き、次の手順に進む前に、新規ドキュメントに関する情報の入力を要求するメッセージが表示されます。
  - プロジェクトの既存のドキュメント リストから選択するには、[既存の RequisitePro ドキュメント] を選択します。選択したドキュメントが開いていない場合は、自動的に開きます。

**3** [次へ]をクリックして、次へ進みます。[インポートする要求]画面が開きます。

**4** 158 ページの「要求とドキュメントのインポート」の手順4～9に従ってください。

手順7で[インポートする要求]ダイアログボックスが表示されたら、以下のいずれかの操作を行います。

- 要求の全テキストを読む場合は、[ビュー]をクリックします。
- リストから要求を削除する場合は、その要求を選択し、[削除]をクリックします  
([要求の追加]ボックスに保存されます)。ボックスを表示するには、[追加]をクリックします。

## ドキュメントのみのインポート

テキストは解析されず、すべてのドキュメントが RequisitePro の新規ドキュメントにインポートされます。要求構造が定義されていない場合、またはインポート後に要求を自分で作成する場合は、[ドキュメントのみ]を選択します。インポートプロセスでは、要求は作成されません。このオプションを使用した場合、最も柔軟な方法でドキュメント内に要求を作成できます。

**1** [インポート内容の選択]画面で[ドキュメントのみ]を選択し、[次へ]をクリックします。  
[ドキュメントプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

**2** 新規ドキュメントに関する情報を入力します。158 ページの「要求とドキュメントのインポート」の手順2を参照してください。

選択したドキュメントタイプに書式設定が含まれている場合、インポートしたドキュメントの書式設定を保持するか、選択したドキュメントタイプアウトラインの書式で上書きするかを選択できます。ドキュメントのテキストと書式設定をインポートするには、[はい]をクリックします。ドキュメントのテキストをインポートして、選択したドキュメントタイプの書式設定を適用するには、[いいえ]をクリックします。

最後の[ステータス]画面が表示されます。

**3** インポートを受け入れるには、[コミット]をクリックします。インポートを取り消すには、[キャンセル]をクリックします。

**メモ：** RequisitePro のドキュメントをあるプロジェクトから別のプロジェクトにインポートする場合は、この手順のためにさらに別のダイアログボックスが表示されます。156 ページの「ブックマークの保存と削除」を参照してください。

## CSV ファイルのインポート

CSV (カンマ区切り形式) ファイルは、フィールドとレコードの情報を持つテキスト形式のデータ ファイルで、フィールドの間はカンマで区切られています。フィールドのデータにカンマが含まれる場合、フィールドは引用符で囲まれます。カンマ区切りのファイル形式を使用すると、形式の異なるデータベース システム間でデータを共有できます。

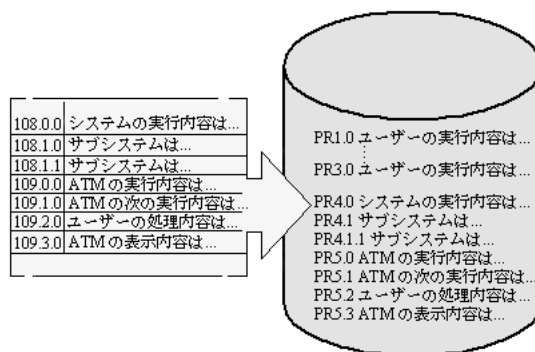
RequisitePro では、CSV 形式のデータのエクスポート機能をサポートするデータベース (SQL Server、Oracle、Excel、Access など) から、要求と属性をプロジェクトにインポートできます。

CSV のインポートは以下のような場合に適しています。

- RequisitePro 以外のデータベースからアクティブなプロジェクトへ要求をインポートする場合
- 既存の要求の属性を新しい情報で更新する場合

### 要求番号

新規要求がデータベースに追加されると、その要求に対して新しいルート要求番号が割り当てられます。要求にタグや外部 CSV ファイルの番号が付いている場合は、その番号は保存されません。RequisitePro では階層番号の割り当てスキーマが認識され、低いレベルの要求が高いレベルの要求の子としてインポートされます。



CSV ファイル内の要求は、プロジェクト データベースにインポートされると番号が付け直されます。

## インポート ウィザード用の CSV ファイルの準備

すべての情報をインポートするには、CSV ファイルと RequisitePro を正しく構成する必要があります。

- CSV ファイルには、RequisitePro 形式のヘッダーが含まれている必要があります。  
RequisitePro は以下のヘッダー形式を使用します。  
<Tag>, "Requirement text", "Name", <Attribute 1>, <Attribute 2>, <Attribute 3>...  
<Tag> フィールドに指定された要求タイプによって、インポート中に割り当てられるデフォルトの要求タイプが決定します。この要求タイプの割り当ては、インポート ウィザードで変更できます。
- CSV ファイルに含まれるすべての属性は、現在のプロジェクトの対応する RequisitePro 要求タイプに存在する必要があります。属性が一致しない場合は、要求タイプのデフォルト値がインポート プロセスで挿入されます。232 ページの「要求属性の作成と変更」を参照してください。
- RequisitePro は属性名の最初の 32 文字しか認識しません。データ損失を防ぐために、CSV ファイル内の属性名は 32 文字以下で設定してください。
- CSV ファイル内にあるすべてのリスト タイプの属性値は、RequisitePro の要求タイプ定義で事前定義されているリスト タイプの属性値と、正確に一致する必要があります。CSV ファイルの属性値を編集するか、RequisitePro プロジェクトのリスト タイプの属性値を編集してください。231 ページの「要求の属性と属性値について」を参照してください。

**メモ：**複数の値を持つリスト タイプの属性は、CSV ファイルでは全体が引用符で囲まれ、カンマで区切って表示されます ("Chris, Sarah, John" など)。

- CSV ファイルのリスト タイプの要求属性に空白文字が含まれている場合、その属性には RequisitePro の [プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスで定義されたデフォルト値が割り当てられます (ダイアログ ボックスを開くには、エクスプローラでプロジェクトを選択し、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします)。NULL の値を保持するには、CSV ファイルをインポートする前に、RequisitePro のデフォルト設定を削除してください。インポート プロセスの完了後、デフォルト値をもう一度割り当てることができます。231 ページの「要求の属性と属性値について」を参照してください。
- CSV ファイル内のすべての要求は、インポート プロセスで指定した要求タイプ (デフォルトでは、ヘッダーの <Tag> フィールド) に変換されます。CSV ファイルに、異なる要求タイプのタグ (「PR1」や「SR2」など) を持つ要求が含まれている場合、これらの要求は割り当てられた要求タグによって番号が再設定されるため、階層関係が失われることがあります。

## CSV ファイルのヘッダーの定義

CSV ファイルを別の Rational RequisitePro のプロジェクトや RequisitePro 以外のアプリケーションからインポートするには、CSV ファイルの先頭行に各データ列の見出しを含め、ヘッダー行にする必要があります。RequisitePro ではヘッダーを使用して、インポート ドキュメント内の列見出しとプロジェクトの属性が一致するかどうかを調べます。

RequisitePro は以下のヘッダー形式を使用します。

<Tag>, "Requirement text", "Name", <Attribute 1>,<Attribute 2>, <Attribute 3>...

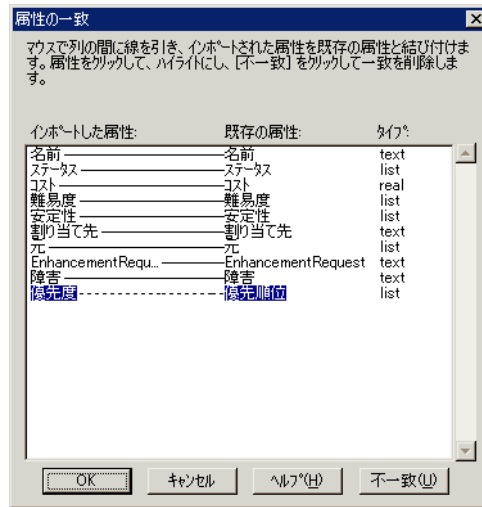
- 1 ヘッダーの作成を開始するには、PR、SR、TST、またはプロジェクトで作成したほかのタグなどの要求タイプを表すタグを入力し、それぞれの後ろにカンマを入力します。tag という言葉をヘッダーに追加できますが、必須ではありません。たとえば、SR と SR tag はどちらでも使用できます。
  - ヘッダーのタグフィールドを使用して、インポートに使用するデフォルト要求タイプを設定します。タグフィールドがプロジェクト内のどの要求タイプとも一致しない場合は、[要求タイプの照合] 画面が表示され、いずれか 1 つを手動で選択するよう要求されます。
  - CSV ファイルの最初の列は、タグ列でなければなりません。タグ列には空のセルを含むことはできません。セルが空の場合、何か文字を入力して埋めてください。
  - CSV ファイルのタグ列に数字が含まれている場合、数字は保存されません。インポート済みの要求は、プロジェクトの要求リストに追加され、そのリストに従って再び番号が付けられます。この場合、階層関係は保持されます。
- 2 リテラル文字列「Requirement text」をヘッダーの 2 番目のフィールドに追加し、その後にカンマを入力します。CSV ファイルの 2 番目の列は、要求のテキストでなければなりません。
- 3 ヘッダーの残りのフィールドについて、CSV ファイルの各列見出しをカンマで区切って入力します。要求名には「Name」を入力し、その後にカンマを入力します。ヘッダー内の列見出しには任意の名前を設定できますが、プロジェクト内に表示される属性の名前 (ラベル) を使用すると、作業時間を短縮できます。
  - RequisitePro によって CSV ファイル内のヘッダーが参照され、列見出しがプロジェクト内の属性と一致するかどうか調べられます。インポート プロセス中に、属性の一致を確認して変更するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。
  - 属性見出しの下列には、属性値が含まれている必要があります。

**メモ :** CSV ヘッダーを入力する代わりに、別の CSV ファイルからヘッダーをコピーすることもできます。既存の RequisitePro ファイルを CSV ファイルにエクスポートすると、正しい形式でタグが作成されます。インポートする要求タイプの属性マトリックスを開き、[ファイル] メニューの [エクスポート] をポイントして、[CSV にエクスポート] 新しくエクスポートしたファイルからヘッダーをコピーし、それをインポートするファイルに貼り付けます。詳細については、168 ページの「ビューを CSV ファイルとしてエクスポート」を参照してください。

## インポート ウィザードによる CSV ファイルのインポート

- 1 プロジェクトを開きます。
  - 2 エクスプローラでプロジェクトを選択し、[ファイル]メニューの[インポート]をクリックします。インポート ウィザードが開き、[ソースの選択]画面が表示されます。
  - 3 以下の情報を入力します。
    - [CSV]をクリックして、値がカンマで区切られたテキスト ファイルから要求をインポートします。
    - インポートする CSV ファイルの名前を入力します。または、[参照]をクリックして、リストからファイルを選択します。[参照]をクリックすると、[開く]ダイアログボックスが表示されます。ドキュメントを選択し、[開く]をクリックしてください。[開く]ダイアログボックスが閉じ、選択したドキュメントがインポート ウィザードにロードされます。
  - 4 [次へ]をクリックして、次へ進みます。[要求タイプの照合]画面が表示されます。
  - 5 インポートしている CSV ファイルの要求タイプと合致する RequisitePro 要求タイプがデフォルトで選択されます。このデフォルト値は変更できます。
  - 6 [次へ]をクリックして、次へ進みます。[属性の照合]画面が表示されます。
  - 7 [手動で照合]をクリックすると、属性が正しくマッピングされたかどうかを確認できます。[属性の一致]ダイアログボックスが表示されます。
  - 8 以下の情報を入力します。
    - マッピングを変更する場合は、マウスをクリックしたまま、インポートされた属性から既存の属性へ新しい線をドラッグします。任意の 2 つの属性の間に線を引くことができます。同一の水平線上にある必要はありません。
    - 属性と CSV データが一致しなかった場合、インポートされる属性は一覧表示されますが、それらの属性と既存の RequisitePro の属性との間に線は引かれません。同じ意味を持つ属性がわかれば、自分で照合することができます。線で結ばれていない属性は無視されます。一致した属性のみがインポートされます。
- メモ：**属性のタイプの照合によっては次の状況で、空の値がインポートされる場合があります (データは失われます)。実数の入力タイプの属性が整数の入力タイプの属性にインポートされた場合、入力タイプの属性が日付、時刻、実数、整数、URL リンクのいずれかにインポートされ、属性の形式と一致する属性がない場合、単一値のリストタイプの属性が複数値のリストタイプの属性にインポートされた場合、複数値のリストタイプの属性が単一値のリストタイプの属性にインポートされた場合です。

- 一致を解除するには、その組を選択し、次に [不一致] をクリックします。



属性の一致に問題がなければ、[OK] をクリックしてウィザードに戻ります。

- 9 [次へ] をクリックして、次へ進みます。[解決方法の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。

インポートした要求の属性値が既存の要求の値と競合する場合、次のいずれかの方法で解決できます。

- インポートした要求を、ドキュメントまたはデータベースの新規要求として追加します。
- 既存の属性値を、インポートした CSV ファイルの属性値で上書きします。

選択した方法に応じて、次の項で説明する 2 つの手順のいずれかを行います。

## RequisitePro の新規要求の定義

インポート ウィザードでは、CSV ファイルに記述されているとおりの要求テキストがインポートされます。インポートする前に、要求を受け入れたり、削除したりできます。

- 1 [解決方法の選択] ダイアログ ボックスで [新しく RequisitePro 要求を定義する] を選択して、[次へ] をクリックします。[インポートする要求] 画面が開きます。
- 2 リストの要求を検討し、必要に応じてリストを変更します。
  - [ビュー] をクリックして、要求のすべてのテキストを読み込みます。[インポートされた要求の編集] ダイアログ ボックスが表示されます。リストから要求を選択してください。要求のすべてのテキストが、ダイアログ ボックス下部のテキスト ペインに表示されます。リスト タイプの属性の値を変更するには、セルをダブルクリックして、リスト ボックスから新しい値を選択します。入力タイプの属性値を変更するには、値を選択して新しい値を入力します。[インポートの受け入れ] をクリックします。

- 選択した要求を削除するには、[削除] をクリックします。削除した要求は完全に削除されたわけではありません。これは、[要求の追加] ダイアログ ボックスに移動されています。
  - 削除した要求のリストを参照するには、[追加] をクリックします。要求をリストに戻す場合は、リストに戻す要求を選択して、[OK] をクリックします。
- 3** [次へ] をクリックして、次へ進みます。[インポート先の選択] 画面が開きます。
- 4** 新しくインポートした要求の格納先を選択します。
- 開いているプロジェクトのデータベースに要求を格納する場合は、[現在のプロジェクト データベース] を選択します。
  - 新規ドキュメントを (選択しているドキュメント タイプに基づいて) 作成し、そのドキュメントに要求を取り込む場合は、[新規の RequisitePro ドキュメント] を選択します。[ドキュメント プロパティ] ダイアログ ボックスが開き、ドキュメント名、ファイル名、ドキュメント タイプを記録するよう求められます。
  - プロジェクトの既存のドキュメント リストから選択するには、[既存の RequisitePro ドキュメント] を選択します。選択したファイルが開いていない場合は、RequisitePro によって開かれます。
- 5** [次へ] をクリックして、次へ進みます。最後の [ステータス] 画面が表示されます。
- 6** インポートを受け入れるには、[コミット] をクリックします。インポートを取り消すには、[キャンセル] をクリックします。

## 既存の要求の属性の更新

新しくインポートした要求の属性によって、開いているプロジェクトの要求の属性が上書きされます。インポートした要求のテキストはインポートされません。インポートする前に、要求を受け入れたり、削除したりできます。

- 1** [解決方法の選択] ダイアログ ボックスで、[既存の要求の属性を更新する] を選択し、[次へ] をクリックします。[インポートする要求] 画面が開きます。リスト ボックスには、タグ番号と [テキストはインポートされません] というコメントが表示されます。
- 2** リストの要求を検討し、必要に応じてリストを変更します。
- [ビュー] ボタンをクリックし、[インポートされた要求の編集] ダイアログ ボックスを開きます。
  - [削除] ボタンをクリックして、要求をリストから削除し、[要求の追加] ダイアログ ボックスに格納します。
- 3** [次へ] をクリックします。最後の [ステータス] 画面が表示されます。
- 4** インポートを受け入れるには、[コミット] をクリックします。インポートを取り消すには、[キャンセル] をクリックします。

## 要求のエクスポート

---

RequisitePro から要求をエクスポートするには、ビューを使用します。

- 属性マトリックスと追跡可能性ツリーは、CSV ファイルか Microsoft Word ドキュメントとしてエクスポートできます。
- 追跡可能性マトリックスは、CSV ファイルとしてのみエクスポートできます。

要求テキストと要求名のビュー プロパティを設定すると、エクスポートされるものが影響を受けます。要求テキストと要求名がビューに表示されていない場合、それらはエクスポートされません。ビューでクエリーを実行した場合、フィルタされた要求だけがエクスポートされます。

### ビューを CSV ファイルとしてエクスポート

162 ページの「CSV ファイルのインポート」で説明したように、CSV ファイルは、フィールドとレコードの情報を持つテキスト形式のデータ ファイルで、フィールドの間はカンマで区切られています。フィールドのデータにカンマが含まれる場合、フィールドは引用符で囲まれます。

ビュー (ASCII ファイルとしてエクスポートされる) によって異なりますが、各要求は要求タグの後に、要求テキスト、要求名、要求属性が付いた状態でエクスポートされます。

- 属性マトリックスの場合、表示されているタグ、名前、テキスト、属性がエクスポートされます。
- 追跡可能性マトリックスの場合、表示されているタグ、名前、テキスト、追跡可能性関係がエクスポートされます。
- 追跡可能性ツリーの場合、タグ、名前、テキストがエクスポートされます。インデント (追跡) された各要求には、階層の各レベルを表すカンマが含まれます。エクスポートされるのは、ビューの拡張レベルだけです。

要求テキストと要求名のビュー プロパティを設定すると、エクスポートされるものが影響を受けます。要求テキストと要求名がビューに表示されていない場合、それらはエクスポートされません。ビューでクエリーを実行した場合、フィルタされた要求だけがエクスポートされます。

階層要求は、完全な階層タグ番号と共にエクスポートされます。この番号は、階層関係を示すために使用され、後でまたインポートを行った場合にも階層を再構成するために

ビューを CSV ファイルとしてエクスポートするには

- 1 エクスポートするビューを開きます。
- 2 [ファイル] メニューの [エクスポート] をポイントして、[CSV にエクスポート] をクリックします。
- 3 エクスポートされたビューのファイル名 (.csv の拡張子を使用) を入力し、[保存] をクリックします。

ファイルがエクスポートされます。次のアプリケーションで CSV ファイルを開くことができます。

- RequisitePro
- RequisitePro 外部の Word
- Excel
- このタイプのファイルを読み込めるその他のユーティリティ

## ビューを Word ドキュメントとしてエクスポート

ビューを Word ドキュメントとしてエクスポートするには

- 1 エクスポートする属性マトリックスか追跡可能性マトリックスを開きます。
- 2 [ファイル] メニューの [エクスポート] をポイントして [Word にエクスポート] をクリックします。[Word へのエクスポート] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 以下の情報を入力します。
  - [保存する場所] リストで、エクスポート後のファイルの保存場所を選択します。
  - [ファイル名] ボックスに、エクスポート後のファイルの名前を入力します。[ファイルの種類] ボックスで .doc が選択されているので、変更しないでください。
- 4 [保存] をクリックします。

ビューが Word ドキュメント (\*.doc) としてエクスポートされます。Word が起動し、エクスポートしたビューが Word ドキュメントのテーブルとして表示されます。

属性マトリックスは、Word の表形式でエクスポートされます。Word の表は属性マトリックスに似ていますが、この表にはすべてのセルが表示されます (属性マトリックスでは、指定した列サイズに応じてセルの内容が一部切り捨てられる可能性があります)。

追跡可能性ツリーを Word ドキュメントにエクスポートすると、Word で開いたビューには、アウトライン形式で要求が表示されます。ルート要求はツリー レベル 1、最初のレベルの下位要求はツリー レベル 2 などのように書式設定されます。要求ごとに、要求のプレフィックスがエクスポートされ、その後ろに完全な要求テキストが続きます。この書式スタイルは、追跡可能性ツリーのエクスポート専用で作成されたテンプレート (bin ディレクトリにある **treexpirt.dot**) に基づいています。このテンプレートとスタイルは、必要に応じて変更できます。テンプレートを修正すると、**treexpirt.dot** テンプレートを使用しているすべてのドキュメントも修正されます。テンプレートの修正に関する詳細については、Microsoft Word のドキュメントを参照してください。



Rational RequisitePro は、プロジェクトの成果物を編成して管理するためのフレームワークを提供します。各プロジェクトには、データベース、ドキュメント、パッケージ、ドキュメントタイプ、要求、要求タイプ、属性、属性値、ディスカッション、追跡可能性関係、保存済みのパーソナルビューとプロジェクト全体のビュー、改訂履歴、セキュリティ情報が含まれます。プロジェクトはそれぞれ、別のディレクトリに保存します。このように保存することで、プロジェクトファイルの整理、アーカイブ、管理のプロセスを簡略化できます。プロジェクトベースのシステムは、混乱を最小限に抑え、1セットの要求に焦点を絞れるよう設計されています。

同時に複数のプロジェクトを開くことはできません。プロジェクトはたくさんの要求ドキュメントを含むことができ、ユーザーはそれぞれ、異なるドキュメントを同時に編集することが可能です。

ドキュメントはプロジェクトデータベース以外の場所（通常はプロジェクトディレクトリ）に保存されます。ドキュメントを別の場所に保存する場合、可能なかぎり汎用名前付け規則に従ったパスを使用してください。

RequisitePro のプロジェクト管理者は、プロジェクトのすべての要素を作成し、管理します。この章では、以下のことを行うための手順を説明します。

- RequisitePro プロジェクトを作成する
- プロジェクトテンプレートを作成する
- ベースラインから RequisitePro プロジェクトを作成する
- 以前のバージョンの RequisitePro プロジェクトを最新リリースに変換する

## RequisitePro プロジェクトの作成

---

RequisitePro でプロジェクトを作成する際、空のテンプレート、RequisitePro の 3 種類のテンプレートのうちの 1 つ、または既存のプロジェクトから作成したテンプレートを使用することができます。テンプレートを使用してプロジェクトを作成すると、選択したテンプレートのドキュメントタイプ、要求タイプ、属性、セキュリティ情報、パッケージ構造、データが新規プロジェクトにコピーされます。[プロジェクト データを含める] をオンにして、自分で作成したプロジェクトテンプレートを使用すると、既存プロジェクトのパッケージ、要求、ドキュメント、ビュー、履歴も新規プロジェクトにコピーされます。

RequisitePro プロジェクトのベースラインを設定してある場合は、そのベースラインを使用して RequisitePro で新規プロジェクトを作成できます。たとえば、プロジェクトの以前のリリースの設定が安定している場合、その設定に基づいて次のリリースを作成できます。RequisitePro プロジェクトをベースラインから作成するには、プロジェクト管理者は UCM (統一変更管理) モデルを実装し、Rational Administrator と Rational ClearCase で作業を行います。ベースラインから作成したプロジェクトには、元のベースラインプロジェクトからの、複数プロジェクト間の追跡可能性リンクは保持されません。179 ページの「ベースラインからの RequisitePro プロジェクトの作成」と 246 ページの「Rational の UCM を使用したプロジェクト ベースラインの作成」を参照してください。

## RequisitePro プロジェクト テンプレート オプションについて

RequisitePro には、3 種類のプロジェクト テンプレートが付属しています。各テンプレートについては次項で説明します。テンプレートはパッケージ、ドキュメント タイプ、要求タイプ、要求属性を含み、プロジェクトの開始時に使用できるプロジェクト構造を提供します。テンプレートを使用して RequisitePro プロジェクトを作成した後、セキュリティを独自に設定したり、データを新規プロジェクトに追加するなどが可能です。各テンプレートの詳細については、ヘルプを参照してください。

- **ユースケースのテンプレート:** ユース ケースのテンプレートは、RUP™ (Rational Unified Process) の実装に最適です。このテンプレートは、Rational Rose ユース ケースおよび ClearQuest 拡張依頼と統合された RequisitePro を使用する RequisitePro プロジェクト用に設計されています。ユース ケースは特に、統一モデリング言語を使用したオブジェクト指向のソフトウェア デザインやユーザーに重点を置いたアプリケーションに適しています。
- **従来型テンプレート:** 従来型テンプレートは、明確な要求仕様書を使用するプロジェクトに最適です。このテンプレートには、ユース ケースではなく、従来型の ソフトウェア要求仕様のアウトラインが含まれています。
- **複合型テンプレート:** 複合型テンプレートでは、ユース ケース モデルと従来型要求仕様技術の両方における最高の要素を組み合わせ使用することができます。このテンプレートにより、従来のドキュメント ベースの技術とユース ケース モデルの両方を応用した最先端のソフトウェア要求仕様のアウトラインを利用できます。

これらのテンプレートは、RUP の原則に基づいたパッケージ、クエリー、ドキュメントを提供します。テンプレートには、用語集ドキュメントと要求管理計画ドキュメントが含まれており、プロジェクト成果物、用語、役割など、多くの要求管理ニーズに共通する基本的な内容が提供されます。テンプレートからプロジェクトを作成した後、プロジェクトの進行に応じて、プロジェクト構造を変更したりカスタマイズしたりできます。

## データベース タイプの決定

RequisitePro プロジェクトを作成する前に、要求情報の保存先として使用するデータベースを決定します。現在サポートされているデータベースは、Microsoft Access とエンタープライズデータベース (Oracle と Microsoft SQL Server) です。データベースの具体的なバージョンについては、リリース ノートを参照してください。

以下の基準を考慮して、RequisitePro で使用するバックエンド データベースを決定してください。

- 小規模な作業グループ (同時ユーザーが 5 人以下) には、Microsoft Access データベースを使用します。6 人以上のユーザーが同時にログインすることが予想される場合、エンタープライズ データベースを使用します。テストの結果、同時にログオンするユーザーが 6 人以上になると Microsoft Access のパフォーマンスが低下することがわかっています。このユーザー数は、ネットワークの帯域幅によっても異なります。
- WAN (広域ネットワーク) 経由でチームが分散または接続している場合は、エンタープライズ データベースを使用します。エンタープライズ データベースを使用すると、リモート ネットワークの現場にソケット レベルでアクセスでき、一般にパフォーマンスの向上を図ることができます。
- 管理する要求数が非常に多い場合 (何万もある場合など) は、エンタープライズ データベースを使用します。

RequisitePro では、Access Jet Engine を使用して Access データベースが作成されるため、Microsoft Access を購入する必要はありません。

エンタープライズ データベースを使用する場合、データベース管理者は RequisitePro に付属しているスクリプトを出発点として使用し、SQL Server か Oracle サーバーで RequisitePro スキーマを作成することができます。これらのスクリプトは変更できます。

Oracle を使用する場合は、各クライアント コンピュータに Oracle クライアント ソフトウェアがインストールされている必要があります。詳細については、『Rational Software デスクトップ製品インストールガイド』を参照してください。

データ トランスポート ウィザードを使用すると、プロジェクト管理者は Access、Oracle、SQL Server のデータベース間でプロジェクト データを移動できます。データを 2 つの Oracle データベースまたは 2 つの SQL Server データベース間で移動することもできます。ただし、2 つの Access データベース間でデータの移動を行うことはできません。

SQL Server と Oracle の設定に関する詳細については、『Rational Software デスクトップ製品インストールガイド』を参照してください。

以下に関する説明については、RequisitePro のヘルプ ディレクトリ (<install drive>\Program Files\Rational\RequisitePro\help) にある各ファイルを参照してください。

- Oracle データベースの構成 (oraclesetup.html)
- SQL サーバー データベースの構成 (sqlsetup.html)

エンタープライズ データベースを使用する RequisitePro プロジェクトの場合、プロジェクト管理者は、1 つ以上の RequisitePro プロジェクトを同じインスタンスかデータベース/スキーマに保存できます。RequisitePro プロジェクトをエンタープライズ データベース間で分散させる場合、以下のことに注意してください。

- インスタンスは、RequisitePro 以外のアプリケーションと共有しないでください。  
RequisitePro プロジェクトは、サイトのほかのアプリケーションとインスタンスを共有することがあります。アプリケーション間で同じインスタンスを共有することによる主な利点は、必要なデータベース管理の量が減ることです。ただし、RequisitePro データは、RequisitePro ドキュメントと同期をとる必要があるため、ほかのアプリケーションとインスタンスを共有することはお勧めできません。インスタンスを共有する必要がある場合、RequisitePro のデータは論理バックアップでのみバックアップできます。イメージ (物理) バックアップは、共有インスタンスでは使用できません。イメージ バックアップでは、1 つのアプリケーションのデータを復元するときに、すべてのアプリケーションのデータが復元されるからです。このため、RequisitePro 以外のアプリケーションでデータの回復が必要な場合に、RequisitePro の古いデータまで回復しなければならないという状況になります。
- 1 つのデータベース/スキーマ内にすべての RequisitePro プロジェクトを置いてください。  
すべての RequisitePro プロジェクトを 1 つのデータベース/スキーマに置くと、プロジェクトを最も効率的に保存できます。すべてのプロジェクトはまとめて保存されるので、すべてのプロジェクトのバックアップもまとめて作成されます。ただし、プロジェクトを回復する必要がある場合、そのデータベース/スキーマに保存されているすべてのプロジェクトをまとめて回復する必要があります。回復を行うと、バックアップ作成後に行ったすべての作業が無効になります。

プロジェクトをデータベース/スキーマに個別に置くことで柔軟性は最大になりますが、データベース管理者の仕事も増えます。複数プロジェクト間の追跡可能性が設定されているプロジェクトは、互いに同期をと場合、または異なる時点で作成されたバックアップからプロジェクトを回復した場合、複数プロジェクト間の追跡可能性リンクは失われる可能性があります。

## プロジェクトの名前

RequisitePro では、プロジェクトを識別するために 2 つの異なる名前を使用します。

- **プロジェクト名**: 64 文字以内の内容を示す名前です。
- **プロジェクト ファイル名**: .rqs の拡張子が付いた DOS ファイル名です。これは、Windows エクスプローラかファイル マネージャでプロジェクト ディレクトリを表示する際に使用される名前です。

プロジェクトを作成すると、使用しているオペレーティング システムが長いファイル名をサポートしているかどうか自動的に判別されます。長いファイル名がサポートされている場合は、プロジェクト、ドキュメント、アーカイブ、ディレクトリを含むすべてのファイル名に長いファイル名を使用できます。

プロジェクトとアーカイブを長いファイル名で保存した後、長いファイル名をサポートせず変換もできないネットワークやドライブにコピーした場合、そのファイル名を読み取ることはできません。

## プロジェクトの作成

- 1 以下のいずれかの方法で、[プロジェクトの作成] ダイアログ ボックスを開きます。
  - RequisitePro で、[ファイル] メニューの [新規作成] をポイントして [プロジェクト] をクリックします。
  - Rational Administrator の [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスで、[要求アセット] 領域の [作成] をクリックします。



2 以下のいずれかのプロジェクト テンプレートを選択します。

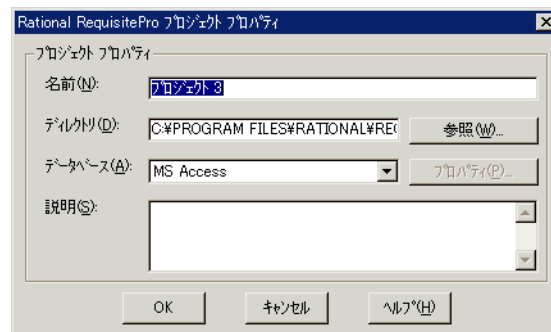
- [空白] テンプレートを選択し、各プロジェクト パラメータを設定します。
- RequisitePro のデフォルト テンプレートから 1 つ選択します。
- プロジェクト テンプレート ウィザードを使用して既存のプロジェクトで作成したテンプレートを選択します。

**メモ:** ここで表示されるテンプレートは、<install drive>%Program

Files%Rational%RequisitePro%Templates ディレクトリに格納されているか、または [オプション] ダイアログ ボックスで指定した二次的な保存場所にあります。テンプレートを選択すると、ダイアログ ボックスの一番下にあるテキスト ボックスにテンプレートの説明が表示されます。[詳細] チェック ボックスをクリックすると、テンプレートの説明ボックスの表示を切り替えることができます。

RequisitePro の以前のバージョンで作成したテンプレートを使用する場合、テンプレートをアップグレードするかどうかたずねられたら、それを受け入れる必要があります。選択されたテンプレート ディレクトリ内の古いテンプレートは、アップグレードされた各テンプレートで上書きされ、古いテンプレートのコピーが /Copy of Project Templates from v.2001/ サブディレクトリに保存されます。

- 3 [OK] をクリックします。[Rational RequisitePro プロジェクト プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 4 新規プロジェクトに関する情報を入力します。



- プロジェクト名 (半角で最大 64 文字) を入力します。
- プロジェクト ディレクトリのパスを入力するか、[参照] をクリックしてディレクトリを選択します。プロジェクトを作成した後は、このフィールドを変更できません。

- プロジェクトを保存するデータベースを選択します。Microsoft Access、SQL Server、Oracle を使用してプロジェクトを作成できます。Microsoft Access 以外のデータベースを選択する場合は、[プロパティ] を選択して、データベースを設定します。データベースタイプの選択に関する詳細については、173 ページの「データベース タイプの決定」を参照してください。
- プロジェクトの説明を入力します。この手順はオプションです。この説明はプロジェクト作成後に変更できます。

5 [OK] をクリックします。

6 [はい] をクリックしてプロジェクト ディレクトリを作成し、ディレクトリが正常に作成されたら、[閉じる] をクリックします。

**メモ：** エンタープライズ データベースの設定の詳細については、『Rational Software デスクトップ製品インストール ガイド』を参照してください。

以下に関する説明については、RequisitePro のヘルプ ディレクトリ (<install drive>\Program Files\IBM\Rational\RequisitePro\help) にある各ファイルを参照してください。

- Oracle データベースの構成 (oraclesetup.html)
- SQL サーバー データベースの構成 (sqlsetup.html)

## プロジェクトを作成したときに実行される処理内容

プロジェクトを新規に作成すると、RequisitePro によって以下の操作が実行されます。

- 次のような 6 つのプロジェクト ファイルが作成されます。
  - **projectname.rqs:** プロジェクト情報のテキスト ファイルです。
  - **projectname.mdb:** Microsoft Access のプロジェクト データベースです。このファイルは、エンタープライズ データベースでは使用されません。
  - **projectname.ldb:** 複数のユーザーによるプロジェクトの同時使用を防ぐため、プロジェクトを開いている間、Microsoft Access データベース ファイルをロックします。このファイルは、エンタープライズ データベースでは使用されません。
  - **structure.xml:** 要求タイプ、属性、ドキュメント タイプなど、プロジェクト構造です。
  - **security.xml:** グループ名、説明、アクセス権など、プロジェクトのセキュリティ定義です。
  - **permissions.xml:** タイプごとのドキュメントや要求へのアクセスなど、個々のユーザーに対するプロジェクトのセキュリティ権限です。

- プロジェクトがエクスプローラに表示され、プロジェクト リストに追加されます。プロジェクト リストには複数のデフォルト パッケージが含まれています。このプロジェクト構造は、RequisitePro により提供されているものです。
- プロジェクトで作成した要求タイプやドキュメント タイプが使用できるようになります。

## プロジェクト テンプレートの作成

---

既存の RequisitePro プロジェクトに基づいてテンプレートを作成できます。新規テンプレートには、ドキュメント タイプ、要求タイプ、属性、ユーザーやグループの権限など、既存のプロジェクトの構造とセキュリティがそのままコピーされます。プロジェクト データ (パッケージ、要求、ドキュメント、ビュー、履歴) を含めるオプションもあります。新規テンプレートのアイコンが [プロジェクトの作成] ダイアログ ボックスに表示され、新規プロジェクトの作成時に選択できます。作成したプロジェクト テンプレートに変更を加えることはできません。

- 1 以下のいずれかの方法で、[プロジェクトの作成] ダイアログ ボックスを開きます。
  - RequisitePro で、[ファイル] メニューの [プロジェクト] をポイントして [新規作成] をクリックします。
  - Rational Administrator の [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスで、[要求アセット] 領域の [作成] をクリックします。
- 2 [新規テンプレートの作成] アイコンをダブルクリックします。プロジェクト テンプレート ウィザードが開始します。
- 3 [テンプレート情報の入力] 画面で、以下の情報を入力します。
  - **テンプレート名:** 新規テンプレートの名前を入力します。
  - **テンプレートの場所:** 新規テンプレートの保存場所を選択します。デフォルトでは、**Program Files\Rational\RequisitePro\Templates** ディレクトリに作成されます。ネットワークで共有するテンプレートや、特定のプロジェクトで使用するテンプレートなど、その他のプロジェクト テンプレート用の二次的な保存場所を設定できます。[ツール] メニューの [オプション] をクリックして [オプション] ダイアログ ボックスを開き、[プロジェクト テンプレート] ボックスの [ディレクトリ] にフル パスとサブディレクトリ名を入力します。
  - **RequisitePro のプロジェクト:** テンプレート構造を作成するもとになる RequisitePro プロジェクトを選択します。[参照] をクリックして、プロジェクトに移動します。
  - **プロジェクト データを含める:** 選択したプロジェクトのプロジェクト構造に加え、そのデータもテンプレートに含める場合、このチェック ボックスをオンにします。プロジェクトのセキュリティが有効な場合は、プロジェクトにログオンする必要があります。セキュリティが設定されている場合、プロジェクト データを含むテンプレートを作成できるのは、プロジェクト構造に対する権限を持っているユーザーのみです。

- **ドキュメンテーション ファイル (オプション):** テンプレートの詳細を含む既存の .rtf ファイルを選択できます。ここで指定したファイルのテキストは、テンプレートの選択時に、[プロジェクトの作成] ダイアログ ボックスの [詳細] ボックスに表示されます。[参照] をクリックして、ファイルに移動します。
  - **アイコン ファイル:** [プロジェクトの作成] ダイアログ ボックスに表示するテンプレートのアイコンを選択します。このアイコンは、テンプレートのフォルダにある .ico ファイルを置き換えることでいつでも変更できます。その際、新しいアイコン ファイルの名前を元のファイルと同じ名前に変更する必要があります。
- 4 [次へ] をクリックして、次へ進みます。
  - 5 [確認] 画面で情報を確認し、[完了] をクリックし、テンプレートを作成します。新規テンプレートが [プロジェクトの作成] ダイアログ ボックスに表示されます。

## ベースラインからの RequisitePro プロジェクトの作成

---

RequisitePro プロジェクトのベースラインを設定してある場合は、そのベースラインを使用して RequisitePro で新規プロジェクトを作成できます。たとえば、プロジェクトの以前のリリースの設定が安定している場合、その設定に基づいて次のリリースを作成できます。詳細については、211 ページの「UCM によるプロジェクトのベースラインの作成」と 246 ページの「Rational の UCM を使用したプロジェクト ベースラインの作成」を参照してください。

RequisitePro のプロジェクト管理者は、UCM (統一変更管理) モデルを実装し、Rational Administrator と Rational ClearCase で以下の作業を行います。

**メモ:** ベースラインから作成した RequisitePro プロジェクトには、元のベースライン プロジェクトにあった複数プロジェクト間の追跡可能性リンク、ディスカッション情報、Rational ClearQuest と Rational Rose の関連付けは維持されません。

UCM プロジェクトと Rational Administrator プロジェクトは、RequisitePro プロジェクトをベースラインから作成する前に作成しておく必要があります。詳細については、ClearCase と Rational Administrator のヘルプを参照してください。

- 1 UCM プロジェクトを作成します。
- 2 推奨ベースラインで、既にバージョン付きの RequisitePro プロジェクトのあるプロジェクトに、UCM コンポーネントを追加します。
- 3 新規 UCM プロジェクトに推奨ベースラインを設定します。デフォルトでは、上記で選択されたベースラインが選択されます。
- 4 新規 UCM プロジェクトのインテグレーション ビューを作成します。

Rational Administrator プロジェクトを作成するには

- 1 [ツール] メニューの [Rational Administrator] をクリックし、Rational Administrator を開きます。
- 2 [ファイル] メニューの [新規プロジェクトの作成] をクリックします。  
Rational Administrator のプロジェクトの新規作成ウィザードが開始します。
- 3 ウィザードで要求された情報を入力し、UCM を使用するように設定します。次に、バージョンを設定する要求アセットを選択します。ウィザードが完了すると、[プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 4 [選択] ボタンをクリックして [要求アセット] を選択します。
- 5 UCM ビューを参照し、ベースラインが設定された RequisitePro プロジェクトの .rqs ファイルを選択します。
- 6 [プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリックします。新規 RequisitePro プロジェクトには、選択されたベースラインプロジェクトのデータと構造が含まれます。

新規プロジェクトには、ベースラインが設定されたプロジェクトと同じ名前が付きます。この名前は、Rational RequisitePro の [プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスで変更できます。[プロジェクトを開く] ダイアログ ボックスで、ベースラインが設定された古いプロジェクトを RequisitePro のプロジェクト リストから削除することもできます。

## RequisitePro プロジェクトの最新バージョンへのアップグレード

---

バージョン 4.0 以上の RequisitePro で作成したプロジェクトを開くには、現在のバージョンに更新する必要があります。データベース アップグレード ウィザードでは、RequisitePro プロジェクトの管理者が、既存のデータベース構造とプロジェクトデータを最新のリリースにアップグレードできます。プロジェクトが 4.0 より前の RequisitePro で作成されている場合、データベース アップグレード ウィザードを使用する前に、プロジェクトを RequisitePro 4.0 にアップグレードする必要があります。詳細については、カスタマ サポートにお問い合わせください。

**注意:** RequisitePro プロジェクトが (バージョン 2001.03.00 以上で作成された新規 Rational プロジェクトの構造ではなく) Rational リポジトリに関連付けられている場合は、プロジェクトをアップグレードすると、ほかの Rational 製品で使用する Rational リポジトリに回復不能なダメージを与える可能性があります。Rational リポジトリを保護するには、まず使用しているソフトウェアとデータストアをバージョン 2001A にアップグレードしてから、現在のバージョンにアップグレードしてください。詳細については、『Rational Suite アップグレード ガイド』(Rational Solutions for Windows の オンライン ドキュメント CD-ROM に収録) を参照してください。

RequisitePro の現在のバージョンでは、プロジェクト データはパッケージに収容されます。パッケージが含まれていない古いプロジェクトを現在のリリースにアップグレードすると、要求成果物は以下のように編成されます。

- 要求ドキュメントごとに 1 つのパッケージが作成され、パッケージにはドキュメント内のすべての要求が収められます。
- 各要求タイプごとに 1 つのパッケージが作成され、パッケージにはドキュメント内にはない該当タイプのすべての要求が収められます。要求タイプに要求が 1 つも含まれていない場合、またはドキュメント内の要求のみ含まれている場合、RequisitePro では該当の要求タイプに対するパッケージは作成されません。
- 属性マトリックス パッケージ、追跡可能性マトリックス パッケージ、追跡可能性ツリー パッケージが作成されます。各ビュー パッケージには、プロジェクト内の該当タイプのすべてのビューが含まれます。

古いプロジェクトを RequisitePro の現在のバージョンにアップグレードすると、データベースのテーブルとプロパティが変更されるため、アップグレードする前の状態に戻すことができません。アップグレードを開始する前にデータベースのバックアップを取ることをお勧めします。

アップグレードしているプロジェクトに複数プロジェクト間の追跡可能性リンクが含まれている場合、外部プロジェクトも同様にアップグレードする必要があります。アップグレードの完了後、RequisitePro によって作成されたデフォルト パッケージ以外のパッケージにプロジェクト成果物を移動できます。パッケージ内の成果物の移動に関する詳細については、220 ページの「パッケージについて」を参照してください。

アップグレード プロセスでは、エンタープライズ データベース内のすべての RequisitePro プロジェクトがアップグレードされます。アップグレードを続行する前に、データベース上のすべてのプロジェクトをユーザーが閉じたことを確認してください。UCM を使用できるプロジェクトと使用できないプロジェクトがデータベースに混在する場合、RequisitePro では UCM が使用できるプロジェクトにフラグを立てます。このフラグによって、プロジェクトを開く前にすべてチェックインする処理を行うよう、ユーザーに強制します。この処理が完了するとフラグは削除され、プロジェクトを開くことができますようになります。

データベース アップグレード ウィザードの各画面での指示に従ってください。[ヘルプ] をクリックすると、アップグレード プロセスに関するヘルプにアクセスできます。



# プロジェクトの セキュリティについて

# 13

Rational RequisitePro では、複数ユーザーが同一のドキュメントやデータベースに同時にアクセスできるため、プロジェクトのセキュリティが非常に重要です。権限のないユーザーがプロジェクト、ドキュメント、要求にアクセスして、システムを使用したり、障害を起こしたり、データを消失しないよう、セキュリティによって防ぐことができます。デフォルトではセキュリティは無効になっており、プロジェクトへのユーザー アクセスは無制限です。

RequisitePro のすべてのプロジェクトについて、セキュリティを有効にすることをお勧めします。そうすることで、プロジェクトに対するすべての変更は変更者の実際のユーザー名に関連付けられるため、すべての変更に関する完全な監査記録を作成できます。

プロジェクト セキュリティは、プロジェクトに複数のユーザーがいる場合に非常に重要です。RequisitePro のユーザーは特定の権限を付与されます。この権限によって、プロジェクトへのアクセスの種類や回数が決定されます。セキュリティが有効な場合、ユーザーはグループに所属します。RequisitePro 管理者は、グループ固有の権限を割り当てます。

RequisitePro ユーザーは、誰でも新規プロジェクトを作成できます。新規プロジェクトを作成したユーザーが、そのプロジェクトの管理者とみなされ、自動的に管理者グループに配置されます。プロジェクト作成後、作成者（および、ほかのプロジェクト管理者）はほかのユーザーとグループを定義できます。

プロジェクトでセキュリティが有効でない場合は、誰でも RequisitePro プロジェクトを開くことができます。セキュリティが有効になっていないプロジェクトを最初に開くと、Windows のログオン名、自分で指定したユーザー名、または [オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] メニューの [オプション] をクリック) の [デフォルト プロジェクト ログオン] ボックスで指定したユーザー名のいずれかによるログオンが許可されます。そのユーザー名がプロジェクトの管理者グループ リストに追加されます。

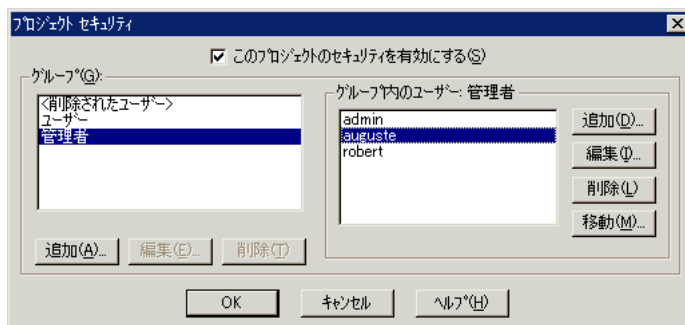
セキュリティが有効な場合は、作成者かほかのユーザーがプロジェクトを開くたびに [プロジェクト ログオン] ダイアログ ボックスが表示されます。セキュリティを設定したプロジェクト管理者は、ほかのユーザーにパスワードを割り当てることができます。セキュリティを有効にすると、プロジェクトをどのように開くかに関係なく、この条件が適用されます。たとえば、RequisitePro や RequisiteWeb で開く場合も、RequisitePro 拡張インターフェイスやその他の Rational ツールを使用してプログラムからアクセスする場合も同じです。

## セキュリティの設定

プロジェクトのセキュリティを有効/無効にするには

- 1 [ファイル]メニューの[プロジェクト管理]をポイントし、[セキュリティ]をクリックします。

[プロジェクトセキュリティ] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 2 セキュリティを有効にするには、[このプロジェクトのセキュリティを有効にする] チェック ボックスをオンにします。セキュリティを無効にするには、このチェック ボックスをオフにします。
- 3 この後の手順に従って、グループとユーザーを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

## グループとユーザーの作成と変更

RequisitePro には、[削除されたユーザー]、[管理者]、[ユーザー] の 3 つのデフォルトのセキュリティ グループが用意されています。すべてのセキュリティ 権限はグループ レベルでのみ割り当てられ、ユーザーは 1 つのグループのみに所属できます。

- 削除されたユーザー：このグループには、ほかのグループで削除されたユーザーが含まれます。削除されたユーザーは権限を持たないため、RequisitePro にログオンできません。このグループは、プロジェクトの履歴によって管理されます。
- 管理者：このグループのメンバーは、プロジェクトで作業を行うための完全な権限を持っています。プロジェクト構造の変更、データの作成と変更、セキュリティ権限の設定と管理が可能です。このグループにユーザーを追加したり、このグループからユーザーを削除したりはできますが、[管理者] グループの権限は変更できません。

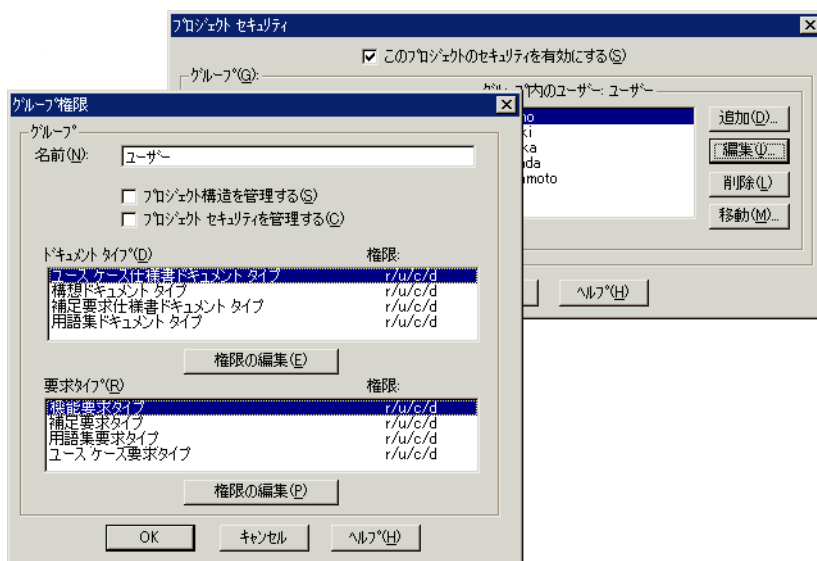
- ユーザー：デフォルトでは、ユーザー グループのメンバーは、すべてのドキュメント、要求、属性、追跡可能性を作成、変更できる完全な権限を持ちます。[ユーザー] グループの権限を変更することで、各ドキュメント タイプと要求タイプについて付与する権限のタイプを制限できます。

グループの追加や削除、グループへのユーザーの追加、異なるグループへの移動、ユーザー情報 (ユーザー名、パスワード、電子メール アドレスなど) の編集を行うことができます。

## 新規セキュリティ グループの作成

新規セキュリティ グループを作成するには

- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクト管理] をポイントし、[セキュリティ] をクリックします。[プロジェクト セキュリティ] ダイアログ ボックスが表示されます。[このプロジェクトのセキュリティを有効にする] チェック ボックスがオンであることを確認します。
- 2 [グループ] ボックスの下にある [追加] をクリックします。[グループ権限] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 3 [名前] ボックスに、グループの名前を入力します。
- 4 グループ権限を設定し、[OK] をクリックします。グループ 権限の設定と編集の詳細については、189 ページの「セキュリティ グループへの権限の割り当て」を参照してください。
- 5 [OK] をクリックして保存し、[プロジェクトセキュリティ] ダイアログ ボックスを閉じます。

## セキュリティ グループの削除

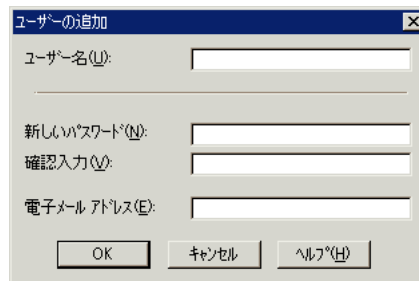
RequisitePro 管理者と、プロジェクトセキュリティ権限が設定されたグループのメンバーは、グループのすべてのユーザーが削除済みである場合、そのグループを削除できます。

- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクト管理] をポイントし、[セキュリティ] をクリックします。  
  
[プロジェクトセキュリティ] ダイアログ ボックスが表示されます。[このプロジェクトのセキュリティを有効にする] チェック ボックスがオンであることを確認します。
- 2 [グループ] ボックスで、削除するグループを選択します。
- 3 [削除] をクリックします。削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 4 [はい] をクリックします。
- 5 [プロジェクトセキュリティ] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックします。

## セキュリティ グループへのユーザーの追加

グループにユーザーを追加するには

- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクト管理] をポイントし、[セキュリティ] をクリックします。  
  
[プロジェクトセキュリティ] ダイアログ ボックスが表示されます。[このプロジェクトのセキュリティを有効にする] チェック ボックスがオンであることを確認します。
- 2 [グループ内のユーザー] リストで、ユーザーを追加するグループを選択し、[グループ内のユーザー] の横の [追加] をクリックします。[ユーザーの追加] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 3 [ユーザー名] ボックスにユーザーの名前を入力します。ユーザー名は英数字 20 文字までで、大文字と小文字は区別されません。

- 4 [新規パスワード] ボックスに、ユーザーのパスワードを入力します。

**メモ：**このボックスと以下の[確認入力]ボックスは暗号化され、最大 14 文字までの暗号化された記号が表示されます。パスワードは大文字と小文字が区別されます。たとえば、Mycomputer、MYCOMPUTER、mycomputer はそれぞれ異なるパスワードとして扱われます。

- 5 [確認入力] ボックスに、パスワードを再度入力します。
- 6 [電子メール アドレス] ボックスに、ユーザーの電子メール アドレスを入力します。この電子メール アドレスは、電子メールで RequisitePro のディスカッションに参加するために必要です。詳細については、65 ページの「ディスカッションへの応答」を参照してください。
- 7 [OK] をクリックします。新しいユーザーがグループに追加されます。
- 8 [OK] をクリックして保存し、[プロジェクト セキュリティ] ダイアログ ボックスを閉じます。

## ユーザー情報の編集

ユーザー情報を編集するには

- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクト管理] をポイントし、[セキュリティ] をクリックします。[プロジェクト セキュリティ] ダイアログ ボックスが表示されます。[このプロジェクトのセキュリティを有効にする] チェック ボックスがオンであることを確認します。
- 2 [グループ] リストから、ユーザーが属するセキュリティ グループを選択します。
- 3 [グループ内のユーザー] リストから、ユーザー名を選択します。
- 4 [グループ内のユーザー] リストの横の [編集] をクリックします。  
[ユーザーの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 ユーザー名、パスワード、または電子メール アドレスを編集します。
- 6 [OK] をクリックします。
- 7 [OK] をクリックして保存し、[プロジェクト セキュリティ] ダイアログ ボックスを閉じます。

## セキュリティ グループからのユーザーの削除

セキュリティ グループからユーザーを削除すると、そのユーザーは [<削除されたユーザー>] グループに移動します。ユーザーに関する記録はすべて維持されています。削除したユーザーと同じ名前をユーザーに付けようとする、その前に両者が同一人物かどうかを確認するメッセージが表示されます。

ユーザーを削除するには

- 1 [ファイル]メニューの[プロジェクト管理]をポイントし、[セキュリティ]をクリックします。[プロジェクト セキュリティ] ダイアログ ボックスが表示されます。[このプロジェクトのセキュリティを有効にする] チェック ボックスがオンであることを確認します。
- 2 [グループ] リストからそのユーザーを含むグループを選択します。
- 3 [グループ内のユーザー] リストでユーザーを選択します。
- 4 [グループ内のユーザー] リストの横の[削除]をクリックします。ユーザーを削除するかどうかを確認するダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 [はい]をクリックして、ユーザーを現在のグループから[<削除されたユーザー>]グループへ移動します。
- 6 [OK]をクリックして変更内容を保存し、[プロジェクト セキュリティ] ダイアログ ボックスを閉じます。

## 別のセキュリティ グループへのユーザーの移動

別のセキュリティ グループにユーザーを移動するには

- 1 [ファイル]メニューの[プロジェクト管理]をポイントし、[セキュリティ]をクリックします。[プロジェクト セキュリティ] ダイアログ ボックスが表示されます。[このプロジェクトのセキュリティを有 チェック ボックスがオンであることを確認します。
- 2 [グループ] リストからそのユーザーを含むグループを選択します。
- 3 [グループ内のユーザー] リストでユーザーを選択します。
- 4 [移動]をクリックします。[ユーザーの移動] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 5 ユーザーの移動先のグループを選択します。
- 6 [OK]をクリックします。
- 7 [OK]をクリックして変更内容を保存し、[プロジェクト セキュリティ] ダイアログ ボックスを閉じます。

## セキュリティ グループへの権限の割り当て

---

セキュリティ グループごとに独自の権限が設定されています。グループのメンバーは全員、同じ権限を共有します。グループに割り当てることができる権限は以下のとおりです。

- プロジェクト権限：プロジェクトへのアクセス、プロジェクト構造の管理、プロジェクトセキュリティの管理
- ドキュメント タイプ権限：ドキュメントの読み取り、更新、作成、削除
- 要求タイプ権限：要求の読み取り、更新、作成、削除
- 属性権限：属性の読み取りと更新
- 属性値権限：属性値の読み取りと更新
- 追跡可能性権限：サスペクト関係の設定と解除、追跡可能性関係の作成と削除

管理者グループとプロジェクトセキュリティ権限を持つグループのメンバーは、グループアカウントの作成、グループへの権限の割り当て、グループのユーザーの追加、移動、編集、削除を行うことができます。

権限を割り当てるには

- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクト管理] をポイントし、[セキュリティ] をクリックします。[プロジェクトセキュリティ] ダイアログ ボックスが表示されます。[このプロジェクトのセキュリティを有効にする] チェック ボックスがオンであることを確認します。
- 2 [グループ] リストで、グループを選択します。
- 3 [グループ] リストの下にある [編集] をクリックします。[グループ権限] ダイアログ ボックスが表示されます。

管理者グループは完全な権限を持ちます。このグループの権限は編集できませんが、管理者グループにユーザーを追加したり、そこからユーザーを削除できます。

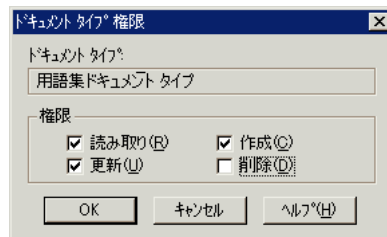
- 4 グループにプロジェクト構造の変更権限を割り当てるには、[プロジェクト構造を管理する] チェック ボックスをオンにします。これらの権限を持つグループは、このプロジェクトの [プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスのすべてのタグと情報に対して、完全なアクセス権限を持ちます。グループの権限を削除するには、チェック ボックスをオフにしてください。
- 5 グループにプロジェクトセキュリティ権限を割り当てるには、[プロジェクトセキュリティを管理する] チェック ボックスをオンにします。これらの権限を持つグループは、このプロジェクトのグループとユーザーの権限を変更できます。グループの権限を削除するには、チェック ボックスをオフにしてください。

- 6 以下の説明に従って、ドキュメント、要求、追跡可能性、属性、属性値の権限を割り当てます。
- 7 [OK] をクリックします。

## ドキュメント タイプ権限の割り当て

ドキュメント タイプ権限をグループに割り当てるには

- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクト管理] をポイントし、[セキュリティ] をクリックします。[プロジェクト セキュリティ] ダイアログ ボックスが表示されます。[このプロジェクトのセキュリティを有効にする] チェック ボックスがオンであることを確認します。
- 2 [グループ] リストで、グループを選択します。
- 3 [グループ] リストの下にある [編集] をクリックします。[グループ権限] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 4 [ドキュメント タイプ] リストで、権限を割り当てるドキュメント タイプを選択します。
- 5 [ドキュメント タイプ] リストの下にある [権限の編集] をクリックします。[ドキュメント タイプ権限] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 6 対応するチェック ボックスをオンにして、ドキュメント権限を割り当てます。グループは、読み取り、更新、作成、削除の権限を持つことができます。グループに割り当てられている権限を削除するには、権限に対応するチェック ボックスをオフにします。このドキュメントタイプに対する権限をグループに一切与えない場合は、すべてのチェック ボックスをオフにします。
  - [読み取り] 権限：グループのメンバーは、このタイプのドキュメントを表示できます。[読み取り] 以外の権限が何もオンになっていない場合、グループのメンバーはこのタイプのドキュメントを変更できません。
  - [更新] 権限：グループのメンバーは、このタイプのドキュメントを変更できます。[更新] をオンにすると、[読み取り] も自動的にオンになります。

- [作成] 権限：グループのメンバーは、このタイプのドキュメントを作成できます。  
[作成] をオンにすると、[読み取り] と [更新] も自動的にオンになります。
- [削除] 権限：グループのメンバーは、このタイプのドキュメントを削除できます。  
[削除] をオンにすると、[読み取り]、[更新]、[作成] も自動的にオンになります。

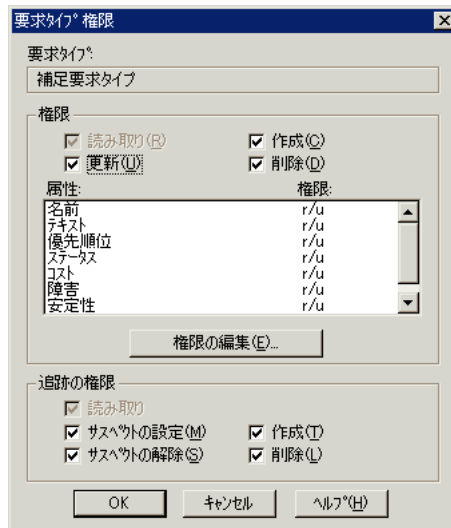
7 [OK] をクリックして変更内容を保存し、各ダイアログ ボックスを閉じます。

## 要求タイプと追跡可能性の権限の割り当て

要求タイプ権限と追跡可能性権限をグループに割り当てるには

- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクト管理] をポイントし、[セキュリティ] をクリックします。[プロジェクト セキュリティ] ダイアログ ボックスが表示されます。[このプロジェクトのセキュリティを有効にする] チェック ボックスがオンであることを確認します。
- 2 [グループ] リストで、グループを選択します。
- 3 [グループ] リストの下にある [編集] をクリックします。[グループ権限] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 4 [要求タイプ] リストで、権限を割り当てる要求タイプをクリックし、[権限の編集] をクリックします。

[要求タイプの権限] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 5 対応するチェック ボックスをオンにして、要求タイプの権限を割り当てます。グループは、要求タイプに対して、読み取り、更新、作成、削除の権限を持つことができます。グループに割り当てられているほかの権限の中から 1 つを削除するには、その権限に対応するチェック ボックスをオフにします。
- [読み取り] 権限：グループのメンバーは、このタイプのすべての要求を表示できます。[読み取り] 以外の権限が何もオンになっていない場合、グループのメンバーはこのタイプの要求を変更できません。この権限はデフォルトでオンになり、オフにすることはできません。
  - [更新] 権限：グループのメンバーは、このタイプのすべての要求を変更できますが、要求の作成や削除はできません。
  - [作成] 権限：グループのメンバーは、このタイプの要求を作成できます。[作成] をオンにすると、[更新] も自動的にオンになります。
  - [削除] 権限：グループのメンバーは、このタイプの要求を削除できます。[削除] をオンにすると、[更新] と [作成] も自動的にオンになります。
- 6 選択したタイプの要求の追跡可能性関係の権限を追加するには、以下のチェック ボックスをオンにします。
- [読み取り] 権限：グループのメンバーは、このタイプの要求間のすべての追跡可能性関係を表示できます。この権限はデフォルトでオンになり、オフにすることはできません。
  - [サスペクトの設定] 権限：グループのメンバーは、このタイプの要求を追跡元または追跡先とする追跡可能性関係をサスペクトとしてマークできます。[サスペクトの解除] をオンにすると、[サスペクトの設定] も自動的にオンになります。
  - [サスペクトの解除] 権限：グループのメンバーは、このタイプの要求を追跡元または追跡先とする追跡可能性関係がサスペクトである場合、それを解除できます。
  - [作成] 権限：グループのメンバーは、このタイプの要求を追跡元または追跡先とする追跡可能性を作成できます。[削除] をオンにすると、[作成] 権限も自動的にオンになります。
  - [削除] 権限：グループのメンバーは、このタイプの要求を追跡元または追跡先とする追跡可能性関係を削除できます。
- 7 セキュリティ グループに属性権限を割り当てるには、要求属性を選択し、[権限の編集] をクリックします。属性権限の詳細については、次の項を参照してください。
- 8 各ダイアログ ボックスの [OK] をクリックして、変更を保存します。

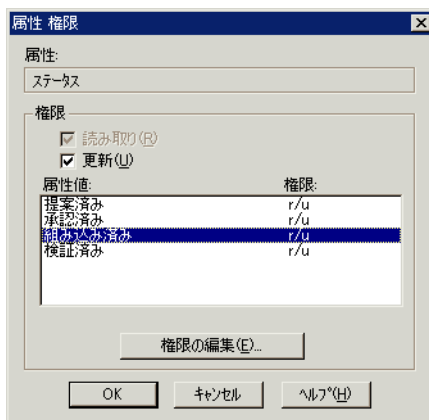
## 属性権限の割り当て

要求名、要求テキスト、要求属性に対する権限を割り当てるには

- 1 前の項の説明に従って、要求タイプを選択します。
- 2 [要求タイプの権限] ダイアログ ボックスで、権限を設定する属性、名前、テキストを選択します。
- 3 [権限の編集] をクリックします。

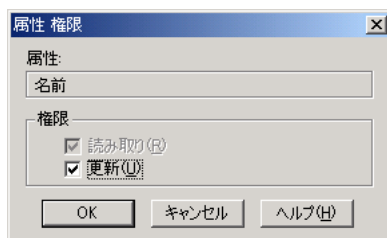
[属性の権限] ダイアログ ボックスが表示されます。

- リスト タイプの属性に対しては、以下に示すダイアログ ボックスが表示されます。



権限の [読み取り] チェック ボックスは自動的にオンになり、オフにすることはできません。選択したタイプの属性をユーザーが変更できるようにするには、[更新] チェック ボックスをオンにします。特定の属性値を変更できるように権限を割り当てる方法については、次の項を参照してください。

- 入力タイプの属性、名前、テキストに対しては、以下に示すダイアログ ボックスが表示されます。



権限の [読み取り] チェック ボックスは自動的にオンになり、オフにすることはできません。

- 4 グループのメンバーに属性を変更する権限を付与するには、[更新] チェック ボックスをオンにします。デフォルトの[読み取り] 権限のみを許可するには、このチェック ボックスをオフにします。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 [要求タイプの権限] と [グループ権限] のダイアログ ボックスで、[OK] をクリックします。

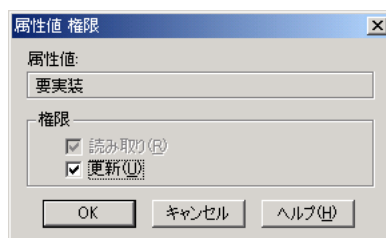
## 属性値の権限の割り当て

リスト タイプの属性の場合、特定の属性値に対する権限を割り当てることができます。

- 1 193 ページの「属性権限の割り当て」の手順 1 ～ 3 の説明に従って、属性を選択します。
- 2 リスト タイプの属性については、[属性の権限] ダイアログ ボックスの [更新] チェック ボックスをオンにします。

ボックス内の属性値と [権限の編集] ボタンが有効になります。

- 3 リストから属性値を選択し、[権限の編集] をクリックします。  
[属性値権限] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 4 グループのメンバーに属性値を変更する権限を付与するには、[更新] チェック ボックスをオンにします。権限の [読み取り] チェック ボックスは自動的にオンになり、オフにすることはできません。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 ほかの属性値にグループ権限を設定または削除するには、手順 3 と 4 を繰り返します。
- 7 [属性の権限]、[要求タイプの権限]、[グループ権限] のダイアログ ボックスで [OK] をクリックします。

この章では、Rational RequisitePro プロジェクトを管理するための以下の作業について説明します。

- 要求の番号の付け直し
- プロジェクトの概要とレポートの印刷
- Requirement Metrics の使用
- プロジェクトのアーカイブ
- プロジェクトの更新情報の読み取りと記録
- 統一変更管理を使用したプロジェクトのベースラインの作成
- プロジェクト データベースからのドキュメントと要求の削除
- プロジェクトの移動
- プロジェクトのコピー
- データベース間でのプロジェクトの移動

最終項には、RequisitePro で使用するファイル タイプのリストを記載します。

## 要求の番号の付け直し

---

プロジェクトを排他モードで開くと、要求ドキュメントとデータベースに格納されている要求の中で、指定したタイプのすべての要求に番号を付け直すことができます。要求を削除または移動した結果、番号が連続しなくなった場合に、この機能を使用すると便利です。

詳細については、131 ページの「ドキュメントでの要求タグの再ビルド」を参照してください。

## プロジェクトの概要とレポートの印刷

---

### RequisitePro でのプロジェクトの概要の印刷

- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクト管理] をポイントし、[印刷の概要] をクリックします。  
Windows 標準の [印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 必要なオプションを選択し、印刷します。

## RequisitePro での Rational SoDA の使用

RequisitePro は、Rational のソフトウェア ドキュメント自動化ツールの SoDA と統合されています。

SoDA と RequisitePro を使用すると、以下のことができます。

- 開いている RequisitePro プロジェクトから SoDA レポートとドキュメントの変更と生成を行います。
- RequisitePro の要求情報と Rose モデリング情報を統合したレポートを作成します。
- ユース ケース要求と Rose のユース ケース図をすべて網羅するユース ケース レポートを作成します。

以下の手順を開始する前に、SoDA for Word の最新バージョンがインストールされ、RequisitePro プロジェクトが開いているかどうかを確認してください。

- 1 [ツール] メニューの [SoDA レポートの生成] をクリックします。[SoDA] ダイアログボックスが開き、RequisitePro で使用するテンプレートが一覧表示されます。
- 2 リストからテンプレートを選択し、[OK] をクリックします。SoDA for Word が開きます。[SoDA] メニューはアクティブで、選択したテンプレートは開いています。
- 3 テンプレートを使用して、開いている RequisitePro のプロジェクトから SoDA レポートを作成します。

SoDA のレポート生成については、SoDA のヘルプを参照してください。

**メモ:** プログレス インジケータがアクティブな間は、次の SoDA レポートの作成を開始しないでください。

## Requirement Metrics の使用

---

Requirement Metrics を使用すると、プロジェクト管理者とアナリストは、RequisitePro プロジェクトの属性、関係、改訂に関する統計のレポートを作成できます。これらの統計は、Microsoft Excel に表示されます。

Requirement Metrics を使用すると、以下のものを評価するために必要な情報を取り出すことができます。

- プロジェクトの進捗状況
- 優先度、作業量、期限
- 新規要求の追加
- 変化する要求や不確定な要求
- 承認済み機能と組み込み済み機

最初に、フィルタを作成します。フィルタとは、要求情報を抽出する基準を指定するものです。たとえば、[属性カウント] フィルタを使用して、そのプロジェクト内で優先度が[高]に設定されている要求の数を確認できます。次に、作成されたフィルタを結合してクエリーを生成します。クエリーで複数フィルタの基準を結合し、要求を分析します。クエリーを構成するフィルタは、AND 文で結合されます。次に、クエリーを結合して、レポートを作成します。

Requirement Metrics では、次の 2 種類のレポートが使用できます。

- スタティック レポートは、スタティック フィルタ を使用して、現時点でのプロジェクトの結果を表示します。
- 傾向分析レポートは、時間関連のフィルタを使用し、要求テキスト、属性、追跡可能性、階層関係の変更を分析します。傾向分析レポートでは、改訂を表示するためのインクリメントを指定する必要があります。

対応するサンプル クエリーを使用すると、以下の質問に対する答えをレポートに表示することができます。

質問	クエリー
最後のリリース以降に作成された要求はいくつありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ [要求作成] フィルタ</li> <li>▪ オプション/期間 &gt; 10/15/99</li> </ul>
[優先度: 高] の要求はいくつありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ [属性値] フィルタ</li> <li>▪ 優先度 = 高</li> </ul>
前月に [優先度: 低] から [優先度: 高] になった要求はいくつありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ [属性値変更] フィルタ</li> <li>▪ 以前の優先度 = 低</li> <li>▪ 以後の優先度 = 高</li> <li>▪ オプション/期間/先月</li> </ul>
最後のリリース以降、テキストが 4 回以上変更された要求はいくつありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ [要求テキストの変更] フィルタ</li> <li>▪ 変更の回数 &gt; 3</li> <li>▪ オプション/期間 &gt; 10/15/99</li> </ul>
要求に関連付けられた詳細レベルは何ですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ [子] フィルタ: 子 = &gt; 0</li> </ul>
要求の構成はどれくらい安定していますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ [親の変更] フィルタ</li> <li>▪ 前 = すべて選択</li> <li>▪ 後 = すべて選択</li> </ul>
ほかの要求と関連付けられている要求は安定していますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ [追跡可能性変更] フィルタ: すべて選択</li> <li>▪ 関係 = 追跡先と追跡元</li> <li>▪ アクション = 追加または削除</li> </ul>

Requirement Metrics のメイン ウィンドウは、このアプリケーションの主要ユーザー インターフェイスです。このウィンドウで、レポートの要求タイプ、フィルタ、フィルタ基準を選択し、クエリーを構築してレポートに追加できます。クエリーにフィルタを追加する場合、レポートの要求をフィルタ基準に合致する要求に制限します。



Requirement Metrics を開始するには、[ツール] メニューの [Metrics] をクリックするか、[Metrics] ボタンをクリックします。詳細については、Requirement Metrics のヘルプを参照してください。

プロジェクトで RequisitePro の機能以外のメトリクスが必要な場合は、Rational ProjectConsole の使用を検討してください。ProjectConsole は、ライフサイクル全般にわたってソフトウェアメトリクスを提供するため、要求だけでなく、ほかのプロジェクトのライフサイクル成果物に関するレポートも作成できます。

## メイン ウィンドウのクエリー ペイン

Requirement Metrics のメイン ウィンドウにあるクエリー ペインでは、複数のフィルタを選択して単一のクエリーを作成することができます。メイン ウィンドウの下半分にある レポート ペインにクエリーを追加すると、フィルタが結合されます。

クエリー ペインには、以下のフィールドとコントロールがあります。

**Choose a Requirement View:** 選択する定義済みビューの名前を山カッコ内に表示します (RequisitePro プロジェクトから保存済みのビューを選択することもできます)。

**メモ :** 外部プロジェクトの保存済みビューは、保存済みビューのリストにはありません。

**Types:** クエリーに含まれる各フィルタ タイプを示します。すべてのクエリーには、選択されている要求タイプの全要求を返す **Base** フィルタが含まれます。

**Criteria:** クエリー内の各フィルタに対して選択されている基準を表示します。

**Add Filter:** クエリーに追加するための新しいフィルタを選択できる [Add Filter] ダイアログ ボックスを表示します。

**Delete Filter:** 選択されているフィルタをクエリーから削除します。

**Add to Report:** 選択されたすべてのフィルタを 1 つのクエリーに結合して、Report のクエリー リストに追加します。

## メイン ウィンドウのレポート ペイン

Requirement Metrics のレポート ペインには、レポートに追加したクエリーを管理するための機能があります。

レポート ペインには、以下のフィールドとコントロールがあります。

**Names:** レポート内の各クエリーのラベルを表示します。ラベルのテキストを変更するには、クエリーをクリックしてから、もう一度クリックし、ラベルを入力します。

**Criteria:** 各フィルタに含まれるフィルタ基準を要約して表示します。

**Move Up:** クエリーのリストで選択されているクエリーを上に移動します。レポート ペインでのクエリー リストの順序によって、クエリーがレポートで表示される順序が決まります。

**Move Down:** クエリーのリストで選択されているクエリーを下に移動します。

**Delete Query:** 選択されているクエリーをレポートから削除します。

**Create:** 表示されているクエリー基準でレポートを実行します。

## フィルタとクエリーの作成

- 1 [Choose a Requirement View] リストからビューを選択します。既に作成したビュー、または 1 つの要求タイプのすべての要求を含む定義済みビューを選択することもできます。このビューによって、フィルタで使用される要求タイプが定義されます。
- 2 [Add Filter] をクリックします。[Add Filter] ダイアログ ボックスが表示され、使用可能なフィルタのリストが示されます。
- 3 フィルタを選択し、[OK] をクリックします。  
**ヒント:** フィルタは、ダブルクリックしても選択できます。  
そのフィルタに対応したダイアログ ボックスが表示されます。
- 4 すべての選択を終えたら、[OK] をクリックしてフィルタをフィルタのリストに追加します。
- 5 クエリーが完成するまで、さらにフィルタをリストに追加します。

## レポートへのクエリーの追加

クエリーをレポートに追加すると、フィルタ リスト内のすべてのフィルタが 1 つのクエリーに結合され、そのクエリーがレポートのクエリー リストに追加されます。クエリー内のフィルタ同士は論理演算子「AND」で結合されます。

- 1 [Add to Report] をクリックします。クエリーは、デフォルト ラベルが付き、レポートのクエリー リストに追加されます。
- 2 このラベルを変更するには、リスト内のクエリーを選択し、再度クエリーをクリックします。ラベルにカーソルを置くと、編集モードに変わります。
- 3 新規のラベルを入力し、[ENTER] を押して変更を保存します。
- 4 クエリーのリスト内のクエリー順序を変更するには、クエリーの属性を選択し、[Move Up] か [Move Down] をクリックします。このクエリー リストの順序によって、クエリーがレポートで表示される順序が決まります。
- 5 [Options] メニューの [Output Requirements Detail] をクリックして、レポートに要求タグ、テキスト、属性値 (適用可能な場合) を表示します。

レポート内のクエリーごとに、Microsoft Excel に個別のワークシートが作成されます。

## 時間コントロールの設定

時間関連のフィルタをレポートに追加すると、[Options] メニューの [Time Period] コマンドが有効になります。この機能を使用すると、「先週」などの相対的な時間間隔についてフィルタしたり、レポートの具体的な開始日か終了日 (またはその両方) を選択できます。

また、時間関連のクエリーのみでレポートが構成されている場合は、日、週、月、四半期、年のいずれかの時間間隔で改訂を表示できます。このオプションを使用すると、傾向分析レポートを作成できます。

時間コントロールを設定するには

- 1 [Time Controls] をクリックします。[Report Time Period] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 次のいずれかを実行します。
  - [Relative Time Period] をクリックし、リストから相対的な時間間隔を選択します。
  - [Specific Time Period] をクリックし、リストから演算子 (「>」など) と日付を選択します。「Between」演算子を選択した場合は、開始日と終了日を選択する必要があります。
- 3 時間関連のフィルタのみで構成されたレポートの場合、[Trend Intervals] チェック ボックスをオンにし、次にリストから時間間隔を選択します。

**メモ :** [Relative Time Period] で [Any Time] を選択すると、この選択項目に関連する終了日がないため、チェック ボックスはオンになりません。
- 4 [Show Cumulative Counts] チェック ボックスをオンにして、時間間隔ごとの要求の累積数を表示します。

## レポートの実行

クエリーをレポートに追加した後は、クエリーを実行できます。

次のいずれかを実行します。

- [Create] ボタンをクリックします。
- [File] メニューの [Create Report] をクリックします。

Microsoft Excel が開き、要求した統計が新しいワークブックに表示されます。結果は、デフォルト グラフにも表示されます。グラフの書式を変更するには、Microsoft Excel のグラフ ウィザードを使用します。

## レポートの保存

クエリーをレポートに追加した後は、クエリーを再利用のために保存できます。保存したレポートは、Requirement Metrics で開いて編集したり、Windows のコマンドラインから実行したりできます。

- 1 現在のレポートを保存するには、[File] メニューの [Save Report As] をクリックします。  
[名前を付けて保存] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 ディレクトリを検索し、レポートのファイル名を入力します。[保存] をクリックします。  
レポートがすべてのクエリーと設定と共に \*.rqm ファイルに保存されます。

## 保存済みレポートを開く / 編集する

- 1 保存済みレポートを開くには、[File] メニューの [Open Report] をクリックします。  
[ファイルを開く] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 ディレクトリを検索し、( 拡張子が .rqm の ) 保存済みレポートを選択して [開く] をクリックします。  
**メモ:** 保存済みレポートを編集し、要求のタイプや属性を変更すると、保存済みレポートが使用できなくなることがあります。使用できなくなったレポートを実行しようとする、エラー メッセージが表示されます。

## コマンドラインからの実行

RequisitePro の外部から、コマンドラインを使用して Requirement Metrics を実行できます。Windows のタスク バーで、[スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。

コマンドラインの構文は、以下のとおりです。

```
rqmetricsgui.exe ReportFile [user:=Username] [pass:=Password] [save:=Filename]
```

引数の要素にスペースが含まれる場合、その引数全体を二重引用符で囲む必要があります。

rqmetricsgui.exe のフルパスを指定します。通常、  
C:\Program Files\Rational\RequisitePro\bin\rqmetricsgui.exe となります。

ReportFile 引数には、実行対象の .rqm ファイルのパスとファイル名が含まれている必要があります。

引数 user:=Username は、プロジェクトセキュリティが設定されているすべてのプロジェクトで必須です。このプロジェクトのセキュリティが有効になっている場合、プロジェクトに有効なユーザー名を使用する必要があります。このプロジェクトにセキュリティが設定されていない場合、まずプロジェクトにログインする必要があります (これによって、ユーザー名がプロ

ジェクトに追加されます)。これで、同じユーザー名を使用して、コマンドラインから Requirement Metrics を実行できるようになります (現在のユーザー名は、RequisitePro の [オプション] ダイアログ ボックスで指定したものです)。

オプションの引数 **pass:=Password** では、そのユーザー名に必要なパスワードを指定します。これらの引数のいずれかが間違っていると、プロジェクトへのアクセスも、要求したレポートの実行もできなくなります。

オプションの引数 **save:=Filename** では、出力ファイルの名前を Excel 形式で指定します。これは、連続したバッチ処理を行う場合に便利です。

**メモ：**このファイル名の Excel ファイルが既に存在する場合は、Requirement Metrics によってファイルが上書きされます。

## プロジェクトのアーカイブ

---

RequisitePro では、アーカイブとはデータベース、ドキュメント、プロジェクトのすべての関連するファイルを複製し、後で復元できるようにするプロセスを指します。プロジェクトをアーカイブするには、以下のコマンドのうち 1 つを使用します。

- [RequisitePro アーカイブ] コマンド
- [Rational ClearCase] のアーカイブ コマンド

**メモ：**ClearCase で UCM モデルを実装している場合は、上記のアーカイブ作成方法に加え、ベースラインを作成することもできます。211 ページの「UCM によるプロジェクトのベースラインの作成」を参照してください。

エンタープライズ データベースを使用している場合、どちらのアーカイブ方法でもデータベースのコピーは自動的に作成されません。ベースラインを作成すると、データベースのコピーが作成されます。詳細については、206 ページの「エンタープライズ データベースを使用するプロジェクトのアーカイブ」と 211 ページの「UCM によるプロジェクトのベースラインの作成」を参照してください。

RequisitePro のプロジェクトをアーカイブするには、PVCS Version Manager や Microsoft Visual SourceSafe などのさまざまな構成管理ツールを使用できます。プロジェクトで Microsoft Access データベースを使用する場合、まず、[RequisitePro アーカイブ] コマンドを使用してアーカイブのファイルを作成します。次に、構成管理ツールを使用して、このファイルをアーカイブします。必ず、すべてのプロジェクト ドキュメントをアーカイブに加えてください。

複数プロジェクト間の追跡可能性が設定されているプロジェクトは、プロジェクト間の追跡可能性リンクの一貫性を保つために、同じ時点でアーカイブまたはバックアップする必要があります。複数プロジェクト間の追跡可能性を維持するには、アーカイブされたプロジェクトを開き、外部プロジェクトの接続を解除して、各外部プロジェクトについて最新のアーカイブの場所を参照します。これにより、プロジェクトがアーカイブされた時点での複数プロジェクト間の追跡可能性が保持されます。

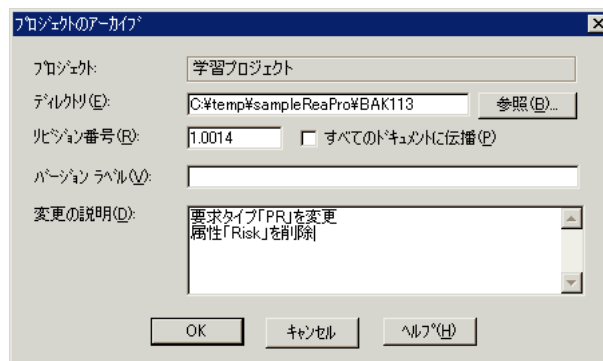
## [アーカイブ] コマンドを使用したプロジェクトのアーカイブ

RequisitePro で [アーカイブ] コマンドを使用すると、RequisitePro プロジェクト全体のコピーを別のディレクトリに作成できます。

**メモ：** 複数プロジェクト間の追跡可能性が設定されているプロジェクトは、プロジェクト間の追跡可能性リンクの一貫性を保つために、同じ時点でアーカイブまたはバックアップする必要があります。

- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクト管理] で [アーカイブ] をポイントし、[RequisitePro アーカイブ] をクリックします。

[プロジェクトのアーカイブ] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 2 バックアップ コピーを格納するディレクトリを選択します。[参照] をクリックして、[フォルダの参照] ダイアログ ボックスを開きます。ディレクトリに移動し、フォルダを指定して [OK] をクリックします (既存のディレクトリ パスに新しいサブディレクトリを追加するには、[ディレクトリ] フィールドの最後をクリックし、スラッシュ (/) と新しいサブディレクトリ名を入力します)。
- 3 (オプション) [改訂番号] ボックスにプロジェクトの新しい改訂番号を入力します。この番号は、現在の改訂番号と同じか、それより新しい番号である必要があります (xxxx.yyyy の形式で入力)。この番号は [プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [改訂] タブに表示されます。
- 4 改訂番号を要求ドキュメントに適用するには、[すべてのドキュメントに伝播 (オフラインドキュメント以外)] チェック ボックスをオンにします。

**メモ：** プロジェクトにセキュリティが設定されている場合に、改訂番号をすべてのドキュメントに適用するには、プロジェクト構造の権限が必要です。また、プロジェクトを排他モードで開く必要があります。

- 5 このアーカイブ済みプロジェクトのバージョン番号を割り当てる場合は、[バージョンラベル] ボックスにアーカイブ済みバージョンの名前を入力し、[変更の説明] ボックスに説明を入力します。このラベルは[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの[改訂] タブに表示されます。このラベルにより、プロジェクトの特定バージョンの認識が容易になります。

[RequisitePro アーカイブ] コマンドでは、以下の処理を行います。

- アーカイブ ファイルを格納するディレクトリ (「bak」で始まる) を作成します。
- RequisitePro プロジェクトのファイル (.rqs と .rql) をディレクトリにコピーします。
- プロジェクトのすべてのドキュメントをディレクトリにコピーします。
- 元のプロジェクトのバージョンを更新します (プロジェクト構造を修正するためのセキュリティ権限を持っている場合)。

Microsoft Access を使用するプロジェクトの場合、[RequisitePro Archive アーカイブ] コマンドによって以下の処理も実行できます。

- プロジェクトのデータベース ファイル (.mdb) をディレクトリにコピーします。
- アーカイブ ディレクトリの .mdb ファイルをアーカイブのプロジェクト ドキュメントの場所で更新します。

エンタープライズ データベースを使用する プロジェクトの場合、.mdb ファイルはコピーも更新もされません。RequisitePro のソリューションを使用すると、設定の柔軟性が失われる場合があります。したがってデータベース管理者は、データベースの論理エクスポートを作成する必要があります。このファイルは RequisitePro で作成したアーカイブ ディレクトリに置く必要があります。ヘルプの、「エンタープライズ データベースのアーカイブおよびバックアップについてのヒント」を参照してください。

**メモ:** [アーカイブ] コマンドを使ってアーカイブを作成したプロジェクトを呼び出すには、そのプロジェクトをプロジェクトリストに追加し ([ファイル] メニューの [プロジェクトを開く] をクリックし、ダイアログ ボックスで [追加] をクリック)、RequisitePro でそのプロジェクトを開きます。

## Rational ClearCase を使用したプロジェクトのアーカイブ

ClearCase で RequisitePro プロジェクトをアーカイブする前に、ClearCase ビューと VOB をインストールしておく必要があります。複数プロジェクト間の追跡可能性が設定されているプロジェクトは、プロジェクト間の追跡可能性リンクの一貫性を保つために、同じ時点でアーカイブまたはバックアップする必要があります。詳細については、202 ページの「プロジェクトのアーカイブ」を参照してください。

Access データベースを使用しているプロジェクトをアーカイブする場合、すべてのプロジェクト ファイル、ドキュメント、データベースの内容がアーカイブに含められます。エンタープライズ データベースを使用しているプロジェクトをアーカイブする場合は、プロジェクト ファイルと 要求ドキュメントのみがアーカイブに含められます。使用しているデータベース ユーティリ ティを使用してエンタープライズ データベースをアーカイブする必要があります。

RequisitePro でデフォルトの ClearCase ビューを設定するには

- 1 [ツール] メニューの [オプション] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの [ClearCase ビュー] ボックスに、ターゲット VOB の 場所 (ドライブ、ビュー名、VOB 名、ディレクトリ) を入力します。この手順では、 アーカイブ処理中に RequisitePro データベースとドキュメントがコピーされるビューを 定義します。
- 3 [OK] をクリックします。

ClearCase を使用して RequisitePro プロジェクトをアーカイブするには

- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクト管理] で、[アーカイブ] をポイントし、 [Rational ClearCase] をクリックします。  
[ClearCase でアーカイブ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 バックアップ コピーを格納するディレクトリ (ClearCase ビュー) を選択します。[参照] を クリックして、[フォルダの参照] ダイアログ ボックスを開きます。ディレクトリに移動し、 フォルダを指定して [OK] をクリックします。
- 3 (オプション) [改訂番号] ボックスにプロジェクトの新しい改訂番号を入力します。この 番号は [プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [改訂] タブに表示されます。 これは ClearCase の改訂番号とは異なることに注意してください。
- 4 改訂番号を要求ドキュメントに適用するには、[すべてのドキュメントに伝播 (オフライン ドキュメント以外)] チェック ボックスをオンにします。

**メモ:** プロジェクトにセキュリティが設定されている場合に、改訂番号をすべてのドキュ メントに適用するには、プロジェクト構造の権限が必要です。また、プロジェクトを排他 モードで開く必要があります。

- 5 このアーカイブ済みプロジェクトのバージョン番号を割り当てる場合は、[バージョン ラベル] ボックスにアーカイブ済みバージョンの名前を入力し、[変更の説明] ボックスに 説明を入力します。このラベルは [プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [改訂] タブに表示されます。このラベルにより、RequisitePro 内からのプロジェクトの特定 バージョンの認識が容易になります。これは ClearCase のラベルとは異なることに注意し てください。

[Rational ClearCase] コマンド ([ファイル] メニューで [プロジェクト管理] をポイントして [アーカイブ] をクリック) では、以下の処理を行います。

- 最終アーカイブ時に保存したビューのパスを取得します。パスがない場合、[オプション] ダイアログ ボックスで指定されている、デフォルトのビューのパスが検索されます ([ツール] メニューの [オプション] をクリックします)。プロジェクトを初めてアーカイブする場合、ビューにアーカイブ ディレクトリが作成され、ClearCase の要素となります。ディレクトリはチェックアウトの状態になるため、該当するファイルがコピーされます。
- RequisitePro プロジェクトのファイル (.rqs と .rql) をディレクトリにコピーします。
- プロジェクトのすべてのドキュメントをディレクトリにコピーします。
- 元のプロジェクトの RequisitePro 改訂番号を更新します (プロジェクト構造を修正するためのセキュリティ権限を持っている場合)。
- すべてのファイルとディレクトリをチェックインします。

Microsoft Access を使用するプロジェクトの場合、Rational ClearCase の [アーカイブ] コマンド ([アーカイブ] をポイントし、[Rational ClearCase] をクリック) によって以下の処理も実行できます。

- プロジェクトのデータベース ファイル (.mdb) をディレクトリにコピーします。
- アーカイブ ディレクトリの .mdb ファイルを ClearCase ビューのプロジェクト ドキュメントの場所で更新します。

エンタープライズ データベースを使用する プロジェクトの場合、.mdb ファイルはコピーも更新もされません。RequisitePro のソリューションを使用すると、設定の柔軟性が失われる場合があります。したがってデータベース管理者は、データベースの論理エクスポートを作成する必要があります。このファイルは RequisitePro で作成したアーカイブ ディレクトリに保存し、その後で ClearCase にチェックインする必要があります。

## エンタープライズ データベースを使用するプロジェクトのアーカイブ

RequisitePro では、エンタープライズ データベース Oracle と SQL Server を使用して RequisitePro プロジェクトを操作することができます。これらのデータベースのいずれか 1 つを使用する RequisitePro プロジェクトをアーカイブする場合、気を付ける点がいくつかあります。

以下に、RequisitePro のプロジェクト管理者、データベース管理者 (DBA)、システム管理者がエンタープライズ データベースを使用した RequisitePro プロジェクトをアーカイブまたはバックアップする方法を順を追って説明します。これによって、データの損失を回避し、プロジェクトのアーカイブをすばやく確実に作成できます。

ClearCase で UCM モデルを実装している場合、アーカイブに対する代替方法として、ベースラインを作成することができます。ベースラインを作成すると、エンタープライズ データベースを使用したプロジェクトのアーカイブ作成を簡略化できます。211 ページの「UCM によるプロジェクトのベースラインの作成」を参照してください。

RequisitePro では、[RequisitePro アーカイブ] コマンドを使用するか、ClearCase を使用してプロジェクトをアーカイブできます。

[RequisitePro アーカイブ] コマンドを使用すると、以下の操作が実行されます。

- アーカイブ ファイルを格納するディレクトリ (「bak」で始まる) を作成します。
- RequisitePro
- プロジェクトのすべてのドキュメントをディレクトリにコピーします。

データベース管理者はデータベースの論理エクスポートを作成する必要があります。このファイルは RequisitePro で作成したアーカイブ ディレクトリに置く必要があります。

ClearCase のアーカイブ機能を使用すると、以下の操作が実行されます。

- 最後にアーカイブした場所に戻ります。
- RequisitePro プロジェクトのファイル (.rqs と .rql) をディレクトリにコピーします。
- プロジェクトのすべてのドキュメントをディレクトリにコピーします。

データベース管理者はデータベースの論理エクスポートを作成する必要があります。このファイルは RequisitePro で作成したアーカイブ ディレクトリに保存し、その後で ClearCase にチェックインする必要があります。

**メモ :** RequisitePro プロジェクトの復元が必要になる前に、アーカイブが正常に作成されたことを確認しておくことをお勧めします。プロジェクト データを復元しなければならなくなつてから、復元プロセスが正しく実行できないことに気付くのでは遅すぎます。アーカイブをどの範囲まで復元するかは、状況により異なります。

## 論理バックアップ

データベースの論理バックアップ (インポート/エクスポート) を行くと、データベース オブジェクトが、その物理的な位置に関係なくエクスポートされます。つまり、論理バックアップでは、テーブルの場所 (テーブル領域やデータファイルなど) に関係なく、テーブル内にあるデータがエクスポートされます。Oracle Export ユーティリティを使用すると、すべてのオブジェクトを含むファイルを特定のスキーマ内に作成できます。ファイルは、障害回復のために同じスキーマにインポートしたり、アーカイブ目的で別のインスタンスかスキーマにインポートできます。

同様に、SQL Server でも、すべてのデータベース オブジェクトを別の SQL Server にエクスポートできます。Oracle Export ユーティリティと異なり、SQL Server インポート/エクスポート ユーティリティでは、すべてのデータベース オブジェクトを 1 つのファイルにエクスポートすることはできません。ただし、SQL Server データベースに格納されているすべてのオブジェクトをバックアップ ファイルに格納できるため、Oracle Export ユーティリティと同じような結果が得られます。この方法でバックアップ ファイルを作成するには、Enterprise Manager for SQL Server を使用し、左側のペインで RequisitePro のデータを含むデータベースを選択し、右側の

ペインで [データベースのバックアップ] を選択します。[SQL Server バックアップ] ダイアログボックスで、[データベース - 全体] を選択します。生成されるバックアップ ファイルには、RequisitePro のデータベースに格納されているすべてのオブジェクトが含まれます。

論理バックアップの利点を以下に示します。

- 新しいバージョンの Oracle、SQL Server、RequisitePro にアップグレードする前に、論理バックアップを作成することをお勧めします。障害が発生した場合には、この論理バックアップを最新データとして使用することができます。最新のバージョンと以前のバージョンのデータベース形式に互換性がない場合、Oracle では論理バックアップが要求されることがあります。SQL Server の場合、SQL Server Enterprise Manager から物理バックアップ ([データベース - 全体]) を作成することをお勧めします。
- Oracle では、論理バックアップを使用すると、ブロックの破損を検出できます。エクスポート中に破損ブロックが検出されると、エクスポートは失敗します。正しくエクスポートするには、破損ブロックを修復する必要があります。
- 論理バックアップを使用して、テスト用または開発用の RequisitePro プロジェクトを作成できます。テスト用または開発用のコピーは、新しいリリースの RequisitePro のテストや、新しいユーザーのトレーニングに使用できます。
- Oracle の場合、論理バックアップを COALESCE と合わせて、範囲のデフラグに使用できます。
- 論理バックアップを使用すると、RequisitePro の Oracle スキーマを Oracle テーブル領域から別の領域に移動したり、別の Oracle スキーマ名を使用するなど、データベース構造を大幅に変更できます。また、RequisitePro のデータを、SQL Server の別のデータベースに移動することもできます。
- 論理バックアップは、データベース サーバーを変更する場合に役立ちます。

論理バックアップの最大の短所は、実行に時間がかかることです。RequisitePro のスキーマまたはデータベースのサイズが大きい場合、論理バックアップが完了するまでに数時間かかることがあります。世界中のあらゆる地域で 24 時間使用されている可用性の高いデータベースでは、論理バックアップに要する時間が、データベースの使いやすさという点で深刻な問題となっています。Oracle の場合、ユーザーに柔軟性を提供するために、差分、累積、完全な論理バックアップを組み合わせ使用します。SQL Server ユーザーは、Oracle ユーザーほど論理バックアップによる影響を受けません。

論理バックアップ中は、セッションを制限することをお勧めします。以下のコマンドシーケンスを使用すると、論理バックアップ中にデータベースを制限モードにできます。以下に、エクスポート中にデータベース

```
SVRMGR> shutdown immediate
```

```
SVRMGR> startup restrict open
```

```
exp userid=reqpro/reqpro...
```

```
SVRMGR> alter system disable restricted session;
```

SQL Server データベースをシングル ユーザー モードにするには、データベースを右クリックし、[プロパティ] を選択します。RequisitePro の [データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されたら、[オプション] タブの [アクセス] で [シングル ユーザー] を選択します。

## イメージ バックアップ

イメージ バックアップ (物理バックアップ) は、RequisitePro のデータベースをバックアップするための、論理バックアップに代わる方法です。論理バックアップとは異なり、イメージ バックアップでは、データベース ファイルの物理的なコピーが作成されます。イメージ バックアップは、その性質上、データベースとその現在の動作状態に密接に関連しています。たとえば、Oracle により、使用中の現在のログ シーケンス ファイル番号が記録されます。バックアップには、データベースを適切なログ シーケンス ファイル番号に戻すのに必要なすべての REDO ログ ファイルが含まれている必要があります。RequisitePro のプロジェクトが、ほかのアプリケーションからのデータとインスタンスを共有する場合は、イメージ バックアップを使用しないでください。

オフライン イメージ バックアップ (コールド バックアップ) とは、データベースが停止している間にデータベース ファイルの物理的なコピーを作成することです。オフライン イメージ バックアップの作成中に、RequisitePro のプロジェクト ファイルとドキュメントのバックアップも作成される場合は、RequisitePro データにオフライン イメージ バックアップを適用できます。

オンライン イメージ バックアップ (ホット バックアップ) とは、データベース ファイルのコピーを作成 (オフライン イメージ バックアップ) してから、Oracle の REDO ログ、または SQL Server のトランザクション ログをコピーすることです。Oracle でオンライン イメージ バックアップを作成するには、データベースを ARCHIVELOG モードにする必要があります。SQL Server の場合、RequisitePro のデータを含む SQL Server データベースのトランザクション ログがバックアップされるように管理作業を設定することをお勧めします。データベースに格納されているデータとプロジェクト ドキュメントとが常に一致するように、オンライン イメージ バックアップの実行中に RequisitePro が使用されていないことを確認してください。

## アーカイブからのプロジェクトの復元

RequisitePro プロジェクトをアーカイブから復元するには

- 1 復元するプロジェクトを格納するディレクトリを作成します。
- 2 次のいずれかを実行します。
  - [RequisitePro アーカイブ] コマンドを使用した場合は、アーカイブ ディレクトリのすべてのファイルを新しいディレクトリにコピーします。
  - [Rational ClearCase] コマンドを使用してプロジェクトをアーカイブした場合は、すべてのファイルを ClearCase ビューから新しいディレクトリにコピーします。

**3** プロジェクトで Microsoft Access データベースを使用している場合、この新しい場所からプロジェクトの使用を開始できます。プロジェクトでエンタープライズ データベースを使用している場合、次のことを行う必要があります。

- 論理バックアップを含むファイルを、該当するインポートユーティリティ (SQL Server Enterprise Manager) から復元します。
- プロジェクトを復元する方法によっては、データベース、テーブル領域、ユーザー、ロールなどのデータベース オブジェクトの作成が必要になることがあります。
- Oracle を使用している場合、別名が正しいデータベースを示していることを確認します。
- サーバー名、データベース名、ユーザー名の変更内容によっては、プロジェクト ファイル (.rqs と .rql) の変更が必要になることもあります。この変更を行うには、[ファイル] メニューの [プロジェクトを開く] をクリックし、プロジェクトを追加して、プロジェクトを選択した状態で [プロパティ] をクリックします。
- プロジェクトを開いたら、(プロジェクトのアーカイブ前に) 元のプロジェクト ディレクトリに存在しなかったドキュメントに対する参照を更新して、新しい場所を反映する必要があります。参照を更新するには、RequisitePro でドキュメントを開き、[ドキュメント検索] ダイアログ ボックスを表示します。次に、[参照] をクリックして、新しいディレクトリ内のドキュメントを開きます。

**メモ：**アーカイブ済みのプロジェクトに対して行った変更は、ほかのプロジェクト内にはマージできません。

## プロジェクトに関する改訂情報の表示と入力

---

プロジェクトの最新の改訂版についての情報を表示するには、[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [改訂] タブを使用します。ここで最新の改訂版に関する情報を入力したり、プロジェクトの改訂履歴にアクセスしたりできます。

[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスを開くには、エクスプローラでプロジェクトを選択し、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。[改訂] タブをクリックします。

- [改訂] ボックスには改訂番号が表示されます。この読み取り専用テキスト ボックスは、RequisitePro の [アーカイブ] コマンドを使用してプロジェクトをアーカイブした場合 (または ClearCase にチェックインされている場合) 以外は編集できません。プロジェクトをアーカイブするときのみ、改訂番号を上書きできます。使用する新規改訂番号は既存番号より大きくし、N.m の形式 (2.5 など) で表します。
- [ラベル] ボックスには、改訂版の名前 (最大 20 文字) が表示されます。このフィールドはオプションで、プロジェクト プロパティを変更した場合のみ使用できます。

- [日付]、[時間]、[作成者] ボックスは読み取り専用です。これらのテキストボックスには、プロジェクトの変更日時と最後の変更を行ったユーザーの名前が表示されます。
- [変更の説明] ボックスには、プロジェクトの変更内容が表示されます。ダイアログボックスのほかのタブでプロジェクトプロパティが変更された場合は、このフィールドに情報を入力できます。それ以外は、このフィールドは読み取り専用です。
- [履歴] をクリックすると、プロジェクトの変更履歴を表示するダイアログボックスが表示されます。

## UCM によるプロジェクトのベースラインの作成

---

RequisitePro プロジェクトで UCM (統一変更管理) モデルを使用する場合、プロジェクトのベースラインを作成することができます。RequisitePro プロジェクトの管理者は、ClearCase と Rational Administrator で作業を行い、UCM モデルを実装して、RequisitePro プロジェクトのベースラインを作成できます。UCM の詳細については、246 ページの「Rational の UCM を使用したプロジェクトベースラインの作成」を参照してください。

UCM モデルを使用しないプロジェクトのアーカイブの詳細については、204 ページの「Rational ClearCase を使用したプロジェクトのアーカイブ」を参照してください。

ベースラインからプロジェクトを作成する場合、複数プロジェクト間の追跡可能性リンク、ディスカッション情報、元のベースラインプロジェクトからの Rational ClearQuest、Rational Rose、Rational XDE の関連付けは、新規に作成するプロジェクトには維持されません。179 ページの「ベースラインからの RequisitePro プロジェクトの作成」を参照してください。

以下の条件が満たされている場合、RequisitePro プロジェクトのベースラインを作成できます。

- RequisitePro プロジェクトは、Rational Administrator で、UCM の使用が可能な Rational プロジェクトと関連付けられている必要があります。
- RequisitePro プロジェクトはバージョン付きである必要があります。
- すべてのユーザーが RequisitePro プロジェクトを閉じておく必要があります。

RequisitePro プロジェクトをチェックインするには

- 1 [ツール] から [Rational Administrator] をクリックし、Rational Administrator を開きます。
- 2 Rational Administrator プロジェクトを選択して右クリックし、[設定] をクリックします。
- 3 [プロジェクトの設定] ダイアログボックスの [要求アセット] 領域で [すべてチェックイン] をクリックします。
- 4 続いて表示されるメッセージで選択項目を確認し、[すべてチェックイン] ダイアログボックスでベースラインを説明するアクティビティを入力します。

- 5 チェックイン操作が完了したら、[プロジェクトの設定] ダイアログ ボックスを閉じます。
- プロジェクトのチェックインに必要な時間は、要求タイプ、ドキュメント、プロジェクトに保存されているビューの数に比例します。

ベースラインを作成するには

- 1 Rational ClearCase プロジェクト エクスプローラを開きます (Rational Administrator の [ツール] メニューから [Rational ClearCase プロジェクト エクスプローラ] をクリックします)。
- 2 関連する UCM プロジェクトの統合ストリームを右クリックし、[ベースラインの作成] をクリックします。
- 3 [ベースライン タイトル] を入力または編集し、[ビュー コンテキスト] を選択した後、[OK] をクリックします。

**メモ:** 現在チェックアウトされている要素がインテグレーション ビューに含まれているというメッセージが表示されますが、無視してもかまいません。RequisitePro プロジェクトのベースラインを作成している場合、すべてのファイルをチェックインする必要はありません。

## プロジェクト データベースからのドキュメントと要求の削除

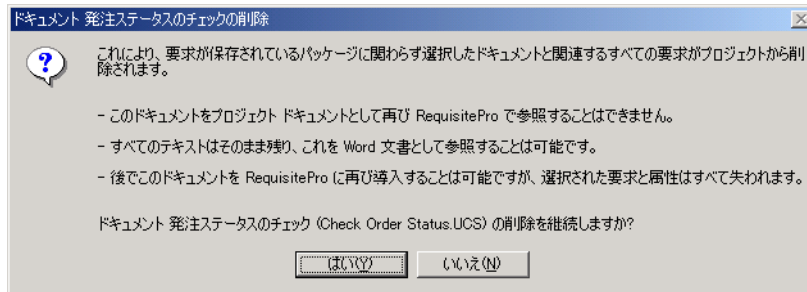
---

ドキュメントとその要求をプロジェクト データベースから削除すると、要求フォーマットと要求が削除され (テキストはそのまま)、ドキュメントは RequisitePro 外から Word ドキュメントとしてのみ参照できるようになります。ドキュメントと要求を削除するには、プロジェクトへの排他アクセスが必要です。[排他的] オプションについては、28 ページの「プロジェクトとプロジェクト パッケージの操作」を参照してください。

ドキュメントを削除する前に、ドキュメント内の要求がほかのパッケージに割り当てられている可能性があることに注意してください。ドキュメントを削除すると、すべての要求も削除されます。そのドキュメント内の要求の要求タイプに対する属性マトリックス ビューを作成することをお勧めします。要求が保存されているドキュメントを特定するために [場所] 属性をオンにし、要求がほかのパッケージに関連付けられているかどうかを特定するために [パッケージ] 属性をオンにします。

ドキュメントと要求を削除するには

- 1 エクスプローラでドキュメントを選択し、[編集]メニューの[削除]をクリックします。  
確認のダイアログボックスが表示されます。



- 2 [はい]をクリックします。要求の書式設定がドキュメントから削除され、要求がプロジェクトデータベースから削除されます。テキストはすべてドキュメント内に残るため、RequisitePro 内のドキュメントを Microsoft Word ドキュメントとして (要求ドキュメントとしてではなく) 開くか、RequisitePro を使用せずに Word で開くことができます。

## プロジェクトの移動

RequisitePro のプロジェクトをコピーまたは移動するために、ある場所から別の場所にプロジェクトディレクトリをコピーしないでください。複数プロジェクト間の追跡可能性が設定されている場合、内部の一意の識別子が競合する可能性があります。

プロジェクト ファイルを新しい場所に移動するには

- 1 プロジェクトリストからプロジェクトを削除します。[ファイル]メニューの[プロジェクトを開く]をクリックし、[プロジェクトの選択]フィールドでプロジェクト名を選択して、[削除]をクリックします。
- 2 Windows エクスプローラを使用して、プロジェクト ファイル (.rqs、.rql) を新しい保存場所にコピーします。プロジェクトが Microsoft Access で作成されたものである場合、Access データベース ファイル (.mdb) を新しい場所にコピーします。
- 3 新しい保存場所にあるプロジェクトをプロジェクトのリストに追加します。[ファイル]メニューの[プロジェクトを開く]をクリックし、[プロジェクトを開く]ダイアログボックスの[プロジェクトの選択]ボックスで[追加]をクリックします。
- 4 元のプロジェクトディレクトリと、プロジェクトのドキュメントを含むすべてのディレクトリの名前を変更します (これが非常用のバックアップになります)。移動が正常に実行されたことを確信したら、このディレクトリは削除してもかまいません。元のディレクトリのコピーを保存する場合は、次の項を参照してください。

- 5 RequisitePro でプロジェクトを開きます。プロジェクト ディレクトリに格納されていないプロジェクト ドキュメントを最初に開くときは、そのドキュメントの格納場所を指定するよう要求されます。ドキュメントを新しい保存場所から選択します。

**メモ：**プロジェクト ディレクトリに格納されていないドキュメントを開こうとすると、そのドキュメントを探し、新しい場所から選択するよう要求されます。統合された製品を使用している場合、プロジェクトの移動後に統合の再設定が必要です。詳細については、『Rational Suite 管理ガイド』を参照してください。

プロジェクト データを新しいデータベースに移動する場合は、データ トランスポート ウィザードを使用します。Oracle データベースの SQL Server 全体 (データベース内のすべての RequisitePro プロジェクトを含む) を別のサーバーに移動する場合は、データベース システムに付属している固有ツールを使用します。詳細については、データベース管理者に問い合わせてください。

## プロジェクトのコピー

---

RequisitePro プロジェクトの構造かデータ (またはその両方) はコピーできますが、プロジェクト ディレクトリをある場所から別の場所にコピーしないようにしてください。複数プロジェクト間の追跡可能性が設定されている場合、内部の一意の識別子が競合する可能性があります。

RequisitePro プロジェクトでエンタープライズデータベースを使用している場合、プロジェクト ディレクトリをコピーしても、プロジェクト データベースはコピーされません。プロジェクトの両方のコピーが、エンタープライズデータベースの同じインスタンスを参照し、ドキュメントと要求の更新で競合が発生します。

RequisitePro プロジェクトの構造とデータは、次のいずれかの方法でコピーできます。

- RequisitePro のプロジェクトで Access データベースを使用している場合、別の場所にプロジェクトを移動してバックアップ コピーを保存できます。詳細については、前の項を参照してください。
- すべてのプロジェクトで、プロジェクトに基づきテンプレートを作成したり、そのテンプレートに基づくプロジェクトを作成できます。ドキュメントタイプ、要求タイプ、属性、ユーザー権限、グループ権限、ビューは、デフォルトでテンプレートと新規プロジェクトにコピーされます。これにプロジェクト データを含めることもできます。171 ページの「RequisitePro プロジェクトの作成」を参照してください。
- ClearCase で UCM モデルを実装している場合、プロジェクトをベースラインから作成できます。ベースラインが設定されたプロジェクトから、すべてのデータを新規プロジェクトにコピーできます。179 ページの「ベースラインからの RequisitePro プロジェクトの作成」を参照してください。

また、プロジェクトを分割し、ある要求を別の要求とは異なるプロジェクトに保持することもできます。分割する前に、元のプロジェクトをアーカイブすることをお勧めします。分割したプロジェクトをマージして 1 つのプロジェクトに戻すことはできません。

- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクト管理] をポイントし、[アーカイブ] をクリックし、RequisitePro のプロジェクト (A) の物理的なコピー (B) を作成します。
- 2 RequisitePro でコピー (B) を開き、[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [全般] タブでプロジェクト名を変更します。
- 3 各プロジェクト内の要求を削除し、各要求のコピーが各プロジェクトに 1 つだけ残るようにします。詳細については、133 ページの「要求の削除」を参照してください。

## データベース間でのプロジェクトの移動

---

データ トランスポート ウィザードを使用すると、Microsoft Access、Oracle、SQL Server 間で RequisitePro プロジェクトを移動できます。このウィザードでは、SQL Server か Oracle のプロジェクトを同じタイプの別のデータベースに移動することもできますが、2 つの Access データベース間でデータを移動することはできません。また、一度に 1 つずつプロジェクトを移動するため、複数プロジェクト間の追跡可能性によって接続されている複数のプロジェクトは移動できません。

データ トランスポート ウィザードを使用してデータベース タイプを変換するには、以下の条件を満たしている必要があります。いずれかの条件が満たされていないと、警告メッセージが表示されます。

- プロジェクトは、RequisitePro の最新バージョンで保存します。
- プロジェクトに対して、管理者権限を持っている必要があります。
- 移動先のデータベースに対して、ログオンと書き込みの権限を持っている必要があります。
- エンタープライズ データベースにアクセスするには、データベース管理者にユーザー名とパスワード、サーバー名、スキーマ名を確認する必要があります。

**メモ：**すべての RequisitePro ユーザーがプロジェクトを閉じていることを確認してから、続行してください。移動する前に、移動元データベース、移動先データベース、関連ドキュメントをアーカイブ (バックアップ) するようにしてください。エンタープライズ データベースの設定の詳細については、『Rational Software デスクトップ製品インストール ガイド』を参照してください。

以下のマニュアルには、RequisitePro のヘルプ ディレクトリ (<install drive>\¥Program Files¥Rational¥RequisitePro¥help) からアクセスできます。

- Oracle データベースの構成 (oraclesetup.html)
- SQL サーバー データベースの構成 (sqlsetup.html)

## データ トランスポート ウィザードの起動

データベース タイプを変換する前に、変換元データベース、変換先データベース、関連ドキュメントをアーカイブ (バックアップ) してください。202 ページの「プロジェクトのアーカイブ」を参照してください。

**メモ:** ウィザードを実行する前に、いったん RequisitePro を開く必要があります。その後、ウィザードを起動する前に、開いている RequisitePro プロジェクトをすべて閉じてください。

Windows エクスプローラで、データ トランスポート ウィザードを開きます。実行可能ファイル `rqdatatransportwiz.exe` は `Rational¥RequisitePro¥bin¥` ディレクトリにあります。

データ トランスポート ウィザードの最初の画面が表示されます。ウィザードの各画面には [ヘルプ] ボタンがあります。各画面での操作に関する説明を表示するには、その画面の [ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

## Oracle データベースへのプロジェクト データの移動

RequisitePro プロジェクトを Oracle データベースに移動するには、以下の手順に従います。データベース全体 (データベース内のすべての RequisitePro プロジェクトを含む) を別のサーバーに移動する場合は、Oracle に付属している固有ツールを使用します。詳細については、データベース管理者に問い合わせてください。

プロジェクトを別のデータベースに移動する前に、アーカイブを作成することをお勧めします。[ファイル] メニューの [プロジェクト管理] で [アーカイブ] をポイントし、[RequisitePro アーカイブ] をクリックします。変換先のデータベースには、RequisitePro スキーマが設定されている必要があります。詳細については、ヘルプの「Oracle データベースの構成」を参照してください。

- 1 Windows エクスプローラでデータ トランスポート ウィザードを開きます (前の項を参照してください)。
- 2 データ トランスポート ウィザードの最初の画面で [次へ] をクリックし、次に [参照] をクリックして変換するプロジェクトを選択します。
- 3 [ターゲット データベース] 画面で [選択] をクリックし、[データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスを開きます。タイプは [Oracle] を選択し、[設定] をクリックします。[Microsoft ODBC for Oracle セットアップ] ダイアログ ボックスが表示されます。[データソース名] ボックスと [説明] ボックスに入力されているデフォルト値は、変更しないでください。
- 4 [ユーザー名] ボックスに、Oracle データベースにログインするときのユーザー名を入力します。ここには、Oracle データベース管理者から指定されたユーザー名を入力します。
- 5 [サーバー] ボックスに、コンピュータの設定時に作成した別名 (OracleDB など) を入力します。

- 6 [OK] をクリックし、データ トランスポート ウィザードのプロジェクトとデータベースの設定画面に戻ります。
- 7 [アカウント情報] をクリックし、データベースのアカウント情報を入力し、画面の指示に従います。[スキーマ] には、プロジェクト保存用としてデータベース管理者により確立されているデータベース スキーマを入力します。すべてのプロジェクトで同じデータベース スキーマを使用できます。次に、変換レポートを表示して、ウィザードを終了します。

## SQL Server データベースへのプロジェクト データの移動

RequisitePro プロジェクトのデータを SQL Server データベースに移動するには、以下の手順に従います。データベース全体 (データベース内のすべての RequisitePro プロジェクトを含む) を別のサーバーに移動する場合は、SQL Server に付属している固有ツールを使用します。詳細については、データベース管理者に問い合わせてください。

**メモ :** プロジェクトを別のデータベースに移動する前に、アーカイブを作成することをお勧めします。[ファイル] メニューの [プロジェクト管理] で [アーカイブ] をポイントし、[RequisitePro アーカイブ] をクリックします。変換先のデータベースには、RequisitePro スキーマが設定されている必要があります。SQL Server セットアップを [カスタム] または [全作成] のインストール方法でインストールします。次に、ヘルプ トピックの「SQL Server データベースの構成」を参照してください。

- 1 Windows エクスプローラで、データ トランスポート ウィザードを開きます。実行可ファイル `rqdatatransportwiz.exe` は `Rational¥RequisitePro¥bin¥` ディレクトリにあります。
- 2 データ トランスポート ウィザードの最初の画面で [次へ] をクリックし、次に [参照] をクリックして変換するプロジェクトを選択します。
- 3 [ターゲット データベース] 画面で [選択] をクリックし、[データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスを開きます。タイプは [SQL Server] を選択し、[設定] をクリックします。
- 4 [SQL Server に接続するための新規データ ソースを作成する] ダイアログ ボックスでは、[名前] ボックスと [説明] ボックスの内容を変更しないでください。[サーバー] ボックスにデータベース管理者から指定された SQL Server の名前を入力します。[次へ] をクリックします。
- 5 次の画面で、[ユーザーが入力する SQL Server 用のログイン ID とパスワードを使う] オプションを選択します (RequisitePro は、Windows NT の認証をサポートしていません)。[SQL Server に接続して追加の構成オプションの既定設定を取得する] チェック ボックスをオンにします。データベース管理者から指定されたログイン ID とパスワード (ReqPro や reqpro など) を入力します。[次へ] をクリックします。
- 6 [デフォルト データベースに設定する] チェック ボックスをオンにして、データベース管理者から指定されたデータベース名 (RequisitePro など) を指定します。[次へ] をクリックします。

- 7 [次へ] をクリックして、デフォルトの言語、文字、地域の各設定をそのまま使用します。  
後の画面に表示されるログファイルの使用はオプションです。[SQL Server のシステム  
メッセージの言語を変更する] チェック ボックスはオンにしないでください。このチェック  
ボックスをオンにすると、初回作成時以後プロジェクトを開くことができなくなります。  
[完了] をクリックします。
- 8 [ODBC Microsoft SQL Server Setup] ダイアログ ボックスで、[Test Data Source] をクリック  
します。[SQL Server ODBC Data Source Test] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリック  
します。次に、[OK] をクリックし、データ トランスポート ウィザードのプロジェクトと  
データベースの設定画面に戻ります。
- 9 [アカウント情報] をクリックしてデータベースのアカウント情報を入力し、画面の指示に  
従います。[スキーマ] には、データベース テーブルの所有者のユーザー名を入力します。  
次に、変換レポートを表示して、ウィザードを終了します。

## RequisitePro のファイル タイプ

---

RequisitePro では、以下のファイル拡張子を使用します。

ファイル拡張子	定義
.rqs	RequisitePro プロジェクトの情報ファイル。
.mdb	RequisitePro プロジェクトのデータベース (Microsoft Access を使用)。 このファイルは、エンタープライズ データベースでは使用されません。
.rql	ODBC とデータベース アカウントの情報を定義した RequisitePro プロジェクト ファイル。
.xml	構造、セキュリティ、権限の情報を含む RequisitePro プロジェクト ファイル。
.doc	Microsoft Word ドキュメント ファイル。
.bak	バックアップ ドキュメント ファイル。
.dot	Microsoft Word テンプレート。
.def	アウトラインの定義ファイル。
.txt .mnu	ツールバーにコマンドを追加するために使用するテキスト形式の メニュー ファイル。
.hlp	Windows アプリケーションのヘルプ ファイル。

プロジェクト管理者は、Rational RequisitePro プロジェクトに関する以下のような情報を変更できます。

- プロジェクトの一般情報
- パッケージ
- ドキュメントの一般情報
- ドキュメント タイプ
- 要求タイプ
- 要求属性
- 属性値
- 複数プロジェクト間の追跡可能性

データベースの表示やレポートの生成もできます。

## 一般的なプロジェクト情報について

---

[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [全般] タブで、RequisitePro プロジェクトの一般情報の作成と変更を行います。

- 1 エクスプローラでプロジェクトを選択し、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 2 [全般] タブをクリックします。

- 3 [名前] ボックスで、プロジェクト名 (64 文字以内) を入力または変更します。

プロジェクトの名前を変更した場合は、.rqs ファイル、.rql ファイル (Microsoft Access プロジェクトの場合は .mdb ファイル)、プロジェクトが保存されているフォルダの名前を、新しいプロジェクト名を反映したものに更新してください。次に、プロジェクトにアクセスするすべてのクライアント コンピュータについて、[プロジェクトを開く] ダイアログ ボックスで、新しい名前を付けたプロジェクトを追加する必要があります。

- 4 [プレフィックス] ボックスでプロジェクトのプレフィックスを入力または変更します。  
複数プロジェクト間の追跡可能性の外部プロジェクトとしてプロジェクトを参照する場合に、この識別子を使用してプロジェクトの要求と要求タイプが識別されます。  
  
プレフィックスは 8 文字以内で、大文字で保存されます。変更はいつでも可能です。
- 5 [ディレクトリ] ボックスに、**RequisitePro** でプロジェクトを格納する場所のパスを指定します。新規プロジェクトの場合、プロジェクトディレクトリを入力するか、[参照] をクリックします。プロジェクトを作成した後は、このボックスの内容を変更できません。  
  
後でプロジェクトディレクトリをファイル システム内のほかの場所に移動することにより、プロジェクトを移動することができます。新しい保存場所のプロジェクトにアクセスするには、そのプロジェクトをプロジェクト リストに追加する必要があります。
- 6 [データベース] ボックスには、そのプロジェクトで使用するデータベースのタイプが表示されます。プロジェクトは、**Microsoft Access**、**SQL Server**、**Oracle** のいずれかで作成できます。データベースのタイプを変更するには、データ トランスポート ウィザードを実行する必要があります。[プロパティ] をクリックし、[データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスを開きます。ここではデータベースに関する情報の表示と変更ができます。
- 7 [説明] ボックスに、プロジェクトの目的と内容についての説明を入力するか、既存の説明を変更します。この手順はオプションです。
- 8 [OK] をクリックします。

## パッケージについて

---

プロジェクト情報は、パッケージ内のフォルダにまとめられています。パッケージとは、関連する成果物を集めたものです。プロジェクトのルート パッケージはプロジェクト ノードとして表示され、各ルート パッケージの内容がその下に表示されます。要求情報をパッケージに編成することにより、チーム メンバーは必要な情報を簡単に参照できるようになります。パッケージは、必要に応じて、作成、名前変更、移動、削除ができます。パッケージを使用して、チーム メンバーのニーズに合った、チーム プロセスと互換性のある方法でプロジェクト成果物を編成してください。たとえば、ドキュメント、要求、ビューを機能別、コンポーネント別、チーム別にグループ化してパッケージに編成できます。パッケージ間で成果物を移動するには、成果物をドラッグ アンド ドロップするか、成果物の [プロパティ] ダイアログ ボックスで [パッケージ] の設定を変更します。

既存の **RequisitePro** プロジェクトからプロジェクト テンプレートを作成して、チームのすべてのプロジェクトで一貫性のあるパッケージ構造を使用するようにしてください。

パッケージ自体にはセキュリティ権限を設定できませんが、パッケージの要素 (要求、ドキュメント、ビューなど) にはセキュリティ権限を設定できます。

パッケージをネストして、1つのパッケージに別のパッケージを含めることができます。特定パッケージ内の要求に対するクエリーを実行すると、パッケージ内のクエリーに一致する要求が返されます。クエリーの実行結果には、選択したパッケージ内のネストされたパッケージに保存されている要求は含まれません。

パッケージを作成するには

- 1 エクスプローラでプロジェクト名か既存のパッケージを選択し、[ファイル]メニューの[新規作成]をポイントして[パッケージ]をクリックします。  
[パッケージプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [名前]ボックスに、エクスプローラで一覧表示するときのパッケージ名を入力します。名前には、カンマ、色、印刷できない文字、キャリッジリターンを含めることはできません。また、同じ場所にあるほかのパッケージと同じ名前は指定できません。
- 3 [説明]ボックスにパッケージの簡単な説明を入力します。
- 4 [OK]をクリックします。

新しいパッケージは、手順1で選択したプロジェクトまたはパッケージ内にネストされた状態でエクスプローラに表示されます。

パッケージの名前を変更するには

- 1 エクスプローラで、名前を変更するパッケージを選択し、[ファイル]メニューの[プロパティ]をクリックします。  
[パッケージプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [名前]ボックスで、パッケージ名を編集します。同じ場所に保存されている別のパッケージと同じ名前は指定できません。
- 3 [OK]をクリックします。

名前を変更したパッケージは、新しい名前のアルファベット順にエクスプローラに表示されます。

以下の2つのうちいずれかの方法で、成果物(要求、ビュー、ドキュメント、ほかのパッケージ)をパッケージ間で移動できます。

- エクスプローラで、成果物を別のパッケージにドラッグアンドドロップします。パッケージ名が、同じ場所にあるほかのパッケージ間で一意であることを確認してください。
- エクスプローラで成果物を選択して、[ファイル]メニューの[プロパティ]をクリックし、[プロパティ]ダイアログボックスでパッケージ割り当てを変更します。

パッケージを削除する前に、パッケージが空になっていることを確認する必要があります (空のパッケージでは、パッケージ名の下にインデントされた成果物は表示されません)。

- 1 エクスプローラでパッケージのビューを展開して、パッケージ内のすべての成果物を表示します。

- 2 パッケージ内のすべての成果物を移動または削除します。

成果物を削除するには、別のパッケージへドラッグするか、パッケージ内のアイテムを選択して [編集] メニューの [削除] をクリックします。この操作を行うと、成果物はプロジェクトから完全に削除されます。

- 3 パッケージを選択して [編集] メニューの [削除] をクリックします。

パッケージがエクスプローラとプロジェクト データベースから削除されます。

## ドキュメント情報について

---

[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスでは、ドキュメントの一般情報とドキュメント タイプ情報を変更できます。

### ドキュメント情報の表示と変更

- 1 エクスプローラでプロジェクトを選択して、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 2 [ドキュメント] タブをクリックします。

- 3 次の手順を実行します。

- [ドキュメントを RequisitePro 形式で保存する] チェック ボックスをオンまたはオフにします。このチェック ボックスをオンにした場合、ドキュメントが保護されるため、RequisitePro 外部の Word からは開くことができなくなります。このチェック ボックスをオフにすると、ドキュメントはセキュリティで保護されなくなるため、ドキュメントは Word 形式で保存され、RequisitePro 外部の Word で開くことができるようになります。
- [ドキュメントの拡張編集を有効にする] チェック ボックスをオンまたはオフにします。このチェック ボックスをオンにした場合、RequisiteWeb か Rational Rose ユース ケース (統合ユース ケース管理機能) のビュー内で、要求テキストの変更や保存ができます。ドキュメント内の要求テキストを変更するには、チェック ボックスをオンにする必要があります。

- 4 [OK] をクリックします。

## ドキュメント タイプについて

ドキュメント タイプを作成したり、既存のドキュメント タイプを変更したりできます。不要になったドキュメント タイプは削除できます。

ドキュメント タイプとは、RequisitePro のドキュメントに適用されるテンプレートのことです。あるドキュメント タイプの RequisitePro ドキュメントを作成すると、各ドキュメントでそのタイプがアウトラインとして使用されます。ドキュメントのファイル拡張子（たとえば .prd）は、ドキュメント タイプで定義されます。同じドキュメント タイプを持つドキュメントは、すべて同じファイル拡張子を共有します。ドキュメント タイプではデフォルトの要求タイプを指定します。ドキュメントに新規要求を作成すると、特に指定のないかぎりデフォルトの要求タイプになります。ドキュメント タイプは、ドキュメントのアウトライン（テンプレート）も指定します。ドキュメント タイプによって、ページ レイアウト、見出しや段落のスタイル、デフォルト フォントなどが制御されます。

プロジェクトを作成または変更する場合は、そのプロジェクトで使用するドキュメント タイプを決定してください。テンプレートを使用してプロジェクトを作成すると、デフォルトのドキュメント タイプが含まれますが、ドキュメント タイプは随時追加または変更できます。プロジェクト内の各ドキュメントは、ドキュメント タイプと関連している必要があります。複数のドキュメントを同じドキュメント タイプに関連付けることができます。

ドキュメントを作成するときに、プロジェクト内で既に定義されているドキュメント タイプにそのドキュメントを関連付けることができます。新規ドキュメントには、ドキュメント タイプに関連付けられているスタイル属性と機能属性が継承されるので、同じ種類のすべてのドキュメントで一貫性が保たれます。

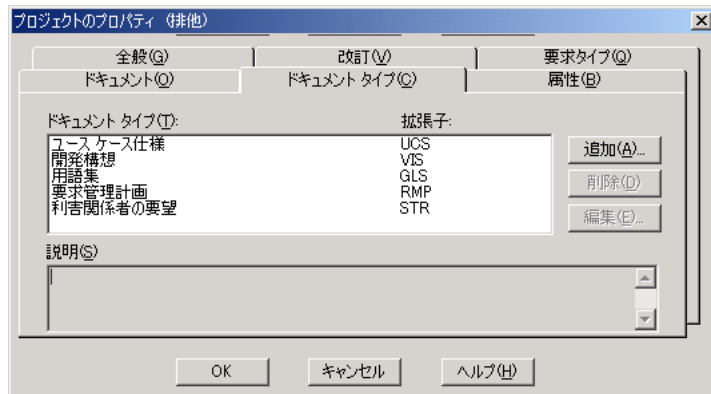
各ドキュメント タイプに共通のフォーマットを定義するには、RequisitePro に備わっているアウトラインを選択して、新規ドキュメント タイプまたは既存のドキュメント タイプに関連付けます。

### ドキュメント タイプの作成と変更

- 1 エクスプローラでプロジェクトを選択し、[ファイル]メニューの[プロパティ]をクリックします。

[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

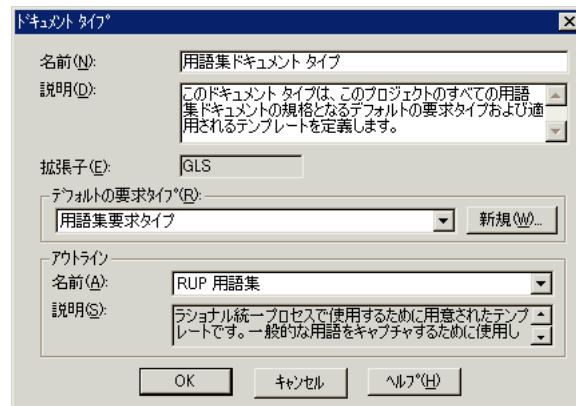
- 2 [ドキュメント タイプ] タブをクリックします。



- 3 次のいずれかを実行します。

- 新規ドキュメント タイプを追加するには、[ 追加 ] をクリックします。
- 既存のドキュメント タイプを変更するには、リストから要求タイプを選択し、[ 編集 ] をクリックします。

[ドキュメント タイプ] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 4 [名前] ボックスで、ドキュメント タイプの一意の名前を入力または変更します (半角で最大 64 文字)。
- 5 (オプション) [説明] ボックスで、説明を入力または変更します。

- 6 [ファイルの拡張子] ボックスで、ファイル拡張子を入力または変更します。3 文字のテキスト文字列を入力します。オペレーティング システムが長いファイル名をサポートしている場合は、4 文字以上の拡張子も入力できます (RequisitePro のファイル拡張子には、20 文字まで入力できます)。ファイル拡張子は、そのドキュメント タイプに関連付けられたすべてのドキュメントに適用されます。
- 7 [デフォルトの要求タイプ] リストで要求タイプを選択します。
- 8 リストからアウトラインを選択します。デフォルトの[なし]を使用すると、ドキュメントは Microsoft Word の normal.dot テンプレートに関連付けられます。使用できるアウトラインの詳細については、226 ページの「RequisitePro ドキュメントのアウトラインの使用法」を参照してください。  
  
**メモ:** 新しいアウトラインを選択した場合、そのアウトラインは、新規ドキュメントにのみ適用されます。既存のドキュメントは、変更による影響を受けません。
- 9 [OK] をクリックします。リスト ボックスに、新規作成または変更されたドキュメント タイプが表示されます。
- 10 [プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックします。

**メモ:** ドキュメント タイプと関連する .dot ファイルを編集して、会社名や自分の組織に特有のその他の情報を書き込むことができます。これらの情報は、Microsoft Word で、[ファイル] をクリックすると表示される [プロパティ] ダイアログ ボックスに入力します。次に、ドキュメント内の [会社名] ボックスを右クリックし、[フィールドの更新] をクリックします。

## ドキュメント タイプの削除

あるドキュメント タイプのドキュメントがプロジェクト内に 1 つも存在しない場合、そのドキュメント タイプはリストから削除できます。セキュリティを有効にしている場合、ドキュメント タイプを削除するにはプロジェクト構造の権限が必要です。

- 1 エクスプローラでプロジェクトを選択し、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。  
  
[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [ドキュメント タイプ] タブをクリックします。
- 3 [ドキュメント タイプ] リストで、削除するドキュメント タイプを選択します。
- 4 [削除] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。

## RequisitePro ドキュメントのアウトラインの使用法

アウトラインは、同タイプの複数の RequisitePro ドキュメント間で一貫性を保つのに便利なドキュメント テンプレートです。アウトラインを使用することで、ユーザーのニーズを記述したドキュメント、仕様、テスト計画を迅速に作成できます。

RequisitePro の新規ドキュメントには、デフォルトのフォーマット情報が含まれています。新規ドキュメントは、デフォルトのファイル拡張子、デフォルトの要求タイプ、関連するアウトラインを含むドキュメント タイプに基づいて作成します。[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [ドキュメント タイプ] タブで、ドキュメント タイプにアウトラインを割り当てることができます。

RequisitePro には、プロジェクトでドキュメント タイプを作成する場合に使用できる以下のアウトラインが含まれています。

- ソフトウェア要求アウトライン
- 現代のソフトウェア要求の仕様
- 機能テスト ケースの仕様

RequisitePro には、以下のような 要求管理用 RUP (Rational Unified Process) アウトラインがあります。

- RUP 要求管理計画
- RUP 用語集
- RUP ビジョン ドキュメント
- RUP 利害関係者の要求
- RUP ユース ケースの仕様
- RUP ユース ケース ソフトウェア要求の仕様
- RUP テスト計画

RequisitePro には、ビジネス モデリング用の以下のアウトラインが用意されています。

- RUP ビジネス用語集
- RUP ビジネス ルール
- RUP ビジネス ビジョン ドキュメント
- RUP ビジネス ユース ケースの仕様
- RUP ビジネス ユース ケース実現の仕様
- RUP 補足ビジネス仕様

RequisitePro に付属のプロジェクトテンプレートには、それぞれのドキュメントアウトラインが含まれています。172 ページの「RequisitePro プロジェクトテンプレート オプションについて」を参照してください。

**メモ :** Rational TestManager がインストールされている場合、それを使用してすべてのテスト設計を開発することをお勧めします。テスト関連のアウトラインは、TestManager を使用していないユーザーのために、RequisitePro に含まれています。

ドキュメントタイプと関連する .dot ファイルを編集して、会社名や自分の組織に特有のその他の情報を書き込むことができます。Microsoft Word の [ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックし、表示されるダイアログボックスに、会社名やその他の情報を入力します。次に、ドキュメント内の [会社名] ボックスを右クリックし、[フィールドの更新] をクリックします。

## 独自のアウトラインの作成

RequisitePro のドキュメントで使用する独自のアウトラインを作成できます。

- 1 RequisitePro 外部の Microsoft Word を起動します。
- 2 新しい Word テンプレートを作成します。テンプレートの作成については、Word のドキュメントを参照してください。
- 3 新規テンプレートを <install drive>\¥Program Files¥Rational¥RequisitePro¥outlines ディレクトリにコピーします。

**メモ :** RequisitePro ドキュメントに適用する Microsoft Word テンプレートは、RequisitePro の outlines サブディレクトリにドキュメントアウトラインとして自動的に保存されます。ネットワーク上で共有したり、特定のプロジェクトで使用する追加のアウトラインに対しては、別の場所を設定できます。[ツール] メニューの [オプション] をクリックして [オプション] ダイアログボックスを開き、[ドキュメントのアウトライン] ボックスの [ディレクトリ] の下にフルパスとサブディレクトリ名を入力します。RequisitePro は最初にローカルの outlines ディレクトリにアクセスします。混乱を防ぐために、すべてのドキュメントアウトラインを共有ディレクトリに移動するか、ローカルの outlines ディレクトリにあるアウトラインの名前を共有ディレクトリに保存されているアウトラインと異なる名前に設定します。

- 4 テキストエディタで、改行コード (<CR>) で区切られた以下の 3 行の情報を含む新規テキストファイルを作成します。
  - 最大 64 文字のアウトライン名。この論理名は outlines ディレクトリ内で一意にする必要があります。
  - アウトラインの説明 (半角で最大 256 文字)
  - Word テンプレートのファイル名 (.dot 拡張子付き)

例を次に示します。

```
Acme Enterprises のソフトウェア要求仕様の標準<CR>  
Acme Enterprises のソフトウェア要求仕様で使用する標準アウトライン<CR>  
acme_srs.dot
```

- 5 **outlines** ディレクトリで、同一ファイル名をテンプレートとして使用し、さらに拡張子 **.def** を付けて (たとえば、**acme\_srs.def**) テキスト ファイルを保存します。

アウトラインを共有ディレクトリに保存すると、チームで作成するドキュメントに一貫性を持たせることができます。すべてのユーザーは、[オプション] ダイアログ ボックスで、追加アウトラインの別の保存場所を設定できます。[ツール] メニューの [オプション] をクリックして [オプション] ダイアログ ボックスを開き、[ドキュメントのアウトライン] ボックスにフルパスとサブディレクトリ名を入力します。

**メモ：**ドキュメント タイプと関連する **.dot** ファイルを編集して、会社名や自分の組織に特有のその他の情報を書き込むことができます。テキストは、Microsoft Word で、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックすると表示されるダイアログ ボックスに入力します。ドキュメント内の [会社名] ボックスを右クリックし、[フィールドの更新] をクリックします。

- 6 新しいアウトラインをドキュメント タイプに割り当てる方法については、223 ページの「ドキュメント タイプの作成と変更」を参照してください。

## 要求タイプについて

---

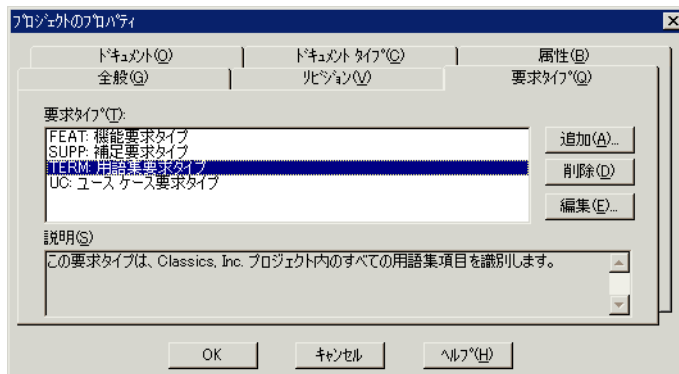
要求タイプの作成と、既存の要求タイプの変更ができます。不要になったドキュメント タイプは削除できます。

要求タイプでは、要求に関連する説明と操作情報を定義します。要求タイプは、同じタイプのすべての要求のテンプレートとして使用され、プロジェクト内の類似した要求の一貫性を保ち、要求の分類や要求のグループ化を行います。要求タイプによって、要求の初期番号設定、**must** や **shall** などの必要な用語、**PR** などの標準プレフィックス、色とテキストの書式を指定できます。各要求タイプには、ユーザーが定義した一意な属性セットがあります。

プロジェクト テンプレートを使用して作業を開始する場合、いくつかの要求タイプを使用できます。プロセスに合わせて要求タイプを追加または削除できます。エクスプローラでプロジェクトを選択し、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックして、[要求タイプ] タブをクリックしてください。また、作成した要求タイプを変更することもできます。変更するには、排他モードでプロジェクトを開く必要があります。セキュリティが有効な場合は、タグ プレフィックス、色、スタイルを変更するにはプロジェクト構造に関する権限が必要です。

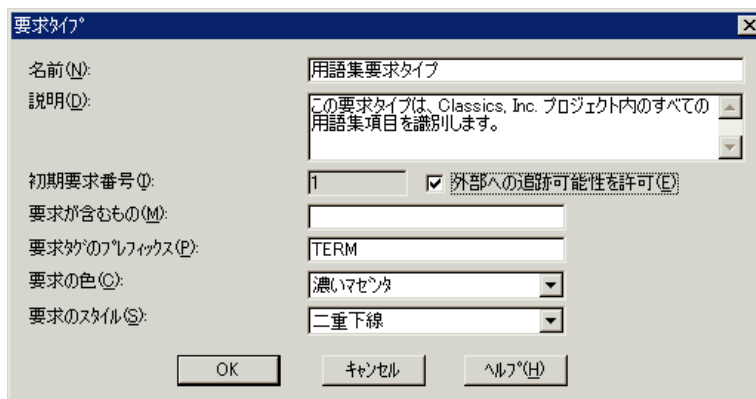
## 要求タイプの作成と変更

- 1 エクスプローラでプロジェクトを選択し、[ファイル]メニューの[プロパティ]をクリックします。[プロジェクトのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [要求タイプ]タブをクリックします。



- 3 次のいずれかを実行します。
  - 新規要求タイプを追加するには、[追加]をクリックします。
  - 既存の要求タイプを変更するには、リストから要求タイプを選択し、[編集]をクリックします。

[要求タイプ]ダイアログボックスが表示されます。



- 4 ダイアログボックスの各ボックスを以下のように指定します。
  - [名前]ボックスで、要求タイプの名前を入力または編集します (半角で最大 64 文字)。
  - [説明]ボックスで、説明を入力または編集します (半角で最大 255 文字)。

- このプロジェクトのこのタイプの要求と、ほかのプロジェクトの要求との間に外部追跡可能性を設定するには、[外部への追跡可能性を許可] チェック ボックスをオンにします。
- 定義したタイプの最初の要求の開始番号を指定するには、[初期要求 #] ボックスをクリックし、連番の最初となる正の整数を入力します。RequisitePro では、要求が作成されると自動的に番号が設定されます。

このボックスのデフォルト値は 1 です。この番号は、このタイプの最初の要求を作成する前であれば、いつでも変更できます。このタイプの最初の要求を保存したら、[要求番号の付け直し] ダイアログ ボックスを使用して連番を変更する必要があります。

- [要求が含むもの] ボックスに、このタイプの要求に必ず含まれていなければならない単語または語句を入力します。このボックスはオプションで、大文字と小文字は区別されません。

**メモ：** 次の 2 つの手順で既存の要求タイプの値を変更する場合は、プロジェクトに排他モードでアクセスする必要があります。これらのオプションはいつでも変更できます。

- [要求タグのプレフィックス] ボックスで、要求タイプのタグ プレフィックスを入力または編集します。タグ プレフィックスの例としては、SR や PR があります。
- [要求の色] と [要求スタイル] で、このタイプの要求のドキュメントで使用するものをそれぞれ選択します。デフォルトの色は青で、デフォルトのスタイルは [二重下線] です。

- 5 各ダイアログ ボックスで [OK] をクリックします。

## 要求タイプの削除

プロジェクトにそのタイプの要求が存在せず、ドキュメント タイプからデフォルトの要求タイプとして参照されていない場合は、要求タイプを削除できます。プロジェクトは排他モードで開く必要があります。また、セキュリティが有効な場合、要求タイプを削除するにはプロジェクト構造に関する権限が必要です。

- 1 エクスプローラでプロジェクトを選択し、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [要求タイプ] タブをクリックします。
- 3 削除する要求タイプを選択します。
- 4 [削除] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。

## 要求の属性と属性値について

属性を追加するには、[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [属性] タブを使用します。このタブを使用して、既存の属性も変更できます。

以下の表に、RequisitePro で要求を定義する場合に役立つ属性を示します。これらの属性はあくまでも提案であり、規則ではありません。RequisitePro で提供されるこれらの属性を使用したり、プロジェクトとビジネスに適切な属性を定義して使用することもできます。

属性	用途
優先順位	プロジェクトの重要度。チーム メンバーが作業の優先順位を決めやすくなり、時間を有効に使用できます。
ステータス	要求の進捗状況。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ 要求のステータスが [提案済み] の場合、プロジェクト チームがその要求を考慮中です。</li><li>■ 要求のステータスが [承認済み] の場合、要求が考慮され同意されています。</li><li>■ 要求のステータスが [組み込み済み] の場合、要求が仕様に適切に追加されています。</li></ul>
作成者	要求のテキストや属性を作成または変更した個人かチーム。
責任者	要求が満たされていることを確認する責任者かチーム。
根拠	説明の内容、または参照先。たとえば、製品要求仕様のページや行番号、重要な顧客インタビューのビデオ テープのタイム インデックスなどが参照先となります。
コスト	要求を実装するための費用。この属性の属性値には、論理値 ([高]、[中]、[低]) または数値を設定できます。

上記の表は、要求属性の一例です。このほか、一般的な属性としては、[障害]、[安定性]、[リスク]、[セキュリティ]、[安全性]、[実装されたリリース]、[機能領域] などがあります。RequisitePro ではまた、日付、バージョン、ほかの要求との関係など、すべての要求のシステム属性が保持されます。

必要に応じて属性を作成し、管理できます。RequisitePro は、使用する属性に関係なくプロジェクトのドキュメントとデータベースを容易にカスタマイズできるという柔軟性を備えています。そのため、組織のプロセスと文化を定義し、明確にし、管理できます。

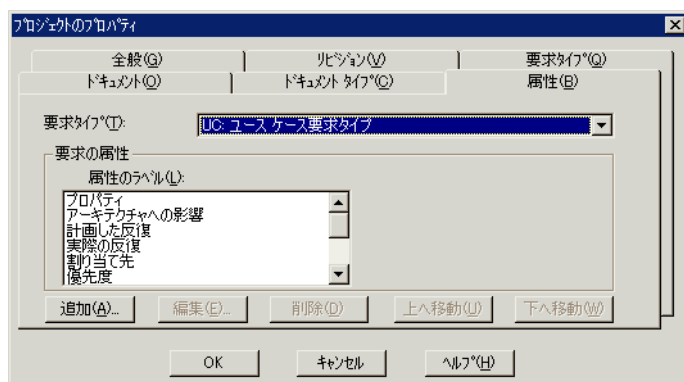
要求タイプが既に存在する場合、または要求タイプがドキュメント タイプのデフォルトの場合は、その要求属性は削除できません。

## 要求属性の作成と変更

[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [属性] タブを使用して、属性を追加するか、既存のものを変更します。

- 1 エクスプローラでプロジェクトを選択し、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [属性] タブをクリックします。
- 3 要求タイプを選択します。

選択したタイプの属性は、[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [属性] タブ内と同じソート順で表示されます (属性リストを並べ替えるには、属性を選択して [上へ移動] か [下へ移動] をクリックします)。



- 4 次のいずれかを実行します。
  - 属性を追加するには、[追加] をクリックします。[属性の追加] ダイアログ ボックスが表示されます。
  - 属性を編集するには、[編集] をクリックします。[属性の編集] ダイアログ ボックスが表示されます。

5 [タイプ] リストから、タイプを選択します。以下のデータ型を使用できます。

データ型	設定可能な値	例
リスト (単数値)	単一の値を選択できる値のセット。 リストの各値のサイズは、最大 32 文字です。	高、中、低
リスト (複数値)	複数の値を選択できる値のセット。 リストの各値のサイズは、最大 32 文字です。	Sue、Bob、John
テキスト	テキストの文字列は、最大 255 文字です。	John Smith
整数	整数。	5、1500
実数	実数。	1.345、6.7
日付	ユーザーの Windows で設定されている フォーマットの日付。	mm/dd/yy
時間	ユーザーの Windows で設定されている フォーマットの時間。	10:00 AM
URL リンク	インターネットまたはイントラネット上の サイト。	www.yoursite.com (RequisiteWeb を 使用している場合は http:// をリンク の先頭に付けます)。

選択したタイプによって、ダイアログ ボックスが変わります。[リスト (単数値)] または [リスト (複数値)] を選択すると、ダイアログ ボックスに [リストの値] ボックスが表示されます。ほかのタイプを選択すると、ダイアログ ボックスには [デフォルト値] ボックスが表示されます。

The screenshot shows the 'Add Property' dialog box. The 'Label' field is empty. The 'Type' dropdown is set to 'List (Single Value)'. The 'List Values' field is empty. There are checkboxes for 'Non-displayed' and 'Change affects parent' (both unchecked). A text box at the bottom states: 'List each value and press Enter. List values are sorted in the order entered.' At the bottom are 'OK', 'Cancel', and 'Help' buttons.

The screenshot shows the 'Add Property' dialog box. The 'Label' field is empty. The 'Type' dropdown is set to 'Date'. The 'Default Value' field is empty. There are checkboxes for 'Non-displayed' and 'Change affects parent' (both unchecked). A text box at the bottom states: 'Enter the default value for this property's options.' At the bottom are 'OK', 'Cancel', and 'Help' buttons.

- 6 [ラベル] ボックスに、属性の名前を入力します。
- 7 データ型がリスト タイプの場合は、[リストの値] ボックスに値を入力します。  
(オプション) データ型が入力タイプの場合は、デフォルト値を入力します。新規要求を作成し、その要求に属性値を指定しなかった場合、ここで入力したデフォルト値が適用されます。
- 8 すべての RequisitePro ユーザーに対し、ビューと [要求のプロパティ] ダイアログ ボックスで選択した要求タイプの属性が表示されないようにするには、[非表示] チェック ボックスをオンにします。
- 9 属性が変更されたときに、追跡可能性関係をサスペクトとしてマークするには、[変更はサスペクトに影響] チェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスがオンの場合、(この要求タイプの) すべての要求が監視されます。さらに、要求の属性値を変更すると、その要求を追跡先または追跡元とするすべての関係がサスペクトに変更されます。
- 10 [OK] をクリックし、ダイアログ ボックスを閉じます。

## 要求属性の削除

プロジェクトを排他モードで開くと、要求属性を削除できます。プロジェクトのセキュリティが有効になっている場合、属性を削除するにはプロジェクト セキュリティ構造に関する権限が必要です。

- 1 エクスプローラでプロジェクトを選択して、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 2 [属性] タブをクリックします。
- 3 [要求タイプ] リストから、属性を削除する要求タイプを選択します。
- 4 [属性のラベル] リストから、属性を選択します。
- 5 [削除] をクリックします。

削除対象の属性がプロジェクト内の要求に割り当てられている場合は、削除してよいかどうかを確認するメッセージが表示されます。

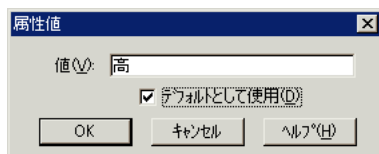
- 6 [はい] をクリックします。
- 7 [プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックします。

[属性] タブから属性が削除され、その属性への要求の参照がすべて削除され、その属性を参照しているすべてのセキュリティが削除されます。選択された属性がリスト タイプである場合、すべてのリスト値と、リスト値を参照しているすべてのセキュリティが削除されます。

## 属性値の変更

特定のリスト タイプ属性に割り当てる値を、追加、削除、編集できます。

- 1 エクスプローラでプロジェクトを選択し、[ファイル]メニューの[プロパティ]をクリックします。  
[プロジェクトのプロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [属性]タブをクリックします。
- 3 [要求タイプ]リストでは要求タイプを、[属性のラベル]リストでは単数値または複数値のリスト タイプの属性を、[属性ごとの値]リストでは編集する値を選択します。
- 4 [編集]をクリックします。[属性値]ダイアログ ボックスが表示されます。



- 5 [値]ボックスで、値を編集します。
- 6 値をデフォルト値として使用するには、[デフォルトとして使用]チェック ボックスをオンにします。
- 7 [OK]をクリックします。属性値の変更が、[プロジェクトのプロパティ]ダイアログ ボックスの[属性]タブに表示されます。
- 8 [OK]をクリックして、[プロジェクトのプロパティ]ダイアログ ボックスを閉じます。

## 属性値の削除

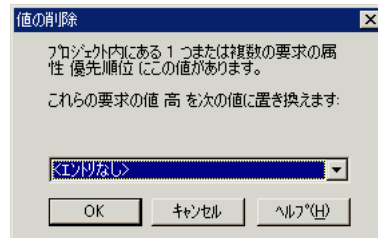
プロジェクトで必要なくなった属性値は、削除できます。属性値を削除するには、[プロジェクトを開く]ダイアログ ボックスでプロジェクトを選択するときに、[排他的]チェック ボックスをオンにする必要があります。

- 1 エクスプローラでプロジェクトを選択して、[ファイル]メニューの[プロパティ]をクリックします。  
[プロジェクトのプロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [属性]タブをクリックします。
- 3 [要求タイプ]リストから、要求タイプを選択します。
- 4 [属性のラベル]リストで、必要な単一値または複数値のリスト属性を選択します。
- 5 [属性ごとの値]リストから、削除する値を選択します。

6 [削除] をクリックします。

値がプロジェクト内の要求に割り当てられていない場合は、値が削除されます。

値がプロジェクトのいずれかの要求に割り当てられている場合は、[値の削除] ダイアログボックスが表示されます。



- 削除された値の代わりとなる値を要求に割り当てる場合は、リストからその値を選択します。代わりの値を割り当てない場合は [<エントリなし>] を選択します。
- [OK] をクリックします。値が [属性ごとの値] リストから削除されます。

**メモ：** リスト値を削除してしまうと、そのリスト値が割り当てられているすべての要求に影響します。代わりの値を選択した場合は、削除された値の代わりとなる値が、削除の影響を受ける要求に割り当てられるのに対し、代わりの値を選択しなかった場合は、削除の影響を受ける要求から値を削除する処理だけが行われます。複数値リストから値を削除した後でその代わりとなる値を選択しなかった場合は、既に要求に割り当てられているほかの値はそのまま残り、削除された値だけが、削除の影響を受ける要求から削除されることになります。

7 [OK] をクリックします。

- 8 削除された値がデフォルトであった場合、その他の値のいずれかをデフォルトに設定するには、[属性ごとの値] リストで値をクリックしてから [デフォルト] をクリックします。デフォルト値の指定を解除するには、[属性ごとの値] リストで値をクリックしてから [非デフォルト] をクリックします。デフォルト値を解除したい値がほかにもある場合は、同じ操作を繰り返します。

9 [OK] をクリックします。

## 複数プロジェクト間の追跡可能性の設定と変更

複数プロジェクト間の追跡可能性を使用すると、RequisitePro の異なるプロジェクトの要求間に直接的な追跡可能性関係を設定できます。この機能を使用することで、プロジェクト間で共通する要求をチームで再使用できるようになり、要求の重複を少なくすることができます。複数のプロジェクトで同じ一連の要求を使用する場合も少なくありません。このような共通の要求は、RequisitePro の各プロジェクトで作成した後、各プロジェクトに設定されているシステム固有の要求を追跡先にすることができます。

これらのプロジェクトは、複数プロジェクト間の追跡可能性を設定する前に作成する必要があります。外部プロジェクトの要求と追跡可能性関係にあるプロジェクトを開いたとき、その外部プロジェクトへ自動的に接続するようにプロジェクトを構成できます。外部プロジェクトを手動で接続することもできます。ただし、複数プロジェクトに対するクエリーは実行できないので注意してください。

外部プロジェクトへ接続すると、外部へ追跡するすべての要求タイプを追跡可能性関係で使用できます。追跡可能性関係を作成する場合、外部プロジェクトの要求タイプが RequisitePro のダイアログ ボックスに表示されます。外部要求は、[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [全般] タブに、外部要求を表すプロジェクトプレフィックスが設定されていることで識別できます。

アーカイブ済みプロジェクト内で複数プロジェクト間の追跡可能性を維持する方法については、202 ページの「プロジェクトのアーカイブ」を参照してください。

### 複数プロジェクト間の追跡可能性で使用する要求タイプのマーク

ほかのプロジェクトの要求との間に追跡可能性を設定するには、次の操作を行います。

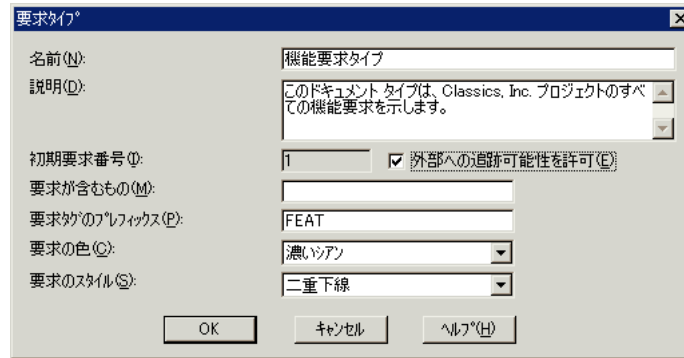
- プロジェクトプレフィックスを割り当てることによって、異なるプロジェクトの要求を区別できます。
- プロジェクトの要求タイプを外部で利用できるように手動でマークします。これらのタイプの要求のみ、複数プロジェクト間の追跡可能性で使用できます。

**メモ：** 外部追跡可能性の要求タイプをマークするには、プロジェクト構造に関する権限が必要です。

- 1 外部プロジェクトとして指定するプロジェクトを開きます。
- 2 エクスプローラでプロジェクトを選択して、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 [全般] タブの [プレフィックス] ボックスにプレフィックス (最大 8 文字) を入力します。プレフィックスは大文字で保存されます。これはいつでも変更できます。
- 4 [要求タイプ] タブをクリックし、外部追跡可能性を許可する要求タイプを選択します。

5 [編集] をクリックします。

[要求タイプ] ダイアログ ボックスが表示されます。



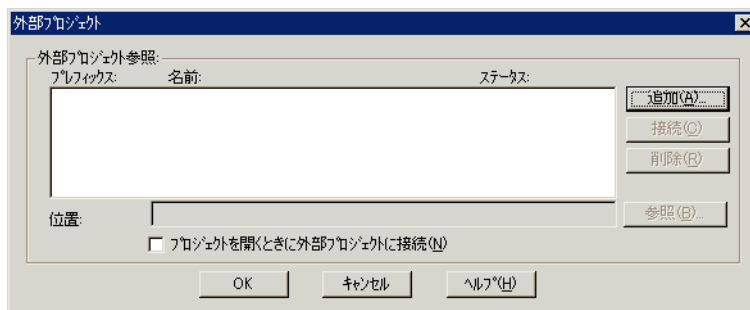
- 6 [外部への追跡可能性を許可] チェック ボックスをオンにし、[OK] をクリックします。  
その要求タイプが、複数プロジェクト間の追跡可能性を使用するものとしてマークされます。
- 7 外部の関係で使用する要求タイプがほかにもある場合は、各要求タイプについて手順 4 ～ 6 を繰り返します。
- 8 [OK] をクリックして、[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスを閉じます。

## プロジェクトの接続

プロジェクトを接続すると、現在のプロジェクトと外部プロジェクトの関係が有効になります。外部プロジェクトとの接続を解除すると、開いているプロジェクトへの接続が一時的に削除されます。

追跡可能性は、さまざまなプロジェクト内の要求間に確立できます。外部プロジェクトの要求タイプを外部追跡可能性用にマークしたら、外部プロジェクトを現在開いているプロジェクトに接続します。

外部プロジェクトを表示するには、[ファイル]メニューの[プロジェクト管理]をポイントし、[外部プロジェクト]をクリックします。[外部プロジェクト]ダイアログボックスが表示されます。



ダイアログボックスには以下の項目が表示されます。

- **プレフィックス:** 複数プロジェクト間の追跡可能性で使用される識別子。外部プロジェクトの場合、要求タグの前にプロジェクトプレフィックスが表示されます。プレフィックスとタグは小数点で区切られます。たとえば、要求タグが PR234 で、プロジェクトのプレフィックスが GLOBAL である場合、外部要求は GLOBAL.PR234 と表示されます。プレフィックスは、8 文字以内の大文字で指定する必要があります。プレフィックスは、[プロジェクトのプロパティ]ダイアログボックスの[全般]タブで割り当ててください。
- **名前:** 外部プロジェクトの名前。
- **ステータス:** 外部プロジェクトと作業中のプロジェクトの接続または切断の状態。
- **場所:** 選択された外部プロジェクトの場所。

プロジェクトを外部プロジェクトとして追加するには

- 1 [外部プロジェクト]ダイアログボックスで、[追加]をクリックします。[外部プロジェクトの追加]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 プロジェクトを選択し、[開く]をクリックします。
- 3 現在のプロジェクトを開いたときに、外部プロジェクトを自動的に接続する場合は、[プロジェクトを開くときに外部プロジェクトに接続]チェックボックスをオンにします。

**メモ:** この場合、プロジェクトを開くと、以下のいずれかの状態になります。

- いずれのプロジェクトにもセキュリティが設定されていない場合、プロジェクトにログオンする必要はありません。

- プロジェクトにセキュリティが設定されており、自分のユーザー名とパスワードが、そのプロジェクトにログオンするためのユーザー名およびパスワードと異なる場合は、[プロジェクト ログオン] ダイアログ ボックスが表示されます。通常どおり、プロジェクトにログオンします。自分のユーザー名とパスワードが両方のプロジェクトで同じ場合は、何度もログオンする必要はありません。
  - プロジェクトにセキュリティが設定されていなくて、外部プロジェクトのセキュリティが有効になっている場合は、[プロジェクト ログオン] ダイアログ ボックスが表示されます。通常どおり、プロジェクトにログオンします。
- 4 ほかの外部プロジェクトに接続するには、前述の手順を繰り返します。[外部プロジェクト] ダイアログ ボックスからプロジェクトを削除するには、プロジェクトを選択し、[削除] をクリックします。
- 5 [外部プロジェクト参照] リストからプロジェクトを選択し、[参照] をクリックしてプロジェクトを移動します。プロジェクトを選択し、[接続] をクリックします。
- [参照] ボタンは外部プロジェクトが移動されて切断されている場合にのみ使用できます。

## プロジェクトの切断

外部プロジェクトが必要でなかったり、利用できない場合は、外部プロジェクトを切断できます。たとえば、分散モードで作業していてデータベースを使用できない場合、追跡可能性の機能を使用していない場合、外部プロジェクトを移動する場合は、プロジェクトを切断します。

外部プロジェクトを切断すると、システムのパフォーマンスが向上します。プロジェクトを切断してから移動します。

- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクト管理] をポイントして [外部プロジェクト] をクリックします。[外部プロジェクト] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 プロジェクトを選択し、[切断] をクリックします。これにより、一時的にプロジェクトが切断されます。

プロジェクトを再接続するには、プロジェクトを選択し、[接続] をクリックします。接続していないプロジェクトを選択すると、[切断] は自動的に [接続] に変わり、接続中のプロジェクトを選択すると、[接続] は自動的に [切断] に変わります。

## 外部プロジェクトの切断の結果

外部プロジェクトを切断すると、以下のような影響があります。

- 切断されたプロジェクト内の要求は、切断された外部要求を示すラベルが付いた状態で、追跡可能性マトリックスと属性マトリックスに表示されます。要求は、「ProjectPrefix<EXTERNAL KEY>ID number 使用不能」の形式で表示されます (ID 番号は RequisitePro の内部参照用で、タグ番号を表すものではありません)。
- 切断したプロジェクトの要求との追跡可能性関係は、作成も変更もできません。

- 切断したプロジェクトでは、各要求の追跡可能性関係を削除できます。
- 要求を削除したり、その追跡可能性状態がサスペクトに変わると、外部要求関係が新しい状態で更新されます。
- 外部プロジェクト内の要求への変更は、プロジェクトが開かれると更新されます。

## 外部プロジェクトの移動

外部プロジェクトを移動するには、まず切断します。

- 1 [ファイル] メニューの [プロジェクト管理] をポイントして [外部プロジェクト] をクリックします。[外部プロジェクト] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 プロジェクトを選択し、[切断] をクリックします。
- 3 ファイル マネージャか Windows エクスプローラで、プロジェクトの ファイル (.rqs、.rql、.xml) を新しい保存場所にコピーします。詳細については、213 ページの「プロジェクトの移動」を参照してください。
- 4 [外部プロジェクト] ダイアログ ボックスの [外部プロジェクト参照] リストからプロジェクトを選択します。
- 5 [参照] をクリックします。
- 6 ファイルを選択し、[開く] をクリックします。

## Microsoft Access でのデータベースの表示

---

現在のバージョンの RequisitePro では、Access 2000 のデータベース形式を使用してプロジェクト情報が保存されるため、データベースを表示する場合は Access 2000 か 2002 を使用する必要があります。2000.02.10 より前バージョンの RequisitePro で作成されたデータベースを使用する場合は、以下の「メモ」の項を参照してください。

- 1 Microsoft Access (バージョン 2000 か 2002) を開きます。  
ダイアログ ボックスに、データベースにアクセスするためのオプションが表示されます。
- 2 [既存のデータベースを開く] をクリックします。
- 3 [OK] をクリックします。
- 4 プロジェクト データベースを検索し、[OK] をクリックします。データベースには .mdb という拡張子が付いています。  
  
データベースが読み取り用に開かれます。プロジェクト データを構成しているテーブルが表示されます。

- 5 データベース スキーマを印刷するには、[ツール] メニューの[解析]を選択し、[データベース構造の解析]をクリックします。

データベース構造の解析が開きます。[テーブル定義の印刷] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 6 [オプション] チェック ボックスをオンにします。
- 7 [セキュリティの設定] チェック ボックスをオフにします。
- 8 [テーブル] を選択して [OK] をクリックします。
- 9 レポートを印刷するには、Access の印刷ボタンをクリックします。

これでレポートが生成されました。データベースは、構造や情報を変更できないよう、読み取り専用で開かれています。RequisitePro のテーブルやデータは変更できませんが、Access で独自のテーブル、クエリー、レポートを作成することは可能です。

**メモ :** 2000.02.10 より前のバージョンの RequisitePro でデータベースが作成されている場合、プロジェクト データベースは Microsoft Access 97 形式です。Rational は、Microsoft Access ベースの RequisitePro のプロジェクトを Access 97 形式から Access 2000 形式に変換するユーティリティを提供しています。ユーティリティ「RqAcc2KConv.exe」は、RequisitePro プロジェクト ファイル (.rqs) を実行可能プログラムにドラッグ アンド ドロップするか、コマンドラインからユーティリティを実行して RequisitePro プロジェクト ファイル (.rqs) へのフル パスを指定することにより起動できます。このユーティリティでは、変換処理の一部として、.mdb ではなく .tac という拡張子が付いたデータベースのバックアップ コピーが作成されます。変換処理が正常に終了したことを確認したら、このバックアップ コピーは削除してかまいません。このユーティリティでは、データベースの修復と圧縮も行われます。

Rational RequisitePro は以下のツールと共に使用することができます。

- Rational XDE
- Rational ClearQuest
- Rational ClearCase
- Rational 統一変更管理 (UCM)
- Rational Rose
- Rational SoDA
- Rational TestManager
- Rational Unified Process
- Microsoft Project

また、RequisitePro は、ClearQuest、TestManager、Rational ClearCase LT、SoDA、Rational Unified Process などの Rational Team Unifying Platform の一部として、すべての Rational Suite<sup>®</sup> 製品に付属しています。

## RequisitePro での Rational XDE の使用法

---

RequisitePro と XDE を統合すると、XDE のユース ケース モデリングとアプリケーション設計機能を RequisitePro の要求管理機能と組み合わせて使用することができます。

XDE の統一モデリング言語のダイアグラムと RequisitePro の Microsoft Word ドキュメントを併用してユース ケースを定義できるようになります。ユース ケースに属性と追跡可能性を割り当てて、要求と対応させながらユース ケースを管理することができます。また、RequisitePro の要求を XDE の設計で追跡することで、要求を変更した場合の設計への影響を把握しやすくなります。

この統合によるユース ケース モデリング機能は、RequisitePro と Rational Rose を統合する統合ユース ケース管理のものと似ています。Rose モデルを XDE モデルにアップグレードするときに、モデルのユース ケースの関連付けを移行できます。

RequisitePro と XDE でのタスクの設定と実行については、RequisitePro と XDE の統合に関するヘルプを参照してください。

## RequisitePro での Rational ClearQuest の使用

---

ClearQuest または Rational Suite のいずれかの製品がコンピュータにインストールされている場合は、RequisitePro の [ツール] メニューから ClearQuest を直接起動できます ([ツール] メニューの [Rational ClearQuest] をクリックします)。

ClearQuest は、発展し続ける動的なソフトウェア開発の性質に対応するように設計された障害/変更追跡システムです。ClearQuest により、柔軟な追跡アプローチが提供され、組織に関連するすべての変更アクティビティを管理できます。チームのメンバーは、ClearQuest を使用して、その環境に固有のクエリー、フィールド、アクティビティ、状態をカスタマイズし、定義できます。この拡張されたカスタマイズ レベルにより、チームは変更管理プロセスを簡単に実装、導入、管理できます。

ClearQuest がインストールされている場合は、RequisitePro から起動できます ([ツール] メニューの [Rational ClearQuest] をクリックします)。Rational Suite 製品を所有している場合、または Rational Administrator プロジェクトを使用している場合は、ClearQuest で拡張依頼と障害を収集し、これを RequisitePro で新規または既存の要求に関連付けることができます。RequisitePro では、カスタム要求属性を使用して、1 つまたは複数の ClearQuest のレコードに要求を関連付けることができます。

**メモ :** RequisitePro 要求を ClearQuest MultiSite 環境の ClearQuest と関連付けると、ローカル ClearQuest データベース レプリカが、一部の ClearQuest レコードのマスターシップを取得することがあります。マスターシップを元のデータベースに戻すまで、これらのレコードを RequisitePro プロジェクトと関連付けることはできません。

### 統合の設定

RequisitePro と ClearQuest の統合ウィザードを使用すると、新しい統合の設定や、既存の統合の再設定または修復を簡単に行えます。このウィザードでは、データベース、プロジェクト、関連付けのテストと検証も行うため、新しい統合と既存の統合の問題のトラブルシューティングに役立てることができます。

以前のバージョンの Rational ソフトウェアでは、統合の設定を ASCQISetup.bat ファイルと ASCQISetup.exe ファイルで行っていましたが、現在のバージョンからは、それらのファイルの代わりとしてこのウィザードを使用できます。既存の統合設定は、従来どおり ASCQISetup.bat と ASCQISetup.exe で変更することも、このウィザードを使用して変更することもできます。

統合の設定の詳細については、『Rational Suite 管理ガイド』を参照してください。このガイドは RequisitePro とすべての Rational Suite 製品に付属する Rational Solutions for Windows のオンライン ドキュメント CD-ROM に収録されています。Rational Suite AnalystStudio がコンピュータにインストールされている場合は、『Rational Suite AnalystStudio 入門』を参照してください。統合の詳細については、ホワイト ペーパー 『Using Rational ClearQuest and RequisitePro for Analysts』(ClearQuest/RequisitePro アナリスト向けユーザーズ ガイド) を参照してください。

## 要求と ClearQuest レコードの関連付け

[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスで要求と ClearQuest レコードを関連付けるには

- 1 次のいずれかの操作を行って、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスを開きます。
  - 開いたドキュメント内の要求を選択し、[RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[プロパティ] をクリックします。
  - エクスプローラまたはビュー内で要求を選択し、[要求] メニューの [プロパティ] をクリックします。
- 2 [属性] タブをクリックします。
- 3 [属性] リストで、[EnhancementRequest] 属性または [Defect] 属性が表示されるまで下方方向にスクロールし、この要求に関連付けられている ClearQuest のレコードを表示して、次のいずれかの操作を行います。
  - ClearQuest レコード番号を入力します。
  - 横にある参照ボタンをクリックし、レコードを選択します。[関連拡張依頼] ダイアログ ボックスまたは [関連障害] ダイアログ ボックスで [レコード] リストから要求を選択し、[関連付け] をクリックします。
  - 横にある参照ボタンをクリックして、ClearQuest の新しいレコードを作成し、要求と関連付けます。
- 4 [要求のプロパティ] ダイアログ ボックスの [属性] タブで [OK] をクリックします。

属性マトリックスを使用して要求と ClearQuest レコードを関連付けるには

- 1 機能要求の属性マトリックスビューを開きます。
- 2 要求の [EnhancementRequest] 列または [Defect] 列で、次のいずれかの操作を行います。
  - ClearQuest レコード番号を入力します。
  - 横にある参照ボタンをクリックし、拡張依頼を選択します。[関連拡張依頼] ダイアログ ボックスまたは [関連障害] ダイアログ ボックス内で [レコード] リストから要求を選択し、[関連付け] をクリックします。
  - 横にある参照ボタンをクリックして、ClearQuest の新しいレコードを作成し、要求と関連付けます (このボタンは、セルをダブルクリックすると表示されます)。
- 3 属性マトリックスで関連付けた値を保存するには、セルの外をクリックします。

## RequisitePro での Rational ClearCase の使用法

---

RequisitePro で ClearCase を使用する方法はいくつかあります。

プロジェクトで統一変更管理 (以下 UCM) モデルを使用する場合、プロジェクトのベースラインを作成できます。RequisitePro プロジェクトの管理者は RequisitePro プロジェクトのベースラインを作成して、ClearCase と Rational Administrator に UCM モデルを実装できます。

RequisitePro プロジェクトで UCM モデルを使用していない場合、RequisitePro から ClearCase のアーカイブ コマンドを使用してアーカイブすることができます。

### Rational の UCM を使用したプロジェクト ベースラインの作成

Rational の UCM は、ソフトウェア システム開発における変更を要求からリリースまで管理できる、総合的で便利な使用モデルです。また、設定管理と変更依頼管理のための総合的なアプローチであり、ClearCase と ClearQuest で自動化されています。ClearCase を設定して、基本的なアクティビティ ベースの設定管理のための UCM モデル、または ClearQuest を併用することによる完全な変更依頼管理を実装することができます。

RequisitePro プロジェクトのベースラインを設定するためのモデルを実装するには、プロジェクトが Rational Administrator で UCM の有効な Rational プロジェクトと関連付けられてい必要があります。詳細については、211 ページの「UCM によるプロジェクトのベースラインの作成」を参照してください。

RequisitePro プロジェクトのベースラインが既に作成されている場合、そのベースラインを使用して RequisitePro で新規プロジェクトを作成できます。たとえば、プロジェクトの以前のリリースの設定が安定している場合、その設定に基づいて次のリリースを作成できます。詳細については、179 ページの「ベースラインからの RequisitePro プロジェクトの作成」を参照してください。

### ClearCase を使用したプロジェクトのアーカイブ

RequisitePro では、アーカイブとは、データベース、ドキュメント、プロジェクトのすべての関連するファイルを複製し、後で復元できるようにするプロセスです。ClearCase を使用して RequisitePro プロジェクトをアーカイブするには、[プロジェクト] から [アーカイブ] をポイントし、[Rational ClearCase] をクリックします。詳細については、204 ページの「Rational ClearCase を使用したプロジェクトのアーカイブ」を参照してください。

## RequisitePro での Rational Rose の使用法

---

Rose は、オブジェクト指向により分析、モデリング、設計、作成を行う強力なツールです。世界の主要ビジュアル モデリング ツールである Rose によって、システム アナリストはユース ケースとアクターを使用して要求のモデリングを行うことができ、開発者はソフトウェア アーキテクチャを定義して、互いのアイデアを出しあって設計を行うことができます。

[ツール] メニューの [Rational Rose] をクリックすると、RequisitePro から直接 Rose を起動できます。また、統合ユース ケース管理を使用して、Rose ユース ケースを RequisitePro の要求やドキュメントと関連付けることができます。

統合ユース ケース管理の詳細については、ホワイト ペーパー『Use Case Management with Rose and RequisitePro』(Rose および RequisitePro を使用したユース ケース管理) か『Rational Suite AnalystStudio 入門』を参照してください。

### 統合ユース ケース管理の使用法

Rose と RequisitePro の間でユース ケースを統合管理すると、プロセスに応じてどちらの環境でも起動と作業を行うことができます。

統合ユース ケース管理では、Rose のユース ケースを RequisitePro のドキュメントや要求と関連付けることにより、優先順位、リスク、ステータス、反復などの属性を使用してユース ケースを管理できます。Rose のユース ケース モデルから RequisitePro のユース ケース ドキュメントと要求に、または RequisitePro のユース ケース ドキュメントと要求から Rose のユース ケース モデルに簡単に移動できます。

RequisitePro のユース ケース管理により、Rose のユース ケースに階層と関係情報が追加されます。サポートされるのは、以下の機能です。

- Microsoft Word ドキュメントでのユース ケースのテキスト定義
- イベントのフロー、特殊な要求、前提条件、事後条件の詳細
- イベントのユース ケース フロー内のユース ケース名とアクションの階層 (親/子) 関係
- ほかのユース ケースとの間の追跡可能性と、関連する設計機

まず Rose でユース ケースを開発し、次に 統合ユース ケース管理を使用して、RequisitePro でその詳述と管理を行うことをお勧めします。このアプローチでは、複数の簡単なメニュー選択で、Rose と RequisitePro との間の関連付けを完了できます。

Rose のモデルやパッケージと RequisitePro プロジェクトを関連付けるには、Rose でモデルやパッケージを開き、[ツール] メニューの [RequisitePro] をクリックします。統合ユース ケース管理の詳細については、Rose または RequisitePro から統合ユース ケース管理のヘルプを参照してください。

RequisitePro ドキュメントを Rose ユース ケースと関連付けるには、ドキュメントを開き、[RequisitePro] メニューで [ドキュメント] をポイントして [Rose のユース ケースに関連付ける] をクリックします。

RequisitePro の要求を Rose ユース ケースと関連付けるには、次のいずれかを行います。

- ・ ビューまたはエクスプローラ内で要求を選択し、[要求] メニューの [Rose のユース ケースに関連付ける] をクリックします。
- ・ Word ドキュメント内で要求を選択し、[RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[Rose のユース ケースに関連付ける] をクリックします。

## ドキュメントまたは要求と関連付けられた Rose ユース ケースの表示

Rose がシステムに (AnalystStudio またはアプリケーションの一部として) インストールされている場合、統合ユース ケース管理機能を使用して、RequisitePro のドキュメントや要求と Rose ユース ケースをリンクさせることができます。[Rose のユース ケースを開く] コマンドを使用して、RequisitePro のドキュメントと要求から、関連付けられた Rose ユース ケースに移動できます。詳細については、ダイアログ ボックスの [ヘルプ] をクリックして統合ユース ケース管理のヘルプを参照してください。

**メモ:** Rose コマンドは、Rose がシステムにインストールされている場合のみ、[ドキュメント] メニューと [要求] メニューに表示されます。

ドキュメントと関連付けられたユース ケースに移動するには

- 1 ユース ケースと関連付けられたドキュメントを開きます。
- 2 [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[Rose のユース ケースを開く] をクリックします。

要求と関連付けられたユース ケースに移動するには

- 1 次のいずれかを実行します。
  - ・ ビュー内で、ユース ケースと関連付けられた要求を選択します。
  - ・ ドキュメント内で、ユース ケースと関連付けられた要求の内側にカーソルを合わせクリックします。
- 2 [要求] メニューの [Rose のユース ケースを開く] をクリックします。

**メモ:** Rose モデルを保存してから、[Rose のユース ケースを開く] コマンドを使用して、RequisitePro のドキュメントまたは要求から関連付けられた Rose ユース ケースに移動してください。

## ドキュメントおよび要求と XDE 要素の関連付け

Rose がシステムに (AnalystStudio またはアプリケーションの一部として) インストールされている場合、統合ユース ケース管理機能を使用して、RequisitePro のドキュメントまたは要求と Rose ユース ケースを関連付けることができます。[Rose のユース ケースに関連付ける] コマンドを使用すると、ドキュメントまたは要求と XDE ユース ケースを直接関連付けることができます。詳細については、ダイアログ ボックスの [ヘルプ] をクリックして統合ユース ケース管理のヘルプを参照してください。

**メモ:** このコマンドは、システムに Rose がインストールされている場合にのみ表示されます。

ドキュメントと Rose ユース ケースを関連付けるには

- 1 ドキュメントを開きます。
- 2 [RequisitePro] メニューの [ドキュメント] をポイントし、[XDE のユース ケースに関連付ける] をクリックします。

要求を Rose ユース ケースと関連付けるには、次のいずれかを行います。

- ・ ビューまたはエクスプローラ内で要求を選択し、[要求] メニューの [XDE のユース ケースに関連付ける] をクリックします。
- ・ ドキュメント内の要求の中にカーソルを置き、[RequisitePro] メニューの [要求] の [XDE] をポイントし、[XDE のユース ケースに関連付ける] をクリックします。

**メモ:** Rose ユース ケースと関連付けられた要求を別のドキュメントに移動する場合は、まずその関連を削除する必要があります。次に、ほかのドキュメントに保存してから、該当するユース ケースに要求を関連付けます。

ドキュメントまたは要求と Rose ユース ケースとの関連付けの詳細については、ダイアログ ボックスの [ヘルプ] ボタンをクリックして統合ユース ケース管理のヘルプを参照してください。

## RequisitePro での Rational SoDA の使用法

---

RequisitePro は、SoDA がサポートしているドメインです。これにより、RequisitePro のデータベースなどのさまざまなデータ ソースから情報を抽出するレポートを作成できます。

SoDA と RequisitePro を使用すると、以下のことができます。

- ・ SoDA を使用して、開いている RequisitePro のプロジェクトから SoDA のレポートとドキュメントを変更、生成します。
- ・ SoDA と RequisitePro を使用して、RequisitePro の要求情報と Rose のモデリング情報を統合したレポートを作成します。

- ユース ケース要求と Rose ユース ケースの図をすべて網羅するユース ケース レポートを作成できます。

詳細については、195 ページの「プロジェクトの概要とレポートの印刷」を参照してください。

## RequisitePro での Rational TestManager の使用法

---

TestManager がインストールされている場合、RequisitePro の [ツール] メニューから、TestManager のコンポーネントを直接起動できます ([ツール] メニューの [Rational TestManager] をクリックします)。

RequisitePro の要求を TestManager から参照して、すべての要求についてテスト カバレッジが完全であるか確認できます。TestManager は、Rational TeamTest とすべての Rational Suite 製品に含まれています。TestManager を使用すると、計画、デザイン、開発、実行、分析といったすべてのテスト活動を一括管理できます。TestManager では、テストとその他の開発活動が結びついています。つまり、テスト アセットとツールを統合することにより、プロジェクトの正確な状態を把握するための単一のポイントを提供しています。要求が変化すると、その要求に関連付けされたユース ケースが TestManager によりサスペクトとしてマークされます。TestManager を使用して、サスペクト状態のテスト ケースをすべて記載したレポートと、テスト ケースを実装した要求の割合を示すテスト入力開発カバレッジ レポートを作成できます。TestManager がインストールされている場合、TestManager を使用してすべてのテスト成果物を開発することをお勧めします。詳細については、『Rational TestManager User's Guide』と TestManager のヘルプを参照してください。

## RequisitePro での Rational Unified Process の使用法

---

Rational Unified Process (以下 RUP) は、実績のあるソフトウェア開発原理のオンライン知識ベースです。ソフトウェア開発プロセスとして、RUP は開発組織での作業と責任の割り当てに対し、明確な方針を提供します。この機能の目的は、決められたスケジュールと予算の範囲内で、エンド ユーザーの要望を満たす高品質なソフトウェアを確実に開発することです。RUP では、広範囲のプロジェクトや組織に適用できるよう、現代のソフトウェア開発における最良の方法で多くの実践に取り組んできました。RUP のアクティビティの多くは、ソフトウェア開発ツールによってサポートされています。ツール メンターには、Rational ツールが特定の段階やアクティビティをサポートする方法について記述されています。ツール メンターやその他の情報データベースにアクセスするには、[ヘルプ] メニューの [拡張ヘルプ] をクリックしてください。

ユース ケース テンプレートでは、RUP に準拠した基本的なプロジェクト構造が使用できます。プロジェクト テンプレートには、要求タイプ、基本的な属性、デフォルトの属性値、関連するドキュメント タイプが提供されています。ユース ケース テンプレートの使用法の詳細については、172 ページの「RequisitePro プロジェクトテンプレート オプションについて」を参照してください。

## RequisitePro での Microsoft Project の使用法

---

Microsoft Project 統合ウィザードでは、RequisitePro のプロジェクトの要求から、Microsoft Project スケジュールのタスクへの追跡可能性を管理します。ウィザードを使用して次の処理を行います。

- 要求からタスクを作成し、これらの要求からタスクへの追跡可能性関係を確立します。
- 要求から既存のタスクに対して、追跡可能性を追加または削除します。

追跡可能性を確立すると、以下のことが行えます。

- Microsoft Project の追跡元タスクにリンクする RequisitePro 内の要求情報をリフレッシュします。
- RequisitePro の追跡可能性ツリーまたは追跡可能性マトリックスで、要求とタスク間のサスペクト状態の追跡可能性関係を表示します。
- 変更が生じた場合に、要求、タスク、プロジェクト、スケジュールでの影響を分析します。

### Microsoft Project を RequisitePro と使用する場合のヒント

Microsoft Project を統合して使用する場合は、以下のガイドラインを参照してください。

- Microsoft Project で追跡するいかなる要求にも、関連するタスクを作成します。たとえば、ドキュメントを作成し、確認と承認のため指定日までに提出しなければならないという機能要求に対して、タスクを作成します。
- Rational Unified Process に従う場合、通常は、スケジュールに表示するメイン アイテムとしてユース ケースを含める必要があります。また、各代替フローやユース ケース の各個別ステップの追跡にも有意です。補足要求もスケジュールの候補ですが、補足要求に関連するプロセスは要求の性質に大きく依存します。たとえば、パフォーマンスによる制約を受けるタスク セットもあれば、使いやすさの度合いにより制約を受けるタスクもあります。
- 開発チームに渡された要求はどんなものであれ、スケジュールに表示されます。
- アクティビティが関連付けられている要求をマッピングします。たとえば、そのすべての子要求がリリースの承認を受けている親要求がある場合は、親にリンクするタスクを生成できます。子要求のうち 1 つだけが承認を受けている場合は、子要求のみをリンクします。子要求の重要性が高い場合は、親要求と子要求をタスク階層として渡すことができます。
- 製品リリース番号を指定する要求の属性がある場合は、同じリリース番号に割り当てられている要求のみにスケジュールリングできます。
- 「割り当て先」要求の属性がある場合は、各開発者に割り当てられたすべてのスケジュールを生成できます。

## MSPT 要求タイプ

要求とタスクは、特殊な要求タイプである MSPT 要求タイプによってリンクされています。この要求タイプは RequisitePro のプロジェクトのプレースホルダで、Microsoft Project スケジュールのタスクを表します。MSPT 要求はスケジュールのタスクとリンクしています。MSPT 要求タイプには、要求の属性として、Microsoft Project のファイル名と、それが表すタスクの一意の ID が含まれます。

MSPT 要求タイプには、Microsoft Project のタスク フィールドに基づくデフォルトの属性も含まれます。デフォルトの属性は、Cost、Duration、Finish、Milestone、Priority、Resource Names、Start です。

また、Microsoft Project のフィールドを、RequisitePro のプロジェクトの .rqs ファイルにおける MSPT 要求タイプの RequisitePro 属性にマッピングできます。MSPT 要求タイプについては、258 ページの「MSPT 要求タイプの作業」を参照してください。

## 要求

### ソフトウェア要件

MS Project 統合ウィザードを使用するには、Microsoft Project 2000 か Microsoft Project 2002 をシステムにインストールする必要があります。どちらもインストールされていない場合は、RequisitePro の [ツール] メニューの [Microsoft Project の開始] と [統合ウィザード] が無効になっています。

### セキュリティ要求

ウィザードを使用して、RequisitePro のプロジェクトと Microsoft Project を初めて統合する場合、RequisitePro の管理者権限が必要です。

その後のセッションで Microsoft Project 統合ウィザードを使用するには、次の条件を満たしている必要があります。

- MSPT 要求タイプに対し、作成と削除の権限があること。
- MSPT 要求タイプに関連するすべての属性の属性更新権限があること。

**メモ：**各 Microsoft Project スケジュールを複数の RequisitePro のプロジェクトと統合することはできません。しかし、複数の Microsoft Project スケジュールを、1 つの RequisitePro のプロジェクト内に存在するさまざまな要求と統合することはできます。

## ウィザードの起動と MSPT 要求タイプの追加

Microsoft Project 統合ウィザードは、RequisitePro 内から起動するか、独立したアプリケーションとして実行できます。以下に、RequisitePro 内からウィザードを起動する方法について説明します。

**メモ :** Microsoft Project 統合ウィザードを使用する前に、Microsoft Project で開いているすべてのダイアログ ボックスを必ず閉じてください。

Microsoft Project 統合ウィザードを起動するには

- 1 [ツール] メニューの [Microsoft Project] をポイントし、[統合ウィザード] をクリックします。最初のページが開きます。
- 2 [次へ] をクリックします。[プロジェクト ファイルの選択] ページが表示されます。
- 3 プロジェクトを選択します。RequisitePro のプロジェクト リストにすべてのプロジェクトが表示されます。
- 4 次のいずれかを実行します。
  - 既存の Microsoft Project スケジュールの名前とパスを入力します。
  - [参照] をクリックして、Microsoft Project の既存のスケジュールを検索し、選択して開きます。
  - 新しいスケジュールを作成するには、[新規作成] をクリックします。[プロジェクト情報] ダイアログ ボックスが表示されます。新しいスケジュールの作成が完了したら、[プロジェクト情報] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックします。新規プロジェクトを保存するかどうかを確認するダイアログ ボックスが表示されます。スケジュールの保存後、Microsoft Project が最小化されてこのページに戻り、新しいスケジュール名が Microsoft Project の [スケジュール] ボックスに追加されます。
- 5 [次へ] をクリックします。選択したプロジェクトのセキュリティが有効である場合、ログオン ダイアログ ボックスが表示されます。セキュリティが有効な RequisitePro のプロジェクトへログオンする場合と同じように、ログオンします。

ウィザードによりプロジェクトがチェックされ、MSPT 要求タイプが検索されます。MSPT 要求タイプがない場合は、追加されます。MSPT 情報を表示するページが開きます。[次へ] をクリックします。

プロジェクトとスケジュールが開き、[アクションの選択] ページが表示されます。

## 要求からのタスクの作成

以下の説明では、ウィザードが起動し、[アクションの選択] ページが表示されていることを前提とします。この機能は、RequisitePro の要求を選択して、この要求にリンクする新しいタスクを Microsoft Project に作成する場合に使用します。

**メモ：**新しいスケジュールの選択後、最初に [アクションの選択] ページが表示される時には、最初のオプションのみが有効になっています。その他のオプションは、タスクが作成されてから有効になります。

- 1 [タスクを作成する要求を選択する、または既存のタスクに追跡可能性を追加および削除します。] を選択します。
- 2 [次へ] をクリックします。
- 3 [要求タイプ] リストから要求タイプを選択します。
- 4 以下のいずれかをクリックします。
  - 選択したタイプのすべての要求
  - この属性値の要求
    - [属性] リストから属性を選択します。
    - [値] ボックス内で値と演算子を選択します。
  - 要求の名前またはテキストに特定のフレーズ (たとえば shall という単語) が含まれている要求を検索するには、その文字列を [要求の検索] ボックスに入力します。部分一致検索を行うことができますが、ワイルドカード検索はサポートされていません。
- 5 [次へ] をクリックします。ページ上には、前のページでフィードバックされた要求のタスク追跡可能性ツリーが表示されます。
- 6 1 つまたは複数の要求を選択してから、[タスクの作成] をクリックします。
- 7 [次へ] をクリックします。次のページで、[完了] をクリックします。

**メモ：**スケジュールを変更するたびに、ベースライン付きとベースラインなしのどちらで保存するかを確認するダイアログ ボックスが表示されます。変更のたびにベースライン付きで保存することをお勧めします。ベースラインについては、Microsoft Project のヘルプを参照してください。

- 8 [終了] をクリックしてウィザードを閉じるか、[ほかのアクション] をクリックして [アクションの選択] ページに戻ります。[アクションの選択] ページでは、追加タスクの作成、追跡可能性の追加/削除、Microsoft Project からの要求情報の更新が行えます。

## 追跡可能性の追加または削除

以下の説明では、ウィザードが起動して [アクションの選択] ページが表示され、RequisitePro の要求にリンクされた Microsoft Project のタスクが既に作成されていることを前提とします。

次のいずれかの操作を行うと、Microsoft Project 統合ウィザードで追跡可能性を変更できます。

- RequisitePro の要求を選択して、Microsoft Project のタスクとリンクさせます。
- Microsoft Project のタスクを選択して、RequisitePro 要求とリンクさせます。

以下の 2 つの手順で、これらの操作について説明します。

### 追跡可能性を変更する要求の選択

[アクションの選択] ページで、以下の操作を実行します。

- 1 [タスクを作成する要求を選択する、または既存のタスクに追跡可能性を追加および削除します。] を選択します。
- 2 [次へ] をクリックします。
- 3 [要求タイプ] リストから要求タイプを選択します。
- 4 以下のいずれかをクリックします。
  - 選択したタイプのすべての要求
  - この属性値の要求
    - [属性] リストから属性を選択します。
    - [値] ボックス内で値と演算子を選択します。
  - 要求の名前またはテキストに特定のフレーズ (たとえば **shall** という単語) が含まれている要求を検索するには、その文字列を [要求の検索] ボックスに入力します。部分一致検索を行うことができますが、ワイルドカード検索はサポートされていません。
- 5 [次へ] をクリックします。

ページ上には、前のページでフィルタされた要求のタスク追跡可能性ツリーが表示されます。

選択されたタスクと要求間の追跡可能性を削除するには

- 1 1 つまたは複数のタスクを選択して [追跡可能性の削除] をクリックし、[完了] をクリックします。選択したタスクと要求間の追跡可能性が削除されます。Microsoft Project のスケジュールにはタスクが残っていることに注意してください。
- 2 [終了] をクリックしてウィザードを閉じるか、[ほかのアクション] をクリックして [アクションの選択] ページに戻ります。[アクションの選択] ページでは、追加タスクの作成、追跡可能性の追加/削除、Microsoft Project からの要求情報の更新が行えます。

選択した要求とタスク間の追跡可能性を追加するには

- 1 要求を選択して、[追跡可能性の追加]をクリックします。1回に1つの要求の追跡可能性が作成されます。
- 2 [次へ]をクリックして次のページに進み、タスクを選択します。
- 3 次のいずれかを実行します。
  - 現在のタスク選択に問題がなければ、[完了]をクリックします。
  - 選択を変更するには、[MS Project]をクリックしてスケジュールを表示し、1つまたは複数のタスクを選択します。統合ウィザードに戻って[タスク リストの更新]をクリックし、タスクの表示をリフレッシュします。次に[完了]をクリックします。
- 4 [終了]をクリックしてウィザードを閉じるか、[ほかのアクション]をクリックして[アクションの選択]ページに戻ります。[アクションの選択]ページでは、追加タスクの作成、追跡可能性の追加/削除、Microsoft Project からの要求情報の更新が行えます。

## 追跡可能性を変更するタスクの選択

[アクションの選択] ページで、以下の操作を実行します。

- 1 [追跡可能性を追加または削除するタスクを選択します。]を選択し、[次へ]をクリックします。

[タスクの選択] ページが表示されます。
- 2 次のいずれかを実行します。
  - 現在のタスク選択に問題がなければ、[次へ]をクリックします。
  - 選択を変更する場合は、[Microsoft Project]をクリックしてスケジュールを表示し、1つまたは複数のタスクを選択します。統合ウィザードに戻って[タスク リストの更新]をクリックし、タスクの表示をリフレッシュします。次に[次へ]をクリックします。

このページには、前のページで選択したタスクのタスク追跡可能性ツリーと、そのタスクの追跡元の要求が表示されます。
- 3 次のいずれかを実行します。
  - Microsoft Project スケジュールのタスクを表示するには、タスクを選択して、[タスクに移動]をクリックします。スケジュールでは、タスクの表示または変更が可能です。完了したら、統合ウィザードに戻ります。
  - 要求を選択し、[追跡可能性の削除]をクリックします。次に[完了]をクリックします。選択したタスクと要求間の追跡可能性が削除されます。
  - タスクを選択し、[追跡可能性の追加]をオンにします。次に[次へ]をクリックします。[要求タイプの選択]ページが表示されます。

- 4 [要求タイプ] リストから要求タイプを選択します。
- 5 以下のいずれかをクリックします。
  - 選択したタイプのすべての要求
  - この属性値の要求
    - [属性] リストから属性を選択します。
    - [値] ボックス内で値と演算子を選択します。
  - 要求の名前またはテキストに特定のフレーズ (たとえば shall という単語) が含まれている要求を検索するには、その文字列を [要求の検索] ボックスに入力します。部分一致検索はできますが、ワイルドカード検索はできません。
- 6 [次へ] をクリックします。前のページでフィルタした要求が画面に表示されます。
- 7 要求を選択します。タスクのない要求を表示するには、[タスクのない要求のみを表示します] チェック ボックスをオンにします。
- 8 [完了] をクリックします。

## タスクからの MSPT 要求情報の更新

以下の説明では、Microsoft Project 統合ウィザードの [アクションの選択] ページが表示されていることと、RequisitePro のタスクを示す MSPT 要求にリンクされた Microsoft Project のタスクが作成されていることを前提とします。製品要求と MSPT 要求との間に追跡可能性を確立する必要があります。

Microsoft Project のタスク フィールドの値が変更されると、Microsoft Project 統合ウィザードのリフレッシュ機能を使用して、MSPT 要求の対応する属性値を更新する必要があります。MSPT 属性値の変更の結果、製品要求と MSPT 要求間の追跡可能性関係がサスペクトとしてマークされます。このサスペクト状態により、Microsoft Project のスケジュールを変更するように警告されます。

追跡可能性マトリックスに、製品要求と MSPT 要求のサスペクト関係を表示できます。また、MSPT 要求タイプの属性マトリックスを使用して、MSPT 属性値に対する変更を確認することもできます。

Microsoft Project タスクから MSPT 要求を更新するには

- 1 [アクションの選択] ページで、[MS Project タスクから MSPT 情報を更新します。] を選択し、[次へ] をクリックします。

[更新] ページには、Microsoft Project タスクから RequisitePro を更新したときに生じる変更が一覧表示されます。
- 2 統合を続行するには、[完了] をクリックします。

## MSPT 要求タイプの作業

### MSPT 要求タイプの表示

MSPT 要求タイプを RequisitePro のビューに表示できます。

- 1 [ファイル]メニューの[新規作成]をポイントし、[ビュー]をクリックします。
- 2 次のいずれかのビューを選択します。
  - 属性マトリックスと MSPT 要求タイプを選択して、MSPT 属性値の変更を確認します。
  - 追跡可能性マトリックスを選択します。行要求の製品要求と列要求の MSPT 要求の要求タイプを選択します。これらの要求タイプ間の追跡可能性が表示されます。
  - 追跡可能性ツリーを選択します。製品要求タイプを選択し、ツリーを展開して、MSPT 要求に対する追跡可能性関係が表示されるようにします。
- 3 [OK]をクリックします。

### MSPT 要求タイプの属性へのフィールドのマッピング

ほかの要求タイプとは異なり、[プロジェクトのプロパティ]ダイアログボックスの[属性]タブを使用して、MSPT 要求タイプに新しい属性を追加することはできません。ただし、作業している RequisitePro のプロジェクトの .rqs ファイルでは MSPT 要求タイプの属性を作成できます。たとえば、作業しているプロジェクトの名前が blueproject の場合、blueproject.rqs ファイルを使用して、MSPT 要求タイプの新しい属性を作成できます。

プロジェクトにセキュリティが設定されている場合、MSPT 要求タイプの属性にフィールドをマッピングするには、プロジェクト構造の権限が必要です。

フィールドを属性にマッピングするには

- 1 テキスト エディタ内で、作業しているプロジェクトの .rqs ファイルを開きます。
- 2 次の項を参照して、MSPT 要求タイプの属性にマッピングするタスク フィールドを検索します。
- 3 .rqs ファイルの [MSProjectMappings] セクションに、以下のように入力します。

field ID=attribute name

field ID とは、次の項に一覧表示されているフィールド ID です。attribute name とは、RequisitePro の属性に付けるラベルです。

- 4 .rqs ファイルを保存します。

Microsoft Project 統合ウィザードでは、入力された情報に基づき、MSPT 要求タイプの属性が作成されます。

## Microsoft Project のフィールド ID

以下の Microsoft Project のフィールド ID を使用して、RequisitePro の MSPT 要求タイプの属性を Microsoft Project の対応する定数にマッピングします。テキスト エディタを使用して、<project name>.rqs ファイルの [MSProjectMappings] セクションにエントリを追加します。

「field ID=attribute name」の形式を使用してください。field ID とは以下に一覧表示されている数値定数で、attribute name とは RequisitePro の属性に付けるラベルです。太字で示されているフィールド ID は、MSPT 要求タイプのデフォルトの属性として定義されています。

<b>Actual Cost = 28</b>	<b>Actual Duration = 28</b>	<b>Actual Finish = 42</b>
Actual Start = 41	Actual Work = 2	Baseline Cost = 6
Baseline Duration = 27	Baseline Finish = 44	Baseline Start = 43
Baseline Work = 1	BCWP = 11	BCWS = 12
Confirmed = 110	Constraint Date = 18	Constraint Type = 17
Contact = 112	<b>Cost = 5</b>	Cost1 = 106
Cost2 = 107	Cost3 = 108	Cost Variance = 9
Created = 93	Critical = 19	CV = 83
Delay = 20	Duration = 29	Duration1 = 103
Duration2 = 104	Duration3 = 105	Duration Variance = 30
Early Finish = 38	Early Start = 37	<b>Finish = 36</b>
Finish1 = 53	Finish2 = 56	Finish3 = 59
Finish4 = 62	Finish5 = 65	Finish Variance = 46
Fixed Cost = 8	Fixed (Duration) = 34	Flag1 = 72
Flag10 = 81	Flag2 = 73	Flag3 = 74
Flag4 = 75	Flag5=76	Flag6 = 77
Flag7 = 78	Flag8 = 79	Flag9 = 80
Free Slack = 21	Hide Bar = 109	ID = 23
Late Finish = 40	Late Start = 39	Linked Fields = 98
Marked = 71	<b>Milestone = 24</b>	Name = 14
Notes = 15	Number1 = 87	Number2 = 88
Number3 = 89	Number4 = 90	Number5 = 91
Objects = 97	Outline Level = 85	Outline Number = 102

% Complete = 32%	Work Complete = 33	Predecessors = 47
<b>Priority = 25</b>	Project = 84	Remaining Cost = 10
Remaining Duration = 31	Remaining Work = 4	Resource Group = 113
Resource Initials = 50	<b>Resource Names = 49</b>	Resume = 99
Resume No Earlier Than = 101	Rollup = 82	Sheet Notes = 94
<b>Start = 35</b>	Start1 = 52	Start2 = 55
Start3 = 58	Start4 = 61	Start5 = 64
Start Variance = 45	Stop = 100	Subproject File = 26
Successors = 48	Summary = 92	SV = 13
Text1 = 51	Text10 = 70	Text2 = 54
Text3 = 57	Text4 = 60	Text5 = 63
Text6 = 66	Text7 = 67	Text8 = 68
Text9 = 69	Total Slack = 22	Unique ID = 86
Unique ID Predecessors = 95	Unique ID Successors = 96	Update Needed = 111
WBS = 16	Work = 0	Work Variance = 3

## MSPT 要求タイプの属性の削除

セキュリティがプロジェクトで有効な場合、要求タイプの属性を削除するには、MSPT 要求タイプを削除するプロジェクト構造の権限が必要です。

属性を削除するには

- 1 テキスト エディタを使用して、RequisitePro のプロジェクト ファイル (projectname.rqs) を開きます。
- 2 プロジェクト ファイルの見出し [MSProjectMappings] の下で、削除する要求の属性を検索します。属性は、たとえば 5=Cost のように、Microsoft Project フィールド ID、等号 (=)、属性名の形式で一覧表示されています。
- 3 属性を含む行全体を削除します。プロジェクト ファイルを保存して閉じます。
- 4 [ファイル] メニューの [プロジェクトを開く] をクリックします。
- 5 プロジェクトを選択し、[排他的] チェック ボックスをオンにして、[OK] をクリックします。必要に応じて、プロジェクトにログオンします。
- 6 [ツール] メニューの [Microsoft Project] をポイントし、[統合ウィザード] をクリックします。

- 7 [次へ] をクリックします。現在の RequisitePro のプロジェクトと、関連する Microsoft Project が選択されているかどうかを確認します。[次へ] をクリックします。
- 8 [MS Project タスクから MSPT 情報を更新します。] を選択します。[次へ] をクリックします。
- 9 プロセスが完了したら、[完了] をクリックします。[終了] をクリックして、確認のメッセージが表示されたら [はい] をクリックします。



以下の項では、Rational RequisitePro の使用時に発生する問題の一部とその解決方法を説明します。RequisitePro を含むすべての Rational 製品で技術サポートを利用できます。この章で扱っていない問題を解決するには、<http://solutions.rational.com/solutions/> にアクセスしてください。ただし、英語のみのご利用となります。リスト ボックスから [RequisitePro] を選択し、ボックスの下に検索で使用するキーワードを入力します。指定したキーワードを含むテクニカル ノートのリストが表示されます。このリストで問題に該当するトピックをクリックしてください。

## 要求の作成

---

要求ドキュメントは、Rational RequisitePro で作成された Microsoft Word ファイルであり、プロジェクト データベースに統合されています。要求は、通常の Word ドキュメントでは作成できません。

ドキュメントで要求を作成しているときに問題が発生した場合は、以下をチェックしてください。

- 要求の重複。選択したブロックがほかの要求に含まれていたり、重複していないことを確認します。要求は、ネストしたり重複させることはできません。
- ブックマークと隠し文字。RequisitePro では、Word のブックマークと隠し文字を使用して、要求を指定します。ドキュメントにブックマークまたは隠し文字が含まれている場合 (ドキュメント内の非要求テキスト内またはほかのドキュメント内)、反転させた選択が、Word ブックマークまたは隠し文字内にないか、重複していないことを確認します。
- ドキュメントの保存状態。新規要求または新しく作成したドキュメントの追跡可能性は、ドキュメントを保存するまで確立することはできません。要求が、[追跡元の要求] ダイアログ ボックスまたは [追跡先の要求] ダイアログ ボックスに表示されない場合、ドキュメントを保存してみてください。
- 変更の追跡。要求の作成や変更を行うときは、Word の変更履歴の作成機能がオンになっていないことを確認します。
- ファイルのバージョン管理。Word のファイル バージョン管理機能がオンになっていないことを確認します。

95 ページの「RequisitePro で Word を使用するためのヒント」を参照してください。

## データベースの破損

---

ごくまれですが、Microsoft Access データベースを使用している RequisitePro プロジェクトが破損することもあります。このような場合、RequisitePro はエラー メッセージを表示します。問題が発生していない場合でも、Access データベースを定期的に修復または最適化することをお勧めします。

**メモ：**エンタープライズ データベースを使用している破損したプロジェクトを修復する方法については、データベース管理者にお問い合わせください。

破損した Microsoft Access プロジェクト データベースを修復して最適化するには、すべてのユーザーがプロジェクトを閉じていることを確認して、以下の操作を実行します。

- 1 以下のいずれかの操作を実行して、[データベースのプロパティ] ダイアログ ボックスを開きます。
  - [ファイル] メニューの [プロジェクトを開く] をクリックします。[プロジェクトを開く] ダイアログ ボックスで、破損したプロジェクトを選択し、[プロパティ] をクリックします。
  - エクスプローラでプロジェクトを選択し、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [全般] タブで、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [構成] をクリックします。

[ODBC Microsoft Access セットアップ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 破損したデータベースを修復するには、次のいずれかの操作を行います。
  - [修復] をクリックします。

[データベースの修復] ダイアログ ボックスが表示されます。選択したデータベースは、[データベース名] ボックスに表示されます。
  - [OK] をクリックします。
- 4 データベースを最適化するには、次のいずれかを行います。
  - [ODBC Microsoft Access セットアップ] ダイアログで [最適化] をクリックします。

[最適化元データベース] ダイアログ ボックスが表示されます。選択したデータベースは、[データベース名] ボックスに表示されます。
  - [OK] をクリックします。

- 5 最適化先のデータベースを設定するダイアログ ボックスで、RequisitePro のバージョンではなく、RequisitePro プロジェクトで使用されている Access のバージョンに基づいて [フォーマット] オプションを 1 つ選択します。Access 2000 を使用している場合は、バージョン 4.x を選択します。Access 97 を使用している場合は、バージョン 3.x を選択します。

**メモ:** 選択したバージョンがデータベースと一致しない場合は、ODBC エラーが表示されます。システムで Access 97 を使用している場合、Version 4.x オプションは表示されません。最適化しているデータベースが Access 2000 形式の場合、Access 2000 がインストールされているシステムで最適化処理を実行する必要があります。

- 6 [OK] をクリックします。

- 7 [はい] をクリックして、データベースを最適化済みのバージョンに置き換えることを確認します。

## 「ドキュメントが見つかりません。」メッセージ

---

ドキュメントを開こうとしたときに [ドキュメントが見つかりません。] ダイアログ ボックスが表示された場合、そのドキュメントは Windows エクスプローラで削除、移動、名前変更されている可能性があります。以下のいずれかの方法で、このエラー メッセージを解決します。

- ファイル システムを参照して、ドキュメントを新しい場所に関連付けます。
- ドキュメントに関連付けられているすべての要求をプロジェクトから削除します。
- [キャンセル] をクリックして、要求をドキュメントに関連付けたままにし、ファイルを復元して、ドキュメントを再び開きます。

## Microsoft Word で開くには大きすぎるファイル

---

Microsoft Word でサイズの大きなドキュメントを開くと、ファイルが大きすぎて開くことができないことを示すエラー メッセージが表示されます。

以下の理由により、サイズの小さい Word ドキュメントを使用することをお勧めします。

- Word でドキュメントを修正できるユーザーは、一度に 1 人だけです。

**メモ:** 拡張編集機能を使用すると、複数のユーザーがドキュメントを開くことなく、ドキュメントにある要求を同時に修正できます。

- サイズの小さなドキュメントは、複数のレビュー担当者がテキストを同時に部分的に参照できるので、全体的なレビューが簡単に行えます。
- サイズの小さなドキュメントの方が、システム パフォーマンスが向上します。
- Word では、サイズの大きなドキュメントを処理するときに問題が発生することがあります。

サイズの大きなドキュメントの操作については、Rational テクニカル ノート #2383 (<http://www.rational.com>)、95 ページの「RequisitePro で Word を使用するためのヒント」、Microsoft Word のマニュアルを参照してください。ただし、テクニカル ノートは英語のみのご利用となります。

## 正常に実行されなかった複数選択の操作

---

複数の要求または関係をビューで選択し、( 追跡可能性の作成や削除の場合など ) 複数選択の操作を実行する際、1 つまたは複数の要求や関係に対して操作が失敗する可能性があります。

たとえば、要求または関係での操作を実行する権限を持っていない場合、または要求の一部がドキュメント内に記述されており、ドキュメントの要求に対して操作が許可されていない場合、操作が失敗することがあります。

RequisitePro では、操作が失敗した要求または関係と、その障害の発生理由を示す例外ログを提供するというスタイルで、障害の通知を行います。

- 1 ビュー内で、選択したグループ ( 要求または関係 ) に対して希望の操作を実行します。
  - 操作が正常に行われると、変更内容がビューに表示され、ダイアログ ボックスは表示されません。
  - 1 つ以上の要求または関係に対する操作が失敗した場合、または操作が完了する前に操作を停止した場合は、例外レポートのダイアログ ボックスが開き、操作が失敗した要求または関係の番号が表示されます。
- 2 失敗した操作の詳しい情報が必要な場合は、[ 詳細 ] をクリックします。

ダイアログ ボックスが拡張され、失敗原因が表示されます。
- 3 テキスト ボックス内のテキストをコピーするには、テキストを選択し、[CTRL] を押しながら [C] を押します。これでコピーしたテキストをテキスト ドキュメントに貼り付けることができます。
- 4 [ 閉じる ] をクリックします。

## ページ レイアウト表示での一般保護違反

---

Microsoft Word のページ レイアウト表示でドキュメントを表示すると、メモリが大量に必要なため一般保護違反 (GPF) が発生します。GPF は、アプリケーションがアクセスしようとしたメモリが、その許容メモリ スペース外であった場合、または無効な命令が発生した場合に発生するエラーです。ドキュメント表示中の GPF を避けるには、Word を下書き表示モードに切り替えてください。GPF が発生すると、メモリが破壊されて問題が継続することがあります。コンピュータを再起動し、再試行してください。

## 自動バックアップ ドキュメントの回復

---

コンピュータ システムで障害が発生した場合、Microsoft Word の [ 自動保存 ] 機能で保存された Rational RequisitePro ドキュメントを回復できます。これには、Word の [ 自動バックアップ ] 機能をオンにしておく必要があります。

- 1 Word で、[ ファイル ] メニューの [ 開く ] をクリックします。

[ ファイルを開く ] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 2 ディレクトリとドキュメントを指定し、[ 開く ] をクリックします。

ドキュメントが表示されます。ドキュメントを保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

- 3 Word で、[ ファイル ] メニューの [ 上書き保存 ] をクリックします。

既存ドキュメントを置き換えるかどうかを確認するメッセージが表示されます。

- 4 [ はい ] をクリックします。

最後に自動保存したときの状態でドキュメントが保存されます。

- 5 [ ファイル ] メニューの [ 閉じる ] をクリックします。

- 6 [RequisitePro] メニューの [ ドキュメント ] をポイントし、[ 開く ] をクリックして、RequisitePro でドキュメントを開きます。

- 7 [RequisitePro] メニューの [ ドキュメント ] をポイントし、[ 保存 ] をクリックします。

## [RequisitePro] メニューが正しく表示されない

---

ドキュメントで一般保護違反が発生すると、Microsoft Outlook や 電子メール アプリケーションなど、Microsoft Word 以外のアプリケーションで [RequisitePro] メニューが表示されることがあります。また、Word ドキュメントの [RequisitePro] メニューが重複して表示されることもあります。

エラーが発生したメニューを削除するには、Microsoft Office ディレクトリから normal.dot と email.dot テンプレートを削除します。削除する前に、normal.dot と email.dot をカスタマイズしていないことを確認してください。カスタマイズしている場合は、ファイルを再作成した後で、もう一度同じカスタマイズを行う必要があります。通常、.dot ファイルは以下のディレクトリにあります。

- Program Files¥Microsoft Office¥Office
- Program Files¥Microsoft Office¥Templates

これらのファイルは、Microsoft Office アプリケーションにより、自動的に再作成されます。

## 無効な日時エラー

---

無効な日時エラーが発生した場合、コンピュータで Windows の [ 地域のプロパティ ] をデフォルト設定のいずれかに変更します。

[ 地域のプロパティ ] ダイアログ ボックスでデフォルト設定を確認するには、[ 地域 ] タブで別の地域に切り替えてから、再び戻します。デフォルトの設定は、[ 時刻 ] タブと [ 日付 ] タブに表示されます。

## SQL Server 構文エラー

---

Microsoft SQL Server で既存の RequisitePro データベースを使用して、SQL Server を以前のバージョンから 7.0 にアップグレードする場合、システム管理者は、SQL Server で以下のストアド プロシージャを実行して、データベース互換性レベルを SQL Server 7.0 に設定する必要があります。

```
sp_dbcmptlevel<database name>, 70
```

例を次に示します。

```
sp_dbcmptlevel RequisitePro, 70
```

システム管理者がこのプロシージャを実行しなかった場合、SQL Server 構文エラーが RequisitePro で表示されます。

## Word Automation サーバーのエラー メッセージ

---

Rational RequisitePro ドキュメントを開こうとすると、「Word Automation サーバーを起動できませんでした」というエラー メッセージが表示される場合があります。RequisitePro で Microsoft Word を開くには、分散コンポーネント オブジェクト モデル (COM) を変更する必要があります。

以下の手順に従って、システム上で Word の分散 COM エントリを設定してください。

- 1 Windows の [ スタート ] メニューの [ ファイルを指定して実行 ] をクリックします。
- 2 「dcomcnfg」と入力し、[ OK ] をクリックします。
- 3 [ 分散 COM の構成のプロパティ ] ダイアログ ボックスで、[ アプリケーション ] タブをクリックし、[ Microsoft Word 文書 ] を選択します。
- 4 [ プロパティ ] をクリックします。[ Microsoft Word 文書のプロパティ ] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 5 [セキュリティ] タブで、以下の操作を行います。
- [独自のアクセス許可を使う] をクリックし、[編集] をクリックします。
  - ローカル マシンから対話ユーザーを追加し、[OK] をクリックします。  
[Microsoft Word 文書のプロパティ] ダイアログ ボックスに戻ります。
  - [独自の起動アクセス許可を使う] をクリックし、[編集] をクリックします。  
ローカル マシンから**対話ユーザー**を追加し、[OK] をクリックします。
- 6 [識別] タブで、[対話ユーザー] をクリックします。
- 7 [OK] を 2 回クリックし、分散 COM の構成を終了します。
- 8 RequisitePro を開く前に、コンピュータを再起動します。



# キーボード ショートカットと マウスの操作

# A

## ダイアログ ボックスのショートカット

---

キーボードのキーの組み合わせを使用して、[RequisitePro] ダイアログ ボックスのタブ、フィールド、ボタンに移動できます。ダイアログ ボックスのショートカットを使用するには、[ALT] を押しながら、ダイアログ ボックスのタブ、フィールド、ボタンの下線付きの文字を押します。たとえば、[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックス、[ドキュメントプロパティ] ダイアログ ボックス、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスで、[ALT] を押しながら [G] を押すと、[全般] タブが開きます。

## メニューのショートカット

---

キーボード ショートカットを組み合わせるとメニューを開くことができます。メニューのショートカットを使用するには、[ALT] を押しながら、メニューの下線付きの文字を押します。たとえば、[要求] メニューを開くには、[ALT] を押しながら [R] を押します。メニューが表示されると、コマンドの下線付き文字のキーを押して、コマンドを選択できます。

## RequisitePro での複数項目の選択

---

マウス操作、キーボードとマウス操作の組み合わせにより、RequisitePro のさまざまなリストから項目を複数選択できます。

RequisitePro のマニュアルでは、複数選択の操作を次のように表記しています。

- **[SHIFT] を押しながらクリック**: [SHIFT] を押しながらマウス ボタンをクリックします。
- **[CTRL] を押しながらクリック**: [CTRL] を押しながらマウス ボタンをクリックします。
- **ドラッグ**: マウスの右ボタンを押しながらマウスを移動し、ボタンを放します。

以下の方法でこの操作を行うことができます。

- 隣接する項目を選択するには、[SHIFT] を押しながら**クリック**または**ドラッグ**します。
- 隣接していない項目を選択するには、[CTRL] を押しながら**クリック**します。

複数選択の操作を使用して項目の範囲を選択する場合は、最初に**アンカー**をクリックします。RequisitePro では、「アンカー」という用語は、通常、ビューで最初にクリックするセルを示します。アンカーを使用してセルの範囲を選択します。たとえば、追跡可能性マトリックスの行 1、

列 1 のセルをクリックすると、このセルがアンカーになります。[SHIFT] を押しながらマトリックスの行 10、列 3 のセルをクリックすると、行 1～10、列 1～3 のすべてのセルが選択されます。アンカーをリセットするには、選択範囲の外部をクリックします。クリックしたセルが新しいアンカーとなります。また、アンカーを使用すると、ドキュメントや複数選択の操作をサポートするダイアログ ボックス内で、範囲を指定して項目を選択できます。

## ビューでのマウス操作とショートカット

キーボードショートカットとマウス操作により、ビュー内をすばやく移動し、情報を選択できます。キーボードショートカットとマウス操作は、各ビューで異なります。

以下の表に、属性マトリックス、追跡可能性マトリックス、追跡可能性ツリーの項目を選択するショートカットを示します。

### 属性マトリックスのマウス操作とキーボードショートカット

#### マウス操作

目的	操作
クリックした行の要求を選択します。 この操作では、現在選択されているすべての項目が選択解除され、新しく選択した行がアンカーとして設定されます。 セルをクリックして、選択する列を変更することもできます。	行ラベルをクリック または セルをクリック
アンカー行から、[SHIFT] を押しながらクリックした行までのすべての要求を選択します。 この操作では、指定した範囲外のすべての行が選択解除されます。	行ラベルを [SHIFT] を押しながらクリック または 選択されている列のセルを [SHIFT] を押しながらクリック
既に選択した項目はそのままにしておき、新しく選択した行をアンカーとして設定します。 または 既に選択されている行のうち、1 行を選択解除します。	行ラベルを [CTRL] を押しながらクリック

目的	操作
列選択を、クリックした列に切り替えます。 セル内をクリックすると、クリックした行も選択されます。	列ラベルをクリック または 列ラベルを [CTRL] を押しながらクリック または セル内を [CTRL] を押しながらクリック

## キーボード ショートカット

目的	操作
1 列右に移動します。	右矢印
編集モード時に、1 列右に移動します。 または エクスプローラと、開いているビューを切り替えます。	[TAB]
1 列左に移動します。	左矢印
開いているビューを切り替えます。	[CTRL] + [TAB]
1 行下に移動します。 この操作では、現在選択されているすべての項目が選択解除され、新しく選択した行がアンカーとして設定されます。	[ENTER] または 下矢印
編集モード時に、新規要求または変更した要求をデータベースに登録します。	[ENTER] または [TAB] (要求の行の最終列にカーソルがある場合)
1 行上に移動します。 この操作では、現在選択されているすべての項目が選択解除され、新しく選択した行がアンカーとして設定されます。	[SHIFT] + [ENTER] または 上矢印
現在選択されているセルを編集モードにします。 この操作は、単一のセルが選択されている場合のみ有効です。	スペース

目的	操作
現在選択されているセルの編集モードをキャンセルします。 この操作は、単一のセルが選択されている場合のみ有効です。	[ESC]
ビューの一番上に移動し、先頭行を選択します。 この操作では、最初の行がアンカーとして設定され、その他すべての項目が選択解除されます。	[HOME]
ビューの一番上に移動し、アンカー行からビューの先頭行までの間の項目をすべて選択します。 この操作によって、その他すべての項目が選択解除されます。	[SHIFT] + [HOME]
選択またはアンカーを変更せずに、ビューの一番上に移動します。	[CTRL] + [HOME]
ビューの一番下に移動し、最終行を選択します。 この操作では、最終行がアンカーとして設定され、その他すべての項目が選択解除されます。	[END]
ビューの一番下に移動し、アンカー行からビューの最終行までの間の項目をすべて選択します。 この操作によって、その他すべての項目が選択解除されます。	[SHIFT] + [END]
選択またはアンカーを変更せずに、ビューの一番下に移動します。	[CTRL] + [END]
アンカーの変更中に、ビュー内を1 ページ上に移動します。 この操作では、ページを表示したときに既に選択されていた行と同じ垂直位置にある行が選択されます。先頭ページにビューがある場合は、先頭行が選択されます。新しく選択した行が、新しいアンカーになります。	[PAGEUP]

目的	操作
<p>アンカーを変更せずに、ビュー内を 1 ページ上に移動します。</p> <p>この操作では、ページが表示されたときのアンカーと同じ垂直位置にある行とアンカーの間の、すべての行が選択されます。ページ先頭にビューがある場合は、先頭からアンカーまでのすべての行が選択されます。</p>	[SHIFT] + [PAGEUP]
<p>選択またはアンカーを変更せずに、ビュー内を 1 ページ上に移動します。</p>	[CTRL] + [PAGEUP]
<p>ビューを 1 ページ左に移動します。</p> <p>この操作では、ページを表示したときに既に選択されていた列と同じ水平位置にある列が選択されます。左端のページにビューがあるときは、先頭の列が選択されます。</p>	[ALT] + [PAGEUP]
<p>アンカーの変更中に、ビュー内を 1 ページ下に移動します。</p> <p>この操作では、ページが表示したときに既に選択されていた行と同じ垂直位置にある行が選択されます。最終ページにビューがあるときは、最終行が選択されます。新しく選択した行が、新しいアンカーになります。</p>	[PAGEDOWN]
<p>アンカーを変更せずに、ビュー内を 1 ページ下に移動します。</p> <p>この操作では、ページが表示されたときのアンカーと同じ垂直位置にある行とアンカーの間の、すべての行が選択されます。ページの最下部にビューがあるときは、最終行からアンカーまでのすべての行が選択されます。</p>	[SHIFT] + [PAGEDOWN]
<p>選択またはアンカーを変更せずに、ビュー内を 1 ページ下に移動します。</p>	[CTRL] + [PAGEDOWN]
<p>ビューを 1 ページ右に移動します。</p> <p>この操作では、ページを表示したときに既に選択されていた列と同じ水平位置にある列が選択されます。右端のページにビューがあるときは、最終列が選択されます。</p>	[ALT] + [PAGEDOWN]
<p>選択した行の要求を展開し、その子要求をビュー内に表示します。</p>	[SHIFT] + [=] (プラス記号)

目的	操作
選択した行の要求を折りたたみ、ビュー内でその子要求を非表示にします。	[-] (マイナス記号)
ビュー内の行をすべて選択します。	[CTRL] + [A]

## 追跡可能性マトリックスのマウス操作とキーボード ショートカット

### マウス操作

目的	操作
セルを選択します。 この操作によって、その他すべてのセルが選択解除されます。	セルをクリック
アンカー セルをクリックしたセルで形成される四角形内のセルをすべて選択します。	セルを [SHIFT] を押しながらクリック
既に選択されているセルはそのままにしておき、セルをアンカーとして設定します。 または 既に選択されているセルのうち 1 つを選択解除します。	セルを [CTRL] を押しながらクリック または 行ラベルを [CTRL] を押しながらクリック または 列ラベルを [CTRL] を押しながらクリック
選択されている行と現在選択されている列が交差する点の行とセルを選択します。 この操作では、その他すべてのセルと行が選択解除され、新しく選択したセルと行がアンカーとして設定されます。	行ラベルをクリック
すべて選択された列で、クリックした行とアンカー行との間にある全行のセルを選択します。 この操作では、指定した範囲外の行と列が選択解除されます。	行ラベルを [SHIFT] を押しながらクリック
選択されている列と現在選択されている行が交差する点の列とセルを選択します。 この操作では、その他すべてのセルと列が選択解除され、新しく選択したセルと列がアンカーとして設定されます。	列ラベルをクリック

目的	操作
<p>選択されているすべての行について、クリックした列とアンカー列の間にあるすべての列のセルを選択します。</p> <p>この操作では、すべての選択行が含まれます。</p>	列ラベルを [SHIFT] を押しながらクリック

## キーボード ショートカット

目的	操作
1 列右に移動します。	右矢印
1 列左に移動します。	左矢印
1 行下に移動します。	[ENTER] または 下矢印
1 行上に移動します。	[SHIFT] + [ENTER] または 上矢印
現在選択しているセルのショートカットメニューを表示します。	スペース
エクスプローラと、開いているビューを切り替えます。	[TAB]
開いているビューを切り替えます。	[CTRL] + [TAB]
現在選択しているセルのショートカットメニューを閉じます。	[ESC]
<p>ビューの一番上に移動し、先頭行の選択された列にあるセルをすべて選択します。</p> <p>この操作では、その他すべての行が選択解除され、先頭行がアンカーとして設定されます。</p>	[HOME]
<p>アンカーを変更せずに、ビューの一番上に移動します。</p> <p>この操作では、先頭行からアンカー行までの間の、選択された列にあるすべてのセルが選択されます。</p>	[SHIFT] + [HOME]
選択またはアンカーを変更せずに、ビューの一番上に移動します。	[CTRL] + [HOME]

目的	操作
<p>選択されている列のビュー内の一番下に移動し、最終行にある、その列のセルを選択します。</p> <p>この操作では、その他すべての行が選択解除され、最終行がアンカーとして設定されます。</p>	[END]
<p>アンカーを変更せずに、ビューの一番下に移動します。</p> <p>この操作では、最終行からアンカー行までの間の、選択された列にあるセルがすべて選択されます。</p>	[SHIFT] + [END]
<p>選択またはアンカーを変更せずに、ビューの一番下に移動します。</p>	[CTRL] + [END]
<p>アンカーの変更中に、ビュー内を 1 ページ上に移動します。</p> <p>この操作では、選択した列と、既に選択されていた行と同じ垂直位置にある行が選択されます。ビューが既に先頭ページにある場合は、先頭行が選択されます。新しく選択した行が、新しいアンカーになります。</p>	[PAGEUP]
<p>アンカーを変更せずに、ビュー内を 1 ページ上に移動します。</p> <p>この操作では、ページが表示されたときのアンカーと同じ垂直位置にある行とアンカーの間にあるすべての行が選択されます。</p>	[SHIFT] + [PAGEUP]
<p>選択またはアンカーを変更せずに、ビュー内を 1 ページ上に移動します。</p>	[CTRL] + [PAGEUP]
<p>アンカーの変更中に、ビューを 1 ページ左に移動します。</p> <p>この操作では、選択した行と、ページを表示したときに既に選択されていた列と同じ水平位置にある列が選択されます。既にビューが左端のページにあるときは、先頭の列が選択されます。</p>	[ALT] + [PAGEUP]

目的	操作
<p>アンカーを変更せずに、ビューを 1 ページ左に移動します。</p> <p>この操作では、選択した行のセルと、ページが表示されたときのアンカーと同じ垂直位置にある列とアンカー列の間の列が選択されます。ビューが既に左端のページにある場合は、先頭の列が選択されます。</p>	[ALT] + [SHIFT] + [PAGEUP]
<p>選択またはアンカーを変更せずに、ビュー内を 1 ページ左に移動します。</p>	[ALT] + [CTRL] + [PAGEUP]
<p>アンカーの変更中に、ビューを 1 ページ下に移動します。</p> <p>この操作では、選択した列と、ページが表示されたときに既に選択されていた行と同じ垂直位置にある行が選択されます。ビューが既に最終ページにある場合は、最終行が選択されます。新しく選択した行が、新しいアンカーになります。</p>	[PAGEDOWN]
<p>アンカーを変更せずに、1 ページ下に移動します。</p> <p>この操作では、ページが表示されたときのアンカーと同じ垂直位置にある行とアンカーの間にあるすべての行が選択されます。</p>	[SHIFT] + [PAGEDOWN]
<p>選択またはアンカーを変更せずに、ビュー内を 1 ページ下に移動します。</p>	[CTRL] + [PAGEDOWN]
<p>アンカーの変更中に、ビューを 1 ページ右に移動します。</p> <p>この操作では、選択した行と、ページが表示されたときに既に選択されていた列と同じ水平位置にある列が選択されます。ビューが右端のページにある場合は、最終列が選択されます。</p>	[ALT] + [PAGEDOWN]
<p>アンカーを変更しないで、ビューを 1 ページ右に移動します。</p> <p>この操作では、選択した行と、ページが表示されたときのアンカーと同じ垂直位置にある列とアンカー列の間の列が選択されます。ビューが既に右端のページにある場合は、最終列が選択されます。</p>	[ALT] + [SHIFT] + [PAGEDOWN]
<p>選択またはアンカーを変更しないで、ビュー内を 1 ページ右に移動します。</p>	[ALT] + [CTRL] + [PAGEDOWN]

目的	操作
選択された行要求を展開して、その関係を表示します。現在の行選択は保持します。	[SHIFT] + [+] (プラス記号)
選択した要求を折りたたみ、その関係を非表示にします。	[-] (マイナス記号)
ビュー内のすべてのセルを選択します。	[CTRL] + [A]

## 追跡可能性ツリーのマウス操作とキーボード ショートカット

### マウス操作

目的	操作
クリックした項目を選択します。 この操作では、現在選択されているすべての項目が選択解除され、新しく選択した行がアンカーとして設定されます。	行をクリック
アンカー行から、クリックした行までの項目を選択します。 この操作では、指定した範囲外のすべての行が選択解除されます。	行を [SHIFT] を押しながらクリック
既に選択されているテキストはそのままにし、新しく選択した行をアンカーとして設定します。 または 既に選択されている行のうち、1 行を選択解除します。	行を [CTRL] を押しながらクリック
選択された行の要求を新しい位置にコピーします。移動した要求をルート要求にすることはできません。	行を [CTRL] を押しながらクリックし、ドラッグ
選択した行の要求を移動します。移動した要求をルート要求にすることはできません。	行を [ALT] を押しながらクリックし、ドラッグ

## キーボード ショートカット

目的	操作
1 行下に移動します。	下矢印
1 行上に移動します。	上矢印
現在選択されている要求のショートカットメニューを表示します。	スペース
エクスプローラと、開いているビューを切り替えます。	[TAB]
開いているビューを切り替えます。	[CTRL] + [TAB]
現在選択されている要求のショートカットメニューを閉じます。	[ESC]
ビューの一番上に移動し、先頭行を選択します。 この操作では、最初の行がアンカーとして設定され、その他すべての項目が選択解除されます。	[HOME]
アンカーを変更せずに、ビューの一番上に移動します。 この操作では、アンカー行からビューの先頭行までのすべての項目が選択されます。	[SHIFT] + [HOME]
選択またはアンカーを変更せずに、ビューの一番上に移動します。	[CTRL] + [HOME]
ビューの一番下に移動し、最終行を選択します。 この操作では、最終行がアンカーとして設定され、その他すべての項目が選択解除されます。	[END]
アンカーを変更せずに、ビューの一番下に移動します。 この操作では、アンカー行からビューの最終行までのすべての項目が選択されます。	[SHIFT] + [END]
選択またはアンカーを変更せずに、ビューの一番下に移動します。	[CTRL] + [END]

目的	操作
<p>アンカーの変更中に、ビュー内を 1 ページ上に移動します。</p> <p>この操作では、ページを表示したときに既に選択されていた行と同じ垂直位置にある行が選択されます。先頭ページにビューがある場合は、先頭行が選択されます。新しく選択した行が、新しいアンカーになります。</p>	[PAGEUP]
<p>アンカーの変更中に、ビュー内を 1 ページ下に移動します。</p> <p>この操作では、ページが表示したときに既に選択されていた行と同じ垂直位置にある行が選択されます。最終ページにビューがあるときは、最終行が選択されます。新しく選択した行が、新しいアンカーになります。</p>	[PAGEDOWN]
<p>アンカーを変更せずに、ビュー内を 1 ページ上に移動します。</p> <p>この操作を行うと、アンカーから 1 ページ上に移動します。</p>	[SHIFT] + [PAGEUP]
<p>アンカーを変更せずに、ビュー内を 1 ページ下に移動します。</p> <p>この操作を行うと、アンカーから 1 ページ下に移動します。</p>	[SHIFT] + [PAGEDOWN]
ビュー内を 1 ページ上に移動します。	[CTRL] + [PAGEUP]
ビュー内を 1 ページ下に移動します。	[CTRL] + [PAGEDOWN]
項目を展開して、その関係を表示します。	[SHIFT] + [+] (プラス記号)
項目を折りたたみ、その関係を非表示にします。	[-] (マイナス記号)
ビュー内のすべての項目を選択します。	[CTRL] + [A]

# RequisitePro の カスタマイズ

# B

## RequisitePro の設定

---

[ツール] メニューの [オプション] コマンドを使用して、Rational RequisitePro の外観と動作を設定できます。

- 1 [ツール] メニューの [オプション] をクリックします。[オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 必要に応じて、データを入力するか、以下のチェック ボックスをオンにします。

### 全般

- **ボタンの表示:** ツールバー ボタンが表示されます。
- **ステータスの表示:** ツールバーにステータス行が表示されます。これにより、RequisitePro での作業中に、プロジェクトとドキュメントのステータスが表示されます。
- **ツールヒントの表示:** ツールバーのボタン上にポインタを置いたときにボタンの機能の説明が表示されます。
- **起動時に Let's Go RequisitePro を表示:** RequisitePro を起動するたびに [Let's Go RequisitePro] の初期画面が表示されます。

### ビュー

- **保存時にプロンプトを表示する:** 保存していないビューを閉じるときに、表示オプションとビュー プロパティに変更を保存するよう通知するメッセージが表示されます。要求とビュー内のその他のデータへの変更には影響を与えません。
- **ダブルクリックしてソースに移動する:** ビューで要求をダブルクリックすることで、そのソースにアクセスできます。ドキュメント内にある要求の場合、そのドキュメントが開きます。ドキュメントにない要求の場合は、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。このチェック ボックスがオフになっている場合は、ダブルクリックすると、要求階層の展開、折りたたみが行われます。
- **ENTER キーで新しい行を挿入する (複数行のみ):** [ENTER] を使用して属性マトリックス内に新しい行を作成します。

- **ビュー内に要求を直接作成する (ダイアログ ボックスなし):** [要求] メニューの [新規作成] コマンドか [INSERT] を使用して、属性マトリックス内に要求を直接作成できます。このチェック ボックスがオフになっている場合は、[要求] メニューの [新規作成] をクリックするか、[INSERT] を押すと、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- **フォント:** ビューに表示されるフォントを一覧表示します。
- **変更:** このボタンをクリックすると、フォントを変更できます。

### 追跡可能性

- **削除時に警告を表示する:** 要求の追跡可能性を削除するときに、警告メッセージを表示します。
- **変更を履歴に記録する:** [要求のプロパティ] ダイアログ ボックスの改訂履歴リストに、要求の追跡可能性への変更を表示します。

### デフォルト プロジェクト ログオン

- **ユーザー名:** デフォルトでは、最後にログオンに成功したユーザーの名前が表示されます。このユーザー名は次回 RequisitePro プロジェクトにログオンするときのデフォルト名として使用されます。必要に応じて、別のユーザー名を入力します。

### Microsoft Word

- **バージョン:** 複数のバージョンの Microsoft Word がインストールされている場合、使用するバージョンを選択します。[<デフォルトを使用>] は、Windows レジストリに記録されたアプリケーションの現在のバージョンを使用します。

### ディレクトリ

- **ドキュメントのアウトライン:** ドキュメント タイプのアウトラインにアクセスする場合の二次的な保存場所を定義します。自分のコンピュータに RequisitePro がローカルにインストールされている場合、デフォルトのパスは、<install drive>\¥Program Files\¥Rational\¥RequisitePro\¥outlines です。このオプションを使用して、アウトラインの代替保存場所、たとえば共有アウトラインを保存するサーバー上のディレクトリを定義します。ドキュメント アウトライン ディレクトリと二次ドキュメント アウトライン ディレクトリは、RequisitePro プロジェクトではなく、独自のコンピュータ設定で保存されます。
- **ClearCase ビュー:** RequisitePro の ClearCase アーカイブ用ディレクトリを定義します。これは、RequisitePro プロジェクトのすべてのユーザーが使用できる ClearCase ビューである必要があります。
- **作業パス:** すべての RequisitePro プロジェクトの作業ディレクトリを表示します。RequisitePro が新規プロジェクトを作成し、一時ファイルへの書き込みを行うには、このディレクトリへの書き込み権限を有効にする必要があります。

- **プロジェクト テンプレート:** プロジェクト テンプレート保存用の二次的な保存場所を定義します。自分のコンピュータに RequisitePro がローカルにインストールされている場合、デフォルトのパスは、  
<install drive>¥Program Files¥Rational¥RequisitePro¥templates です。このオプションを使用して、プロジェクト テンプレートの代替保存場所、たとえば共有テンプレートを保存するサーバー上のディレクトリを定義します。

### Rational XDE

- **設定の開始:** Rational RequisitePro と XDE の統合を使用していて、システムに XDE の複数のエディションがある場合は、XDE のほかのエディションが開いていないときに RequisitePro で自動的に開くエディションを指定することができます。

- 3 [OK] をクリックします。

## ツールバーのメニューのカスタマイズ

---

[ツール] メニューの [アドイン] をクリックすると、自分でカスタマイズしたメニュー オプションを RequisitePro のメニューに追加できます。これらのメニュー オプションを使用すると、電子メールや Windows のメモ帳などの外部アプリケーションを RequisitePro から直接起動できます。また、希望するアプリケーションを使用して個別のファイルを開くオプションを設定できます。RequisitePro の [ファイル]、[編集]、[ビュー]、[要求]、[追跡可能性]、[ツール]、[ヘルプ] の各メニューにコマンドを追加できます。

プロジェクト チームのメンバー全員が使用できるプロジェクト全体のメニュー項目、または、自分のコンピュータで RequisitePro を起動したときにだけ表示されるメニュー項目を追加できます。[アドイン] をクリックすると、カスタマイズしたメニュー オプションを定義する外部メニュー ファイルを指定するよう要求されます。

- 1 [ツール] メニューの [アドイン] をクリックします。[アドイン] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [追加] ボタンをクリックして、カスタマイズしたメニュー オプションを追加します。
- 3 [アドイン] ダイアログ ボックスで、メニュー オプションの名前を入力します。アドインのリストでは、この名前でもメニュー ファイルが識別されます。
- 4 [参照] をクリックします。[RequisitePro メニュー ファイルの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 表示するファイル タイプを、[すべてのファイル]、[メニュー ファイル]、[テキスト ファイル] から選択します。
- 6 メニュー ファイルを指定し、[開く] をクリックします。

7 [アクティブ] チェック ボックスをオンにしたまま、メニュー項目を自分のメニューのみに追加する場合は [ローカル]、そのプロジェクトを開くすべてのユーザーのメニューに追加する場合は [プロジェクト] をクリックします。

8 各ダイアログ ボックスで [OK] をクリックします。

メニュー ファイルで定義したオプションが、指定したメニューに追加されます。

## メニュー ファイルの作成

---

任意のテキスト エディタを使用して、RequisitePro のメニューにメニュー オプションを追加するためのファイルを作成できます。メニュー オプションは、ファイルで指定した順に RequisitePro のメニュー上に表示されます。RequisitePro の [ファイル]、[編集]、[ビュー]、[要求]、[追跡可能性]、[ツール]、[ヘルプ] の各メニューにコマンドを追加できます。

メニュー オプションを追加する場合は、次の要素を指定します。

- メニューの項目 (サブメニュー、メニュー オプション、区切り記号) を指定するキーワード
- アプリケーションを実行したり、Readme ファイルのような特定の外部ファイルを開くためのメニュー アクション

メニュー ファイルへの入力で使用する構文規則について、細心の注意を払ってください。たとえば、メニューを指定する構文には、開きカッコと閉じカッコ {...} が含まれます。

**メモ :** Rational Rose のユーザーは、メニュー仕様ファイルを作成して Rose の [ツール] メニューを拡張する方法を理解しているかもしれません。RequisitePro のメニュー ファイルでは、Rose 関数のサブセットと同じ構文が使用されます。

## メニュー ファイルのテンプレート

以下のテンプレートに基づいて、テキスト エディタでメニュー ファイルを作成します。ファイルを簡単に見つけられるように、ファイルは .TXT または .MNU の拡張子で保存します。

Menu <RequisitePro menu name>

{

Separator

Option <menu item>

{

Exec <command line>

Status <status text>

}

Menu <submenu name>

{

Option <menu item>

{

Exec <command line>

Status <status text>

}

Option <menu item>

{

Exec <command line>

Status <status text>

}

}

}

## キーワード

以下の表を参考にして、メニュー ファイルにコピーするキーワードを定義します。

キーワードと変数	定義と有効なエントリ
Menu	メニュー項目を追加するメニューまたはサブメニューを指定するキーワードです。
Separator	メニュー内に区切り記号を配置するキーワードです。
Option	メニューに表示される項目の名前を指定するキーワードです。
Exec	メニュー項目を選択すると実行されるコマンドラインを指定するキーワードです。
Status	ステータス バーに表示するテキストを指定するキーワードです。
<RequisitePro menu name>	「ファイル」、「編集」、「ビュー」、「要求」、「追跡可能性」、「ツール」、「ウィンドウ」、「ヘルプ」のいずれかを指定します。
<menu item>	メニューまたはサブメニューの項目を示すユーザー定義テキストです。
<submenu name>	サブメニュー名を指定するユーザー定義テキストです。
<command line>	メニュー項目を選択すると実行されるコマンドを指定する、ユーザー定義テキストです。
<status text>	ステータス バーに表示するテキストを指定する、ユーザー定義のテキストです。

メニュー名、サブメニュー名、オプション名、ステータスに複数の語を含める場合は、エントリを二重引用符で囲んでください。1 つのファイルに複数のメニュー コマンドを含めることも、メニューまたはサブメニューで区切り文字を使用することもできます。(ほかのサブメニューの下にインデントして) 最大 5 レベルのサブメニューを作成できます。メニュー項目のアクセスキーを示す下線付きの文字を作成するには、アンパサンド記号 (&) とメニュー名に関連する適当なアルファベット文字をカッコで囲んでコマンドの文末に追加します。

## メニュー ファイルの例

以下の例は、簡単なメニュー定義ファイルを示しています。メニュー ファイルを作成したら、[アドイン] コマンドを使用してそのファイルを参照します。この機能により、カスタマイズしたメニュー コマンドが RequisitePro のメニューに追加されます。

次のメニュー ファイルでは、[編集] メニューに [Windows のメモ帳を開く (N)] というコマンドを追加します。

Menu 編集

```
{
```

Separator

Option "Windows のメモ帳を開く (&N)"

```
{
```

Exec notepad.exe

Status "Windows のメモ帳を開く "

```
}
```

```
}
```



# 用語集

本書で使用されている用語は次のとおりです。ほとんどは RequisitePro に固有の用語です。

## 特殊記号

**.bak ファイル:** ドキュメントファイルのバックアップ。新しい .bak ファイルはドキュメントが保存されるたびに同じディレクトリに作成され、保存前のバージョンのドキュメントを含みます。.bak ファイルはいつでも削除できます。

**.def ファイル:** RequisitePro の outlines ディレクトリにあるファイル。RequisitePro で使用される特定のアウトラインに関する情報を指定します。このタイプのファイルは、outline\_logical\_name がアウトラインの名前 (64 バイトまで)、outline\_description がアウトラインの説明 (256 バイトまで)、outline\_filename.dot が対応する Microsoft Word テンプレート ファイルの名前という形式です。「ドキュメント アウトライン」を参照してください。

**.doc ファイル:** Microsoft Word ドキュメントの DOS ファイル名の拡張子。

**.dot ファイル (Word テンプレート):** Microsoft Word テンプレート ファイルの DOS ファイル名の拡張子。Word テンプレートは、フォント、メニュー、特別なフォーマット、スタイルを含むドキュメントの基本構造を決定します。Word テンプレートはドキュメント テンプレートと関連付けられており、RequisitePro で Word ドキュメントを作成するときに使用できます。ドキュメント アウトライン情報は .def ファイルに格納されています。ドキュメントタイプと関連する .dot ファイルを編集して、会社名や自分の組織に特有のその他の情報を書き込むことができます。

Microsoft Word の [ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックし、表示される [プロパティ] ダイアログ ボックスに、会社名やその他の情報を入力します。次に、ドキュメント内の会社名フィールドを右クリックして [フィールドの更新] を選択します (Word テンプレート)。

**.rqs ファイル:** RequisitePro で自動的に作成、更新されるテキスト ファイル。プロジェクトに固有の情報を格納しています。.rqs ファイルは、すべての RequisitePro のプロジェクトの各プロジェクト ディレクトリに存在します。RequisitePro のヘルプに記載されているように、[MSProjectMappings] セクションを除き、このファイルのセクションは一切変更しないでください。

**.~sr ファイル:** プロジェクトにアクセスするユーザーごとに作成されるテキスト ファイル。ユーザーがプロジェクトを開くとプロジェクト ディレクトリにファイルが作成され、システムによって、.~sr の拡張子を持つ一意のファイル名が付けられます。このファイルには、ユーザー ID、ユーザーがプロジェクトに対して持っているアクセスのタイプ、セッション ID が記録されます。排他ロック ファイルの名前は、常に exclusive.~sr です。その他のファイル名は、プロジェクト内のユーザーに与えられたプロジェクトのアクセス タイプを示すプレフィックスで始まります。RO は「読み取り専用」アクセス、RW は「読み取り/書き込み」アクセスを示します。

## C

**ClearCase:** 「Rational ClearCase」を参照してください。

**ClearQuest:** 「Rational ClearQuest」を参照してください。

**CSV ファイル:** 項目をカンマで区切ったテキスト ファイル。通常、形式が異なるデータベース間でのファイル交換に使用されます。CSV ファイルはカンマ区切りファイルとも呼ばれ、RequisitePro にインポートできます。

## O

**OLE:** オブジェクトのリンクと埋め込み。あるアプリケーション (作成元アプリケーション) で OLE オブジェクトを作成し、ほかのソース アプリケーションのファイルに埋め込むことができます。作成元アプリケーションで OLE オブジェクトを編集すると、ソース アプリケーションのファイルに埋め込まれたオブジェクトが自動的に更新されます。OLE オブジェクトは、RequisitePro の要求ドキュメントに使用できます。

## R

**Rational Administrator:** Rational 製品間の統合を可能にする Rational ツール。ソフトウェア テストと開発情報を格納する Rational プロジェクトを構成するために Rational Administrator を使用します。

**Rational ClearCase:** RequisitePro プロジェクトのコピーを格納するために使用する Rational の構成管理ツール。統一変更管理 (UCM) モデルを実装している場合、ClearCase を使用して RequisitePro プロジェクトのベースラインを作成できます。

**Rational ClearQuest:** Rational の障害/変更追跡システム。ClearQuest によって多様性のある対応が可能となり、不具合、拡張依頼など、組織に関連するすべての変更アクティビティを追跡、管理できます。

**Rational Rose:** オブジェクト指向のコンポーネントに基づくアプリケーションの設計と視覚化を行うための Rational のビジュアル モデリング ツール。RequisitePro は、統合ユース ケース管理によって Rose と統合されています。

**Rational TestManager:** ソフトウェア開発やテストの専門家向けの Rational ツール。ソフトウェア開発、テスト、改訂サイクルのすべてのフェーズにわたって、ソフトウェア テスト情報を追跡できるように設計されています。RequisitePro の要求を TestManager から参照して、すべての要求についてテスト カバレッジが完全であるか確認できます。要求が変更されると、関連付けられたテスト ケースとテスト入力が TestManager によってサスペクトとしてマークされます。TestManager を使用して、サスペクト状態のテスト ケースをすべて記載したレポートと、テスト ケースを実装した要求の割合を示すテスト入力開発カバレッジ レポートを作成できます。TestManager をインストールしている場合、TestManager ですべてのテスト成果物を開発することをお勧めします。

**Rational Unified Process (RUP):** Rational の実績あるソフトウェア開発原理のオンライン知識ベース。RUP では、広範囲のプロジェクトや組織に適用できるよう、現代のソフトウェア開発における最良の方法で多くの実践に取り組んできました。RUP にはツール メンターが含まれており、これには Rational ツールを使用して特定の段階や アクティビティをサポートする方法について記述されています。

**Rational XDE:** Rational XDE Professional は、開発者用の拡張開発環境 (eXtended Development Environment) として設計された製品で、IBM WebSphere Workbench、IBM WebSphere Studio Application Developer、Microsoft Visual Studio .NET と完全に統合されています。パターン エンジンのサポート、統一モデリング言語 (UML) の視覚化と文書化のサポート、コードテンプレート、コードとモデルの自動同期とオンデマンドによる同期などの機能があります。XDE Professional には Rational XDE Modeler が含まれるため、ユーザーは設計とパターンを UML でやり取りできます。XDE Modeler の使用により、チームのメンバーは、アーキテクチャ、ビジネス上のニーズ、設計、再利用可能なアセット、管理レベルでのコミュニケーションのための、豊富なセマンティクスを持ったモデルを作成できます。また、後でこれらを使用して、実際に実行するコードを生成できます。開発者はラウンドトリップ エンジニアリングの変更を行うことができ、設計エンジニアはアーキテクチャ上の変更が必要かどうかを知ることができます。Rational RequisitePro は、統合ユース ケース管理により XDE と統合されています。

**Requirement Metrics:** RequisitePro の要求の名前、テキスト、属性、関係、改訂の統計をコンパイルする Rational RequisitePro の機能。これらのレポート結果は、Microsoft Excel に表示したり、Excel のグラフ作成機能を使用して操作できます。レポートには 2 種類あります。静的レポートは、現時点でのプロジェクトの結果を表示します。傾向分析レポートは、タイム センシティブなフィルタを使用し、要求テキスト、属性、追跡可能性、階層関係の変更を分析します。

**RequisitePro ドキュメント:** RequisitePro のプロジェクトの一部である Microsoft Word ドキュメント。RequisitePro ドキュメントでは、Word の大半の機能を使用できます。

**RequisiteWeb: Rational** の Web インターフェイス。クライアントはこれを使用して、イントラネット経由で RequisitePro 要求情報にアクセスできます。RequisiteWeb では、ブラウザ (Netscape Navigator か Microsoft Internet Explorer) を使用することによりプロジェクト ドキュメントとデータにアクセスできる、シンクライアント ソリューションが提供されています。Requisite アプリケーションに固有のファイルを個々のコンピュータにインストールする必要はありません。

**Rose:** 「Rational Rose」を参照してください。

**RUP:** 「Rational Unified Process」を参照してください。

## S

[SHIFT] を押しながらかリック: 「複数選択の操作」を参照してください。

**SoDA:** Rational のソフトウェア ドキュメント自動作成ツール。

## T

**TestManager:** 「Rational TestManager」を参照してください。

## W

**Word ドキュメント:** Microsoft Word または RequisitePro で作成され、Word 形式で保存されているドキュメント。「RequisitePro ドキュメント」も参照してください。

**Word テンプレート:** 「.dot ファイル」を参照してください。

## あ

**アウトライン:** 「ドキュメント アウトライン」を参照してください。

**アーカイブ:** データベース、ドキュメント、プロジェクト内のすべての関連ファイルを、後で復元できるように複製すること。

**アクター:** システム外部からシステムと対話をする人またはプログラム。

**アクティビティ:** 実行を依頼されることになる個人、またはチームとして働く個人の集団。

**アクティブなドキュメント:** 処理フォーカスのあるドキュメント。同時に複数のドキュメントを開くことができますが、アクティブなドキュメントは 1 つだけです。

**アクティブなビュー:** 処理フォーカスのあるビュー。同時に複数のビューを開くことができますが、アクティブなビューは 1 つだけです。「ビュー」も参照してください。

**[アドイン] コマンド:** [ツール] メニューにあるコマンド。このコマンドを使用して、自分でカスタマイズしたコマンドを、RequisitePro のどのメニューにでも追加できます。追加したコマンドを使用して、RequisitePro から電子メールや Windows のメモ帳などの外部アプリケーションを直接起動することができます。また、指定したアプリケーションで個々のファイルを開くコマンドも設定できます。

**アナリスト:** 「システム アナリスト」を参照してください。

**アンカー:** 複数選択の操作を使用して項目の範囲を選択するとき、最初にクリックする項目。RequisitePro では、アンカーという用語は、通常、ビューでクリックした最初のセルを示します。アンカーを使用してセルの範囲を選択します。たとえば、追跡可能性マトリックスの行 1、列 1 のセルをクリックすると、このセルがアンカーになります。[SHIFT] を押しながらマトリックスの行 10、列 3 のセルをクリックすると、行 1 ～ 10、列 1 ～ 3 のすべてのセルが選択されます。アンカーをリセットするには、選択範囲の外部をクリックします。クリックしたセルが新しいアンカーとなります。また、アンカーを使用すると、ドキュメントや複数選択の操作をサポートするダイアログ ボックス内で、範囲を指定して項目を選択できます。「複数選択の操作」を参照してください。

**インターナショナル化:** プログラム コア開発時の処理の 1 つで、単一の言語またはロケールの使用を前提とせずに機能とコードを設計し、別の言語によるプログラムを容易に作成できるソース コード ベースを作成すること。

**インポート:** あるシステムまたはプログラムから別のシステムまたはプログラム情報を渡すこと。RequisitePro では、Microsoft Word ファイルと CSV ファイルからドキュメントと要求をインポートできます。

**エクスペローラ:** RequisitePro の主要なナビゲーション ウィンドウ。このウィンドウでは、プロジェクトの成果物 (ドキュメント、要求、ビュー) がツリー ブラウザのパッケージ内に表示されます。

**エクスポート:** あるシステムまたはプログラムから別のシステムまたはプログラムに情報を移動すること。RequisitePro のビューから Microsoft Word ドキュメントや CSV ファイルに要求をエクスポートできます。

**エンタープライズ データベース:** 大規模な、ネットワーク組織をサポートするデータベース。エンタープライズ データベースは、大規模で複雑なプロジェクトでの拡張性、セキュリティ、管理機能を提供します。RequisitePro で使用できるエンタープライズ データベースは、Oracle と SQL Server です。

**オフライン作成者:** RequisitePro のドキュメントをオフラインで使用するユーザー。

**オフライン オーサリング:** RequisitePro の外部 (つまりオフライン) で、ユーザーが Microsoft Word にドキュメントを読み込んで編集するための機能。ドキュメントをオフラインにすると、RequisitePro はそのドキュメントのコピーを指定ディレクトリに作成します。元のドキュメントは RequisitePro に格納されたままですが、読み取り専用のドキュメントになります。読み取り専用のドキュメントは、RequisitePro で表示できますが、オンラインに戻るまで編集はできません。

**親要求:** 1 つまたは複数の子要求と共に階層関係を構成する要求。親要求は、ルート レベルに置くことも、それ自身の親と共に階層内にネストすることもできます。いずれの場合も、親要求は、階層内でその子要求の上に存在します。「子要求」、「階層要求」も参照してください。

**折りたたみインジケータ:** 「展開/折りたたみインジケータ」を参照してください。

## か

**解析:** 情報をコンポーネント単位に分け、コンポーネントごとにプログラムを実行すること。インポートウィザードでは、テキストを解析することでドキュメント内の要求を分割します。

**階層要求:** 同じタイプのほかの要求と序列関係にある要求。階層関係を使用して、一般的な要求をより明示的な要求に分割します。その親要求の追加詳細を提供します。

例:

親要求: システムに顧客情報を表示します。

詳細を提供する子要求: 名前、住所、生年月日。

子要求は親を 1 つしか持てませんが、いずれの要求も親と子の両方になることができます。親要求を変更すると、子との関係はサスペクトになります。

**改訂:** プロジェクト、ドキュメント、要求のそれぞれのバージョン。改訂は、RequisitePro により生成された、一意の内部改訂番号で識別されます。

**改訂番号:** 改訂を識別する番号。改訂番号は、プロジェクト、ドキュメント、要求のいずれかをユーザーが変更して保存すると自動的にインクリメントされます。改訂番号は **M.n** の形式です。**M** は通常 1 です。**n** は 4 桁の数字であり、変更内容が保存されるたびに 1 大きくなります。

**外部プロジェクト:** 現在開いているプロジェクトの要求と追跡可能性関係を確立するための要求を含むプロジェクト。「複数プロジェクト間の追跡可能性」を参照してください。

**外部への追跡可能性:** 2 つの RequisitePro プロジェクトの要求間の追跡可能性関係。「追跡可能性」も参照してください。

**外部要求:** 外部プロジェクトに設定されている要求。異なるプロジェクトの要求との間にも追跡可能性関係を作成できます。

**隠し文字:** ドキュメント内の文字を非表示にする場合に使用する Microsoft Word の機能。隠し文字は下線 (点線) 付きで示されます。Word ドキュメント内の要求は、隠し文字スタイルで書式設定された要求タグで始まります。タグを非表示にすると、読みやすくなります。それには、[ツール] メニューの [オプション] をクリックし、[表示] タブをクリックします。[隠し文字] チェック ボックスをオフにして、[OK] をクリックします。

**拡張依頼:** 新しい機能やシステム性能を指定する利害関係者の要求。RequisitePro の特定の要求タイプには、Rational ClearQuest の特定のレコードに要求を関連付ける属性があります。デフォルトでは、ユース ケース プロジェクト テンプレートに基づいたプロジェクトを使用している場合、機能 (FEAT) 要求タイプには EnhancementRequest 属性と Defect 属性があります。これにより、ClearQuest の拡張依頼レコードや障害レコードを機能要求に関連付けることができます。

**拡張子:** 「ファイル名拡張子」を参照してください。

**管理者グループ:** プロジェクト内で作業するためのすべての権限を持つユーザー グループ。このグループのユーザーは、プロジェクトの構造の変更、データの作成と変更、プロジェクト全体のビューの変更と削除、セキュリティ権限の設定や管理を行うことができます。このグループのユーザーの追加や削除はできますが、グループ自体の削除はできません。管理者グループの権限の変更はできません。

**キーボード ショートカット:** ダイアログ ボックスのショートカットは、RequisitePro のダイアログ ボックスのタブ、フィールド、ボタンに移動する場合に使用するキーボード操作の組み合わせです。ダイアログ ボックスのショートカットを使用するには、[ALT] を押しながら、ダイアログ ボックスのタブ、フィールド、ボタンに表示されているいずれかの下線付きの文字を押します。たとえば、[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックス、[ドキュメントのプロパティ] ダイアログ ボックス、[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスでは、[ALT] を押しながら [G] を押すと [全般] タブが開きます。メニュー ショートカットは、メニューを開くために使用するキーボード操作の組み合わせ

せです。メニュー ショートカットを使用するには、[ALT] を押しながら、メニューの下線付きの文字を押します。たとえば、[要求] メニューを開くには、[ALT] を押しながら [R] を押します。メニューが表示されたら、コマンド内の下線付き文字のキーを押すことでコマンドを選択できます。

**キーワード：**要求の指定と定義に使用される用語。多くの組織では、要求内で **shall**、**must**、**will** などの語を使用しています。これによって、要求をドキュメント内のほかのテキストと簡単に区別できます。キーワードは、要求タイプの定義の一部です。キーワードは、[要求タイプ] ダイアログ ボックスの [要求が含むもの] に入力します。

**クエリー：**ビューに表示する要求をフィルタまたはソートするための手段。属性値や追跡可能性を使用して制限したり、フィルタした要求の表示順序を指定したりできます。たとえば、クエリーの作成により、優先度が高または中である要求のみを表示することができます。このフィルタ内では、最初に優先度、次にコストによって要求をソートできます。

**権限：**RequisitePro のユーザーのグループに付与されている RequisitePro 権限。RequisitePro 管理者、またはプロジェクトのセキュリティ権限を持つグループのメンバーのみが、グループに権限を割り当てることができます。権利とも呼ばれます。「セキュリティ」も参照してください。

**子要求：**親要求と共に階層関係に参加する要求。子要求が持つことができる親要求は 1 つのみです。「親要求」、「階層要求」も参照してください。

## さ

**削除されたユーザー グループ：**ほかのグループで削除されたユーザーのセキュリティ グループ。削除されたユーザーは権限を持たないため、RequisitePro にログオンできません。このグループは、プロジェクトの履歴を管理するプロジェクト管理者がメンテナンスします。

**作成者：**ドキュメントや要求の作成と変更を担当するユーザー。

**作成者 (バージョン情報)：**改訂に関連付けられた変更を行うユーザー。

**サスペクト関係の状態：**関係内の要求の 1 つまたは両方に変更が生じた場合に、追跡可能性関係または階層関係に適用される状態。サスペクト関係の状態は、1 つまたは両方の要求が変更されたため、関係も変更する必要があることを示します。属性マトリックスにサスペクト関係の追跡可能性関係が表示されている場合は、[追跡先] 列または [追跡元] 列の要求タグの後に (s) が表示されます。「変更管理された関係」、「追跡可能性マトリックス」も参照してください。

**システム アナリスト：**システムの機能をアウトライン化し、システムの境界を指定することによって、要求の具体化とユース ケース モデリングの指導とコーディネートを行う人。

**循環型の追跡可能性関係：**要求と要求自体の間の関係、または以前の追跡元ノードに戻る間接的な関係。追跡可能性関係は循環参照できません。RequisitePro では、追跡可能性関係が確立されるたびに、循環参照が生じていないかどうかをチェックします。また、外部関係の作成時にも循環性をチェックします。循環性チェックで参照されるのは、内部要求と第 1 レベルの外部要求のみです。

**セキュリティ：**無許可ユーザーによるシステムの使用、損害、データ損失を防ぐ機能。RequisitePro ではそれぞれのユーザーに権限が付与され、この権限によって、プロジェクトに対するアクセス レベルが決定します。RequisitePro の管理者またはプロジェクト セキュリティの権限を持つグループのメンバーである場合、権限を割り当てることができます。「権限」も参照してください。

**選択：**「複数選択の操作」を参照してください。

**属性：**要求またはディスカッションに関する重要な項目についての記述情報。「要求属性」も参照してください。

**属性値:** 要求属性に割り当てられた情報。属性値は、テキストまたは数字です。たとえば、属性の優先度には、低、中、高の値を割り当てることができます。要求の属性値とも呼ばれます。

**属性タイプ:** 属性作成時の要求の属性に関連する、記述情報と操作情報のセット。属性値には、リストタイプと入力タイプがあります。リストタイプの属性の場合は、ボックスのリストから属性値を選択します。入力タイプの属性の場合は、数字、テキスト文字列、日付、時間などの値を入力します。要求属性タイプとも呼ばれます。

**属性マトリックス:** スプレッドシートに似た外観を持つ表形式のビュー。行には要求が表示され、列にはその要求の属性が表示されます。属性フィールドの値は追加または変更できます。要求属性マトリックスとも呼ばれます。

**属性ラベル:** リスク、優先度、作成者など、要求の属性の名前。要求の属性ラベルとも呼ばれます。

**ソート:** RequisitePro のビューに情報を特定の順序で表示するための手段。1 つまたは多くの要求属性を使用して、要求をソートできます。たとえば、最初に優先度 (高、中、低) でソートし、同じ優先度内でさらに ID 番号でソートすることができます。「フィルタ」、「クエリー」も参照してください。

## た

**ダイアログ ボックス:** ユーザーからの応答を求める画面上の対話型ウィンドウ。

**ダイアログ ボックスのショートカット:** 「キーボードショートカット」を参照してください。

**タイプ:** 「要求タイプ」を参照してください。

**タグ:** 「要求タグ」を参照してください。

**タグ プレフィックス:** 要求タイプのプレフィックス。タグは、作成する各要求に割り当てられる、一意の識別子です。タグ プレフィックスは 20 文字までで、要求タイプの一部として定義されます。

**追跡可能性:** 2 つの要求間の関係。「追跡先」と「追跡元」の機能を使用して、要求間のソース、派生、依存の関係を意味します。

**追跡可能性関係:** 「関係の追跡先/追跡元」を参照してください。

**追跡可能性ツリー:** 追跡元または追跡先となる (ツリーの方向によって異なります)、すべての内部要求と外部要求を表示するビュー。追跡可能性ツリーには、複数プロジェクト間の追跡可能性の第 1 レベルだけが表示されます。たとえば、内部要求が外部要求の追跡元である場合、この外部要求は追跡可能性ツリーに表示されますが、この外部要求を追跡元とするその他の要求はツリーに表示されません。ツリー ビューとも呼ばれます。「ビュー」も参照してください。

**追跡可能性マトリックス:** 同じタイプまたは異なるタイプの要求間の関係を示すビュー。このマトリックスを使用して、追跡可能性関係の作成、変更、削除を行います。また、サスペクト状態にある間接的な関係と追跡可能性関係を表示します。さらに、追跡可能性マトリックスを使用して、行要求と列要求を別々にフィルタしてソートできます。「ビュー」も参照してください。

**追跡先/追跡元関係:** 要求間のソース、派生、依存のいずれかを含む 2 つの要求間の関係。2 つの要求間に関係を作成すると、追跡可能性マトリックスまたは追跡可能性ツリーに追跡先/追跡元の状態が表示されます。たとえば、アプリケーションの特定メニューに追加する新しいコマンドを要求する機能要求 (要求 A) を作成します。この要求を作成すると、そのメニュー項目に関連するソフトウェア要求 (要求 B) も作成する必要があります。このため、機能要求 (A) からソフトウェア要求 (B) を追跡するための追跡可能性関係を作成する必要があります。2 つの要求の間に存在できる追跡可能性関係は 1 つだけです。その関係を「追跡先」と呼ぶか、「追跡元」と呼ぶかは、どちらの観点から見るかによって異なります。上の例では、A が B の追跡元であり、B は A の追跡先であると言えます。RequisitePro では、追跡先/追跡元関係と追跡可能性関係という用語を区別せずに使用しています。

**ツリー ビュー:**「追跡可能性ツリー」を参照してください。

**ディスカッション:** ディスカッションの参加者グループにコメント、問題、質問を出す RequisitePro の機能。ディスカッションの内容は、1 つまたは複数の要求に関連付けたり、プロジェクト全体を対象にすることもできます。

**ディスカッション項目:** 最初に発信されたディスカッション トピック、または応答。最初のディスカッション トピックに対して、またはその他の応答に対して応答できます。

**ディレクトリ:** ファイル名とほかのディレクトリのカタログ。ユーザーが使いやすいようにファイル (またはフォルダ) をグループ分けしたものです。一番上のディレクトリを、ルート ディレクトリと呼びます。ディレクトリ内のディレクトリを、サブディレクトリと呼びます。

**テキスト:**「要求テキスト」を参照してください。

**展開/折りたたみインジケータ:** ビュー内で要求の隣に小さなボックスがある場合は、その要求に 1 つまたは複数の子要求があります。[ディスカッション] ダイアログ ボックス内のディスカッション項目の隣にボックスがある場合は、ディスカッション項目に応答があります。ボックスに + (プラス) 記号が表示されている場合は、要求やディスカッションが折りたたまれており、- (マイナス) 記号が表示されている場合は展開されています。展開可能な項目 (前に + が付いているもの) には非表示のサブ項目があり、表示することができます。折りたたみ可能な項目 (前に - が付いているもの) には、非表示のサブ項目はありません。

**テンプレート:**「.dot ファイル (Word テンプレート)」、「プロジェクト テンプレート」を参照してください。

**統一変更管理 (UCM):** 組み込み済みの Rational の使用モデル。要求からリリースまでのソフトウェア システム開発で変更管理を行うために使用します。UCM は、設定管理と変更依頼管理のための総合的なアプローチであり、Rational ClearCase と Rational ClearQuest で自動化されています。ClearCase を設定して、基本的なアクティビティベースの設定管理のための UCM モデル、または ClearQuest を併用することによる完全な変更依頼管理を実装することができます。Rational RequisitePro プロジェクトのベースラインを設定するときに UCM モデルを実装するには、Rational Administrator 内で、UCM が有効な Rational プロジェクトとそのプロジェクトが関連付けられている必要があります。

**統合ユース ケース管理:** RequisitePro と Rose の統合により実現する機能。RequisitePro のドキュメントと要求を Rose のユース ケースと関連付け、Rose ユース ケース モデルと、RequisitePro ユース ケース ドキュメントと要求との間を簡単に移動できます。

**ドキュメント:** 任意の Microsoft Word ドキュメント。RequisitePro プロジェクトの一部またはプロジェクト外であることがあります。また、要求を含んでいることも、含んでいないこともあります。「要求ドキュメント」も参照してください。

**ドキュメント アウトライン:** RequisitePro でドキュメントの新規作成の参考になるドキュメントまたはテンプレート。アウトラインには、フォーマット、ページレイアウト情報、フォント、Word スタイルが含まれます。アウトラインは、同じタイプのドキュメント間で一貫性を維持するのに役立ちます。アウトラインの情報は、.def ファイルに保存されます。このファイルには、テンプレートの完全な名前、アウトラインの説明、関連付けられた Word テンプレートの DOS ファイル名 (.dot) が含まれています。「ドキュメント タイプ」も参照してください。

**ドキュメント タイプ:** 要求ドキュメントに関連する説明情報と操作情報を定義します。ドキュメント タイプは、そのタイプの要求ドキュメントを作成したときにテンプレートとして使用されます。ドキュメントのファイル拡張子 (たとえば .prd) は、ドキュメント タイプで定義されます。同じドキュメント タイプを持つドキュメントは、すべて同じファイル拡張子を共有します。ドキュメント タイプにはデフォルトの要求タイプを指定します。ドキュメントに新規要求を作成すると、特に指定のないかぎりデフォルトの要求タイプが適用されます。ドキュメント タイプは、ドキュメントのページレイアウト、デフォルトのテキスト、段落スタイルなどを制御するドキュメント テンプレートも指定します。

**ドキュメントのバージョン:** ドキュメントのプロパティ改訂履歴で識別されるドキュメントの改訂。ドキュメントを変更して保存すると、新しいバージョンが作成されます。「改訂」を参照してください。

**ドキュメントのプロパティ:** ドキュメントに関する情報の各項目。ドキュメントには、作成者、最新の改訂版の日付と時刻、ファイル名などの属性が関連付けられています。

## な

**名前:**「要求名」を参照してください。

**入力タイプの属性:** プロジェクト ユーザーが入力する数字、テキスト、時刻、日付の値。入力タイプの属性はデフォルトの値で構成され、要求の作成時や変更時に、そのまま使用することも変更することもできます。たとえば、コストのデフォルト値を \$20 に設定する場合は、入力タイプの属性「コスト」が整数値を受け入れ、デフォルト値が 20 になるように書式設定します。属性は、[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [属性] タブで定義します。要求の属性には、入力タイプとリスト タイプがあります。Rational ClearQuest との統合を設定した場合、2 種類のデフォルト要求タイプ EnhancementRequest と Defect が追加されます。「属性タイプ」と「属性値」も参照してください。「リストタイプの属性」と比較してください。

## は

**排他アクセス:** RequisitePro のプロジェクトやそのドキュメントへのアクセスが、プロジェクトを開くユーザーに限定される状態。排他アクセスでは、プロジェクトのさまざまな特性の変更が必要です。プロジェクトを開くときにアクセスを設定してください。プロジェクトとドキュメントを排他モードで開けるのは、そのプロジェクトとドキュメントをほかのユーザーがまだ開いていない場合だけです。

**バージョン情報:** プロジェクト、ドキュメント、要求の各変更に関連する、固有な識別情報。内部的に生成された改訂番号と、作成者、日付、時刻、変更理由に関する情報が組み合わされて、バージョン情報が構成されます。「改訂」も参照してください。

**パッケージ:** エクスプローラ内でフォルダとして表示されるコンテナ。要求、ドキュメント、ビューなどのパッケージを入れることができます。関連する成果物を 1 つのパッケージに置くことで、プロジェクトを整理できます。プロジェクトのすべてのパッケージを、すべてのプロジェクト ユーザー間で共有できます。

**番号の付け直し:** 要求に新しい番号を割り当てるプロセス。この機能は、要求を削除した結果として欠番が発生した場合に使用すると便利です。要求の番号を割り当て直すには、プロジェクトを排他モードで開く必要があります。また、セキュリティを有効にしている場合、要求の番号を付け直すには、プロジェクト構造の権限が必要です。ドキュメントの要求の番号を付け直すには、その要求タイプを含むすべてのドキュメントが開いている必要があります。

**汎用名前付け規則 (UNC):** ネットワーク上のコンピュータ間でのファイルの命名方法は、あるコンピュータ上のファイルがネットワーク上のほかのどのコンピュータからアクセスされた場合にも同じパスになるようになっています。たとえば、servern というコンピュータの c:\path1\path2¥...pathn ディレクトリが pathdirs という名前でも共有されている場合、ほかのコンピュータのユーザーは ¥¥servern¥pathdirs¥filename.ext を開いて servern 上の c:\path1\path2¥...pathn¥filename.ext というファイルにアクセスします。Uniform Naming Convention とも呼ばれています。

**ピア要求：**ある要求に対して、それと同じ階層レベルにある別の要求。2つの要求が同じ親要求の子要求である場合、それらは互いにピア要求となります。ルート レベルにあるすべての要求は、お互いのピア要求です。「親要求」、「子要求」、「階層要求」も参照してください。

**ビュー：**要求、要求に割り当てられた属性、要求間の関係を表示するウィンドウ。ビューでは、スプレッドシートのような表またはアウトライン ツリーに情報が表示されます。**RequisitePro** では、ビューとビュー ウィンドウという用語を区別なく使用します。「属性マトリックス」、「追跡可能性マトリックス」、「追跡可能性ツリー」も参照してください。

**ファイル名拡張子：**DOS ファイル名の拡張子 (.prd など)。**RequisitePro** では、使用する拡張子はドキュメント タイプを表し、20 文字まで入力できます。

**フィルタ：**ビュー内に表示される情報量を調節する機能。情報をフィルタするための基準を指定します。要求のいずれかの属性、またはすべての属性に対して、ある一定の基準を設定し、要求をフィルタできます。たとえば、すべての要求を表示するのではなく、優先順位の高い要求のみを表示するようにフィルタを適用できます。「ソート」、「クエリー」も参照してください。

**複数値リスト：**1 対多の関連付けをサポートする属性タイプ。複数値リストを使用すると、特定の属性で複数の値を1つの要求に割り当てることができます。たとえば、**Owner** という属性タイプを作成し、**Bob**、**John**、**Sue** という複数の値を指定して、同じプロジェクトで作業するそれぞれのユーザーを表します。この属性で、**Bob** と **Sue** という値だけがある要求に割り当てると、この要求の担当者は **Bob** と **Sue** で、**John** は担当者ではないということになります。

**複数選択の操作：****RequisitePro** で複数のアイテムを選択する場合に使用する、マウス操作、またはキーボードとマウスの組み合わせによる操作。隣接していない複数のアイテムを選択する場合は、**[CTRL]** を押しながら、各アイテムをクリックします (選択したアイテムを解除する場合も **[CTRL]** を押しながらクリックします)。隣接する複数のアイテムを選択する場合は、**[SHIFT]** を押しながら、選択する最初のアイテムと最後のアイテムをクリックします。または、ドラッグして範囲を選択します。それには、選択範囲内の最初のアイテムをクリックして、最後のアイテムまでドラッグします。範囲を選択したらマウスを放します。

**複数プロジェクト間の追跡可能性：**異なるプロジェクトの要求間に存在する追跡可能性関係を確立するための **RequisitePro** の機能。「外部への追跡可能性」も参照してください。

**ブックマーク：**ドキュメントの特定の位置に挿入されているマーカー。ユーザーが後で希望の位置に戻るために使用します。**Microsoft Word** では、ブックマークは参照目的で名付けられた保存場所またはテキストの選択部分です。**RequisitePro** のドキュメントにはブックマークが実装され、要求テキストを指定します。ブックマークは [例] のように角カッコで囲んで指定します。

**プロジェクト：****RequisitePro** プロジェクト。プロジェクトは、データベース、ドキュメント、ドキュメントタイプ、要求とその属性、要求タイプ、要求追跡可能性、ディスカッション、ユーザーとグループのセキュリティで構成されます。**RequisitePro** では、最初にプロジェクトを作成します。次に、要求ドキュメントと各ドキュメントの要求を作成します。

**プロジェクトディレクトリ：****RequisitePro** の単一のプロジェクトの情報が含まれるディレクトリ。新規プロジェクトを作成する際にプロジェクトディレクトリを指定します。デフォルトでは、**RequisitePro** の [プロジェクトのプロパティ] ダイアログボックスの [名前] ボックスに入力されている名前と一致するディレクトリ名が **RequisitePro** で作成されます。**Microsoft Access** データベースを使用するプロジェクトの場合、データベースはプロジェクトディレクトリに格納されます。エンタープライズ データベース (**Oracle** または **SQL Server** データベースなど) を使用するプロジェクトのデータベースは、プロジェクトディレクトリには格納されません。プロジェクトの要求ドキュメントは別のディレクトリに格納される場合があります。プロジェクトディレクトリのパスは、最大 256 文字です。「プロジェクトディレクトリ」も参照してください。

**プロジェクト データベース:** RequisitePro が管理する要求データベース。プロジェクト データベースには、要求ドキュメントで作成されたものも含め、プロジェクト内のすべての要求が格納されます。ドキュメントで要求に行った変更は、プロジェクト データベースに反映されます。属性マトリックス ビューを使用して、要求ドキュメントではなく、プロジェクト データベースに要求を直接作成できます。これらの要求は、ビューで修正または削除できます。Microsoft Access、Oracle、Microsoft SQL Server のデータベースを RequisitePro プロジェクトで使用できます。「プロジェクト データベース」も参照してください。

**プロジェクト テンプレート:** ドキュメント タイプ、要求タイプ、要求の属性、パッケージ、ユーザー、グループ、セキュリティを含むプロジェクト構造を格納する RequisitePro のテンプレート。

**プロジェクトの概要レポート:** レポート形式でプロジェクトの全体構造を示すレポート。出力には、要求タイプ (および複数値リストを含むその属性)、ドキュメント タイプ、ドキュメントの詳細が含まれます。

**プロジェクト プレフィックス:** 複数プロジェクト間の追跡可能性で使用される識別子。外部プロジェクトの場合、プレフィックスは要求タグの前に表示され、タグとの間には小数点で区切られます。たとえば、要求タグが PR234 で、プロジェクトのプレフィックスが GLOBAL である場合、外部要求は GLOBAL.PR234 と表示されます。プレフィックスは、8 文字以内の大文字で指定する必要があります。[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [全般] タブでいつでも変更できます。

**ベースライン:** 検討して承認された成果物。さらに改良と開発を進めるための基礎として承諾されたもので、変更管理や設定管理などの正式な手順を踏まなければ変更できません。「統一変更管理 (UCM)」も参照してください。

**変更管理された関係:** 2 つの要求のつながり。要求間の依存関係またはその他の関係を表します。RequisitePro が追跡する変更管理された関係は、階層関係と追跡可能性関係です。どちらか一方の要求を変更すると、その関係が「サスペクト」状態になります。「サスペクト関係の状態」も参照してください。

**変更の説明 (バージョン情報):** プロジェクト、ドキュメント、要求の改訂に関連付けられた変更の正当性や理由を示すテキスト情報。「バージョン情報」も参照してください。

**保留タグ番号:** RequisitePro のドキュメント内で新しく作成した要求のタグ番号。ドキュメントが保存されるまで、その要求には保留タグ番号が付けられます。「要求タグ」も参照してください。

**保留要求:** ドキュメント内に新しく作成された要求、またはデータベースに保存されていないビュー。

## ま

**マトリックス:** ビュー 内の関連項目をまとめるために使用する行と列の配列。「属性マトリックス」、「追跡可能性マトリックス」を参照してください。

**メトリクス:** 「Requirement Metrics」を参照してください。

**メニュー ショートカット:** 「キーボード ショートカット」を参照してください。

**メニュー ファイル:** RequisitePro のメニューにメニュー コマンドを追加するとき使用する、特別な構文のテキスト ファイル。一般に、メニュー ファイルのファイル拡張子は、MNU または TXT です。メニュー ファイルを参照するには、[ツール] メニューの [アドイン] をクリックします。コマンドは、メニュー ファイルで指定された順に RequisitePro のメニューに表示されます。

## や

**ユーザー グループ:** デフォルトで、ドキュメントと要求の読み込み、ビューの作成、ディスカッションへの参加を許されているセキュリティ グループ。管理者は、ユーザー グループの権限を変更できます。

**ユーザー情報:** RequisitePro のユーザーのユーザー名、パスワード、電子メール アドレス。プロジェクトのセキュリティ権限を持つグループのメンバーは、別のユーザーの情報を編集できます。ユーザーは、自分のユーザー情報を編集できます。

**ユース ケース:** システムで実行される一連の操作。特定のアクター (システムと相互に作用するシステム外の人または物) に目に見える成果をもたらします。

**要求:** システムが備えなければならない条件または機能の記述。条件や機能は、ユーザーのニーズから直接導き出される場合や、契約書、規格、仕様書、その他の公式文書に記述されている場合があります。

**要求管理:** ソフトウェア アプリケーションの変更要求の具体化、構成、文書化、管理を行う体系的アプローチ。

**要求属性:** 要求に関連する情報の記述フィールド。RequisitePro の要求属性は、システム属性 (RequisitePro により定義) またはユーザー定義 (プロジェクト所有者が定義) のいずれかです。「属性」を参照してください。

**要求属性値:** 「属性値」を参照してください。

**要求属性タイプ:** 「属性タイプ」を参照してください。

**要求属性マトリックス:** 「属性マトリックス」を参照してください。

**要求属性ラベル:** リスク、優先度、作成者など、要求の属性の名前。「属性ラベル」を参照してください。

**要求タイプ:** 要求作成時の要求に関連する、記述情報と操作情報のセット。要求タイプは、同じタイプのすべての要求に対するアウトラインとして機能し、プロジェクト内の類似要求の分類やグループ化に役立ちます。各要求タイプには、ユーザーが定義した独自の属性セットがあります。「要求属性」も参照してください。

**要求タグ:** プロジェクト内の各要求の、一意性を持つ識別子。要求タグは、「PR100.1.2」のように、タグ プレフィックスと一意性を持つ数値で構成されています。タグ プレフィックスは、[ プロジェクトのプロパティ ] ダイアログ ボックスで定義されているとおり、常に要求タイプです。数値は、RequisitePro で生成されます。タグ プレフィックスは最大 20 文字です。プロジェクトの各要求タイプには、異なるタグ プレフィックス (FEAT、SR、UCS など) が付いています。これは、ユーザーがプロジェクトの新規作成時または新規要求タイプの追加時に決定します。要求ドキュメントまたはデータベースに要求を追加すると、RequisitePro は、その要求タイプに応じた適切なタグ プレフィックス、インクリメンタルな数値を要求に割り当てます。「保留タグ番号」も参照してください。

**要求テキスト:** 要求の全テキスト内容。ドキュメントには、グラフィック、テーブル、Microsoft Word ファイルなどの埋め込みオブジェクトとリンク オブジェクトを含めることができます。

**要求ドキュメント:** Microsoft Word または RequisitePro で作成されたドキュメントで、要求内容がすべて記載され、製品開発時の円滑なコミュニケーションに役立ちます。各要求ドキュメントは、特定の要求タイプ (製品の特徴、ユース ケース、補足仕様など) を扱います。RequisitePro の要求ドキュメントは、Word ドキュメントと異なり、その内部から要求属性やその他の情報に直接アクセスできます。ドキュメント、または RequisitePro ドキュメントとも呼ばれます。

**要求の場所:** 要求が作成された場所、または要求が最後に移動された場所。この場所は、特定の要求ドキュメントまたはプロジェクト データベースのいずれかです。

**要求バージョン:** 要求のバージョンを示す要求の属性。要求は進化していきますが、この属性で、要求変更のバージョン番号と履歴を識別できます。

**要求名:** 要求のユーザー定義タイトル。タグやテキスト属性のように、名前は要求の参照に使用します。すべての Rational RequisitePro ビュー内の名前がデフォルトで表示されます。すべての要求には名前かテキストのいずれか、または両方が必要ですが、ドキュメント内にある要求にはテキストが必要です。名前は一意性を持つ必要はありません。また、要求を自分で作成した場合や、更新権限を持つグループに属している場合は、名前をいつでも変更できます。

**読み取り専用アクセス:** RequisitePro のプロジェクトまたはドキュメントを表示のみに制限するオプション。

## ら

**ライセンス ユーザー:** RequisitePro のユーザー。RequisitePro のライセンスに関連付けられた各ユーザーがライセンス ユーザーです。ユーザーとも呼ばれます。

**ラベル (バージョン情報):** ユーザー定義の改訂情報を表す文字列 (20 文字まで)。要求、ドキュメント、プロジェクト / アーカイブのバージョン情報のいずれかを改訂ラベルに記載できます。

**リスト タイプの属性:** 要求の属性には、リスト タイプと入力タイプがあります。リスト タイプの属性は記述的な値のセットです (たとえば、[提案済み]、[承認済み]、[進行中]、[完了] などの値を [ステータス] というリストに含めます)。リスト タイプの属性には、単一または複数の値を割り当てることができます。属性値は [プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスの [属性] タブで定義します。「属性タイプ」と「属性値」も参照してください。「入力タイプの属性」と比較してください。

**ルート要求:** 要求階層の一番上のレベルにある要求。ルート要求に対する親要求はありません。「親要求」、「子要求」、「階層要求」も参照してください。

## わ

**ワイルドカード文字:** 1 文字または複数の文字を示すのに使用するキーボードの文字。通常、アスタリスク (\*) は 1 つまたは複数の文字を示し、アンダースコア (\_) は 1 文字を示します。たとえば、ファイルの指定を「\*.」にしてアスタリスク ワイルドカードを使用すると、「あらゆるファイル名と拡張子の組み合わせ」を指定できます。ディスカッションの件名をフィルタする場合、1 つまたは複数の文字を示すワイルドカード文字にはパーセント記号 (%) を使用します。



# 索引

## C

ClearCase

RequisitePro との統合 246  
プロジェクトのアーカイブ 204

ClearQuest

RequisitePro での使用法 244  
要求との関連付け 245

COM サーバー 64

CSV ファイル

インポート 153, 162, 165  
エクスポートされたファイル内の要求 63  
定義 162  
ビューのエクスポート 168  
ヘッダーのコピー 164  
ヘッダーの定義 164

## D

.dot ファイル 225

## E

Excel 153

CSV ファイルのインポート 162

## F

FURPS モデル 109

## L

Let's Go RequisitePro xvi

## M

Metrics 64, 196

コマンドラインからの実行 201  
情報タイプ 196

Microsoft 94

Microsoft Access 18, 153, 173

CSV ファイルのインポート 162

Microsoft Project 251

Microsoft Word

RequisitePro で使用する場合のヒント 95, 127, 129  
RequisitePro の外部での要求ドキュメントの編集 99

RequisitePro の要求ドキュメントから  
Word ドキュメントを作成する 99, 100

Word オプションを使用して要求を非表示にする 98

Word スタイルについて 97

Word のパフォーマンスの向上 96

インポート時に個々のドキュメントを変換 155  
インポート時にすべてのドキュメントを変換 154  
エクスポートされたファイル内の要求 63

オフライン ドキュメントの修正 103

外部で作成した Word ドキュメントの管理 100

隠し文字 103, 110

グループ文書 97

ドキュメント処理 94

閉じる 95

トラブルシューティング 265

ビューのエクスポート 169

ブックマーク 103

変更履歴の作成機能の使用法 99

マクロを有効にする 105

無効な Word コマンド 100

Microsoft Word とリンクされたファイル 110

追跡可能性 118

要求ドキュメントの保存 87

要求への挿入 116

Microsoft Word とリンクされたファイルを

要求に挿入 116

Microsoft 数式

要求テキストへの挿入 117

MSPT 252

属性の削除 260

## O

OLE オブジェクト 41, 42, 45, 110, 133

Oracle 18, 153, 173, 215

CSV ファイルのインポート 162

使用時のヒント 174

設定 173

複数のプロジェクト 18

複数プロジェクト間の追跡可能性 56

プロジェクトのアーカイブ 206

プロジェクトの移動 215

Oracle データベースへの変換 216

## P

Performance Studio 250

## R

Rational Administrator 244, 246

RequisitePro プロジェクトをベースラインから作成  
179

ベースラインの作成 211

Rational Administrator のプロジェクトの  
新規作成ウィザード 180

Rational ClearCase 204, 246

Rational ClearQuest 244

要求との関連付け 245

Rational Developer Network xvii

Rational E-mail Reader 67

Rational RequisitePro チュートリアル xvii

Rational Robot 250

Rational Rose との統合 247

Rational SoDA 196, 244, 249

Rational Suite 243

Rational Suite Performance Studio 250

Rational Suite TestStudio 250

Rational TeamTest 250

Rational Team Unifying Platform 243

Rational Unified Process 250

Rational XDE

使用法 243

Rational 技術サポート xx

Rational 製品のマニュアル xvii

Rational 統一変更管理 (UCM) 246

Requirement Metrics 64, 196

クエリーの作成 199

クエリー ペイン 198

傾向分析 64

コマンド ラインからの実行 201

スタティック レポート 64

フィルタの作成 199

レポートのタイプ 197

レポート ペイン 198

RequisitePro xvii

Microsoft Word 94

Word のパフォーマンスの向上 96

チームのコラボレーション 15

閉じる 35

プロセス サポート 17

変更管理 16

メニューが正しく表示されない 267

RequisitePro 拡張インターフェイス 64, 110

RequisitePro ツールバー

Word での表示 100

RequisitePro での作業 27

RequisitePro との統合 xix

RequisitePro の起動 27

RequisitePro プロジェクトのアップグレード 180

RequisitePro へのログイン 33

RequisiteWeb 16, 110

Robot 250

Rose との統合 247

Rose ユース ケース

ドキュメントの関連付け 249

ドキュメントまたは要求への関連付け 248

## S

SoDA 196, 244, 249

SQL Server 18, 153, 173, 215

CSV ファイルのインポート 162

構文エラーのトラブルシューティング 268

使用時のヒント 174

設定 173

複数のプロジェクト 18

複数プロジェクト間の追跡可能性 56

プロジェクト データの移動 217

プロジェクトのアーカイブ 206

プロジェクトの移動 215

変換 217

Suite 製品 243

## T

TeamTest 250  
TestStudio 250

## W

Web 16  
Windows NT 217  
Word  
    「Microsoft Word」を参照  
Word Automation サーバーのエラー 268  
Word オプションを使用して要求を非表示にする 98  
Word 形式 154  
Word スタイル 114  
Word とリンクされたファイル  
    数式 117  
    属性マトリックスでの表示 41  
    追跡可能性ツリーでの表示 45  
    追跡可能性マトリックスでの表示 42  
    ドキュメント外での表示 118  
Word の変更履歴の作成機能の使用法 99

## X

XDE  
    RequisitePro での使用法 243

## あ

アイコンの整列 52  
アウトライン 225, 227, 284  
    RequisitePro に備わっているタイプ 226  
    RequisitePro のアウトラインの使用法 226  
    作成 227  
    ドキュメント タイプへの割り当て 226  
    二次的な保存場所の作成 227  
    編集 225  
アーカイブ  
    Oracle プロジェクト 206  
    Rational ClearCase の使用法 204, 207, 246  
    RequisitePro [アーカイブ] コマンドの使用法 207  
    SQL Server プロジェクト 206  
        プロジェクト 202, 204  
        プロジェクトの復元 209  
    [アーカイブ] コマンド 203

アーカイブ済みプロジェクトの呼び出し 204  
値、属性  
    削除 235  
    修正 235  
アプリケーション プログラミング インターフェイス  
    64  
アルファベット順でのディスカッションのソート 78

## い

以前のバージョンのプロジェクトの変換 180  
一般保護違反 266  
移動  
    外部プロジェクト 241  
    属性マトリックス内 272, 273  
    追跡可能性ツリー内 280  
    追跡可能性マトリックス内 276, 277  
    テキストを新規ドキュメントに移動 93  
    ドキュメント 91  
    ドキュメント内 59  
    パッケージ 221  
    ビュー 38  
    ビュー内 59  
    プロジェクト 213  
    プロジェクト データを Oracle データベースに  
        移動 216  
    プロジェクト データを SQL Server データベースに  
        移動 217  
    ほかのセキュリティ グループにユーザーを移動  
        188  
    要求 127, 129  
    要求に移動 59  
    要求を新規ドキュメントに移動 93  
イメージバックアップ 209  
印刷  
    ディスカッション 78  
    ビュー 48  
    プロジェクトの概要 195  
    レポート 195  
インポート  
    Access 153  
    CSV ファイル 162, 165  
        [既存の要求の属性を更新する] オプション 167  
        ファイルの準備 163  
    CSV ファイル、CSV ファイルのヘッダーのコピー  
        164  
    CSV ファイル、CSV ファイルのヘッダーの定義  
        164

CSV ファイル、[新しく RequisitePro 要求を  
定義する] オプション 166

CSV ファイル、要求番号 162

Excel 153

Microsoft Word のドキュメントと要求 156

[ドキュメントのみ] オプション 161

Microsoft Word のドキュメントと要求、

[要求とドキュメント] オプション 158

Microsoft Word のドキュメントと要求、

[要求のみ] オプション 160

Oracle 153

RequisitePro ドキュメント 154

SQL Server 153

Word 156

Word ドキュメントから RequisitePro ドキュメント  
への要求のインポート 156

Word ドキュメント、[要求とドキュメント]  
オプション 158

Word ドキュメントを RequisitePro プロジェクトに  
インポート 156

インポート ログ 153

個々のドキュメントを Word に変換 155

前提条件 153

属性の一致 165

適する場合 153

ドキュメントを Word に変換 154

ブックマークの保存と削除 156

プロジェクトの設定 153

要求とドキュメント 158

ログ ファイルの作成 153

インポート ウィザード 156

CSV ファイルをインポートする場合の使用法 165

Word ファイルをインポートする場合の使用法 156

要求をエクスポートする場合の使用法 168

要求をエクスポートする場合の使用法、

CSV ファイルのエクスポート 168

要求をエクスポートする場合の使用法、

Word ドキュメントとしてエクスポート  
169

インポート ログ 153

## う

ウィザード

Rational Administrator のプロジェクトの

新規作成ウィザード 180

インポート ウィザード 153

埋め込み要素検出ウィザード 110, 112

データ トランスポート ウィザード 215, 216

データベース アップグレード ウィザード 180

要求名変換ウィザード 125

埋め込み要素検出ウィザード 110, 112

## え

エクスプローラ 19, 28

更新 38

子要求の作成 136

要求の作成 111

エクスポート 168

CSV ファイル 168

複数プロジェクト間の追跡可能性 63

要求を Word ドキュメントとしてエクスポート 169

エンタープライズ データベース 18, 174, 181, 214

「SQL Server」、「Oracle」も参照 174

タイプ間でのプロジェクトの分散 174

## お

オフライン 103

オフライン イメージバックアップ 209

オフライン オーサリング 100

Word のグループ文書 97

オフライン時の変更の保存 104

オフライン ドキュメントでの要求の削除 104

オフライン ドキュメントでの要求の作成 103

オフライン ドキュメントに関する情報の取得 103

オフライン ドキュメントの修正 103

オフライン ドキュメントの読み取り 106

概要 100

使用時に Word マクロを有効にする 103

ドキュメントがオフラインであるかどうかの判断  
103

ドキュメントをオフラインにする 101

ドキュメントをオンラインに戻す 104, 106

名前の変更 101

変更を保存しない 106

オフライン ドキュメント

改訂番号 205

親子関係 23, 39

「階層関係」も参照 23

親の変更 138

折りたたみ 47

オンライン イメージバックアップ 209

オンライン ヘルプ xvi

## か

### 解除

- サスペクト関係 144
- サスペクトの追跡可能性 152

### 解析の定義 159

### 階層 135–144

### 階層関係 23, 39, 135

- エクスプローラでの子要求の作成 136
- エクスポート 168
- 親要求 138
- 子要求の作成 135
- 削除 141
- ソート 55
- ドキュメント内での子要求の作成 136
- ピア要求の作成 137
- ビューでの子要求の作成 135
- フィルタ 55

### 改訂から保護 94

### 改訂情報 122, 205, 210

### 外部プロジェクト

- 移動 241
- 切断 240

### 拡張編集 110, 125

### 確認、ドキュメント内の変更 90

### 重ねて表示 51

### カスタマイズ

- RequisitePro 283
- ビュー 49
- メニュー 285

### 関係

- サスペクト 39, 41, 43
- 追跡先/追跡元 25

### カンマ区切り (CSV) ファイル

- 「CSV ファイル」も参照 49

### 管理

- Microsoft Word ドキュメント 95
- 外部で作成した Word ドキュメント 100
- プロジェクト 195
- 変更 16
- 要求 xvii, 1, 3, 12, 15
- 要求の変更 7
- 管理者グループ 184

## き

### 技術サポート xx

### キーボード ショートカット 271

### キャンセル、セキュリティ 184

### キーワード 114

## く

### クエリー 41

- 更新 56
- 削除 59
- 作成 57, 199
- 属性値でのソート 55
- ソート順の作成と修正 58
- 追跡先/追跡元 56
- ドキュメントの場所別にソート 58
- パッケージ内の要求 55
- ビューへの保存 47
- レポートへの追加 199

### クエリーの作成 57

### クエリーの実行 55–64

- 基準 55
- 高度なクエリー 64
- 属性マトリックスでの表示 56
- 追跡可能性ツリーでの表示 57
- 追跡可能性マトリックスでの表示 57
- 追跡先基準 56
- 追跡先/追跡元 56
- 追跡元基準 56
- 場所属性 58
- パッケージ 220
- 複数の要求タイプ 56
- 複数プロジェクト間の追跡可能性関係 56

### クエリーの定義 55

### クエリーを実行したビュー 55

### グループ文書 97

## け

### 権限

- グループ 189
- グループとユーザー 184
- 属性値 194
- 属性の権限 193
- ドキュメント タイプ 190
- プロジェクトに対する設定 183

要求タイプ 191  
要求テキスト 193  
検索  
    アクティブなビュー 61  
    [検索] コマンド 61  
    [ジャンプ] コマンド 59  
    成果物 59  
    データベース 59  
    ドキュメント 61  
    ビュー 61  
    プロジェクト内のディスカッション 75  
    プロジェクトの成果物 59  
[検索] コマンド 59, 61

## こ

更新  
    エクスプローラ 38  
    クエリー 56  
    ビュー 38  
    要求 131  
[更新] コマンド 56  
コピー  
    プロジェクト 214  
    要求 127  
子要求 135  
    ルート要求に変更 141  
壊れたドキュメントの修正 93  
混成チーム 9

## さ

サイズ変更  
    ツリー ペイン 44  
    ビュー 51  
再ビルド、破損したタグ 131  
削除 29  
    MSPT 要求タイプの属性 260  
    オフライン ドキュメントでの要求の削除 104  
    階層関係 141  
    クエリー 59  
    セキュリティ グループ 186  
    セキュリティ グループからユーザーを削除 187  
    属性値 235  
    ドキュメント 212  
    ドキュメント タイプ 225  
    ビュー 49

ブックマーク 156  
プロジェクト リストからのプロジェクトの削除 29  
要求 133, 212  
要求タイプ 230  
削除されたユーザー グループ 184  
作成  
    RequisitePro プロジェクト 171, 175  
    RequisitePro プロジェクトをベースラインから作成 179  
    Word ドキュメント内での追跡可能性の作成 145  
    アウトライン 227  
    [アーカイブ] コマンドを使用したバックアップ 203  
    エクスプローラでの子要求の作成 136  
    エクスプローラでの要求の作成 111  
    オフライン ドキュメントでの要求の作成 103  
    重ねて表示 51  
    クエリー 57  
    属性マトリックスでの追跡可能性の作成 147  
    属性マトリックスでの要求の作成 120  
    追跡可能性ツリーでの追跡可能性の作成 149  
    追跡可能性ツリーでの要求の作成 119  
    追跡可能性マトリックスでの追跡可能性の作成 148  
    追跡可能性マトリックスでの要求の作成 119  
    ディスカッション 68  
    ディスカッションの要求情報 81  
    テキスト以外の要素を含む要求の作成 112  
    テーブルからの要求の作成 115  
    ドキュメント 85, 223  
    ドキュメント タイプ 223  
    ドキュメント内での要求の作成 111  
    ドキュメント内に複数の要求を作成 114  
    並べて表示 52  
    二次ディレクトリのアウトライン 227  
    パッケージ 220  
    ビュー 45, 46  
    ビューでの追跡可能性の作成 147  
    ビューでのピア要求の作成 137  
    ビューでの要求の作成 119  
    プロジェクト 171  
    プロジェクト ウィザードによるプロジェクトの作成 178, 210  
    メニュー ファイル 286  
    要求 112  
    要求間の追跡可能性 146  
    要求からの Microsoft Project タスクの作成 254  
    要求属性 231  
    要求タイプ 228  
    要求ドキュメント内での追跡可能性の作成 145

要求の作成のトラブルシューティング 263  
[要求のプロパティ] ダイアログ ボックスでの  
    ディスカッションの作成 83  
    レポート 200  
サスペクト関係 25, 42, 45, 143, 151  
    解除 144, 152  
    属性マトリックスでの表示 38, 41  
    追跡可能性の変更 24  
    定義 135, 145  
    表示 151  
    [変更がサスペクトに影響する] オプション 234  
参加者  
    ディスカッションについての通知 71  
    ディスカッションへの応答 72  
参考資料 13

## し

時間コントロール、設定 200  
システム定義 5  
システム定義の細分化 7  
自動サスペクト  
    階層関係 143  
    スペルチェック 143, 151  
    複数プロジェクト間の追跡可能性 151  
[ジャンプ] コマンド 59  
修正  
    オフライン ドキュメント 103  
    属性値 124  
    ディスカッションの参加者 79  
    ディスカッションの属性 78  
    ディスカッションの要求情報 81  
    ディスカッション プロパティ 70  
    電子メール 35  
    ドキュメント情報 92  
    プロジェクト情報 219  
    要求 123  
    [要求のプロパティ] ダイアログ ボックスでの  
        ディスカッションの修正 83  
従来型テンプレート 172  
終了、ディスカッション 84  
主要概念 xvii  
ショートカット 271  
    属性マトリックス内 272  
    ダイアログ ボックス 271  
    追跡可能性ツリー内 280  
    ビュー 38  
    メニュー 271

## す

推奨文献 xvi, 13  
数式  
    要求テキストへの挿入 117  
すべて折りたたむ 47  
すべて展開 47  
スペルチェック  
    自動サスペクトを使用しない 151

## せ

整列  
    アイコン 52  
    ビュー 51  
セキュリティ 183  
    グループとユーザー 184  
    無効化 184  
    無効にした場合の結果 183  
    有効化 184  
セキュリティ グループ xv  
    削除 186  
    作成 185  
    ユーザーの移動 188  
    ユーザーの削除 187  
    ユーザーの追加 186  
接続、複数プロジェクト間の追跡可能性のための  
    プロジェクトの接続 238  
切断、外部の追跡可能性からのプロジェクトの切断  
    240  
設定  
    RequisitePro 283  
    RequisitePro で開く Rational XDE のエディション  
        283  
    電子メール 66  
セル 41, 42  
選択  
    属性マトリックスでの項目の選択 272  
    追跡可能性ツリーでの項目の選択 280  
    追跡可能性マトリックスでの項目の選択 276  
    データベース タイプ 173

## そ

属性  
    「要求属性」を参照

## 属性値

権限の割り当て 194

削除 235

修正 124, 235

ソート 55

属性の追加 219

属性ペイン 45

属性マトリックス 40, 56

CSV ファイルとしてエクスポート 168

Word とリンクされたファイル 41

キーボードショートカット 273

クエリーの実行 56

グラフィック オブジェクトと OLE オブジェクト  
41

サスペクトの追跡可能性の表示 38, 41

ショートカット 272

属性ラベル 41

定義 21, 37

テキスト ペイン 41

マウス操作 272

要求 40

ソート

階層関係 55

定義 55

ディスカッション 78

デフォルトの順序 55

要求 56

ソートとフィルタ 55

「クエリー」、「クエリーの実行」も参照

## た

ダイアログ ボックスのショートカット 271

タグの再ビルド 131

## ち

チェック

ドキュメントがオフラインであるかどうか 103

チュートリアル xvii

調整

ビュー内の行の高さ 50

ビュー内の列幅 50

## つ

追加

セキュリティ グループへのユーザーの追加 186

ディスカッション 68

ドキュメント タイプ 223

プロジェクト リストへのプロジェクトの追加 28

要求属性 231

要求タイプ 228

追跡可能性 9, 24, 38, 145–152

Microsoft 数式 117

MS Project 255

Word ドキュメント内での作成 145

概要 85, 145

サスペクト関係 24, 151

サスペクト関係の解除 152

属性マトリックスでの作成 147

直接的と間接的 25

追跡可能性ツリーでの作成 149

追跡可能性マトリックスでの作成 148

ビューでの作成 147

複数プロジェクト間 237

方向 45

要求ドキュメント内での作成 145

[要求] メニューを使用して作成 146

リンクされたファイルの変更 118

追跡可能性関係

ドラッグ アンド ドロップを使用して作成 149

[要求] メニューのコマンドを使用して作成 149

追跡可能性ツリー 21, 43, 57

CSV ファイルとしてエクスポート 168

クエリーの実行 57

グラフィック オブジェクトと OLE オブジェクト  
45

属性ペイン 45

定義 21, 37

テキスト ペイン 45

マウス操作 280

追跡可能性マトリックス 21, 41, 56

CSV ファイルとしてエクスポート 168

移動 276

キーボードショートカット 277

クエリーの実行 56

グラフィック オブジェクトと OLE オブジェクト  
42

サスペクト関係 41

セル 42

直接的関係と間接的關係 41

追跡先/追跡元関係 41

- 定義 21, 37
- テキスト ペイン 42
- マウス操作 276
- 追跡先 25, 38, 41
- 追跡元 25, 38, 41
- ツリー ペイン 44
- ツールバーの表示 100

## て

- ディスカッション 65-84
  - 1 つの要求に関連付けられた
    - ディスカッションの表示 75
  - アイコン 65, 71
  - 印刷 78
  - 応答 65, 72
  - 応答、RequisitePro 72
  - 応答、電子メールを使用 73
  - 検索 75
  - 作成 68
  - 参加者 65
  - 参加者情報 79
  - 参加者への通知 71
  - 修正 78
  - 属性 78
  - ソート 78
  - 電子メールの設定 66
  - 並べ替え 78
  - 表示 65, 71, 75, 76, 78
  - フィルタ 76
  - プロジェクトの設定 66
  - プロパティ 70
  - 未読 65
  - 要求情報の作成 81
  - 要求情報の修正 81
  - 読み取り 71
- [ディスカッション] アイコン 65, 71
- ディスカッション グループ 65
- ディスカッション 項目 65
- ディスカッションの終了 84
- ディスカッションの並べ替え 78
- ディスカッションへの応答 65, 72
  - RequisitePro を使用 72
  - 電子メールを使用 73
- テキスト区切り文字 114
- テキスト ペイン 45
- テスト成果物 227

- データ型、要求属性 233
- データ トランスポート ウィザード 215, 216
- データベース 18
  - Microsoft Access 18, 173
  - Microsoft Access での表示 241
  - Oracle 173, 215
  - SQL Server 173, 215
  - 移動 215
  - 検索 59
  - 選択 173
  - トラブルシューティング 264
- データベースの破損 264
- データベース変換
  - 「移動」を参照 217
- デフォルトのビュー プロパティ 53
- 展開 47
- 電子メール
  - Rational E-mail Reader 67
  - 修正 35
  - 通知の設定 66
  - ディスカッションについて参加者へ通知 71
  - ディスカッションの通知の受信 34
  - ディスカッションへの応答に使用 73
  - ディスカッション用の設定 66
  - プロジェクト セキュリティへのアドレス入力 66
  - 変更 35
- テンプレート
  - 従来型テンプレート 172
  - 使用の利点 23
  - デフォルト パッケージ 178
  - 複合型テンプレート 172
  - プロジェクト 23, 172, 285
  - プロジェクト構造 172
  - プロジェクト テンプレートの作成 178
  - ユース ケースのテンプレート 172

## と

- 統一変更管理 19, 179, 211, 246
  - ベースライン プロジェクト 202
- 統合 xix
  - Microsoft Project 251
  - Rational ClearCase 204, 246
  - Rational ClearQuest 244
  - Rational Robot 250
  - Rational Rose 247
  - Rational SoDA 196, 244, 249
  - Rational TestManager 250

- Rational XDE 243
- 統一変更管理 246
- 統合ユース ケース管理 247
- ドキュメント 85–107
  - Microsoft Word 94, 95
  - Microsoft Word からのインポート 157
  - Microsoft Word で保存 154
  - Microsoft Word を閉じる 95
  - アウトライン 23, 227
  - オフライン 100, 102
  - オフラインであるかどうかの判断 102
  - オフラインにする 101
  - 検索 61
  - 作成 85
  - 自動バックアップ ドキュメントの復旧 267
  - 情報の修正 92, 222
  - 情報の表示 222
  - 情報の変更 222
  - 定義 22
  - 閉じる 89
  - 非プロジェクト ドキュメントを閉じる 95
  - 開く 29, 30, 33, 88
  - 変更確認 90
  - 変更の追跡 99
  - ほかのプロジェクトへのインポート 154
  - 保護 94
  - 保存 87, 89
  - 保存場所 171
  - 保存場所の変更 91, 95
  - 要求の色とスタイルの更新 130
  - ロック 94
  - ロック解除 94
- ドキュメント アウトライン 284
- 「ドキュメントが見つかりません」 メッセージ 265
- ドキュメント タイプ
  - 権限 190
  - 削除 225
  - 作成 223
  - 追加 223
  - 定義 223
  - ドキュメントの作成に使用 223
  - プロジェクトに追加 223
- ドキュメントの場所別にソート 58
- ドキュメントをオフラインにしたときに
  - マクロを有効にする 103
- ドキュメントを改訂から保護 94

- 閉じる
  - RequisitePro 35
  - ディスカッション 84
  - ドキュメント 89
  - 非プロジェクト ドキュメント 95
- ドラッグ アンド ドロップを使用した
  - 追跡可能性関係の作成 149
- トラブルシューティング
  - Microsoft Word ファイルが大きすぎる 265
  - [RequisitePro] メニューが正しく表示されない 267
  - SQL Server 構文エラー 268
  - Word Automation サーバーのエラー メッセージ 268
  - 自動バックアップ ドキュメントの復旧 267
  - データベースの破損 264
  - 「ドキュメントが見つかりません」 メッセージ 265
  - 複数選択の操作の失敗 150, 266
  - ページ レイアウト表示での一般保護違反 266
  - 無効な日時エラー 268
  - 要求の作成 119, 263
- トレーニング xvii

## な

- 名前の指定、プロジェクト 175
- 名前の変更、プロジェクト 213, 219
- 並べて表示 52

## に

- 入門ツアー xvi

## は

- 排他アクセス 31
- パスワード
  - 修正 34
  - 新規 187
  - 制限 187
  - 変更 34
  - 編集 187
- バックアップ
  - [アーカイブ] コマンドを使用して作成 203
  - イメージ 209
  - オフライン イメージ 209
  - オンライン イメージ 209

- 格納 202
- 論理 207
- 論理バックアップの欠点 208
- 論理バックアップの利点 208
- バックアップ、プロジェクト
  - Oracle 206
  - SQL Server 206
- パッケージ 19, 220
- 移動 221
- クエリーの実行 220
- 削除 222
- 作成 220
- 成果物の整理 28
- 整理 220
- セキュリティ 220
- 名前の変更 221
- プロジェクト構造 28, 220
- 要求のクエリー 55
- 番号の付け直し、要求 131, 195
- 汎用名前付け規則 86
- 汎用名前付け規則に従ったパス 171

## ひ

- ピア要求 137
- ビュー 37-53
  - CSV ファイルへのエクスポート 49
  - Word ドキュメントとしてエクスポート 169
  - アイコンの整列 52
  - 移動 38, 59
  - 印刷 48
  - エクスポート 63
  - 階層の表示 39
  - カスタマイズ 49
  - 行の高さの調整 50
  - クエリーの保存 47
  - 検索 61
  - 更新 38
  - サイズ変更 51
  - 削除 49
  - 作成 45, 46
  - すべて折りたたむ 47
  - すべて展開 47
  - 整列 51
  - 属性マトリックス 21
  - 並べて表示 52
  - ピア要求の作成 137
  - 開く 48

- 複数プロジェクト間の追跡可能性 63
- [プロパティ] コマンド 52
- プロパティの表示 52
- 保存 47
- 要求の切り取り 128
- 要求のコピー 128
- 列幅の調整 50
- ビューでの直接編集 110, 120
- ビュー内の行の高さ 50
- ビュー内の列幅 50
- ビュー プロパティ
  - デフォルトとして保存 53
  - 表示 52
- 表示
  - Microsoft Access でのデータベースの表示 241
  - RequisitePro ツールバーを Word に表示 100
  - オフライン ドキュメント 106
  - 重ねて表示 51
  - サスペクトの追跡可能性 151
  - ディスカッション 65, 71, 75, 76, 78
  - ディスカッション属性 78
  - ディスカッションの参加者 79
  - ディスカッション プロパティ 70
  - ビュー プロパティ 52
  - 複数プロジェクト間の追跡可能性 63
- 開く
  - ドキュメント 29, 30, 33, 88
  - ビュー 48
  - プロジェクト 29, 30, 33
    - 排他アクセス 31
    - 読み取り専用モード 31

## ふ

- ファイル タイプ 218
- フィルタ
  - 階層関係 55
  - 作成 199
  - ディスカッション 76
  - 要求 55
- フィルタとソート 55
  - 「クエリー」、「クエリーの実行」も参照
- 復元、アーカイブからのプロジェクトの復元 209
- 複合型テンプレート 172
- 複数項目の選択 271
- 複数選択の操作の失敗 150, 266
- 複数プロジェクト間の追跡可能性 237
  - エクスポートされたビューでの表示 63

エンタープライズ データベース間 174  
概要 237  
結果 62  
自動サスペクト 151  
データベース タイプ間 56  
ビュー 63  
表示 63  
プロジェクトの参照 62  
プロジェクトの接続 238  
プロジェクトの切断 240  
要求タイプのマーク 237  
要求のクエリー 56  
復旧、自動バックアップ ドキュメント 267  
ブックマーク 156  
削除 156  
保存 156  
プロジェクト 18  
アーカイブ 202, 204  
アップグレード 180  
以前のバージョンの変換 180  
移動 213, 241  
改訂情報 210  
外部の追跡可能性からのプロジェクトの切断 240  
概要 171  
概要の印刷 195  
管理 195  
グループとユーザー 184  
コピー 214  
コンポーネント 171  
作成 171, 175  
失敗 1  
修正 154  
情報の修正 219  
セキュリティ 154, 183  
追加 28  
定義 18  
ディスカッション 65  
ディスカッションの検索 75  
データベース 18  
テンプレートによる構造 172  
名前の指定 175  
名前の変更 213, 219  
バックアップ コピーの格納 202  
開く 29, 30, 33  
ファイル タイプ 218  
複数プロジェクト間の追跡可能性 62  
複数プロジェクト間の追跡可能性のための接続 238  
プロジェクト ウィザードによる作成 178, 210  
プロジェクト リストからの削除 29

ベースラインから作成 179  
ベースラインの作成 211  
リスト 19  
プロジェクト アクセス 31  
プロジェクト ウィザード 178, 210  
プロジェクト管理 195  
プロジェクト管理者 xv, xvi  
プロジェクト管理のヒント xvi  
プロジェクト情報、修正 219  
プロジェクト セキュリティ  
管理者グループ 184  
グループからユーザーを削除 187  
グループとユーザー 184  
グループの削除 186  
グループの作成 185  
グループへのユーザーの追加 186  
権限 189  
権限の割り当て 189  
削除されたユーザー グループ 184  
電子メール アドレスの入力 66  
パスワードの編集 187  
ユーザー グループ 185  
ユーザーの移動 188  
ユーザー名の編集 187  
プロジェクト テンプレート 172, 285  
作成 178  
プロジェクト ドキュメントのロック 94  
プロジェクト ドキュメントのロック解除 94  
プロジェクトの概要の印刷 195  
[プロジェクトの作成] ダイアログ ボックス 171  
プロジェクトの失敗の原因 1  
プロジェクトのバージョン管理 19  
プロジェクトの範囲の管理 6  
プロジェクト リスト 19  
プロジェクトの削除 29  
プロジェクトの追加 28  
[プロジェクトを開く] ダイアログ ボックス 27  
プロパティ、ビュー 52



ベースライン  
RequisitePro プロジェクト 211  
RequisitePro プロジェクトをベースラインから作成  
179  
統一変更管理 202  
ベースラインからの RequisitePro プロジェクトの  
作成 19

## 変更

「修正」を参照

親要求 138

子要求 141

ドキュメントの保存場所 91

パスワード 34

ユーザー名 34

[変更がサスペクトに影響する] オプション 234

変更管理 16

変更管理された関係 23, 24

変更に注釈を付ける 123

変更の追跡 94, 99

変更履歴 11, 22

編集

.dot ファイル 225

アウトライン 225

ドキュメント情報 222

## ほ

保存

Microsoft Word でドキュメントを保存 154

ドキュメント 87, 89

ビュー 47

ビュー プロパティ 53

ビューへのクエリーの保存 47

ブックマーク 156

ブックマークなしでドキュメントを保存 88

要求ドキュメントを Word ファイルとして保存 94

ホワイトペーパーとテクニカル ノート xvii

## ま

マウス操作 271

マーク解除、要求 133

## む

無効化、セキュリティ 184

無効な日時エラー 268

## め

メニュー

カスタマイズ 285

メニュー ファイルの作成 286

メニューのショートカット 271

メニュー ファイルのサンプル 289

## も

問題分析 4

## ゆ

有効化、セキュリティ 184

ユーザー グループ 185

ユーザーとセキュリティ グループのロール xv

ユーザー名

制限 186

変更 34

編集 187

ユーザー ロール xv

ユース ケース管理、統合 247

ユース ケースと要求管理 1

ユース ケースのテンプレート 172

## よ

要求 17, 109–134

ClearQuest レコードとの関連付け 244

Microsoft Word とリンクされたファイルでの作成  
116

Word スタイル 114

Word ドキュメントの変更履歴の作成 99

Word とリンクされたファイルへの数式の挿入 117

新しい親の割り当て 138

移動 59, 127, 129

色とスタイルの更新 133

色の更新 133

インポート 157

インポート時の番号設定 162

エクスプローラでの新しい親の割り当て 140

エクスプローラでの作成 111

エクスポート 168, 169

オフライン ドキュメントでの削除 104

オフライン ドキュメントでの作成 103

親子関係 135

親の変更 138

階層関係 135

改訂情報 122

隠し文字 110

- 拡張編集 112
- カテゴリ 109
- 関連付けられたディスカッションの検索 75
- 切り取り 127
- キーワード 114
- クエリーの実行 55
- 検索 59
- [ 検索 ] コマンド 61
- 更新 131
- コピー 127
- 子要求の作成 135
- 子をルートに変更 141
- 削除 133
- 作成 112
- 作成のトラブルシューティング 263
- 作成不可能 119
- サスペクト 143
- サスペクト関係 151
- 情報の修正 123
- 新規タイプを関連付ける 125, 126
  - 複数の要求 126
- 新規ドキュメントに移動 93
- スタイルの更新 133
- 説明 111
- 属性値 111
- 属性マトリックスでの要求の作成 120
- ソート 56
- タイプ 109
- タグ 110
- タグの再ビルド 131
- 追跡可能性関係 145–152
- 追跡可能性ツリーでの作成 119
- 追跡可能性ツリー ビューと追跡可能性
  - マトリックス ビューからの作成 110
- 追跡可能性マトリックスでの作成 119
- 定義 2, 17, 109
- ディスカッション情報 83
- ディスカッション用電子メール 66
- テキスト以外の要素を含む要求の作成 112
- テキスト区切り文字 114
- テキストの更新 121
- テキストの長さ 111
- テーブルからの作成 115
- ドキュメント タイプ 18
- ドキュメントでの色とスタイルの更新 130
- ドキュメントでのマーク解除 133
- ドキュメント内での作成 111
- ドキュメントの場所別にソート 58
- トラブルシューティング 119

- 名前の指定 111
- 名前の長さ 111
- 番号 162
- 番号の付け直し 131, 195
- ピア要求の作成 137
- ビューからの切り取り 128
- ビューからのコピー 128
- ビューでの新しい親の割り当て 140
- ビューでの作成 119
- ビューでのピア要求の作成 137
- フィルタ 55
- フィルタとソート 55
- 複数の作成 114
- 複数の要求に対する新しい親の割り当て 140
- プロパティの更新 121
- 変更管理 7
- 変更の記録 123
- 変更履歴 11
- 編集時の制限 112
- 要求管理 1, 12, 15
  - Managing Software Requirements xvii
  - 基本 1–13
  - 効果的に行うための作業 13
  - 参照 xvii
  - システム定義 5
  - システム定義の細分化 7
  - スキル 4–8
  - 定義 3
  - 範囲 6
  - プロジェクトの範囲 6
  - 問題 3
  - 問題分析 4
  - ユース ケース 1
  - 要求の変更 7
  - 利害関係者のニーズ 5
- 要求管理ツアー xvi
- 要求作成者 xv, xvi
- 要求属性 17
  - MSPT タイプの要求属性の削除 260
  - 値の削除 235
  - 値の修正 124
  - 権限 193
  - 作成 231
  - 属性マトリックスでの表示 41
  - 多次元 10
  - 追加 231
  - データ型 233
  - 範囲の管理 6

- 要求タイプ 8, 17
  - MSPT 252
  - 概要 1
  - 権限 191
  - 削除 230
  - 作成 228
  - 新規タイプ 125
  - 追加 228
  - 定義 17, 228
  - 複数プロジェクト間の追跡可能性のマーク 237
  - 変更 126
- 要求タグ
  - 再ビルド 131
  - 属性マトリックスでの表示 40
- 要求提供者 xv, xvi
- 要求ドキュメント
  - 「ドキュメント」を参照
- [要求とドキュメント] オプション 158
- 要求に新規タイプを関連付ける 125
- 要求の切り取り 127
- 要求のみをインポートするオプション 160
- 要求ビューア xv, xvi
- 要求プロパティの更新 121
- 要求名 111
- 要求名変換ウィザード 125
- [要求] メニュー 146
- [要求] メニューのコマンドを使用した
  - 追跡可能性関係の作成 149
- 用語 291
- 呼び出し、アーカイブ済みプロジェクト 204
- 読み取り
  - オフライン ドキュメント 106
  - ディスカッション 71
- 読み取り専用ドキュメント 106

## ら

- ラショナル ユニバーシティ xvii

## り

- 利害関係者のニーズ 5
- リンクされたファイルを要求に挿入 116

## れ

- レポート
  - 印刷 195
  - 実行 200
  - 開く/編集する 201
  - 保存 201

## ろ

- ログ ファイル 153
- 論理バックアップ 207, 208

## わ

- 割り当て
  - 1つの要求に対する新しい親の割り当て 138
  - グループ権限 189
  - 属性値の権限 194
  - 属性の権限 193
  - ドキュメント タイプ権限 190
  - 複数の要求に対する新しい親の割り当て 140
  - 要求タイプの権限 191

